ベトナム国

日越大学修士課程設立プロジェクト

事業完了報告書

2020 年 3 月

独立行政法人国際協力機構

人間開発部

人間
ＪＲ
20-089

事業完了報告書

案件名：　日越大学修士課程設立プロジェクト

氏名：古田元夫
　　　プロジェクト・ダイレクター
氏名：熊谷真人
　　　チーフ・アドバイザー
提出日：2020 年 3 月 31 日

Ｉ．案件概要

１．国名：ベトナム社会主義共和国
２．プロジェクト名：日越大学修士課程設立プロジェクト
３．協力期間：2015 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日
４．プロジェクトの背景：（2015 年 2 月案件概要表より）

（１）ベトナムにおける高等教育セクターの開発実績・現状と課題

　ベトナム社会主義共和国（以下､｢越国｣）は、対外開放政策（ドイモイ）の下、一人当り GNI は 1,740 ドル（2013 年）、近年の実質 GDP 成長率は 5～6％を達成するなど、着実な経済成長を遂げている。越国の労働人口は総人口の約 60％を占め、豊富な若年労働力が外国直接投資誘致にあたっての強みの一つとなっているが、これらの労働人口の内、大学、職業訓練等で一定の訓練を受けた労働者は約 30％と低く、中間管理職や技術系管理者、熟練労働者の不足が指摘されている。

　とりわけ大学においては、学生数の増加に対する教員数の不足、資機材・資金不足による低い教育・研究レベル、労働市場の需要と学生の専攻分野の乖離（自然科学、工学系の学生不足）等の課題が顕在化しており、産業の高度化を担う人材の育成が喫緊の課題となっている。

（２）当該国における高等教育セクターの開発政策と本事業の位置づけ

　越国政府は 2020 年までの工業国化に向けて、経済開発と社会安定のために人材育成を重要な要素と位置づけ、人材育成戦略（2011-2020）及び人材育成マスタープラン（2011-2020）を定め、高等教育・中等レベル以上の人材育成を重視している。また。2005 年に策定された「高等教育改革アジェンダ（2006-2020）」では、高等教育機関の量的拡大と質的向上、大学の研究能力、及び管理能力の強化を目標として掲げている。

　かかる状況下、越国政府より、日本と越国の友好の象徴となる国際水準の大学創設の実現について我が国に対する期待が寄せられ、2013 年 12 月および 2014 年 3 月のズン首相、サン国家主席との日越首脳会談において「日越大学構想」[1] の早期実現に向けて両国政府が協力していくことが確認された。これを受けて当機構が実施した調査では、同構想実現には 3 段階に分けた大学開設が必要で

---

[1] ＜日越大学構想＞　官邸主導の「日越大学構想の推進に関する関係省庁会議」で検討
第１段階　（2016 年～2020 年）：修士課程（学生最大 120 名）の開設（国家大学ハノイ校キャンパス近隣に設置）
第２段階　（2020 年～2025 年）：学部や博士課程を順次開設
第３段階　（2026 年～）：ハノイ郊外のホアラック地区に新キャンパス建設（円借款）、6 千名規模の総合大学に発展

あること、最終的には学士・修士・博士課程を備えた 6000 人規模の大学とすることが提言されている。

本事業は、この構想の実現に向けた第一段階として、日越大学をベトナム国家大学ハノイ校（以下、「VNU-HN」）傘下の国立大学として設立し、修士課程を設立することを目的に実施するものである。

（３）高等教育セクターに対する我が国及び JICA の援助方針と実績

本事業は、我が国の対ベトナム社会主義共和国国別援助方針（2012 年 12 月）において、重点分野とされる「成長と競争力強化」のうち、「産業開発・人材育成支援」に位置付けられる。また、JICA 国別分析ペーパー（2014 年 3 月）では、「高等教育機関への支援や高度人材育成を行う」としており、本事業はこれらの方針、分析に合致する。

高等教育セクターにおいて、JICA はこれまで円借款「高等教育支援事業（IT セクター）」（2006～2014 年）及び技術協力「ハノイ工科大学 ITSS 教育能力強化プロジェクト」（フェーズ 1：2006～2008 年、フェーズ 2：2009～2012 年）を通じて人材育成に係る支援を実施しているほか、「アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト（2003～2018 年）」において、工学系トップ大学であるハノイ工科大学（HUST）、ホーチミン市工科大学に対し、研究能力向上や産学連携促進のための支援を実施している。このほか、国際水準のモデル大学を全国に 4 校設置するとの越国施策を踏まえ、カントー大学に対する支援を検討中である。

（４）他の援助機関の対応

国際水準のモデル大学設置の一環として、アジア開発銀行とフランス政府がハノイ科学技術大学（USTH）を、世界銀行とドイツ政府がビンズオン越独大学への支援を実施中である。

５．上位目標およびプロジェクト目標：

（上位目標）

日越大学の修士課程卒業生が、社会において積極的な役割を果たす。

（プロジェクト目標）

日越大学が高品質の修士プログラムを継続的に提供する。

６．実施機関：ベトナム国家大学ハノイ校（VNU-HN）、日越大学

VNU-HN の傘下に 7 番目の国立大学として日越大学を設立するため、当初の先方プロジェクト実施機関は VNU-HN であったが、2017 年 10 月 25 日付ミニッツにおいて日越大学をプロジェクト実施機関とし、VNU-HN は日越大学構想全体を管理監督する責任を負う体制に整理された。

II．本プロジェクトの成果一覧

１．プロジェクト終了時評価

本プロジェクトの終了時評価は2019年8月に実施された。開始後約4年半が経過した時点での評価であるが、次期フェーズの詳細計画策定調査と同時に行われたこともあり、本プロジェクトの成果はこの終了時評価結果に集約される。

終了時評価の結果概要は以下のとおりであり、高い資質と努力が求められる修士号の取得率が高いこと、卒業後1年以内に日系企業やベトナム政府機関での就業あるいは博士課程への進学を果たした学生の比率が高いことなどから、本プロジェクトが多くの重要な成果を生み出したと結論付けられている。最も重要な成果は、本プロジェクトが、VNU-HNの強力なコミットメントと協力、および日本の幹事大学の誠実かつ献身的な支援により、短期間で必要な条件を準備し、計画どおり修士プログラムを開始することができたことに尽きると考える。

（１）成果の達成状況

ア．成果１：日越大学の修士課程の組織・運営体制が確立する、

（ア）指標1-1：日越大学の組織体制が確立する。

修士課程を有する大学としての基本的な組織体制が確立した。
＜達成＞

（イ）指標1-2：必要な規程・規則が作成される。

基本的な規程・規則が作成されたが、さらに改善すべき側面が残されている。＜ほぼ達成＞

（ウ）指標1-3：大学発展計画が作成される。

作成されたが、理事会の承認を得る必要がある。＜部分的に達成>

（エ）まとめ：

ベトナム首相が承認した日越大学定款および関連するベトナムの法規に基づいて、基本的な規則と規制を備えた組織体制が構築された。ミーディン地区で賃貸により臨時キャンパスが確保された。管理部門の職員は日越大学による雇用およびJICAによる日本人専門家の派遣により配置された。日越大学は設立決定から短期間で設立され、運営体制を徐々に強化しながら運営を継続している。内部品質評価が実施中であり、これは今後大学認定の基礎となる。以上から成果1はプロジェクト終了までに基本的に達成されると判断される。

イ．成果２：日越大学の修士プログラムが準備される。

（ア）指標2-1：2016年度に6つの修士プログラムが設置される。

以下の6つの修士プログラムが2016年度に設置された：「地域研究」「企業管理」「ナノテクノロジー」「環境工学」「社会基盤」「公共政策」＜達成＞

（イ）指標2-2：2017年度に1つの修士プログラムが設置される。

2017年度に設置が計画されていた「気候変動・開発」についての修士プログラムは2018年度に設置された。＜遅れて達成＞

（ウ）指標2-3：2つの修士プログラムの可能性が明らかになり、設置可能と判断された修士プログラムが設置される。

追加的な修士プログラムの可能性が分析され、「グローバル・リーダーシップ」の修士プログラムが2019年度に開始された。「持続的農業・水産」の修士プログラムの可能性は終了時評価時点で検討中。＜ほぼ達成＞

（エ）まとめ：

2つの修士プログラムの開始は遅れたが、合計8つのフルタイム（夜間でない）修士プログラムが設置された。よって、成果2はほぼ達成された。

ウ．成果３：日越大学の修士プログラムが実施され、継続的に改善される。

（ア）指標3-1：2016年度に設置された修士プログラムにより120名が修士号を取得する（最大20名×50%×6プログラム×2期）

2016年度に設置された修士プログラムにより130名が修士号を取得（第1期生58名、第2期生72名）。第1期、第2期の学生にはプロジェクト終了時までに修士号を取得すると見込まれるものがさらに数名いる。<達成>

（イ）指標3-2：2017年度に設置された修士プログラムにより10名が修士号を取得する（最大20名×50%×2プログラム×1期）

2017年度に新たな修士プログラムは開始されず、2018年度、2019年度に開始された2つの修士プログラムではプロジェクト終了までに修士号を得る生徒はいない。<未達成>

（ウ）指標3-3：修士プログラムのカリキュラムとシラバスがモニタリングの結果を踏まえて定期的に改訂される。

各修士プログラムのカリキュラムとシラバスは、幹事大学と共同で毎年見直され、改訂されている。<達成>

（エ）まとめ：

2016年度に設置された6つの修士プログラムでは修士号を取得した学生の数（130）は計画値（120）を超えたが、2017年度に設置できなかったその他の修士プログラムの学生はプロジェクト終了前に修士号は取得できない。他方、プロジェクト終了までに修士号を取得できる第2期生の学生が数名いるため、プロジェクト期間中に修士号を取得する学生の総数は130名を上回り、プロジェクト全体の目標を超える見込みである。カリキュラムとシラバスの改訂は毎年／半年ごとに行われている。よって成果3は達成された。

（２）プロジェクト目標の達成状況

ア．プロジェクト目標

「日越大学が高品質の修士プログラムを継続的に提供する。」

（ア）指標１：入学志願者が増加する。（ベトナムの他大学類似プログラムと比較）

最初の3年間を通じて志願者数は増加せず漸減傾向を示した。しかし、VNU全体の修士課程志願者数と比べると志願者数は比較的良く維持されている。<概ね達成>

（イ）指標２：「日越両国、ASEAN 各国において有力な進学先として認知され、留学生の人数または割合が増加する。（ベトナムの他大学類似プログラムと比較）

第 1 期と第 2 期には留学生が 1 名ずついたが、その後退学した。第 3 期にはナイジェリア (4 名) とミャンマー (2 名) から合計 6 名の留学生がおり、全学生の 1 割近くであり、第 1 期、第 2 期から増加した。第 4 期では志願者の 2 割が留学生である。<達成>

（ウ）指標３：卒業生が国際的環境で勤務するための技術、知識、態度を得る。

以下のことから、卒業生は国際的環境で勤務するための技術、知識、態度を概ね得たと考えられる。<概ね達成>

- 修士プログラムの授業の半分は日本人の教官により行われる。

- 4 分の 3 以上の学生は日本の大学でインターンシップを経験した。
- 全プログラムにおいて日本語の学習が必修である。
- 第 1 期、第 2 期の学生の約 4 分の 1 は卒業後、国際的環境に就職あるいは進学した。

（エ）指標４：卒業後１年以内で就職・進学する卒業生の割合が高い。（ベトナムの他大学類似プログラムと比較）

第 1 期の卒業生の 92%は卒業後 1 年以内に安定した職を得たか、元の職場に戻ったか、博士課程に入学した。第 2 期生については、約 75%がすでに安定した職を得ているか、元の職場に戻っているか、博士課程に入学している。他大学の同様のプログラムの比較可能な情報は得られていないが、これらの数字は十分に高いと考えられる。 ＜概ね達成＞

（オ）指標５：2018 年度までに設置された 7 つの修士プログラムについて、2020 年 4 月までに内部品質評価報告書が作成される。

内部品質評価委員会が立ち上がり、報告書が作成された。今後、定期的に改訂・更新を行っていく予定。
＜達成＞

（カ）まとめ：

プロジェクトの 3 つの成果、すなわち大学の組織体制・管理システムの確立、日本の大学との連携による質の高いフルタイムの修士プログラムの開設およびその実施、並びに上記の指標達成状況から判断すると、プロジェクト終了までにプロジェクト目標は十分に達成されると期待される。

（３）共同評価結果（５項目）

ア．妥当性：高い

高等教育による人材育成の必要性はベトナムの「社会経済開発 10 年戦略（2011-2020）」、「人材開発戦略 2011-2020」、「高等教育改革アジェンダ 2006-2020」に明確に示されている。同国の「持続可能な開発アジェンダの実施のための国家行動計画（2030 年）」では「人材、特に質の高い人材の開発」と「科学技術とその応用に関する研究の強化」が主要な実施項目に含まれる。

日越大学で確立された修士プログラムの教育研究分野は同国の「科学技術開発の国家戦略」と一致する。ただし、学部生や職業訓練校の卒業生の雇用機会が増えているため、修士プログラムへの需要はプロジェクト開始前に期待されたほど増加していない。よって、プロジェクトはベトナムの政策と開発ニーズとほぼ一致していると言える。

本プロジェクトは「アジアにおける平和と繁栄のための戦略的パートナーシップに関する日越共同声明」（2010 年 10 月）および「包括的な戦略的設立に関する日越共同声明」を通じてベトナムと日本との間で確立された戦略的パートナーシップと非常に一致する。また、本プロジェクトは、高等教育機関と高度な人材開発を支援する日本のベトナム援助方針とも一致する。

イ．有効性：比較的高い

指標の達成状況に基づき、プロジェクト目標「日越大学が高品質の修士プログラムを継続的に提供する」は、プロジェクト終了時までに十分に達成されると考えられる。定員には達していないものの、一定水準の学生を継続的に確保し、ベトナムおよび VNU の大学院の中でそれなりの存在感を示すことができたことは重要な成果である。本プロジェクトが、日本の大学の協力を得つつ、この成果に大きく寄与したことは疑いない。

新しい大学をゼロから設立するための技術協力という特殊性、複数の日本の大学との日常的な調整の必要性、学長がベトナム側により任命された日本人であり、JICA の長期専門家として派遣されたという特別な状況などから、本プロジェクトの運営には多くの課題があった。それにもかかわらず、（ｉ）両国首脳の日越大学に対するコミットメントを背景とした両政府、幹事大学を始めとした日本の大学、JICA、VNU、日越大学の強い責任感、（ⅱ）日越大学学長が率いる大学スタッフ（日本の専門家を含む）の熱意、（ⅲ）ベトナムと日本の両者の管理スタイルの違いを克服する相互理解と柔軟性により、本プロジェクトは大きな障害に阻まれることなくほぼ計画どおり実施され、成果とプロジェクト目標の比較的良好な達成につながった。

日本の有名大学との協力、奨学金とインターンシップの機会、そして日本と日本文化を学ぶ機会の存在は日越大学に学生を引きつけた。他方、フルタイムの修士プログラムに参加するには仕事を辞めるか休暇を取る必要があるという事実と、英語と大学成績評価（GPA）の入学要件が高いことが、学生が日越大学を志望する際の大きな障害となった。以上は、学部学生や職業訓練学校卒業生に有利な労働市場の変化と相まって、修士プログラムへの入学者の漸減をもたらした。

ウ．効率性：中程度

全体として、プロジェクトは短期間で必要な条件を整えて計画通りに修士プログラムを開始し、計画通りに卒業生を輩出することができた。VNU はその初期段階から日越大学の設立準備に重要な役割を果たした。日越大学は、VNU のメンバー大学として設立されたことにより、VNU の評判と資源を活用することができた。また、VNU は主要な教授を日越大学のプログラムディレクターとして派遣することで、日越大学の初期の評判の確立に貢献した。

本プロジェクトに必要な人的および財政的資源の投入量は非常に多かったが、新しい国際大学をゼロから立ち上げるという複雑で困難な作業には必要なものであった。学生一人当たりの投資額は大きく、開設後 3 年間の教育の効率はそれほど高くない。JICA からの投入は、ベトナム側の投入が比較的少ない初期段階で日越大学の教育・研究活動を軌道に乗せるために非常に重要な役割を果たした。JICA による予算手当は、場合によっては投入の実現に長時間を要したが、主要な活動の遅延や中止などの深刻な問題は発生しなかった。JICA の長期派遣専門家は、若干の例外を除いては、質が高く期待どおりの活躍をしている。チーフアドバイザーは日越大学の現場と JICA を結ぶ役割を担い、その JICA の投入に関する柔軟な対応が日越大学を救った面がある。2 名の副学長、各プログラムのディレクターおよび運営部門の責任者は、日越大学の開設から継続的に就任しており、プロジェクトの円滑な実施につながった。

幹事大学の各マスタープログラムに対する貢献は非常に重要であった。日本の大学教官が日越大学に協力したことは、カリキュラムとシラバスの開発、主要科目の講義、修士論文の指導、ベトナムの教官に対する日本の教育・研究方法の例示、国際大学であることの認知度の向上等の観点から、極めて有意義であった。

日越大学の教官と運営職員のための本邦研修は新しい知識と経験の獲得につながったが、研修期間がより長く、またより個別化された研修が実施できていれば、実質的な能力強化につながったと考えらえる。学生の大半が参加したインターンシップは国際的な経験を得るのに役立ったほか、各自がキャ

リア・デベロップメントや博士課程への進学を検討する、他では得難い刺激となった。

エ．インパクト：（事業完了時には確認が困難）

本プロジェクトの上位目標は、日越大学の修士課程卒業生が社会において積極的な役割を果たすことであった。第1期生が卒業してから1年しか経っていないため、終了時評価時にその達成を確認することは難しい。しかしながら、第1期、第2期の卒業生には、ベトナム政府省庁、高等教育機関、日本、ベトナムまたはその他の国の大手企業で安定した仕事を得た、または元の職場に戻った者が一定数含まれる。また約4分の1の卒業生が奨学金を受けて日本およびその他の国の大学で博士課程に進学した。よって、社会で積極的な役割を果たすことが期待される卒業生は少なくない。日越大学への寄附金、訪問企業の多さ、連携実績からも日越大学への高い期待がうかがえる（後述の表1,2,3参照）。したがって、日越大学が修士プログラムの卒業生を継続的に輩出できれば、上位目標は達成可能と考えられる。

過去数十年間、高度に専門化された教育のみが追求されてきたベトナムの高等教育に対して、日越大学は、幅広い視点で人材の育成につながる修士レベルで本格的な教養教育を提示することにより、一石を投じることが期待される。日越大学は、ベトナム社会およびベトナムの日系社会、特にベトナムで優秀な人材を募集したいと考える日系企業・組織において認知を高めつつある。日越大学は両国間の友好の象徴の1つとも見做されている。

オ．自立発展性：中程度～低い

以下を総合し、本事業の自立発展性は中程度または低く、不確実性が大きいと判断される。

- 教育機関としての日越大学の組織的側面の持続可能性について大きな懸念はない。ベトナムの他の国際大学のような独立した大学としてではなく、VNU傘下の大学の1つとして日越大学を設立したことは、その迅速な立ち上げと安定した運用に大きく貢献した。
- VNUを通じて継続的に提供される政府予算は少額ではなく、日越大学が着実に財政的独立性を獲得するのに役立ってきた。しかし、入学者数の大幅な増加が見込めないことから、学費収入の大幅な増加を期待することは難しい。日越大学が堅実な財政基盤を確立するためには、一定規模の学士課程を持つことが不可欠であるが、本格的な学士課程の開設は、ホアラックの新キャンパスの建設を待つ必要があり、その実現の見通しは不透明である。以上を踏まえると、現時点では、日越大学が本プロジェクト終了後にJICAの継続的な支援なしに財政的独立を達成することは難しい。
- 本プロジェクトを通じて確立された日本の大学との関係を維持することは、日越大学の継続的な発展に不可欠である。JICAの支援が終了しても日本の大学が日越大学との関係を維持するためには、日越大学が彼らのパートナーとしての魅力を十分備える必要があるが、日越大学はまだその段階に達していない。
- 一部の修士プログラムでは、常勤講師の数は、プログラムを安定的・効率的に実施するために必要な数が不足している。その費用を賄える財務基盤を準備したうえで、若くて才能のある人材を常勤講師として採用する必要がある。ラボラトリーを適切に維持し活用するためには、配置された技師が関連する知識とスキルを十分に備える必要がある。日越大学の総務部および教務部は、JICAの専門家がいなくても、日本企業や日本の大

学との連携に関連する作業を除き、問題なく作業を続けることが可能である。ただし、これらの部門の JICA 専門家が離任する際は十分な引継ぎを実施する必要がある。

２．特筆すべき成果

（１）産学連携の促進

ア．奨学金・寄附金

日越大学において、設立以来これまでに様々な企業・団体・個人から奨学金をはじめとする寄附金を受領している。これらは特に日本企業に対しJICA専門家が仲介役となり働きかけ・調整を行ってきた結果であるが、今後の日越大学の自立発展に向けては、寄附金等の募集戦略・管理体制・執行規則等の整備が必要である。

表1．寄附金実績

	年	寄附数			金額
		企業	団体	個人	
1	2016年	6	0	1	1,720,496 円
2	2017年	10	1	1	3,210,957 円
3	2018年	6	4	0	2,850,257 円
4	2019年	5	2	3	3,285,338 円
	合計	**27**	**7**	**5**	**11,067,048 円**

※物品寄附を含む

イ．企業等からの問合せ・訪問

これまでにも散発的に企業等からの問合せや個別訪問はあったが、プロジェクト最終年度に入り急激にその数が増加した。2016年9月の開講以来、着実に優秀な学生を育成・輩出してきていることに対し産業界からの期待が高まっていることがその背景にあるものと推察するが、プロジェクトにおいても産学連携および大学運営にかかる専門家体制を拡充した結果でもあると考えられる。

また、企業における職員の海外研修先として日越大学が選ばれる機会も増えており、有償での研修プログラムが実施されている。

表2．企業等からの訪問実績（2019年度）

	面会日	会社名	事業内容	協議内容
1	2019/7/30	ダイキン	空調機器、化学製品	学生の工場見学、インターンシップについて意見交換
2	2019/9/8 2019/11/7 2020/1/21	関彰商事	人材紹介業	連携覚書、寄附金、学生インターンシップ、VJUによる社員研修について意見交換
3	2019/8/22	日本製鐵	製造業	寄附金に関する意見交換
4	2019/8/28 2019/10/8 2020/3/4	パソナテック	人材紹介業	キャリアセミナー、求人紹介について意見交換
5	2019/8/30	リクルート	人材紹介業	就職情報サイト、キャリアセミナーについて意見交換
6	2019/9/5	全日本空輸	空運業	包括連携協定、インターンシップについて意見交換
7	2019/9/6	大成ロテック	建設業	学生採用、ジョブフェアについて意見交換

8	2019/9/6	かごしま有機生産組合	農産物、加工品販売	求人、インターンシップについて意見交換
9	2019/9/8	常陽銀行	金融業	求人紹介について意見交換
10	2019/9/13	エンジニアリング協会	一般社団法人	プロジェクトマネジメント研修実施可能性について協議
11	2019/9/17	セーフティガード警備株式会社	要人警備、ホテル経営	概要説明・意見交換
12	2019/9/20	電機・電子・情報通信産業経営者連盟(電経連)	製造業	10社（東芝、ソニー、パナソニック、日立、富士通、三菱電機など）が参加、意見交換・学生との交流会を実施
13	2019/10/2 2019/11/11 2020/2/10	三谷産業	化学工業、情報システム等	連携可能性について協議
14	2019/11/11 2020/2/10	小金井精機製作所	エンジン製造	連携可能性について協議
15	2019/10/7	大成建設	建設業	エグゼクティブセミナーについて意見交換
16	2019/10/8	関西経済連合会(関経連)	公益社団法人	情報交換
17	2019/10/9	伸和エンジニアリング	製造業	来日記念交流会について意見交換
18	2019/10/9	GAコンサルタンツ	人材紹介業	学生会社訪問について意見交換
19	2019/10/10	教育と探求社	出版業	クエストキャリア、インターンシップの機会提供について意見交換
20	2019/10/10	新輸出大国パートナー	JETRO	意見交換
21	2019/10/15	前田建設工業	建設業	意見交換
22	2019/10/29	東芝	製造業	奨学金について意見交換
23	2019/11/11	小金井精機製作所	製造業	連携可能性について協議
24	2019/11/23	日さく	井戸掘削業	寄付金、採用等について意見交換
25	2019/11/25	神戸市商工会議所	商工会	ビジネス交流ミッション。産学連携や学生採用について意見交換
26	2019/11/25	滋賀県議会議員団	県議	意見交換
27	2019/11/26	七十七銀行	金融業	求人紹介について意見交換
28	2019/12/5	rakumo	ウェブサービス	会社説明会について意見交換
29	2019/12/19	富山県商工会議所	商工会	貿易投資ミッションとの意見交換
30	2020/1/8	新星コンサルタント	測量	会社説明会について意見交換
31	2020/1/14	辰巳商會	流通	会社訪問について意見交換
32	2020/2/5	三菱UFJ銀行	金融業	古田学長講演について意見交換
33	2020/2/12 2020/2/25	裏千家	一般財団法人	学部開設に伴う学生インターンシップ受入企業紹介を依頼
34	2020/2/14	中日テクノサービス	内装、電装	意見交換
35	2020/2/19	JA北海道中央会	営農指導	インターンシップ等について意見交換
36	2020/3/6	鳥羽洋行	商社	学生採用について意見交換

表3．企業等との連携実績

	会社等名称 (50音順)	事業内容	連携内容
1	麻布ファンド	基金	寄附金

2	イノアックコーポレーション	化学工業	学生インターンシップ受入
3	インテージ	市場調査	寄附金
4	H.I.S	旅行業	寄附金、学生インターンシップ受入、ジョブフェア実施
5	荏原ライオンズクラブ		寄附金
6	オルガノ	水処理総合エンジニアリング	寄附金、ジョブフェア実施、来日記念交流会参加
7	川田工業	建設業	ジョブフェア実施、卒業生本社採用
8	関西金属	家具デザイン製作	寄附金
9	キャノン	製造業	ジョブフェア実施
10	栗原工業	電気設備施工	寄附金
11	コクヨ	事務用品製造販売	文房具寄附
12	CONINCO	建設業、建設コンサルタント	会社説明会実施
13	サン・フレバー	製造業	寄附金
14	CMC JAPAN	サービス業	学生インターンシップ受入
15	JTB	旅行業	キャリアセミナー実施
16	島津製作所	製造業	学生会社訪問
17	新星コンサルタント	測量	会社説明会・採用面接実施
18	ゼオン	化学工業	寄附金
19	トヨタ	自動車製造業	キャリアセミナー実施
20	日本通運	輸送業	会社説明会実施
21	一般社団法人日本国際化推進協会		キャリアセミナー実施
22	日本ベトナム友好協会		寄附金
23	パナソニック	電気メーカー	会社説明会実施
24	浜銀総合研究所	経営コンサル	学生会社訪問
25	バンブー航空	航空輸送業	メンバーシップカード提供
26	ファーストリテイリング	衣料品	学生会社訪問
27	ファンケル	化粧品製造業	学生会社訪問
28	富士国際旅行社	旅行業	寄附金
29	フジゼロックス	製造業	寄附金 学生会社訪問
30	フジタコーポレーション	建築業	学生会社訪問、ジョブフェア実施
31	藤野金属	金属加工業	文房具寄附
32	フューチャーデザインラボ	人材紹介	寄附金、学生来日記念交流会参加、学生会社訪問
33	堀場製作所	製造業	学生会社訪問
34	三井住友海上火災保険	保険業	寄附金、学生会社訪問、卒業生採用、ジョブフェア実施
35	ミヤマホーム	住宅設計	寄附金
36	ヤマトグローバルロジスティクスジャパン	輸送業	学生会社訪問
37	山本金属製作所	金属加工業	寄附金
38	裕幸計装	建物自動制御システム設計	寄附金、来日記念交流会参加、学生会社訪問
39	吉野家ホールディングス	飲食業	寄附金、学生会社訪問
40	ワールディング	人材紹介	寄附金

表4．企業研修受入実績

	派遣元企業	日程	受入人数
1	関彰商事	2018/02/24～2018/03/23	1
2	吉野家ホールディングス	2019/02/18～2019/04/18	1

3	関彰商事	2019/02/18～2019/03/15	1

ウ．外部有識者による特別講演・セミナーの実施

日越大学がベトナム国内で高い名声を得るためには、ベトナムの国内外、特に日本の著名な有識者による特別講義を実施することが極めて重要な意義を持つ。これまでに以下の特別講演・セミナーを実施してきており、今後もさらに拡充していくことが求められる。

表5．特別講演・セミナー実績

	年月日	氏名 （敬称略）	職位 （来訪当時）	講演内容	出席者
1	2016/09/08	世耕 弘成	経済産業大臣	自由貿易を巡る最近の動きと我が国の対応、アベノミクス海外展開	約280名
2	2016/09/08	住 明正	国立環境研究所理事長	Climate Change Basic Theory	約280名
3	2016/09/08	武内 和彦	東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構長・教授	Sustainability Science: Linking Science, Policy and Society for a Sustainable Future	約280名
4	2016/09/08	三村 信男	茨城大学学長	Toward Resilient Society under Climate Change	約280名
5	2016/09/08	北岡 伸一	JICA理事長	世界史の中の日本とベトナム	約280名
6	2016/12/08	武部 勤	日越友好議員連盟特別顧問	日越大学の来歴と建学精神	約100名
7	2017/04/10	上田 輝久	島津製作所代表取締役社長	科学技術による社会貢献～島津製作所とイノベーション	約50名
8	2017/05/09	朝倉 秀明 根岸 正美	太平洋セメント執行役員 Intage Vietnam Co. Director	教養・道徳を含めたリベラル・アーツ教育の重要性について～日本企業が必要とする人材像からの考察～	約40名
9	2017/05/16	下村 満子	生き方塾塾長／ジャーナリスト	生き方塾について	約50名
10	2017/06/16	越村 敏昭	東急取締役相談役	日本企業が日越大学の卒業生に求める人材像	約50名
11	2017/09/09	小宮山 宏	三菱総合研究所理事長	Beyond the Limits to Growth – New Ideas for Sustainability from Japan	約200名
12	2017/12/01	河村 泰貴	吉野家ホールディングス代表取締役社長	飲食業を再定義する～飲食業の真の産業化を目指して	約60名
13	2017/12/12	薗浦 健太郎	内閣総理大臣補佐官	A New Foreign Policy Strategy: “Free and Open Indo-Pacific Strategy”	約80名
14	2018/04/13	宮島 和美	ファンケル代表取締役社長副会長	ファンケルの事業展開について	約40名
15	2018/09/06	福井　照	内閣府特命担当	Toward the Ethical	約100名

			大臣	Globe	
16	2018/09/06	武部　新	環境大臣政務官	生活ごみの削減とエシカル消費	約100名
17	2018/09/10	三村 信男	茨城大学学長	Sustainability Science for Our Common Future	約200名
18	2018/09/10	大久保 達也	東京大学工学部長／大学院工学系研究科 長・教授	Academic Excellence through the Development of Future Society	約200名
19	2019/11/14	狩野 光伸	外務大臣次席科学技術顧問	Science, Technology and Innovation in Japan - From Perspectives of Life Science and Science and Technology Diplomacy -	77名

（２）大学間交流

ア．連携協定

　本プロジェクトは修士課程設立のために幹事大学を指定し、JICAが幹事大学との間で業務実施契約を締結することで各プログラムを開設・運営してきている。他方、幹事大学以外の本邦大学において、日越大学との連携を模索する大学が増えてきており、日越大学ではそれら大学との間で各種連携協定を締結してきている。これらの協定は、JICAによる協力終了後も日越大学が本邦の各大学と連携・協力していく上で不可欠の要素であり、さらなる拡充が求められる。

表6．大学間協定の実績

No	協定先	名称	署名日	有効期限（更新）
1	法政大学	協力協定	2017/7/26	5年（自動更新）
2	茨城大学	学術協力協定	2018/9/10	5年（自動更新）
3	金沢大学	協力交流協定	2019/2/11	5年（自動更新）
4	金沢大学	学生交換に係る覚書	2019/2/11	5年（自動更新）
5	関西学院大学理工学部	協力協定	2018/7/18	5年（自動更新）
6	神戸大学	学術協力協定	2018/4/12	無期限
7	桜美林大学	協定	2017/10/23	5年（自動更新）
8	大阪大学	学術交流協力協定	2016/11/24	5年
9	大阪大学	学生交換に係る覚書	2016/11/24	学術交流協定の有効期間

10	大阪大学大学院工学研究科	学術交流協定	2020/3/1	5 年
11	大阪大学大学院工学研究科	学生交換に係る覚書	2020/3/1	学術交流協定の有効期間
12	大阪産業大学	基本協定	2019/8/26	3 年 (自動更新)
13	立命館大学大学院生命科学研究科	研究学生交換協定	2018/8/14	1 年 (自動更新)
14	立命館大学大学院理工学研究科	研究学生交換協定	2017/6/27	1 年 (自動更新)
15	拓殖大学	協定	2019/2/11	5 年 (自動更新)
16	東京大学大学院総合文化研究科	学生交換に係る覚書	2017/7/31	5 年
17	東洋大学	協定	2018/2/16	5 年 (自動更新)
18	早稲田大学	覚書	2017/11/2	5 年 (自動更新)
19	早稲田大学大学院日本語教育研究科/早稲田大学日本語教育研究センター	学術協定	2018/6/20	3 年 (自動更新)
20	横浜国立大学国際社会科学府・国際社会科学研究院	学術交流協定	2015/12/10	5 年 (自動更新)
21	横浜国立大学国際社会科学府・国際社会科学研究院	学生交換に係る覚書	2017/7/31	学術交流協定の有効期間
22	Universiti Teknologi Malaysia (UTM)	Letter of Cooperation	2019/5/17	3 年
23	Institute of Transport Science and Technology	覚書	2018/8/1	3 年 (自動更新)
24	International Francophone Institute	協力協定	2019/10/24	2 年 (自動更新)
25	Nguyễn Tất Thành University	覚書	2018/2/6	5 年 (自動更新)
26	Tây Nguyên University	覚書	2018/2/7	5 年 (自動更新)
27	Thủ Dầu Một University	覚書	2018/3/6	5 年 (自動更新)
28	Vietnam Institute for Building Science and Technology	覚書	2017/3/1	5 年 (自動更新)
29	Vietnam National University of Forestry	協力協定	2020/1/16	3 年 (自動更新)

イ．学生交流

日越大学との学生交流プログラムとして実施した状況は以下表のとおり。

学生との交流・インタビューを希望する日系企業・自治体関係者の訪問や、学生に日本文化を紹介したいとして日越大学を訪問する例も増えている。なお、2020年2月には福岡女学院大学、3月上旬には富山県高等学校生徒海外派遣事業に

よる学生派遣、さらに3月下旬には山梨英和高等学校・中学校の生徒受け入れをそれぞれ予定していたが、コロナウィルスのため中止となった。

表7．サマースクール等学生交流の実績

	プログラム	日程	受入人数	所属機関・人数	備考
1	サマープログラム 2017	2017/08/20 ～2017/08/27	20	立命館大学 11 法政大学 9	
2	サマープログラム 2018	2018/08/19 ～2018/08/29	13	法政大学 4 筑波大学 2 横浜国立大学 1 京都大学 1 立命館大学 1 福島大学 1 東京大学 1 北九州市立大学 1 京都外国語大学 1	
3	サマープログラム 2019	短期： 2019/08/18 ～2019/08/23 長期： 2019/08/18 ～2019/08/27	27 （短期 16） （長期 11）	関東学院大学 11 立命館大学 3 東京大学 2 福島大学 2 北九州高等専門学校 2 豊橋技術科学大学 2 和歌山高等専門学校 2 小山高等専門学校 1 熊本高等専門学校 1 横浜国立大学 1	国立高等専門学校機構とも連携
4	短期研修（共催）	2018/08/13 ～2018/08/18	2	法政大学 VJU 学生 3 名参加	ANA ハノイでの実施
5	短期研修（共催）	2019/08/11 ～2019/08/16	7 （学生 5）	法政大学 VJU 学生 5 名参加	LASCO 社での実施
6	短期研修（共催）	2018/02/26 ～2018/03/18	8	東京大学 VJU 学生 12 名参加	
7	インターンシップ受け入れ	2017/10/02 ～2017/11/03	2	立命館大学	
8	インターンシップ受け入れ	2018/09/11 ～2018/12/28	1	早稲田大学	
9	学生交流	2018/08/27 ～2018/08/30	19	立命館大学	
10	学生交流（一日）	2018/02/27	13	福岡女学院大学	
11	学生交流（一日）	2018/03/05	6	沖縄グローバルジョブチャレンジプログラム	
12	学生交流（一日）	2018/07/31	4	東洋英和女学院大学	
13	学生交流（一日）	2018/08/27	4	拓殖大学	
14	学生交流（一日）	2018/09/13	6	明治大学	

15	学生交流（一日）	2019/02/27	11	福岡女学院大学	
16	学生交流（一日）	2018/12/06	82	マハーチュラロンコーンラージャヴィドゥャ大学	
17	学生交流（一日）	2018/12/20	20	ウボンラーチャターニーラーチャパット大学	
18	学生交流（一日）	2019/09/06	9	静岡大学	
19	学生交流（一日）	2019/09/18	12	電機・電子・情報通信産業経営者連盟	
20	学生交流（一日）	2019/02/25	29	ベトナム・ラオス経済ミッション	
21	学生交流（一日）	2019/03/07	20	富山県庁	
22	学生交流（一日）	2019/09/06	9	東洋英和女学院大学	
23	学生交流（一日）	2019/09/12	9	立命館大学	
24	学生交流（一日）	2019/11/14	15	北海道教育大学 10 横浜国立大学 5	JENESYS ASEAN プログラム
25	文化体験	2017/11/06	3	能のワークショップ	
26	文化体験	2017/12/12	20	ベトナム語スピーチコンテスト	
27	文化体験	2018/10/26	3	けん玉ワークショップ VJU 学生等 50 名程度	
28	文化体験	2019/02/14	15	大相撲荒潮部屋の訪問	
29	文化体験	2019/06/10	10	裏千家茶会への招待	
30	大学職員研修	2018/08/29 ～2018/09/10	1	法政大学	
31	大学職員研修	2019/08/05 ～2019/08/17	1	法政大学	

（３）他のJICA高等教育プロジェクトとの連携

日越大学において他のJICAプロジェクトの先行事例を学び、かつ有機的に連携することを目指す観点から、特にASEAN高等教育ネットワーク（SEED-Net）や、他国における大学設立プロジェクト（マレーシア等）との間で教職員の交流を積極的に推進してきている。

ア．AUN/SEED-Net

以下の2019年AUN/SEED-NetのRegional Conferenceに参加。

月日	学会名	場所	参加者	所属*	内容
10/15 ～ 10/17	Transformation towards Smart, Resilient & Sustainable Communities	ベトナム	Dr. Phung Thi Viet Bac	R&DP 職員	研究発表 VJU ブース設置

11/12 ～ 11/14	Empowering and Driving the Sustainable Future	インドネシア	Dr. Dang Thanh Tu	R&DP 職員	研究発表 VJU ブース設置
11/25 ～ 11/26	Disaster Management for Resilience and Sustainability	マレーシア	Dr. Nguyen Van Quang	MCCD 専任講師	研究発表 VJU 紹介 VJU ブース設置

＊R&DP: Research & Development Promotion
＊MCCD: 気候変動・開発プログラム

イ．MJIIT（マレーシア日本国際工科院）
日越大学とMJIITの共催により国際研修ワークショップを開催。
日　時：2019年3月16日　9:00～17:30
場　所：日越大学
テーマ：Developing science and technology activities at universities, international research institutes – Experiences from regional countries
参加者：110名（MJIIT院長、Ratchatani Rajabhat大学（タイ）副学長、立命館大学産学連携戦略本部副本部長等海外からの参加者15名を含む）
内　容：6大学・機関からのプレゼンテーションの後、総合討議

III．投入実績

1．投入実績

（1）日本側

ア．総投入額：2,035百万円

イ．専門家派遣（2020年2月29日現在）
- 長期専門家：31名（教員専門家18名）
- 短期専門家：大学教員延べ275回派遣、総授業時間3,725時間

ウ．研修：本邦研修受け入れ42名（大学教官・職員）（2020年3月31日現在）
※　上記受け入れ人数には幹事大学の予算で実施した本邦研修は含まれていない

エ．機材供与：（本邦供与機材）　約 18百万円
（現地購入機材）約105百万円
※　キャンパス改修時に搬入した機材を含む

オ．在外事業強化費：449百万円（2020年2月29日現在）
※　キャンパス使用料及び倉庫使用料を含む

カ．本邦大学におけるインターンシップ受け入れ：学生187名

キ．奨学金：学生396名

（2）ベトナム側

ア．人的投入：副学長1名(2020年2月に1名退職)、常勤教官14名、常勤職員31名（2020年2月現在）

イ．資金投入：日越大学準備委員会：1,200百万VND（5.7百万円）
日越大学運営経費：21,473百万VND（102百万円）（2018年度まで）
日越大学ラボラトリー整備費：72,367百万VND（345百万円）

２．PDMの変遷

（１）バージョン0（2015年2月）

基本計画策定調査にて決定。

（２）バージョン1（2016年4月）

詳細計画策定調査の実施。バージョン0との主な変更点は以下のとおり。

	変更箇所	変更内容
ア	上位目標	指標の設定
イ	成果	内容の見直しと整理、指標の設定
ウ	活動	プログラムの追加開設の検討
エ	日本側投入	長期・短期専門家の体制 在外事業強化費の支出項目・手順 奨学金の実施方法
オ	ベトナム側投入	日本側投入に応じた予算投入 教員謝金等の支出基準の制定

（３）バージョン2（2017年10月）

主な変更点は以下のとおり。

	変更箇所	変更内容
ア	全体	ベトナム側主体をVNUから日越大学に移行
イ	追加開設するプログラム	・「気候変動と開発」を2018年に開設 ・「水産」を「農業・水産」に変更（継続検討） ・「政策科学」を「グローバル・リーダーシップ」に変更（継続検討）

Ⅳ．上位目標達成に向けて

１．プロジェクト運営上の課題と対応および教訓

（１）　大学としての一体感の醸成

本プロジェクトは日越大学の修士課程を設立することが目標であり、8つ（開設当初は6つ）のプログラムごとに本邦幹事大学との間で業務実施契約を締結したことで迅速かつ高品質なプログラムの開設が可能となった。

一方で、プログラムごとに本邦幹事大学が異なるため、学生募集や入試選考、大学運営に対する考え方について「日越大学」としての意思統一を図るための努力が必要となった。

プロジェクトにおいては、各プログラムに各幹事大学からの推薦により派遣されている長期専門家（教員）に対する情報共有・意見交換の場として、毎週1回「専門家会議」を開催し、学長室会議（学長の他にチーフアドバイザー、大学運営専門家が出席）での重要決定事項の伝達や、教員専門家からの意見聴取、各プログラムの進捗状況・問題事例等の情報共有を実施した。

また、人員不足等の要因もありベトナム人スタッフによる総務・人事・広報、財務、教務（学務）の連携が不十分であることから、総務部および教務部に配置されたプロジェクト専門家が中心となり、学内の日常業務の円滑な運営を支援した。

（２）　ベトナム人スタッフの育成

2015年4月にプロジェクトが始まり、2016年9月には大学を設立し6つの修士

課程（と共通科目の日本語コース）を開講しなければならないという至上命題の下、ベトナム側とともに要員確保を含め一からの体制作りが進められた。プログラムの立ち上げ・運営は主として日本側主導で行われたが、大学としての運営体制は限られたスタッフのみしか配置されなかった。

このため、JICAプロジェクトにおいて最大18名を上限にベトナム人スタッフを雇用することが2016年4月に合意された。ベトナム側で人員確保を進める間の暫定的な措置としての合意であったが、その後も2つの修士プログラムの開設や、留学生の増加、学部開設の準備など人員不足の状況が絶えず続き、現在に至っている。

JICAがプロジェクトを通じ提供する技術研修の対象は日越大学が雇用した常勤スタッフのみであるが、実際に大学の各業務を動かしているのはJICA雇用スタッフも同じであり、彼らの間に自分たちも研修を受けたいと望む声が高まっている。現時点においては、研修後一定期間日越大学で業務に従事することを条件に、JICA雇用スタッフの研修を認めることとしている。

なお、日越大学雇用（終身の国家公務員）よりもJICAプロジェクトによる有期雇用を望む者が増加していることから、プロジェクト雇用であっても待遇は日越大学雇用と同じ条件にすべきと考える。

（３）次期フェーズに向けた対応

ア．　大学運営能力の強化

現実的な予測に基づく厳格な財務計画の策定がまず最も重要である。その財務計画に沿って人員体制の整備、各種経営計画（発展戦略・中期計画・年度計画）作りが行われるべきであり、その計画の実現のためのアクション・プランを策定し、着実に実行していく必要がある。プロジェクトはそのような運営がなされるよう経営から日常業務の遂行に至るまで多種多様の支援を行わなければならない。

具体的には産学連携のより一層の強化（寄附金等募集戦略の策定を含む）、学内諸規則の整備、学内情報共有システムの整備、等が喫緊の課題である。

イ．教育・研究能力の強化

本邦大学（幹事大学、協力大学、その他）との効率的で効果的かつ持続可能な協力のための運用システムの改善と強化を行う。

また、高品質の教育・研究を提供するため、量と質ともに十分な講師と研究者を確保する必要があり、プロジェクト支援による研究助成金を効果的に活用し、より大規模な外部の競争的資金を獲得する素地を形成することが望ましい。

また、本邦から派遣される教員専門家についても、日越大学としての一定の条件付けを検討することが望ましい。

ウ．ベトナム政府内の調整

ホアラック・キャンパス建設に向けたベトナム側プレF/S・F/S調査の支援、円借款の協力準備調査への実施支援がプロジェクトにも求められる。また、特別財政措置の早期実現に向けベトナム側関係省庁に対する働きかけについても、日本大使館およびJICA事務所と連携して対応する必要がある。

２．関連する会議の開催実績

（１）　日越大学構想に関する有識者懇談会

第1回　2016年2月4日

第2回　2016年8月24日
（議事次第・要旨は官邸HP（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/nichietsudaigaku/）
に掲載）

（2） 関係省庁会議
第1回　2016年2月1日
第2回　2016年3月3日
第3回　2016年4月12日
第4回　2016年5月23日
第5回　2016年6月29日
第6回　2016年7月28日
第7回　2016年11月28日
第8回　2017年2月13日
第9回　2017年2月23日
第10回 2017年3月2日
第11回 2017年3月8日
第12回 2017年7月31日
第13回 2017年8月31日
第14回 2017年12月28日
第15回 2018年7月12日
第16回 2018年7月30日
第17回 2018年9月14日
第18回 2018年12月19日
第19回 2019年4月11日
（議事次第・要旨は官邸HP（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/nichietsudaigaku/）
に掲載）

（3） 大学院分科会
第1回　2016年 2月15日
第2回　2016年 3月15日
第3回　2016年 4月 8日
第4回　2016年 5月16日
第5回　2016年 8月 2日
第6回　2017年 2月 1日
第7回　2017年 4月 5日
第8回　2018年 5月28日

（4） 次期フェーズ分科会
第1回　2016年 3月15日
第2回　2016年 5月11日
第3回　2016年 6月17日
第4回　2016年 8月 2日
第5回　2017年 3月10日
第6回　2017年 8月29日
第7回　2017年11月28日
第8回　2018年 4月10日

第9回　2019年 3月 4日

（５） 幹事大学会議
第1回　2017年 2月 1日
第2回　2017年 3月10日
第3回　2017年 5月25日
第4回　2017年10月25日
第5回　2018年 1月25日
第6回　2018年10月26日
第7回　2018年12月18日
第9回　2019年 9月26日

（６） 日越大学理事会
第1回　2017年9月8日
第2回　2018年1月12日
第3回　2018年7月20日
第4回　2019年4月18日
第5回　2020年2月18日（書面審査）
第6回　2020年3月26日

別添１：プロジェクトの結果
- 派遣専門家リスト
- カウンターパートリスト
- 研修リスト
- PO の修正履歴

別添２：プロジェクトによる成果品
- 論文
- マニュアル・ハンドブック類
- メールマガジン

別添３：PDM 履歴

別添４：R/D、M/M（写）

別添５：モニタリングシート（写）
(Remarks: ANNEX 4 and 5 are internal reference only.)

Separate Volume: Copy of Products Produced by the Project

LIST OF JAPANESE EXPERTS DISPATCHED

(as of 31 March 2020)

1. Japanese Long-term Experts

No	Name	Field	Duration
JFY2015 (as of Mar 31, 2016)			
I. Chief Adviser			
1	Takahisa KUSANO	Chief Advisor	30 May 2015 - 03 Mar 2016
II. Project Coordinator			
2	Kazuki ISHIDA	Project Coordinator	01 Jul 2015 - 31 Mar 2020
III. Program Coordinator			
3	Yuko FUKUDA	Program Coordinator (Social Science)	10 Aug 2015 - 09 Aug 2017
JFY2016 (as of Mar 31, 2017)			
I. Chief Adviser			
1	Satoru KOHIYAMA	Chief Advisor	14 May 2016 - 17 May 2017
II. Project Coordinator			
2	Kazuki ISHIDA	Project Coordinator	01 Jul 2015 - 31 Mar 2020
III. Program Coordinator			
3	Yuko FUKUDA	Program Coordinator (Social Science)	10 Aug 2015 - 09 Aug 2017
4	Kazuhisa TANAKA	Program Coordinator (Natural Science)	23 Sep 2016 - 22 Sep 2018
IV. Management Expert			
5	Motoo FURUTA	Rector of VJU	03 Jun 2016 - 31 Mar 2020
6	Takashi SUZUE	Financial Management/ industry-academia collaboration	03 Jun 2016 - 03 Jun 2019
V. Program Expert			
7	Atsufumi KATO	Program Development and Implementation (Area Studies)	01 Apr 2016 - 31 Mar 2017
8	Phan Le BINH	Program Development and Implementation (Infrastructure Technology)	23 May 2016 - 22 May 2019
9	Dinh Van AN	Program Development and Implementation (Nanotechnology)	01 Jun 2016 - 30 May 2019
10	Shinobu AIBARA	Program Development and Implementation (Japanese Language Education)	27 Jun 2016 - 31 Mar 2020
11	Hiroyuki KATAYAMA	Program Development and Implementation (Environmental Technology)	31 Aug 2016 - 30 Aug 2018
12	Yoshifumi HINO	Program Development and Implementation (Business Administration)	27 Feb 2017 - 31 Mar 2020
13	Ryotaro KATSURA	Program Development and Implementation (Public policy)	23 Mar 2017 - 23 Mar 2019
JFY2017 (as of Mar 31, 2018)			
I. Chief Adviser			
1	Kazuhiro YONEDA	Chief Advisor	05 May 2017 - 04 May 2019
II. Project Coordinator			
2	Kazuki ISHIDA	Project Coordinator	01 Jul 2015 - 31 Mar 2020
3	Koji ASADA	Project Coordinator	18 Aug 2017 – 17 Aug 2019
III. Program Coordinator			
4	Kazuhisa TANAKA	Program Coordinator (Natural Science)	23 Sep 2016 - 22 Sep 2018
5	Masashi YAMAGUCHI	Program Coordinator (Social Science)	26 Dec 2017 – 25 Dec 2019
IV. Management Expert			
6	Motoo FURUTA	Rector of VJU	03 Jun 2016 - 31 Mar 2020
7	Takashi SUZUE	Financial Management/ industry-academia collaboration	03 Jun 2016 - 03 Jun 2019
V. Program Expert			
8	Phan Le BINH	Program Development and Implementation (Infrastructure Technology)	23 May 2016 - 22 May 2019
9	Dinh Van AN	Program Development and Implementation (Nanotechnology)	01 Jun 2016 - 30 May 2019
10	Shinobu AIBARA	Program Development and Implementation (Japanese Language Education)	27 Jun 2016 - 31 Mar 2020
11	Hiroyuki KATAYAMA	Program Development and Implementation (Environmental Technology)	31 Aug 2016 - 30 Aug 2018
12	Yoshifumi HINO	Program Development and Implementation (Business Administration)	27 Feb 2017 - 31 Mar 2020

13	Ryotaro KATSURA	Program Development and Implementation (Public policy)	23 Mar 2017 - 23 Mar 2019
14	Jun NAKAJIMA	Program Development and Implementation (Environmental Technology)	01 Apr 2017 - 01 Apr 2019
15	Mariko ITO	Program Development and Implementation (Area Studies)	01 Apr 2017 - 31 Mar 2020
16	Hisashi NAKATOMI	Program Development and Implementation (Area Studies)	08 May 2017 - 07 May 2019
17	Chiharu MATSUNAMI	Program Development and Implementation (Japanese Language Education)	08 May 2017 - 07 May 2019
18	Akihiko KOTERA	Program Development and Implementation (Climate Change & Development)	10 Aug 2017 - 09 Aug 2019
JFY2018			
I. Chief Adviser			
1	Kazuhiro YONEDA	Chief Advisor	05 May 2017 - 04 May 2019
2	Masato KUMAGAI	Chief Advisor	31 Mar 2019 - 31 Mar 2020
II. Project Coordinator			
3	Kazuki ISHIDA	Project Coordinator	01 Jul 2015 - 31 Mar 2020
4	Koji ASADA	Project Coordinator	18 Aug 2017 – 17 Aug 2019
III. Program Coordinator			
5	Masashi YAMAGUCHI	Program Coordinator (Social Science)	26 Dec 2017 – 25 Dec 2019
6	Kiyoko TANAKA	Program Coordinator (Natural Science)	31 Mar 2019 - 31 Mar 2020
IV. Management Expert			
7	Motoo FURUTA	Rector of VJU	03 Jun 2016 - 31 Mar 2020
8	Takashi SUZUE	Financial Management/ industry-academia collaboration	03 Jun 2016 - 03 Jun 2019
9	Kunio TANIGUCHI	University Management	25 Mar 2019 - 31 Mar 2020
V. Program Expert			
10	Phan Le BINH	Program Development and Implementation (Infrastructure Technology)	23 May 2016 - 22 May 2019
11	Dinh Van AN	Program Development and Implementation (Nanotechnology)	01 Jun 2016 - 30 May 2019
12	Shinobu AIBARA	Program Development and Implementation (Japanese Language Education)	27 Jun 2016 - 31 Mar 2020
13	Yoshifumi HINO	Program Development and Implementation (Business Administration)	27 Feb 2017 - 31 Mar 2020
14	Ryotaro KATSURA	Program Development and Implementation (Public policy)	23 Mar 2017 - 23 Mar 2019
15	Jun NAKAJIMA	Program Development and Implementation (Environmental Technology)	01 Apr 2017 - 01 Apr 2019
16	Mariko ITO	Program Development and Implementation (Area Studies)	01 Apr 2017 - 31 Mar 2020
17	Hisashi NAKATOMI	Program Development and Implementation (Area Studies)	08 May 2017 - 07 May 2019
18	Chiharu MATSUNAMI	Program Development and Implementation (Japanese Language Education)	08 May 2017 - 07 May 2019
19	Akihiko KOTERA	Program Development and Implementation (Climate Change & Development)	10 Aug 2017 - 09 Aug 2019
20	Ikuro KASUGA	Program Development and Implementation (Environmental Technology)	01 Sep 2018 - 31 Aug 2020
21	Naohisa OKAMOTO	Program Development and Implementation (Public Policy)	21 Mar 2019 - 31 Mar 2020
22	Keisuke SATO	Program Development and Implementation (Environmental Technology)	30 Mar 2019 - 31 Mar 2020
23	Jung Hyun Jasmine RYU	Program Development and Implementation (Global Leadership)	31 Mar 2019 - 31 Mar 2020
JFY2019 (as of March 31, 2020)			
I. Chief Adviser			
1	Masato KUMAGAI	Chief Advisor	31 Mar 2019 - 31 Mar 2020
II. Project Coordinator			
2	Kazuki ISHIDA	Project Coordinator	01 Jul 2015 - 31 Mar 2020
3	Shinsuke ASAMIZU	Project Coordinator	12 Aug 2019 - 31 Mar 2020
III. Program Coordinator			
4	Masashi YAMAGUCHI	Program Coordinator (Social Science)	26 Dec 2017 – 25 Dec 2019
5	Kiyoko TANAKA	Program Coordinator (Natural Science)	31 Mar 2019 - 31 Mar 2020
IV. Management Expert			

6	Motoo FURUTA	Rector of VJU	03 Jun 2016 - 31 Mar 2020
7	Kunio TANIGUCHI	University Management	25 Mar 2019 - 31 Mar 2020
V. Program Expert			
8	Phan Le BINH	Program Development and Implementation (Infrastructure Technology)	23 May 2016 - 31 Mar 2020
9	Dinh Van AN	Program Development and Implementation (Nanotechnology)	01 Jun 2016 - 31 Mar 2020
10	Shinobu AIBARA	Program Development and Implementation (Japanese Language Education)	27 Jun 2016 - 31 Mar 2020
11	Yoshifumi HINO	Program Development and Implementation (Business Administration)	27 Feb 2017 - 31 Mar 2020
12	Mariko ITO	Program Development and Implementation (Area Studies)	01 Apr 2017 - 31 Mar 2020
13	Chiharu MATSUNAMI	Program Development and Implementation (Japanese Language Education)	08 May 2017 - 31 Mar 2020
14	Akihiko KOTERA	Program Development and Implementation (Climate Change & Development)	10 Aug 2017 - 31 Mar 2020
15	Ikuro KASUGA	Program Development and Implementation (Environmental Technology)	01 Sep 2018 - 31 Aug 2020
16	Naohisa OKAMOTO	Program Development and Implementation (Public Policy)	21 Mar 2019 - 31 Mar 2020
17	Keisuke SATO	Program Development and Implementation (Environmental Technology)	30 Mar 2019 - 31 Mar 2020
18	Jung Hyun Jasmine RYU	Program Development and Implementation (Global Leadership)	31 Mar 2019 - 31 Mar 2020

<Experts who returned to Japan>

No	Name	Field	Duration
JFY2015			
1	Takahisa KUSANO	Chief Advisor	30 May 2015 - 03 Mar 2016
JFY2016			
1	Hitoshi SASAI	Program Development and Implementation (Business Administration)	25 Aug 2016 - 23 Jan 2017
2	Atsufumi KATO	Program Development and Implementation (Area Studies)	01 Apr 2016 - 31 Mar 2017
JFY2017			
1	Satoru KOHIYAMA	Chief Advisor	14 May 2016 - 17 May 2017
2	Yuko FUKUDA	Program Coordinator (Social Science)	10 Aug 2015 - 09 Aug 2017
JFY2018			
1	Yuji SHIBUTANI	Program Development and Implementation (Nanotechnology)	21 Apr 2017 - 30 Jun 2018
2	Hiroyuki KATAYAMA	Program Development and Implementation (Environmental Technology)	31 Aug 2016 - 30 Aug 2018
3	Kazuhisa TANAKA	Program Coordinator (Natural Science)	23 Sep 2016 - 22 Sep 2018
4	Ryotaro KATSURA	Program Development and Implementation (Public policy)	23 Mar 2017 - 23 Mar 2019
JFY2019			
1	Jun NAKAJIMA	Program Development and Implementation (Environmental Technology)	01 Apr 2017 - 01 Apr 2019
2	Kazuhiro YONEDA	Chief Advisor	05 May 2017 - 04 May 2019
3	Hisashi NAKATOMI	Program Development and Implementation (Area Studies)	08 May 2017 - 07 May 2019
4	Takashi SUZUE	Financial Management/ industry-academia collaboration	03 Jun 2016 - 03 Jun 2019
5	Koji ASADA	Project Coordinator	18 Aug 2017 – 17 Aug 2019
6	Hiyoyuki KANZAKI	Financial Management/ industry-academia collaboration	29 Jul 2019 - 16 Jan 2020

2. Japanese Short-term Experts

(as of 1 October 2019)

<1st Semester, AY2016-AY2017>			
No	**Name**	**Course Name**	**University**
1. Common Course			
1	Masayuki Yanagisawa	Methodology and Informatics for Sustainable Science	Kyoto University
2	Emeritus Shibayama	Methodology and Informatics for Sustainable Science	Kyoto University
3	Venkatesh Raghavan	Methodology and Informatics for Sustainable Science	Osaka University
4	Masayuki Yanagisawa	Methodology and Informatics for Sustainable Science	Kyoto University
5	Kensuke Fukushi	Basic Sustainability Science	University of Tokyo
6	Keishiro Hara	Basic Sustainability Science	Osaka University
7	Geetha Mohan	Basic Sustainability Science	University of Tokyo
8	Hirotaka Matsuda	Basic Sustainability Science	University of Tokyo
9	Shinichiro Ohgaki	Basic Sustainability Science	University of Tokyo
10	Jun Nakajima	Basic Sustainability Science	Ritsumeikan University
11	Monte Cassim	Basic Sustainability Science	Ritsumeikan University
12	Norichika Kanie	Basic Sustainability Science	University of Tokyo
13	Satoshi Miyazaki	Basic Sustainability Science	Waseda University
14	Soichiro Seki	Basic Sustainability Science	Ministry of the Environment of Japan.
2. Area Studies			
3. Business Administration			
15	Daniel Aruto Heller	Organizational Behavior	Yokohama National University
16	Yoshiki Matsui	Special seminar: Supply Chain Management	Yokohama National University
17	Yoshiki Matsui	Seminar	Yokohama National University
18	Hitoshi Sasai	Seminar on "Social capital and local economic trajectories: A comparative analysis of different regions of Vietnam"	Yokohama National University
4. Public Policy			
19	Naohisa Okamoto	Transportation planning & policy	University of Tsukuba
20	Hisahiro Kondo	Governance & Development	Saitama University
21	Takaki Kobayashi	Governance & Development	Yokohama National University
22	Yasutami Shinomura	Governance & Development	Hosei University
23	Tsutomu Shibata	Governance & Development	Japan Economic Research Institution Inc.
5. Nanotechnology			
24	Tadashi Itoh	Introduction to Nanoscience and Nanotechnology	Osaka University
25	Hitoshi Watarai	Introduction to Nanoscience and Nanotechnology	Osaka University
26	Masanori Okuyama	Introduction to Nanoscience and Nanotechnology	Osaka University
27	Yasutaka Yamaguchi	Thermodynamics and statistical mechanics	Osaka University
6. Infrastructure Engineering			
28	Yasuo Yamada	Advanced Geotechnical Engineering	University of Tsukuba
29	Koji Fujimoto	Project Management and Finance	Takusyoku University
30	Hironori Kato	Transportation planning & policy	University of Tokyo
7. Environmental Engineering			
31	Monte Cassim	Environmental Management System	University of Tokyo
32	Kensuke Fukushi	Environmental Management System	Ritsumeikan University
33	Hiroaki Furumai	Environmental assessment and modeling	University of Tokyo
34	Satoh Higuchi	Water and wastewater engineering	University of Tokyo

<2nd Semester, AY2016-AY2017>			
No	**Name**	**Course Name**	**University**
1. Common Course			
2. Area Studies			
1	Maysaya Shiraishi	Vietnam and Japan in the World I	Waseda University
2	Takashi Shimizu	Economy and business management of contemporary Japan (JS)	The University of Tokyo
3. Business Administration			
3	Daniel Aruto Heller	Strategic Management	Yokohama National University
4	Matsui Yoshiki	Operation Management	Yokohama National University
5	Morita Hiroshi	Corporate Finance	Yokohama National University
6	Yasushi Narushima	Quantitative Analysis	Yokohama National University
7	Tohru Inoue	Quantitative Analysis	Yokohama National University

8	Takeshi Arthur Thornton	Quantitative Analysis	Yokohama National University
9	Kodo Yokozawa	Quantitative Analysis	Yokohama National University
10	Peijun Guo	Risk management	Yokohama National University
4. Public Policy			
11	Yutaka Tsujinaka	Public Policy Formulation & Implementation	University of Tsukuba
12	Masami Sugimoto	Principle & Method of Performance Evaluation (code share with MIE)	Takushoku University
13	Toru Yanagihara	Public Policy Analysis	Takushoku University
14	Masakazu Fukuzumi	Microeconomics for Public Policy	University of Tsukuba
15	Morimitsu Kurino	Microeconomics for Public Policy	University of Tsukuba
16	Morimitsu Kurino	Public Economics	University of Tsukuba
17	Shigeto Naka	Public Economics	University of Tsukuba
18	Shinichi Takeda	Quantitative & Qualitative Analysis	Takushoku University
19	Koji Fujimoto	Development Finance	Takushoku University
20	Tr□n Lâm Ánh D □□ng	Macroeconomics for Public Policy	University of Tsukuba
21	Nguy□n H□u Phúc	Public Finance	Yamaguchi University
22	Jun Kawaguchi	Educational Policy	University of Tsukuba
23	Hiroichi Kawashima	Reginal and urban development policy	University of Tsukuba
24	Tomokazu Arita	Reginal and urban development policy	University of Tsukuba
25	Naohisha Okamoto	Reginal and urban development policy	University of Tsukuba
26	Morito Tsusumi	Urban and Reginal Economics	University of Tsukuba
27	Osawa Yoshiaki	Urban and Reginal Economics	University of Tsukuba
5. Nanotechnology			
28	Yohei Takeda	Nanostructure Analysis	Osaka University
29	Masayaki Abe	Nanostructure Analysis	Osaka University
30	Satoshi Ichikawa	Nanostructure Analysis	Osaka University
31	Motohiro Nakano	Advanced Inorganic Chemistry	Osaka University
32	Yohei Takeda	Advanced Organic Chemistry	Osaka University
33	Motoki Kubo	Bio-functional Chemistry	Ritsumeikan University
34	Mamoru Wakayama	Bio-functional Chemistry	Ritsumeikan University
35	Wilson Agerico Diño	Advanced Solid State Physics	Osaka University
36	Shigeyasu Uno	Biosensors and Biochips	Ritsumeikan University
37	Masahiro Kinooka	Biochemical Engineering	Osaka University
38	Tadashi Itoh	Selected topic in Nanophysics	Osaka University
39	Masanori Okuyama	Selected topic in Nanophysics	Osaka University
40	Akihiko Fujiwara	Selected topic in Nanophysics	Osaka University
41	Ph□m Song Toàn	Selected topic in Nanophysics	Osaka University
42	Yumi Yakiyama	Selected topic in Nanochemistry	Osaka University
6. Infrastructure Engineering			
43	Junichi Koseki	Advanced Technologies in Civil Engineering	University of Tokyo
44	Tomonori Nagayama	Management and Maintenance of Bridges and Highways	University of Tokyo
45	Satoshi Nara	Management and Maintenance of Bridges and Highways	Osaka University
46	Toshirou Kamada	Management and Maintenance of Bridges and Highways	Osaka University
47	Kiyoyuki Kaito	Management and Maintenance of Bridges and Highways	Osaka University
48	Kohei Nagai	Advanced Concrete Engineering	University of Tokyo
49	Yuichi Fukukawa	Urban Planning and Land Use	Showa Women's University
50	Gaku Shoji	Risk Management in Civil Engineering (RISK-M)	University of Tsukuba
51	Muneyoshi Numada	Information Management in Infrastructure Engineering	The University of Tokyo
52	Masami Sugimoto	Principle and Method of Performance Evaluation	Takushoku University
7. Environmental Engineering			
53	Seiji Hashimoto	Material cycles and solid waste management	Ritsumeikan University
54	Takatoshi Wako	Environmental management in Japan	University of Tokyo
55	Adachi	Environmental management in Japan	-
56	Toshiyuki Yamasaki	Environmental management in Japan	University of Tokyo
57	Kazuaki Hoshino	Environmental management in Japan	Ministry of the Environment, Japan
58	Seiji Hashimoto	Environmental management in Japan	Ritsumeikan University
59	Akiko Urakami	Environmental management in Japan	Ministry of the Environment, Japan
60	Fumiyuki Nakajima	Advanced Environmental Analysis	University of Tokyo
61	Ikuro Kasuga	Advanced Environmental Analysis	University of Tokyo
62	Naoyuki Kamiko	Environmental health	Ritsumeikan University

63	Takashi Higuchi	Air Emission and quality control	Ritsumeikan University
64	Masaki Takaoka	Industrial and hazardous waste management	Kyoto University
65	Futoshi Kurisu	Environmental biotechnology	University of Tokyo
66	Satoshi Takizawa	Chemical reaction engineering	University of Tokyo
67	Kensuke Fukushi	Chemical reaction engineering	University of Tokyo
68	Hidemari Yasui	Application of environmental technology in Asian countries	University of Kitakyushu
69	Tetsuya Kusuda	Application of environmental technology in Asian countries	Kyushu University
70	Kiwao Kadokami	Application of environmental technology in Asian countries	University of Kitakyushu
71	Migifumi Jinno	Application of environmental technology in Asian countries	University of Kitakyushu
72	Takayuki Kawasaki	Application of environmental technology in Asian countries	University of Kitakyushu
73	Kondo	Application of environmental technology in Asian countries	-

<Summer Course, AY2017-AY2018>

No	Name	Course Name	University
1. Japanese Language Education			
1	Sai Thi May	Japanese Language Education	Waseda University
2	Taro Ogata	Japanese Language Education	Nihon University
2. Public Policy			
3	Jun Kawaguchi	Education Policy	University of Tsukuba
4	Hiroichi Kawashima	Regional and Urban Development Policy	University of Tsukuba
5	Tomokazu Arita	Regional and Urban Development Policy	University of Tsukuba
6	Naohisha Okamoto	Regional and Urban Development Policy	University of Tsukuba
7	Morito Tsusumi	Urban and regional Economics	University of Tsukuba
8	Yoshiaki Osawa	Urban and regional Economics	University of Tsukuba
3. Environmental Engineering			
9	Keisuke Sato	Advanced computer applications in environment	Ritsumeikan University

<1st Semester, AY2017-AY2018>

No	Name	Course Name	University
1. Common Course			
1	Hiroshi Komiyama	Basic of Sustainability science	University of Tokyo
2	Taikan Oki	Basic of Sustainability science	United Nations University
3	Keishiro Hara	Basic of Sustainability science	Osaka University
4	Masafumi Nagao	Basic of Sustainability science	Hiroshima University
5	Fumio Ohue	Basic of Sustainability science	MI Consulting Corporation
6	Akimasa Sumi	Basic of Sustainability science	University of Tokyo
7	Alexandros Gasparatos	Basic of Sustainability science	University of Tokyo
8	Tetsuji Ito	Basic of Sustainability science	Ibaraki University
9	Chiho Watanabe	Basic of Sustainability science	National Institute for Environmental Studies
10	Monte Cassim	Basic of Sustainability science	Ritsumeikan University
11	Satoshi Miyazaki	Basic of Sustainability science	Waseda University
12	Hirotaka Matsuda	Basic of Sustainability science	University of Tokyo
13	Seiji Hashimoto	Basic of Sustainability science	Ritsumeikan University
2. Area Studies			
14	Takashi Shimizu	Special Lecture on Japanese Studies III	University of Tokyo
15	Toshiki Sato	Special Lecture on Japanese Studies III	University of Tokyo
16	Kaku Sechiyama	Special Lecture on Japanese Studies III	University of Tokyo
17	Mareshi Saito	Japanese Language and Literature	University of Tokyo
18	Hiromichi Tomoda	Special lecture on Vietnamese studies IV	Showa Women's University
3. Business Administration			
19	Motonari Tanabu	MIS	Yokohama National University
20	Ryo Sato	MIS	Yokohama National University
21	Nobuyuki Maeyama	Accounting for Business	Yokohama National University
22	Akihisa Kimura	Accounting for Business	Yokohama National University
4. Public Policy			
23	Hisahiro Kondoh	Governance and Development	Saitama University
24	Takaki Kobayashi	Governance and Development	Yokohama National University
25	Yatsunami Shinomura	Governance and Development	Hosei University
26	Tsutomu Shibata	Governance and Development	Japan Economic Research Institution Inc.
27	Yutaka Tsujinaka	Public Policy Formulation and Implementation	University of Tsukuba

5. Nanotechnology			
28	Tadashi Itoh	Introduction to Nanoscience and Nanotechnology	Osaka University
29	Hitoshi Watarai	Introduction to Nanoscience and Nanotechnology	Osaka University
30	Masanori Okuyama	Introduction to Nanoscience and Nanotechnology	Osaka University
31	Yasutaka Yamaguchi	Thermodynamics & statistical mechanics	Osaka University
32	Nguyen Tien Quang	Nanomechanics	Osaka University
6. Infrastructure Engineering			
33	Yasuo Yamada	Advanced Geotechnical Engineering	Tsukuba University
34	Hironori Kato	Transportation Planning and Policy (TRANS-P&P)	University of Tokyo
35	Naohisa Okamoto	Transportation Planning and Policy (TRANS-P&P)	University of Tsukuba
36	Koji Fujimoto	Project Management and Finance (PROJ-M&F)	Takushoku University
7. Environmental Engineering			
37	Monte Cassim	Environmental management system	Ritsumeikan University
38	Kensuke Fukushi	Environmental management system	University of Tokyo
39	Hiroyasu Satoh	Water and wastewater engineering	University of Tokyo
40	Hiroaki Furumai	Environmental assessment and modeling	University of Tokyo

<2nd Semester, AY2017-AY2018>

No	Name	Course Name	University
1. Common Course			
1	Yanagisawa Masayuki	Methodology and Informatics for Sustainable Science	Kyoto University
2	Kato Atsufumi	Methodology and Informatics for Sustainable Science	Kyoto Sangyo Univ.
2. Area Studies			
3	Masaya Shiraishi	Vietnam and Japan in the world I	University of Tokyo
4	Satoshi Miyazaki	Teaching Japanese as a foreign language in Asia	Waseda University
5	Satoshi Miyazaki	Supervision	Waseda University
6	Satoshi Miyazaki	Integrated Research Seminar	Waseda University
7	Mareshi Saito	Japanese Language and Literature	University of Tokyo
8	Hirohide Kurihara	Vietnam: Traditional and Modernity	University of Tokyo
9	Atsufumi Kato	Society and culture of contemporary Vietnam	Kyoto Sangyo University
3. Business Administration			
10	Yoshiki Matsui	Operations Management	Yokohama National University
11	Yasushi Narushima	Quantitative Analysis	Yokohama National University
12	Tohru Inoue	Quantitative Analysis	Yokohama National University
13	Takeshi Arthur Thornton	Qualitative Analysis	Yokohama National University
14	Kodo Yokozawa	Qualitative Analysis	Yokohama National University
15	Hiroshi Morita	Corporate Finance	Yokohama National University
16	Daniel Arturo Heller	Strategic Management	Yokohama National University
4. Public Policy			
17	Hidenao Takahashi	Fiscal and Monetary Policy	University of Tsukuba
18	Seigo Uchida	Industrial and Trade Policy	University of Tsukuba
19	Kenji Okazaki	Disaster Prevention	Kyoto University
20	Shinichi Takeda	Quotative and Qualitative Analysis	Takushoku University
21	Koji Fujimoto	Development Finance	Takushoku University
22	Toru Yanagihara	Public Policy Analysis	Takushoku University
23	Yoshiaki Osawa	Urban and Regional Economics	University of Tsukuba
24	Morito Tsusumi	Urban and Regional Economics	University of Tsukuba
25	Tran Lam Anh DUONG	Macroeconomics for Public Policy	University of Tsukuba
26	Masakazu Fukuzumi	Microeconomics for PP	University of Tsukuba
27	Shigeto Naka	Public Economics	University of Tsukuba
5. Nanotechnology			
28	Maysayaki Abe	Nanostructure Analysis	Osaka University
29	Satoshi Ichikawa	Nanostructure Analysis	Osaka University
30	Naoto Kamiuchi	Nanostructure Analysis	Osaka University
31	Akinori Saeki	Nanocomposite and Polymer Materials	Osaka University
32	Motohiro Nakano	Advanced Inorganic Chemistry	Osaka University
33	Yohei Takeda	Advanced Organic Chemistry	Osaka University
34	Motoki Kubo	Bio-functional chemistry	Ritsumeikan University
35	Mamoru Wakayama	Bio-functional chemistry	Ritsumeikan University
36	Akihiko Fujiwara	Semiconductor Nanomaterials and Nanodevices	Ritsumeikan University
37	Shigeyasu Uno	Bio-sensors and bio-chips	Ritsumeikan University
38	Masahiro Kino-Oka	Biochemical Engineering	Osaka University

6. Infrastructure Engineering			
39	Yuichi Fukukawa	Urban Planning and Land Use	University of Tokyo
40	Tomonori Nagayama	Management and Maintenance of Bridges and Highways	University of Tokyo
41	Satoshi Nara	Management and Maintenance of Bridges and Highways	University of Tokyo
42	Minoru Kamada	Management and Maintenance of Bridges and Highways	University of Tokyo
43	Kiyoyuki Kaito	Management and Maintenance of Bridges and Highways	University of Tokyo
44	Kohei Nagai	Advanced Concrete Engineering	University of Tokyo
45	Shoji Gaku	Risk Management in Civil Engineering	University of Tsukuba
46	Satoshi Takewaka	Risk Management in Civil Engineering	University of Tsukuba
7. Environmental Engineering			
47	Fumiyuki Nakajima	Advanced Environmental Analysis	University of Tokyo
48	Ikuro Kasuga	Advanced Environmental Analysis	University of Tokyo
49	Makoto Tamura	Global environmental issues	Ibaraki University
50	Naoki Yoshikawa	Global environmental issues	Ritsumeikan University
51	Naoyuki Kamiko	Environmental Health	Ritsumeikan University
52	Masaki Takaoka	Industrial and hazardous waste management	Kyoto University
53	Takashi Higuchi	Air emission and quality control	Ritsumeikan University
54	Futoshi Kurisu	Environmental biotechnology	University of Tokyo
55	Seiji Hashimoto	Material cycles and solid waste management	Ritsumeikan University
56	Takatoshi Wako	Environmental management in Japan	Ministry of the Environment, Japan
57	Toshiyuki Yamasaki	Environmental management in Japan	Ministry of the Environment, Japan
58	Kazuaki Hoshino	Environmental management in Japan	Ministry of the Environment, Japan
59	Seiji Hashimoto	Environmental management in Japan	Ritsumeikan University
60	Koji Fukuda	Environmental management in Japan	Institute for Global Environmental Strategies
61	Hidenari Yasui	Environmental management in Japan	University of Kitakyushu

<Summer Course, AY2018-AY2019>

No	Name	Course Name	University
1. Japanese Language Course			
1	Taro Ogata	Japanese Language Course	Nihon University
2	Junko Ueda	Japanese Language Course	Waseda University
3	Miwako Shigenobu	Japanese Language Course	Free
1. Area Studies			
4	Masaya Shiraishi	Vietnam &Japan in the world I	Waseda University
5	Hirohide Kurihara	Vietnam traditional and modernity	University of Tokyo
2. Business Administration			
6	Motonari Tanabu	Management Information System	Yokohama National University
7	Ryo Sato	Management Information System	Yokohama National University
8	Nobuyuki Maeyama	Accounting for Business	Yokohama National University
9	Akihisa Kimura	Accounting for Business	Yokohama National University
4. Public Policy			
10	Jun Kawaguchi	Education Policy	University of Tsukuba
6. Infrastructure Engineering			
11	Takayuki Kumazawa	Advanced Landscape and Civic Design	University of Tokyo
7. Environmental Engineering			
12	Keisuke Sato	Advanced computer applications in environment	Ritsumeikan University

<1st Semester, AY2018-AY2019>

No	**Name**	**Course Name**	**University**
1. Common Course			
1	Nobou Mimura	Basic Sustainability and Science	University of Tsukuba
2	Kazuhiko Takemoto	Basic Sustainability and Science	UNU-IAS
3	Kensuke Fukushi	Basic Sustainability and Science	University of Tokyo
4	Kensuke Fukushi	Environmental management systems	University of Tokyo
5	Keishiro Hara	Basic Sustainability and Science	Osaka University
6	Yakari Takamura	Basic Sustainability and Science	University of Tokyo
7	Thomas Elmqvist	Basic Sustainability and Science	Stockholm University
8	Tsuyoshi Fujita	Basic Sustainability and Science	University of Tokyo

9	Yuya Kajikawa	Basic Sustainability and Science	University of Tokyo
10	Makoto Yokohari	Basic Sustainability and Science	University of Tokyo
11	Akimasa Sumi	Basic Sustainability and Science	University of Tokyo
12	Yuto Kitamura	Basic Sustainability and Science	University of Tokyo
13	Chiho Watanabe	Basic Subtainability and Science	NIES
14	Monte Cassim	Basic Sustainability and Science	Shizenkan University
15	Monte Cassim	Environmental management systems	Shizenkan University
2. Area Studies			
16	Satoshi Miyazaki	Teaching Japanese as a foreign language in Asia	Waseda University
3. Business Administration			
4. Public Policy			
17	Takaaki Kobayshi	Government and Development	University of Tsukuba
18	Tsutomu Shibata	Government and Development	University of Tsukuba
19	Hisahiro Kondoh	Government and Development	University of Tsukuba
20	Yasutami Shimomura	Government and Development	University of Tsukuba
21	Tr□n Lâm Ánh D □□ng	Macroeconomics for Public Policy	University of Tsukuba
22	Hironori Sasada	Public Policy Formulation and Implementation	University of Tsukuba
5. Nanotechnology			
23	Yasutaka Yamaguchi	Thermodynamics and Statistical Mechanics	Osaka University
24	Tadashi Itoh	Introduction to Nanoscience and Nanotechnology	Osaka University
25	Hitoshi Watarai	Introduction to Nanoscience and Nanotechnology	Osaka University
26	Yoji Shibutani	Nanomechanics	Osaka University
27	Nguy□n Ti□n Quang	Nanomechanics	Osaka University
6. Infrastructure Engineering			
28	Hironori Kato	Transportation Planning and Policy	University of Tokyo
29	Naohisa Okamoto	Transportation Planning and Policy	University of Tokyo
30	Koji Fujimoto	Project Management and Finances	University of Tokyo
7. Environmental Engineering			
31	Hiroaki Furumai	Environmental assessment and modeling	University of Tokyo
32	Higuchi Satoh	Water and wastewater engineering	University of Tokyo
8. Climate Change & Development			
33	Yasutaka Wakazuki	Fundamental of Climate Change I	University of Tsukuba
34	Yasutaka Wakazuki	Fundamental of Climate Change II	University of Tsukuba
35	Hiroyuki Kusaka	Fundamental of Climate Change I	University of Tsukuba
36	Kazuyuki Kita	Fundamental of Climate Change I	University of Tsukuba
37	Kazuyuki Kita	Fundamental of Climate Change II	University of Tsukuba
38	Akiyo Yatagai	Fundamental of Climate Change I	Hirosaki University
39	Akiyo Yatagai	Fundamental of Climate Change II	Hirosaki University
40	Yasuaki Hijioka	Climate Change Impacts and Vulnerability Assessment	NIES
41	Ronald Canero Estoque	Climate Change Impacts and Vulnerability Assessment	NIES
42	Yasuko Kameyama	Climate Change Impacts and Vulnerability Assessment	NIES
43	Makoto Tamura	Climate Change Mitigation and Adaptation	Ibaraki University
44	Koshi Yoshida	Climate Change Mitigation and Adaptation	NIES
45	Hiromune Yokoki	Climate Change Mitigation and Adaptation	Ibaraki University
46	Tetsuji Ito	Climate Change Mitigation and Adaptation	Ibaraki University

<2nd Semester, AY2018-AY2019>

No	Name	Course Name	University
1. Common Course			
1	Yanagisawa Masayuki	Methodology&informatics for SS	Kyoto University
2. Area Studies			
2	Masaya Shiraishi	Vietnam and Japan in the world I	Waseda University
3	Atsufumi Kato	Society and Culture of Contemparary Vietnam	University of Tokyo
4	Satoshi Miyazaki	Teaching Japanese as the international languages is Asia	Waseda University
5	Satoshi Miyazaki	Language Policy and Language Planning in Japan	Waseda University
6	Satoshi Miyazaki	Special lecture on Japanese studies IV	Waseda University
7	Satoshi Miyazaki	Current issues on language life in Japan	Waseda University
8	Satoshi Miyazaki	Seminar on Japanese Language Education	Waseda University
9	Mareshi Saito	Japanese language and Literature	University of Tokyo
10	Takashi Shimizu	Economic and Bussiness management of contemporary Japan	University of Tokyo
3. Business Administration			

11	Daniel Arturo Heller	Strategic Management	Yokohama National University
12	Yoshiki Matsui	Operations Management	Yokohama National University
13	Hiroshi Morita	Corporate Finance	Yokohama National University
14	Kodo Yokozawa	Qualitative Analysis	Yokohama National University
15	Takeshi Arthur Thornton	Qualitative Analysis	Yokohama National University
16	Yasushi Narushima	Quantitative Analysis	Yokohama National University
17	Tohru Inoue	Quantitative Analysis	Yokohama National University
4. Public Policy			
18	Kenji Okazaki	Disaster Prevention	Tsukuba University
19	Masami Sugimoto	Principle and Method of Performance Evaluation	Tsukuba University
20	Toru Yanagihara	Public Policy Analysis	Tsukuba University
21	Shigeto Naka	Public Economy	Tsukuba University
22	Masakazu Fukuzumi	Microeconomics for Public Policy	Tsukuba University
23	Nguyen Huu PHUC	Public Finance	Tsukuba University
24	Natsumi Aratame	Social Welfare Policy	Tsukuba University
25	Yoshifumi Konishi	Econometrics	Tsukuba University
5. Nanotechnology			
26	Akinori Sacki	Nanocomposite and Polimer Materials	Osaka University
27	Yohei Takeda	Advanced Organic Chemistry	Osaka University
28	Motoki Kubo	Bio-functional chemistry	Osaka University
29	Mamori Wakayama	Bio-functional chemistry	Osaka University
30	Fujiwara	Semiconductor Nanomaterials and Nanodevices	Osaka University
31	Shigeyasu Uno	Biosensors and Biochips	Osaka University
32	Masahiro Kino - Oka	Biochemical Engineering	Osaka University
6. Infrastructure Engineering			
33	Tomonori Nagayama	Management and Maintenance of Bridges and Highways	University of Tokyo
34	Satoshi Nara	Management and Maintenance of Bridges and Highways	University of Tokyo
35	Toshirou Kamada	Management and Maintenance of Bridges and Highways	University of Tokyo
36	Satoshi Takewaka	Risk Management in Civil Engineering	University of Tokyo
37	Gaku Shoji	Risk Management in Civil Engineering	University of Tokyo
38	Shinichi Takeda	Qualitative Analysis and Empirical Methods	Tsukuba University
39	Yuichi Fukukawa	Urban Planning and Land Use	University of Tokyo
40	Yasuo Yamada	Advanced Geotechnical Engineering	University of Tokyo
7. Environmental Engineering			
41	Seiji Hashimoto	Material cycle and solid waste	Ritsumeikan University
42	Seiji Hashimoto	Environmental management in Japan	Ritsumeikan University
43	Ibaraki	Environmental management in Japan	Ritsumeikan University
44	Kieuske Sato	Environmental management in Japan	Ritsumeikan University
45	Kieuske Sato	Advanced computer applications in enviroment	Ritsumeikan University
46	Kazuaki Hoshino	Environmental management in Japan	Ritsumeikan University
47	Hidenari Yasui	Environmental management in Japan	Ritsumeikan University
48	Hiroyuki Katayama	Environmental health	University of Tokyo
49	Naoyuki Kamiko	Environmental health	Ritsumeikan University
50	Takashi Higuchi	Air Emission and Quality Control	Ritsumeikan University
51	Masaki Takaoka	Industrial and hazadous waste	Kyoto University
52	Futoshi Kurisu	Environmental biotechnology	University of Tokyo
53	Kensuke Fukushi	Chemical reaction engineering	University of Tokyo
54	Fumiyuki Nakajima	Advanced Environmental Analysis	University of Tokyo
8. Climate Change & Development			
55	Kazuya Yasuhara	Climate Change Risk Assessment and Management	Ibaraki University
56	Satoshi Murakami	Climate Change Risk Assessment and Management	Ibaraki University
57	Seiichiro Hasui	Climate change and security	Ibaraki University
58	Yasuko Kameyama	Climate change and security	Ibaraki University
59	Teruyoshi Hayamizu	Climate change and security	Ibaraki University
60	Megumi Sakamoto	Energy Technologies and Management for Mitigation	Ibaraki University
61	Yuji Kuwahara	Geo-infornatics and Data Analysis for Climate Change Response	Ibaraki University
62	Makoto Tamura	Economics of Climate Change	Ibaraki University
63	Yasutaka Wakazuki	Climate Modeling	Ibaraki University
64	Hiroyuki Kusaka	Climate Modeling	Ibaraki University
65	Kiyoshi Takahashi	Climate Modeling	Ibaraki University

66	Tetsuji Ito	Social Research on Climate Change	Ibaraki University
67	Masafumi Fujita	Sustainable Water Management	Ibaraki University
68	Koshi Yoshida	Sustainable Water Management	Ibaraki University
69	Kazuhiko Narisawa	Nature and Ecosystem Based Adaptation	Ibaraki University

<1st Semester, AY2019-AY2020>

No	Name	Course Name	University
1. Common Course			
1	Nobuo Mimura	Basic Sustainability Science	Ibaraki University
2	Takashi Mino	Basic Sustainability Science	University of Tokyo
3	Kazuhiko Takemoto	Basic Sustainability Science	UNU - IAS
4	Jun Nakajima	Basic Sustainability Science	VJU/ RITS
5	Chiho Watanabe	Basic Sustainability Science	NIES
6	Keishiro Hara	Basic Sustainability Science	Osaka Unversity
7	Yukari Takamura	Basic Sustainability Science	University of Tokyo
8	Yuya Kajikawa	Basic Sustainability Science	University of Tokyo
9	Sander Van Der Leeuw	Basic Sustainability Science	University of Tokyo
10	Tsuyoshi Fujita	Basic Sustainability Science	NIES
11	Hiroyuki Katayama	Basic Sustainability Science	University of Tokyo
2. Area Studies			
12	Masaya Shiraishi	Vietnam Japan in the world I	Waseda University
13	Satoshi Miyazaki	Teaching Japanese as foreign language in Asia	Waseda University
3. Business Administration			
14	Motonari Tanabu	Management Information System	Yokohama National University
15	Ryo Sato	Management Information System	Yokohama National University
4. Public Policy			
16	Hironori Sasada	Public Policy Formulation and Implementation	University of Tsukuba
17	Yasutami Shimomura	Governance and Development	University of Tsukuba
18	Takaaki Kobayashi	Governance and Development	University of Tsukuba
19	Hisahiro Kondo	Governance and Development	University of Tsukuba
20	Tsutomu Shibata	Governance and Development	University of Tsukuba
21	Tomokazu Arita	Urban development policies	University of Tsukuba
22	Hiroichi Kawashima	Urban development policies	University of Tsukuba
23	Tran Lam Anh Duong	Macroeconomics for PP	University of Tsukuba
24	Koji Fujimoto	Finance Development	University of Tsukuba
5. Nanotechnology			
25	Yoji Shibutani	Nanomechanics	Osaka University
26	Nguyen Tien Quang	Nanomechanics	Osaka University
27	Tadashi Itoh	Introduction to Nanoscience and Nanotechnology	Osaka University
28	Hitoshi Watarai	Introduction to Nanoscience and Nanotechnology	Osaka University
29	Masanori Okuyama	Introduction to Nanoscience and Nanotechnology	Osaka University
30	Yasutaka Yamaguchi	Thermodynamics and Statistical mechanics	Osaka University
6. Infrastructure Engineering			
31	Koji Fujimoto	Project management and finance	University of Tokyo
32	Hironori Kato	Transportation planning and policies	University of Tokyo
7. Environmental Engineering			
33	Kensuke Fukushi	Basic Sustainability Science	University of Tokyo
34	Kensuke Fukushi	Environmental management system	University of Tokyo
35	Monte Cassim	Basic Sustainability Science	Ritsumeikan University
36	Monte Cassim	Environmental management system	University of Tokyo
37	Satohi Higuchi	Water and wastewater engineering	University of Tokyo
38	Hiroaki Furumai	Environmental assessment and modeling	University of Tokyo
8. Climate Change & Development			
39	Kazuyuki Kita	Fundamentals of Climate Change I	Ibaraki University
40	Kazuyuki Kita	Fundamentals of Climate Change I I	Ibaraki University
41	Hiroyuki Kusaka	Fundamentals of Climate Change I	Ibaraki University
42	Wakazuki Yasutaka	Fundamentals of Climate Change I	Ibaraki University
43	Masataka Shiobara	Fundamentals of Climate Change I I	Ibaraki University
44	Makoto Tamura	Climate change mitigation and adaption	Ibaraki University
45	Makoto Tamura	Cost - benefit analysis for Climate change	Ibaraki University
46	Yuji Masutomi	Climate change mitigation and adaption	Ibaraki University
47	Hiromune Yokoki	Climate change mitigation and adaption	Ibaraki University
48	Tetsuji Ito	Climate change mitigation and adaption	Ibaraki University

49	Ronald Careno Estoque	Climate change impacts and vulnerability assessment	Ibaraki University
50	Satoshi Kameyama	Climate change impacts and vulnerability assessment	Ibaraki University
51	Ryu Takeuchi	Cost - benefit analysis for Climate change	Ibaraki University
9. Global Leadership			
52	Kazuo Kuroda	Introduction to Global leadership	Waseda University
53	Yasushi Katsuma	Introduction to Global leadership	Waseda University

Number of employed (AY2016~ AY2019)
397

LIST OF VJU COUNTERPARTS AND STAFFS

(as of 15 March, 2020)

	Name	Position/ Field	Duration	Remarks
JFY2015				
<VJU Management Board>				
1	Vu Anh Dung	Director	02/06/15 - at present	moved VJU
2	Nguyen Hoang Oanh	Vice Director/ Academic & Scientific Affairs Department	03/16/15 - at present	moved VJU
3	Phung Kim Anh	Vice Director/ Cooperation & Development Department	08/15/14 - 01/15/16	
4	Tran Thanh Khiet	Vice Director/ Finance & Facilities Department	08/15/14 - 04/12/16	
5	Ho Nnhu Hai	Voce Director/ Human Resource & Administration Department	08/14/14 - 08/15/16	moved VJU
6	Nguyen Huyen Hao	Administrative Assistant	04/01/15 - 08/25/16	moved VJU
7	Nguyen Phuong Thao	Accountant	07/01/15 - 10/31/16	moved VJU
8	Nguyen Thi An Hang	Expert of Program Development	08/01/15 - 09/30/16	moved VJU
9	Pham Viet Dung	Academic Affairs Officer	09/01/15 - 03/31/17	moved VJU
10	Pham Tien Thanh	Academic Affairs Officer	09/01/15 - 07/31/17	moved VJU
11	Nghiem Thu Trang	Admission and Student Affairs Officer	09/01/15 - 01/02/17	moved VJU
12	Nguyen Van Quang	Accounting & Procurement Officer	09/01/15 - 01/02/17	moved VJU
13	Nguyen Van Hoa	Infrastructure Planning , Facilities Maintenance and Management Officer	09/01/15 - 09/01/16	moved VJU
14	Nguyen Hien Giang	Administrative Assistant	09/05/15 - 08/25/16	moved VJU
<VJU>				
1	Nguyen Thi Thu Ha	Assistant to Chief Adviser	08/17/15 - 07/20/16	
2	Pham Minh Trang	Assistant to Project Coordinator	08/17/15 - at present	
3	Nguyen Van Quang	Accounting & Procurement Officer	09/01/15 - 11/30/16	
4	Nguyen Van Hoa	Equipment and Constriction Management	09/01/15 - 01/15/17	
5	Pham Tien Thanh	Academic Affairs Officer (Natural Sciences)	09/01/15 - 10/01/17	
6	Pham Viet Dung	Academic Affairs Officer (Social Sciences)	09/01/15 - 03/31/17	
7	Nghiem Thu Trang	Student Officer	09/01/15 - 01/02/17	
8	Ho Anh Duc	Human Resources Officer	10/05/15 - 01/15/17	
9	Ngo Thi Duc Luu	Communication Officer	11/02/15 - 11/06/18	
10	Nguyen Ngoc Huong	Accountant	03/01/16 - at present	
11	Pham Ha My	Cooperation and Development Officer	03/15/16 - 08/20/18	
JFY2016				
Rector Board				
1	Vu Anh Dung	Vice Rector, VJU	04/28/16 - at present	
2	Nguyen Hoang Oanh	Vice Rector, VJU	08/12/16 - at present	
3	Nguyen Hien Giang	Secretary to the VJU Rector	08/26/16 - at present	
4	Phan Hai Linh	Assistant to the VJU Rector (Part-time)	06/01/16 - 10/30/17	
Administration Department				
5	Ho Nhu Hai	Chief of Administrative Department	08/16/16 - at present	
6	Ngo Manh Linh	Organization and HR Development Officer	08/01/16 - at present	
7	Ho Anh Duc	Human Resources Officer	10/05/15 - 01/15/17	resign
8	Ngo Thi Duc Luu	Communication Officer	11/02/15 - 11/06/18	
9	Le Thi Quynh Nga	Administrative cum Clerical Officer	10/03/16 - at present	
10	Pham Minh Trang	Assistant to Project Coordinator	08/17/15 - at present	
11	Nguyen Thi Thu Ha	Assistant to Chief Adviser	08/17/15 - 07/20/16	resign
Planning & Finance Department				
12	Nguyen Thu Phuong	Chief of Planning and Finance Department	07/01/16 - at present	
13	Nguyen Ngoc Huong	Accountant	03/01/16 - at present	
14	Nguyen Van Quang	Accounting & Procurement Officer	09/01/15 - 11/30/16	resign
15	Nguyen Van Hoa	Equipment and Constriction Management	09/01/15 - 01/15/17	resign
Academic Department				
16	Dang Thanh Tu	Deputy Chief of Academics, R&D Promotion Department	12/01/16 - at present	
17	Dinh Quang Hung	Deputy Chief of Academics, R&D Promotion Department	12/01/16 - at present	
18	Pham Tien Thanh	Academic Affairs Officer (Natural Sciences)	09/01/15 - 10/01/17	
19	Pham Viet Dung	Academic Affairs Officer (Social Sciences)	09/01/15 - 03/31/17	resign
20	Nghiem Thu Trang	Student Officer	09/01/15 - 01/02/17	resign
21	Pham Ha My	Cooperation and Development Officer	03/15/16 - 08/20/18	
22	Nguyen Thi An Hang	S&T Promotion Officer	10/01/16 - 10/01/17	
23	Nguyen Thi Thu Dung	Student Affairs Officer	11/07/16 - 11/07/17	
24	Le Mai Anh	Assistant to Program Coordinator	08/29/16 - 08/16/18	
Each Program				
25	Nguyen Huyen Hao	Program Assistant, MAS	08/26/16 - at present	

26	Nguyen Thi Huong	Program Assistant, MBA	09/01/16 - at present	
27	Pham Thi Thu Ha	Program Assistant, MPP	08/26/16 - at present	
28	Nguyen Thi Hoang	Program Assistant, MNT	08/29/16 - at present	
29	Nguyen Ngoc Dung	Program Assistant, MIE	08/26/16 - 03/01/17	resign
30	Nguyen Phuong Thao	Program Assistant, MEE	08/29/16 - 10/30/18	
31	Nguyen Thi Thu Hien	Program Assistant, JLE	09/05/16 - at present	
Part-time Staffs				
1. Program Director				
32	Vu Minh Giang	Program Director (Part-time), MAS	07/01/16 - at present	
33	Pham Thi Lien	Program Director (Part-time), MBA	07/01/16 - at present	
34	Nguyen Thuy Anh	Program Director (Part-time), MPP	07/01/16 - at present	
35	Nguyen Hoang Luong	Program Director (Part-time), MNT	07/01/16 - at present	
36	Nguyen Dinh Duc	Program Director (Part-time), MIE	07/01/16 - at present	
37	Cao The Ha	Program Director (Part-time), MEE	07/01/16 - at present	
2. Lecturer				
38	Pham Thi Thu Giang	Lecturer, Program Coordinator (Part-time), MAS	07/01/16 - at present	
Outsourcing				
39	Vu Thanh Tung	IT Officer (Outsourcing)	08/01/16 - at present	
40	Phung Thi Hue	Librarian (Outsourcing)	09/06/16 - 09/05/17	
41	Nguyen Ngoc Linh	Librarian (Outsourcing)	12/06/16 - at present	
42	Security Guard (1)		06/01/16 - at present	
43	Security Guard (2)		06/01/16 - at present	
44	Cleaner (1)		06/01/16 - at present	
45	Cleaner (2)		06/01/16 - at present	
JFY2017				
Rector Board				
1	Vu Anh Dung	Vice Rector, VJU	04/28/16 - at present	
2	Nguyen Hoang Oanh	Vice Rector, VJU	08/12/16 - at present	
3	Nguyen Hien Giang	Secretary to the VJU Rector	08/26/16 - at present	
*	Phan Hai Linh	Assistant to the VJU Rector (Part-time)	06/01/16 - 10/30/17	resign
4	Vo Minh Vu	Assistant to the VJU Rector (Part-time)	11/01/17 - at present	
Administration Department				
5	Ho Nhu Hai	Chief of Administrative Department	08/16/16 - at present	
6	Ngo Manh Linh	Organization and HR Development Officer	08/01/16 - at present	
7	Dinh Thu Phuong	Human Resources Officer	04/24/17 - at present	
8	Ngo Thi Duc Luu	Communication Officer	11/02/15 - 11/06/18	
9	Le Thi Quynh Nga	Administrative cum Clerical Officer	10/03/16 - at present	
10	Pham Minh Trang	Assistant to Project Coordinator	08/17/15 - at present	
11	Nguyen To Nhu	Assistant to Chief Adviser	04/03/17 - at present	
Planning & Finance Department				
12	Nguyen Thu Phuong	Chief of Planning and Finance Department	07/01/16 - at present	
13	Nguyen Ngoc Huong	Accountant	03/01/16 - at present	
14	Vu Ngoc Van	Planning Officer	04/03/17 - at present	
Academic Department				
15	Dang Thanh Tu	Deputy Chief of Academics, R&D Promotion Department	12/01/16 - at present	
16	Dinh Quang Hung	Deputy Chief of Academics, R&D Promotion Department	12/01/16 - at present	
*	Pham Tien Thanh	Academic Affairs Officer (Natural Sciences)	09/01/15 - 10/01/17	changed position
17	Chu Ngoc Ha	Academic Affairs Officer (Natural Sciences)	08/20/17 - 07/20/18	
18	Nguyen Thi Bich	Admission and Student Services Officer	09/05/17 - 03/01/18	resign
*	Nguyen Thi Thu Dung	Academic Affairs Officer (Social Sciences)	11/07/16 - 11/07/17	changed position
19	Nguyen Thi Thu Dung	Student Affairs Officer	11/07/17 - 11/06/18	
20	Nguyen Thi An Hang	S&T Promotion Officer	10/01/16 - 10/01/17	changed position
21	Pham Ha My	Cooperation and Development Officer	03/15/16 - 08/20/18	
22	Le Mai Anh	Assistant to Program Coordinator	08/29/16 - 08/16/18	
Permanent Lecturer				
23	Tran Thi Bich Hanh	Lecturer & Program Coordinator, MBA	11/08/17 - at present	
24	Vu Hoang Linh	Lecturer & Program Coordinator , MPP	10/01/17 - at present	
25	Pham Tien Thanh	Lecturer & Program Coordinator , MNT	10/01/17 - at present	
26	Nguyen Tien Dung	Lecturer & Program Coordinator , MIE	11/08/17 - at present	
27	Nguyen Thi An Hang	Lecturer & Program Coordinator , MEE	10/01/17 - at present	
28	Nguyen Ngoc Huy	Lecturer & Program Coordinator , MCCD	10/01/17 - at present	
29	Vuong Thi Bich Lien	Lecturer & Program Coordinator, JLE	10/01/17 - at present	
Laboratory				

30	Bui Hoang Tan	Laboratory Technician cum Program Assistant, MIE	02/12/18 - at present	
Each Program				
31	Nguyen Huyen Hao	Program Assistant, MAS	08/26/16 - at present	
32	Nguyen Thi Huong	Program Assistant, MBA	09/01/16 - at present	
33	Pham Thi Thu Ha	Program Assistant, MPP	08/26/16 - at present	
34	Nguyen Thi Hoang	Program Assistant, MNT	08/29/16 - at present	
35	Nguyen Phuong Thao	Program Assistant, MEE	08/29/16 - 10/30/18	
36	Nguyen Thi Thu Hien	Program Assistant, JLE	09/05/16 - at present	
Part-time Staffs				
1. Program Director				
37	Vu Minh Giang	Program Director (Part-time), MAS	07/01/16 - at present	
38	Pham Thi Lien	Program Director (Part-time), MBA	07/01/16 - at present	
39	Nguyen Thuy Anh	Program Director (Part-time), MPP	07/01/16 - at present	
40	Nguyen Hoang Luong	Program Director (Part-time), MNT	07/01/16 - at present	
41	Nguyen Dinh Duc	Program Director (Part-time), MIE	07/01/16 - at present	
42	Cao The Ha	Program Director (Part-time), MEE	07/01/16 - at present	
43	Mai Trong Nhuan	Program Director (Part-time), MCCD	02/01/18 - at present	
2. Lecturer				
44	Pham Thi Thu Giang	Lecturer, Program Coordinator (Part-time), MAS	07/01/16 - at present	
Outsourcing				
45	Vu Thanh Tung	IT Officer (Outsourcing)	08/01/16 - at present	
46	Phung Thi Hue	Librarian (Outsourcing)	09/06/16 - 09/05/17	
47	Nguyen Ngoc Linh	Librarian (Outsourcing)	12/06/16 - at present	
48	Security Guard (1)		06/01/16 - at present	
49	Security Guard (2)		06/01/16 - at present	
50	Cleaner (1)		06/01/16 - at present	
51	Cleaner (2)		06/01/16 - at present	
		JFY2018		
Rector Board				
1	Vu Anh Dung	Vice Rector, VJU	04/28/16 - at present	
2	Nguyen Hoang Oanh	Vice Rector, VJU	08/12/16 - at present	
3	Nguyen Hien Giang	Secretary to the VJU Rector	08/26/16 - at present	
4	Vo Minh Vu	Assistant to the VJU Rector (Part-time)	11/01/17 - at present	
Administration Department				
5	Ho Nhu Hai	Chief of Administrative Department	08/16/16 - at present	
6	Ngo Manh Linh	Organization and HR Development Officer	08/01/16 - at present	
7	Dinh Thu Phuong	Human Resources Officer	04/24/17 - at present	
*	Ngo Thi Duc Luu	Communication Officer	11/02/15 - 11/06/18	changed position
8	Le Hai Yen	PR and Communication Officer	07/01/18 - at present	
9	Le Thi Quynh Nga	Administrative cum Clerical Officer	10/03/16 - at present	
*	Nguyen Thi Thu Dung	Student Affairs Officer	11/07/17 - 11/06/18	changed position
10	Nguyen Thi Thu Dung	General Affairs Officer	11/26/18 - 03/31/19	
11	Pham Minh Trang	Assistant to Project Coordinator	08/17/15 - at present	
12	Nguyen To Nhu	Assistant to Chief Adviser	04/03/17 - at present	
Planning & Finance Department				
13	Nguyen Thu Phuong	Chief of Planning and Finance Department	07/01/16 - at present	
14	Nguyen Ngoc Huong	Accountant	03/01/16 - at present	
15	Vu Ngoc Van	Planning Officer	04/03/17 - at present	
Academic Department				
16	Dang Thanh Tu	Deputy Chief of Academics, R&D Promotion Department	12/01/16 - at present	
17	Dinh Quang Hung	Deputy Chief of Academics, R&D Promotion Department	12/01/16 - at present	
18	Pham Ha My	Cooperation and Development Officer	03/15/16 - 08/20/18	resign
19	Chu Ngoc Ha	Academic Affairs Officer (Natural Sciences)	08/20/17 - 07/20/18	resign
20	Tran Thi Huong	Academic Affairs Officer	08/06/18 - at present	
21	Ngo Thi Duc Luu	Marketing and Student Recruitment Officer	12/03/18 - 03/31/19	resign
22	Phung Thi Viet Bac	S&T Promotion Officer	04/26/18 - at present	
23	Dao Ngoc Manh	Cooperation and Development Officer	08/15/18 - at present	
24	Le Mai Anh	Assistant to Program Coordinator	08/29/16 - 08/16/18	resign
Permanent Lecturer				
25	Tran Thi Bich Hanh	Lecturer & Program Coordinator, MBA	11/08/17 - at present	
26	Vu Hoang Linh	Lecturer & Program Coordinator , MPP	10/01/17 - at present	
27	Pham Tien Thanh	Lecturer & Program Coordinator , MNT	10/01/17 - at present	
28	Nguyen Tien Dung	Lecturer & Program Coordinator , MIE	11/08/17 - at present	

29	Nguyen Thi An Hang	Lecturer & Program Coordinator , MEE	10/01/17 - at present	
30	Tran Thi Viet Ha	Permanent Lecturer, MEE	12/17/18 - at present	
31	Nguyen Ngoc Huy	Lecturer & Program Coordinator , MCCD	10/01/17 - at present	
32	Vuong Thi Bich Lien	Lecturer & Program Coordinator, JLE	10/01/17 - at present	
Laboratory				
33	Bui Hoang Tan	Laboratory Technician cum Program Assistant, MIE	02/12/18 - at present	
Each Program				
34	Nguyen Huyen Hao	Program Assistant, MAS	08/26/16 - 03/31/19	resign
35	Nguyen Thi Huong	Program Assistant, MBA	09/01/16 - at present	
36	Pham Thi Thu Ha	Program Assistant, MPP	08/26/16 - at present	
37	Nguyen Thi Hoang	Program Assistant, MNT	08/29/16 - at present	
*	Nguyen Phuong Thao	Program Assistant, MEE	08/29/16 - 10/30/18	resign
38	Dinh Dieu Anh	Program Assistant, MEE	10/08/18 - at present	
39	Bui Thi Hoa	Program Assistant, MCCD	06/04/18 - at present	
40	Nguyen Thi Thu Hien	Program Assistant, JLE	09/05/16 - at present	
Part-time Staffs				
1. Program Director				
41	Vu Minh Giang	Program Director (Part-time), MAS	07/01/16 - at present	
42	Pham Thi Lien	Program Director (Part-time), MBA	07/01/16 - at present	
43	Nguyen Thuy Anh	Program Director (Part-time), MPP	07/01/16 - at present	
44	Nguyen Hoang Luong	Program Director (Part-time), MNT	07/01/16 - at present	
45	Nguyen Dinh Duc	Program Director (Part-time), MIE	07/01/16 - at present	
46	Cao The Ha	Program Director (Part-time), MEE	07/01/16 - at present	
47	Mai Trong Nhuan	Program Director (Part-time), MCCD	02/01/18 - at present	
2. Lecturer				
48	Pham Thi Thu Giang	Lecturer, Program Coordinator (Part-time), MAS	07/01/16 - at present	
Outsourcing				
49	Vu Thanh Tung	IT Officer (Outsourcing)	08/01/16 - at present	
50	Nguyen Ngoc Linh	Librarian (Outsourcing)	09/06/16 - 09/05/17	
51	Hoang Thi Thao	Librarian (Outsourcing)	12/06/16 - at present	
52	Security Guard (1)		06/01/16 - at present	
53	Security Guard (2)		06/01/16 - at present	
54	Cleaner (1)		06/01/16 - at present	
55	Cleaner (2)		06/01/16 - at present	
JFY2019 (as of 15 March, 2020)				
Rector Board				
1	Vu Anh Dung	Vice Rector, VJU	04/28/16 - 12/31/19	resign
2	Nguyen Hoang Oanh	Vice Rector, VJU	08/12/16 - at present	
3	Vo Minh Vu	Assistant to the VJU Rector (Part-time)	11/01/17 - at present	
Institute of Sustainability Science (ISS)				
4	Jun Nakajima	Director (Short-time Level)	09/01/19 - at present	
Administration Department				
5	Ho Nhu Hai	Chief of Administrative Department	08/16/16 - at present	
6	Ngo Manh Linh	Organization and HR Development Officer	08/01/16 - at present	
7	Dinh Thu Phuong	Human Resources Officer	04/24/17 - at present	
8	Le Hai Yen	PR and Communication Officer	07/01/18 - 01/31/20	resign
9	Le Hai Yen	PR and Communication Officer (Part-time)	02/01/20 - 03/31/20	
10	Nguyen Thi Thu Hien	PR and Communication Officer	02/03/20 - at present	
11	Le Thi Quynh Nga	Administrative cum Clerical Officer	10/03/16 - at present	
12	Duong Van Nga	Administrative cum Clerical Officer (Part-time)	10/22/19 - 03/31/20	
13	Pham Minh Trang	Assistant to Project Coordinator	08/17/15 - at present	
14	Nguyen To Nhu	Assistant to Chief Adviser	04/03/17 - at present	
15	Nguyen Le Dieu Linh	Assistant to Project Coordinator (Part-time)	04/22/19 - 10/30/19	resign
16	Do Cong Quang	Driver at VJU	07/01/19 - at present	
17	Nguyen Hien Giang	Secretary to the VJU Rector	08/26/16 - at present	
Planning & Finance Department				
18	Nguyen Thu Phuong	Chief of Planning and Finance Department	07/01/16 - at present	
19	Nguyen Ngoc Huong	Accountant	03/01/16 - at present	
20	Vu Ngoc Van	Planning Officer	04/03/17 - at present	
Academic Department				
21	Nguyen Thi Thuy Hang	Deputy Chief of Academics, R&D Promotion Department	12/02/19 - at present	
22	Dang Thanh Tu	Deputy Chief of Academics, R&D Promotion Department	12/01/16 - at present	
23	Dinh Quang Hung	Deputy Chief of Academics, R&D Promotion Department	12/01/16 - at present	

24	Tran Thi Huong	Academic Affairs Officer	08/06/18 - 10/07/19	resign
25	Nguyen Hoang Long	Academic Affairs Officer	02/03/20 - at present	
26	Nguyen Ngoc Tam	Academic Affairs Officer	02/03/20 - at present	
27	Tran Thi Khanh Linh	Student Affairs and Career Support Officer	04/01/19 - at present	
28	Dao Ngoc Manh	Cooperation and Development Officer	08/15/18 - at present	
29	Phung Thi Viet Bac	S&T Promotion Officer	04/26/18 - at present	
30	Nguyen Quynh Huong	Assistant to Program Coordinator	04/01/19 - at present	
Permanent Lecturer				
31	Tran Thi Bich Hanh	Lecturer & Program Coordinator, MBA	11/08/17 - at present	
32	Vu Hoang Linh	Lecturer & Program Coordinator , MPP	10/01/17 - at present	
33	Pham Tien Thanh	Lecturer & Program Coordinator , MNT	10/01/17 - at present	
34	Bui Nguyen Quoc Trinh	Permanent Lecturer, MNT	03/01/19 - at present	
35	Nguyen Tien Dung	Lecturer & Program Coordinator , MIE	11/08/17 - at present	
36	Nguyen Thi An Hang	Lecturer & Program Coordinator , MEE	10/01/17 - at present	
37	Tran Thi Viet Ha	Permanent Lecturer, MEE	12/17/18 - at present	
38	Nguyen Van Quang	Permanent Lecturer, MCCD	04/01/19 - at present	
39	Vuong Thi Bich Lien	Lecturer & Program Coordinator, JLE	10/01/17 - 02/15/20	resign
40	Shinya Ueda	Permanent Lecturer, MAS	07/01/19 - at present	
41	Duong Thi Thuy	Permanent Lecturer, Bachelor Program in Japanese Studies	08/01/19 - at present	
42	Hoang Thi Thu Duyen	Permanent Lecturer, MCCD	08/01/19 - at present	
43	Dang Quang Vinh	Permanent Lecturer, MPP	10/15/19 - at present	
44	Pham Thi Hong	Lecturer & Program Coordinator, JLE	01/16/20 - at present	
45	Le Cam Nhung	Permanent Lecturer, Bachelor Program in Japanese Studies	02/18/20 - at present	
Laboratory				
46	Bui Hoang Tan	Laboratory Technician cum Program Assistant, MIE	02/12/18 - at present	
Each Program				
47	Nguyen Thi Huong	Program Assistant, MBA	09/01/16 - at present	
48	Pham Thi Thu Ha	Program Assistant, MPP	08/26/16 - 01/31/20	resign
49	Nguyen Thi Huong	Program Assistant, MNT	08/29/16 - at present	
50	Dinh Dieu Anh	Program Assistant, MEE	10/08/18 - at present	
51	Bui Thi Hoa	Program Assistant, MCCD	06/04/18 - at present	
52	Nguyen Thi Thu Hien	Program Assistant, JLE	09/05/16 - at present	
53	Nguyen Hoang Diep	Program Assistant, MAS	07/22/19 - at present	
54	Nguyen Thi Thu Trang	Program Assistant, MGL	08/01/19 - at present	
Part-time Staffs				
1. Program Director				
55	Vu Minh Giang	Program Director (Part-time), MAS	07/01/16 - at present	
56	Pham Thi Lien	Program Director (Part-time), MBA	07/01/16 - at present	
57	Nguyen Thuy Anh	Program Director (Part-time), MPP	07/01/16 - at present	
58	Nguyen Hoang Luong	Program Director (Part-time), MNT	07/01/16 - at present	
59	Nguyen Dinh Duc	Program Director (Part-time), MIE	07/01/16 - at present	
60	Cao The Ha	Program Director (Part-time), MEE	07/01/16 - at present	
61	Mai Trong Nhuan	Program Director (Part-time), MCCD	02/01/18 - at present	
62	Pham Hong Tung	Program Director (Part-time), MGL	04/01/19 - at present	
2. Lecturer				
63	Pham Thi Thu Giang	Lecturer, Program Coordinator (Part-time), MAS	07/01/16 - at present	
64	Dao Thi Huong	Lecture (part-time), MEE	11/01/19 - 03/31/20	
Outsourcing				
65	Vu Thanh Tung	IT Officer (Outsourcing)	08/01/16 - at present	
66	Nguyen Ngoc Linh	Librarian (Outsourcing)	09/06/16 - at present	
67	Hoang Thi Thao	Librarian (Outsourcing)	12/06/16 - at present	
68	Security Guard (1)		06/01/16 - at present	
69	Security Guard (2)		06/01/16 - at present	
70	Cleaner (1)		06/01/16 - at present	
71	Cleaner (2)		06/01/16 - at present	

1. VJU Staffs	**65**
1) Permanent Staffs	***27***
(1) Rector Board	1
(2) Administration	7
(3) Academic	8
(4) Planning & Finance	3
(5) Program Assistant	8

2) Permanent Lecturers	***14***
3) Laboratory Staff	***1***
4) JICA Staffs	***3***
5) Part-time Staffs	***3***
6) Part-time Lecturers	***2***
7) Program Directors	***8***
8) Outsourcing	***7***

LIST OF PARTICIPANTS FOR TRAINING IN JAPAN

(as of 31 March, 2020)

No	Program	Training Name/ Main Training Place	Duration	Number of Participant	Name of Participant
<JFY 2015>					
1	HR	University Administration Management (Retsumeikan University)	Oct 25-Nov 5 2015	3	Nguyen Hoang Oanh Ho Nhu Hai Nguyen Hieiu
2	MEE	Lecturer Training (University of Tokyo/ Ritsumeikan University)	Feb 15-Mar 13 2016	3	Cao The Ha Nguyen Thi An Hang Vu Ngoc Duy
<JFY2016>					
1	MNT	Lecturer Training (Osaka University)	Jun 3-18 2016	1	Nguyen Hoang Nam
2	MIE	Lecturer Training (University of Tokyo)	Jun 5-18 2016	5	Dao Nhu Mai Luong Xuan Binh Dang Viet Duc Nguyen Dinh Duc Phan Le Binh
3	MPP	Lecturer Training (Tsukuba University)	Aug 3-9 2016	5	Nguyen Thuy Anh Nguyen Cam Nhung Tran Thi Thanh Thuy Dao Thanh Truong Vu Anh Dung
4	MBA	Lecturer Training (Yokohama National University)	Feb 7-17 2017	5	Vu Anh Dung Nguyen Thi Lien Nguyen Van Dinh Nham Phorg Tuan Tran Huy Phuong
<JFY 2017>					
1	JLE	Lecturer Training (Waseda University) * Budget by Counterpart Training in Japan	Jul 23-30, 2017	3	Tran Thi Minh Hoang Thu Trang Le Thi Minh Nguyet
2	MCCD	Lecturer Training (Ibaragi University) ** Budget by the Work Implementation Agreement	Sep 27-Oct 4, 2017	5	Mai Trong Nhuan Phan Van Tan Nguyen Thi Thu Ha Nguyen Tai Tue Nguyen Ngoc Huy
3	MNT	Joint Research & Lecturer Training (Tokyo Institute of Technology) (Kansei Gakuin University) * Budget by Counterpart Training in Japan	Oct 9-28, 2017 Nov 1-25, 2017 Oct 29-Nov 25, 2017	3	Pham Tien Thanh Nguyen Tran Thuat Bui Nguyen Quoc Trinh
4	MEE	Lecturer Training (Ritsumeikan University) * Budget by Counterpart Training in Japan	Nov 9-18, 2017	1	Nguyen Thi An Hang
5	MPP	Lecturer & Staff Training (University of Tsukuba) ** Budget by the Work Implementation Agreement	Dec 14-23, 2017 Dec 20-27, 2017	2	Vu Hoang Linh Pham Thi Thu Ha
6	MBA	Lecturer & Staff Training f (Yokohama National University) ** Budget by the Work Implementation Agreement	Jan 17-Feb 3, 2018 Jan 21-30, 2018	2	Tran Thi Bich Hanh Nguyen Thi Huong
<JFY2018>					
1	JLE	Lecturer Training (Waseda University)	Jul 8-14, 2018	1	Dr. Vuong Thi Bich Lien
<JFY2019>					
1	MCCD	Lecturer Training (Ibaraki University)	Oct 28-Nov 13, 2019	1	Dr. Nguyen Van Quang

Staff Training in the 3rd Countries (Singapore)

1	R&D Promotion Officer	System Thinking and Process Improvement	Nov 11-12, 2019	NTU, Singapore	Dr. Phung Thi Viet Bac
2	Program Assistant, MNT	System Thinking and Process Improvement	Nov 11-12, 2019	NTU, Singapore	Ms. Nguyen Thi Huong
3	Accountant	The Art of Managing People	Nov 27-28, 2019	NTU, Singapore	Ms. Nguyen Ngoc Huong
4	Cooperation and Development Officer	The Art of Managing People	Nov 27-28, 2019	NTU, Singapore	Mr. Dao Ngoc Manh
5	Human Resources Officer	The Art of Managing People	Nov 27-28, 2019	NTU, Singapore	Ms. Dinh Thu Phuong
6	Assistant to Chief Advisor	Business Writing Essentials	Jan 13-14, 2020	BC, Singapore	Ms. Nguyen To Nhu
7	Planning Officer	Business Writing Essentials	Jan 13-14, 2020	BC, Singapore	Ms. Vu Ngoc Van
8	Assistant to Project Coordinator	Business Writing Essentials	Jan 13-14, 2020	BC, Singapore	Ms. Pham Minh Trang

* NTU: Nanyang Technological University / BC: British Council

Lecture Training in Japan (paid by JICA Local Cost)

1	JLE	Lecturer Training (Waseda University)	December 10-17, 2020	1	Dr. Duon Thi Thuy

Tentative Plan of Operation

Version 0
Dated February 2015

Project Title: Project for the Establishment of the Master Programs of Vietnam-Japan University (VJU)

Inputs		Calendar Year: 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019 / 2020 (months 4 5 6 7 8 9 # # # 1 2 3 …); AY: 2014 / 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019	Remarks	Monitoring: Issue	Monitoring: Solution
Expert					
Chief Advisor/ Organization Management	Plan				
	Actual				
Coordinator/ Industry-academia collaboration	Plan				
	Actual				
Program Coordination 1 (Social Science)	Plan				
	Actual				
Program Coordination 2 (Natural Science)	Plan				
	Actual				
Program Development and Implementation 1 (Programs to be started in AY 2016)	Plan				
	Actual				
Program Development and Implementation 2 (Programs to be started in AY 2017)	Plan				
	Actual				
Equipment					
Equipment necessary for Master Programs to be set up in AY 2016 and 2017	Plan				
	Actual				
	Plan				
	Actual				
Training in Japan					
Short-term Training of Management Members and core teaching staff of VJU	Plan				
	Actual				
Short-term Training of Master Program Students	Plan				
	Actual				
In-country/Third country Training					
Short-term Training of Management Members and core teaching staff of VJU	Plan				
	Actual				
	Plan				
	Actual				
	Plan				
	Actual				

No.	Activities / Sub-Activities								Calendar Year: 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019 / 2020; AY: 2014 / 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019	Responsible Organization: Japan	Responsible Organization: GO●●	Achievements	Issue & Countermeasures
Output 1: Organization management if VJU is consolidated.													
1.1	To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts.		●					Plan / Actual					
1.2	To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU. <approved by Prime Minister>	●						Plan / Actual					
1.3	To appoint executive and recruit administrative staff.	●	●					Plan / Actual					
1.4	To formulate and update basic plan (Activity Plan, Financial Plan etc.).	●						Plan / Actual					
1.5	To improve capabilities of VJU human resources for University management.	●		●	●			Plan / Actual					
1.6	To improve the collaboration and network with international and local partners (Universities, Private companies).	●		●	●			Plan / Actual					
1.7	To formulate and update University Development Plan.	●	●	●	●			Plan / Actual					
Output 2: Master Programs of VJU are prepared.													
2.1	To implement field survey for curriculum development for all candidate programs.	●		●	●			Plan / Actual					
2.2	To secure classrooms and equipment necessary for Master Programs to be started in AY 2016 and 2017.		●	●	●			Plan / Actual					
2.3	To recruit and train teaching staff for Master Programs to be started in AY 2016 and 2017.		●	●	●			Plan / Actual					
2.4	To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master Programs.	●		●	●			Plan / Actual					
2.5	To develop curriculums and syllabuses of Master Programs to be started in AY 2016.							Plan / Actual					
2.5.1	To develop curriculums (consist of 1) programs outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master Programs to be started in AY 2016.			●	●	●		Plan / Actual					
2.5.2	To approve Master Programs to be started in AY 2016. <approved by VNU President>							Plan / Actual					
2.5.3	To develop detail syllabuses of Master Programs to be started in AY 2016.					●		Plan / Actual					
2.6	To develop curriculums and syllabuses of Master Programs to be started in AY 2017.							Plan / Actual					
2.6.1	To develop curriculums (consist of 1) programs outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master Programs to be started in AY 2017.			●	●		●	Plan / Actual					
2.6.2	To approve Master Programs to be started in AY 2017. <approved by VNU President>							Plan / Actual					
2.6.3	To develop detail syllabuses of Master Programs to be started in AY 2017.						●	Plan / Actual					
Output 3: Master Programs of VJU are implemented and Improved continuously.													
3.1	To do promotion activities for Master Programs to be started in AY 2016 and 2017.			●	●			Plan / Actual					
3.2	To recruit students for Master Programs to be started AY 2016.			●	●			Plan	for the 1st Batch; for the 2nd Batch; for the 3rd Batch; for the 4th Batch; for the 5th Batch				
								Actual					
3.3	To implement Master Programs to be started in AY 2016.					●		Plan	for the 1st Batch; for the 2nd Batch; for the 3rd Batch; for the 4th Batch				
								Actual					
3.4	To recruit students for Master Programs to be started AY 2017.			●	●			Plan	for the 1st Batch; for the 2nd Batch; for the 3rd Batch; for the 4th Batch				
								Actual					
3.5	To implement Master Programs to be started in AY 2017.						●	Plan	for the 1st Batch; for the 2nd Batch				
								Actual					
3.6	To monitor the state of implementation of Master Programs semi-annually.	●	●	●	●	●	●	Plan / Actual					
3.7	To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring.					●	●	Plan / Actual					
Duration / Phasing								Plan / Actual					

Monitoring Plan		Calendar Year: 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019 / 2020; AY: 2014 / 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019	Remarks	Issue	Solution
Monitoring					
Joint Monitoring/ Submission of Monitoring Sheet	Plan				
	Actual				
Joint Coordinating Committee/ Approving Annual PO	Plan				
	Actual				
Monitoring Mission from Japan	Plan				
	Actual				
Post Monitoring	Plan		1-3 years later after completing the project		
	Actual				
Reports/Documents					
Project Completion Report	Plan				
	Actual				
Public Relations					
Entrance Ceremony of Students for Master Programs (AY 2016)	Plan				
	Actual				
Graduation Ceremony of Students for Master Programs (AY 2016)	Plan				
	Actual				

Plan of Operation (Revised in February 2016)		Plan of Operation (Proposed in April 2016)	
Activities		**Activities**	
	Sub-Activities		**Sub-Activities**
Output 1: Organization management of VJU **Master Programs* is consolidated. ** ~~A~~ and Italic letters are: Suggested changes by the Project Team*		**Output 1: Organization and management system of VJU are consolidated.**	
1.1	To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts	1.1	To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts
1.2	To formulate the rules and regulations including organization structure for *the* management and operation of VJU*'s Master Programs.* ~~<Approved by Prime Minister>~~	1.2	To formulate the rules and regulations including organization structure for the management and operation of VJU's Master Programs.
	1.2.1 Formulating the organizational structure and rules of employment of the supporting staff of the VJU Management Board for the Project operation		*No change*
	1.2.2 Formulating the organizational structure and internal regulations for the management of VJU's Master Programs.		1.2.2 Getting Prime Minister's approval of the charter of VJU
	1.2.3. Revising the rules and regulations needed for the operation of VJU' s Master Programs		1.2.3. Adopting Logo/Emblems/Color as the symbol of VJU
			Moved from 1.2.2
			Moved from 1.2.3
1.3	To appoint Executives and recruit Administrative Staff *for managing the Master Programs*	1.3	To appoint Executives and recruit Administrative Staff for managing the Master Programs
	1.3.1 Appointing the Director and Vice Directors, and staff of the VJU Management Board.		*No change*
	1.3.2 Employment of the Administrative Staff to support the Project within the Management Board.		*No change*
	1.3.3 Appointing Executives for managing the Master Programs of VJU according to the approved organizational structure.		*No change*
	1.3.4 Employment of the administrative staff for operating VJU' s Master Programs		*No change*
1.4	To formulate and update *the* basic plan (Activity Plan, Financial Plan, etc.) **of the Project*	1.4	Formulating and updating the Financial Plans for Master Programs during the TC Project.
	1.4.1 Breakdown the activities and modify the Plan of Operation.		*Deleted, because this activity is a part of JICA's project operation, and not related to VJU itself.*
	1.4.2 Re-write the Project Design Matrix and the Plan of Operation.		*Deleted, because this activity is a part of JICA's project operation, and not related to VJU itself.*
	1.4.3 Formulating and updating the Financial Plans for Master Programs during the TC Project.		*Moved to 1.4*
1.5	To improve *the* capabilities of VJU human resources for University management	1.5	To improve *the* capabilities of VJU human resources for University management
	1.5.1 Studying in the other universities.		1.5.1 Studying in the other universities. (ex. Training in Japan, Study tour in Vietnam)
	1.5.2 Organizing workshops, in-country training for the administration staff.		*No change*
	1.5.3 Training of management and administration in Japan		*No change*
	1.5.4 Evaluation of the administrative employees.		*No change*
1.6	To improve the collaboration and network with international and local partners (universities, private companies)	1.6	To improve the collaboration and network with international and local partners (universities, private companies)
	1.6.1 Networking and developing collaboration with the other universities.		1.6.1 Networking and developing collaboration with the other universities, including joint research
	1.6.2 Networking and developing collaboration with private companies.		*No change*
~~1.7~~ **4.**	**To formulate and update University Development Plan** (**To be transformed as Output 4* .)	**4.**	**Deleted (Output 4 is not necessary.)**
	~~1.7~~4.1 Drafting the Charter of VJU. <Prime Minister's Approval>		*Moved to 1.2.2*
	~~1.7~~4.2 Adopting Logo/Emblems/Color as the symbol of VJU..		*Moved to 1.2.3*
	~~1.7~~4.3 Planning VJU development at Hoa Lac Campus.		*Deleted, because this activity is conducted by the pre-F/S team.*
	~~1.7.~~4.4 Formulating the Financial Plan for VJU.		*Deleted, because this activity is conducted by the pre-F/S team.*
	~~1.7~~4.5 Employment of Executives and administration staff for further development of VJU.		*Deleted, because this activity is outside of the scope of TC project.*
	1.7.6. Developing Research programs of VJU.		*Moved to 1.6.1*

Output 2: Master programs of VJU are prepared.	
2.1	To implement field survey for curriculum development for all candidate programs
2.2	To secure classrooms and equipment necessary for Master programs to be started in AY 2016 and 2017
	2.2.1 Finding a suitable place for the temporary campus for Master Programs.
	2.2.2 Contracting for rent of the temporary campus.
	2.2.3 Developing the principle and design of the My Dinh Campus for operating Master Programs.
	2.2.4 Renovating the rented place as the My Dinh (temporary) Campus of VJU for Master Programs.
	2.2.5 Procure equipment and books needed for VJU Master Programs.
	2.2.6 Transferring to and activating the operations at the My Dinh Campus.
	2.2.7 Reviewing and modifying the use of facilities of the My Dinh Campus for better operation of Master Programs.
2.3	To recruit and train the teaching staff for the Master programs to be started in AY 2016 and 2017
	2.3.1 Developing the rules and regulations for recruiting and training the teaching staff.
	2.3.2 Recruiting Japanese lecturers.
	2.3.3 Recruiting Vietnamese lecturers.
	2.3.4 Training of Vietnamese lecturers in Japan.
	2.3.5. Evaluation & assessment of lecturers
2.4	To develop an admission plan (target, selection criteria) for the students of the Master programs
	2.4.1 Developing the schedule and guidelines of admission.
	2.4.2 Developing the set of application forms..
	2.4.3 Developing the admission/selection criteria.
	2.4.4 Revision of the admission/selection criteria.
2.5	To develop the curriculums and syllabuses of the Master programs to be started in AY 2016
	2.5.1 To develop curriculums consisting of 1) programs outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome of the Master programs to be started in AY 2016
	2.5.2 To approve the Master programs to be started in AY 2016 <Approved by VNU President>
	2.5.3 To develop the detailed syllabuses and teaching materials of the Master programs to be started in AY 2016
	2.5.4 To revise the detailed syllabuses and teaching materials of the Master programs to be started in AY 2016
2.6	To develop the curriculums and syllabuses of the Master programs to be started in AY 2017
	2.6.1 To develop curriculums (consist of 1) program outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master programs to be started in AY 2017
	2.6.2 To approve the Master programs to be started in AY 2017 <Approved by VNU President or the VJU Rector>
	2.6.3 To develop detailed syllabuses of Master programs to be started in AY 2017
	2.6.4 To revise detailed syllabuses of Master programs to be started in AY 2017 and after

Output 2: Master programs of VJU are prepared.
No change

Output 3: Master programs of VJU are implemented and improved.		
	3.1	To ~~do~~ *conduct* promotion activities for *the* Master programs to be started in AY 2016 and AY 2017: .
		3.1.1 Promoting the Master Programs through mass-media including Web, SNS and pamphlets.
		3.1.2 Promoting the Master Programs through exhibition, seminars, visits, etc.
	3.2	To recruit students for the Master programs to be started in AY 2016
		3.2.1 Recruiting information including admission guidelines, application forms, etc. through VJU' s Website.
		3.2.2 Accepting applications and making the database.
		3.2.3 Selecting acceptable students and announcing admission.
		3.2.4 Following up the admitted students.
	3.3	To implement Master programs to be started in AY 2016
	3.4	To recruit students for Master programs to be started in AY 2017
	3.5	To implement Master programs to be started in AY 2017
	3.6	To monitor the state of implementation of Master programs semi-annually
	3.7	To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring

Output 3: Master programs of VJU are implemented and improved.		
	3.1	*No change*
	3.2	
	3.3	
	3.4	
	3.5	
	3.6	
	3.7	
	3.8	To conduct trans-program activities (New Activity)
		3.8.1 Implementing Japanese Language Education
		3.8.2 Implementing other trans-program activites (ex. Seminar, Workshop)

【日越大学メールマガジン Vol.11 2018 年 4 月号】

お知らせ

2018 年 3 月号までは、（独）国際協力機構（JICA）東南アジア・大洋州部内日越大学構想・国内支援事務局において、皆様に本メールマガジンの配信をおこなってまいりましたが、今月号より、毎月最終週金曜日に、日越大学・日越大学修士課程設立プログラムから直接、皆様に配信することになりました。つきましては、配信元の変更に伴い、この機会に配信の中止をご希望の方は、恐れ入りますが、mail.magazine@vju.ac.vn （担当：石田、浅田）までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に 1 期生、２期生合わせて、約 150 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理（MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE))の各専攻プログラムを勉強しています。また、2018 年 9 月には、気候変動・開発(MCCD)が新たなプログラムとして開講予定です。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

2018 年第一次入学試験速報

3 月下旬に第一回の入試が実施されました。志願者数・合格者数は次のとおりです。

	志願者	合格者	うち外国人
地域研究	12	8	1
公共政策	6	5	
企業管理	11	7	1
環境技術	7	5	
ナノテク	5	3	
社会基盤	5	4	1
気候変動	17	12	3
合　計	63	44	6

2018 年度より新設される気候変動・開発プログラムには多くの志願者が集まりました。
また、外国人の合格者は、中国 1、ナイジェリア 3、ギニア 2 です。

会社説明会、採用面接の最新動向

本学では、学生のキャリアを支援するため、在越日系企業による会社説明会や採用面接会を精力的に実施しています。

次期フェーズ分科会開催

4 月 10 日（火）に JICA 本部において、「第 8 回日越大学構想推進に関する次期フェーズ分科会が開催されました。
本分科会では、古田元夫日越大学学長から現状報告、日越大学中期発展戦略骨子及び学部設置構想の説明がおこなわれ、その後、各委員から有意義且つ戦略的な意見を頂きました。

就職セミナー開催

4 月 16 日、日本での就職希望学生を対象に、就職対策講座を開催しました。講師には、日本でのベトナム人留学生の就職支援活動で実績のある NPO 法人 MPKEN にきていただき、日本とベトナムの就職観の違い、就職活動の進め方、日本の履歴書の書き方、自己 PR の作り方などについて教えていただきました。当日は、日本で働きたい日越大学の学生 15 名が参加し、活発な意見交換が行われました。

ファンケル宮島前社長による特別講演

4 月 13 日、株式会社ファンケル取締役副会長執行役員宮島和美氏による特別講義「ファンケルの事業展開」が行われました。
特別講義は、ファンケル社の概要説明後、当社事業スタートのきっかけとご苦労へと話が進み、その中での、当社創業者池森賢二氏の無添加食品、健康食品への信念と苦労のお話しは、学生、教職員共に、緊張感を醸し出すほど、引き込まれる内容でした。
特別講義の中で引用された創業者池森賢二氏のお言葉を紹介します。
「真似をしない美学」、「ひとつの事業は永遠ではない」、「職業をもつことで人間は成長する」
これらは、単にファンケル社の経営理念等としてではなく、社会に出てから働いていくうえでの心構えの一つとして、学生の印象に残ったものと思料致します。

研究教育評議会の開催

4 月 24 日（火）に研究教育評議会が開催されました。当日は、日本の委員の大部分は TV 会議システムを繋いで参加いただきました。古田学長から、1 期生の就職状況及び 3 期生の入学状況の説明があり、また、中期発展戦略骨子、一部学部の早期開設に関する説明が行われ、日越の各委員から非常に有意義なコメントを頂きました。今後、日越大学では、頂いたコメンを基に、更に戦略的且つ実現可能なロードマップの作成をおこなっていく予定です。

山口専門家の書籍紹介

講談社が主催する、第４回「決戦！」小説大賞に、プログラム調整専門家として日越大学に勤務する山口昌志氏の「光秀の友――吉田兼和」が選ばれました。本能寺の変前後における、公家で神道家である吉田兼和と明智光秀との交流を主軸とした歴史小説で、『小説現代２０１８年４月号』誌上に掲載されています（電子版もあります）。
山口氏は今後、ベトナムの社会や歴史を学んだ後、大航海時代における日本とベトナムを舞台にした歴史小説も書きたいとしています。

2　日越大学で働く専門家の紹介

【第 10 回：　粟飯原志宣専門家、松浪千春専門家（日本語教育プログラム)】

ベトナム・ハノイの日越大学で働く方々を紹介するコーナー。今月は、粟飯原志宣専門家、松浪千春専門家（日本語教育プログラム）をご紹介します。

＜粟飯原志宣専門家＞

粟飯原専門家は香港大学専修専業学院プログラムマネジャー、早稲田大学の常勤日本語インストラクターを経て、日本語教育プログラムの現地運営ならびに日本語講師として、2016 年 6 月に着任されました。修士の立ち上げ経験は３回目、学部の立ち上げも２回目になるそうです。専門はビジネス日本語教育で、ビジネス日本語教育研究会の副代表幹事を務めています。ベトナムの日本語教育の質の向上に貢献した

いと思いつつ、VJU の業務に追われ、なかなかベトナムの日本語教育の質の向上に使える時間がないと悩んでおられます。昨年 2017 年末に、本プログラムのダイレクターである宮崎教授の編著「グローバル化と言語政策」という本の第 11 章を VJU の名前で書かれました。多くの方に読まれ、VJU の名前も有名になって欲しいとのことでした。

＜松浪千春専門家＞

松浪専門家はこれまで国内外の様々な教育機関で日本語教師をされてきました。青年海外協力隊としてモンゴルの大学に赴任した後，日本国内の日本語教育機関において大学，大学院への進学希望者を対象とした日本語予備教育，在日米軍基地での海軍を対象とした日本語教育，日本企業における外国籍社員対象の法人日本語研修に携わり，ロシア極東連邦大学，早稲田大学日本語教育センター経て，2017 年 5 月に着任されました。日本語教師の成長，日本語教師の専門性といったテーマの研究をされていますが，日越大学では，学生がいかに自律的に日本語を学習していけるか，どのような支援が可能なのか，日々奮闘しているとのことです。

3 プログラム紹介

【第 8 回 日本語教育プログラム】

日本語教育は、日越大学修士プログラムの必修科目となっており、入学後の３セメスター期間中に履修する３コースで構成されています。日本語プログラムは、そのカリキュラムの作成及び講義の実施を担い、日本の文化、習慣、教育についてのさらなる理解と、２年次に実施される日本におけるインターンシッププログラムのサポートを充実させるため、正規履修科目以外にも、各種補講を始め、遠隔による日本人学生との交流や、「にほんごカフェ」といった日本人と接する課外活動、また様々な機関が主宰する日本語に関わるイベント情報の提供・参加のサポート、日系企業の就職を見据えたビジネスマナー紹介などを提供しています。

4 メディア情報

昨年 10～12 月の 3 か月間、日越大学でインターンとして活動していた立命館大学政策科学部の高池遼さんが日越大学を紹介する記事を書きました。日越大学の学生生活など、生の情報を日本人学生の目線から分かりやすく紹介されています。

http://asenavi.com/archives/18528

5 5 月の主な予定、行事

- 5 月中旬： 石崎幸三長岡科学技術大学名誉教授・学長アドバイザー特別講演
- 5 月 15 日：第 3 回 JCC (Joint Coordinating Committee)会議

■□■

【お問合せ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会　石田、浅田
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://admission.vju.ac.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts

日越大学 Facebook（日本語）　https://www.facebook.com/jicavju/

JICA HP　https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会にメール等にてご連絡をお願いいたします。

【日越大学メールマガジン Vol.12 2018 年 5 月号】

お知らせ

2018 年 3 月号までは、（独）国際協力機構（JICA）東南アジア・大洋州部内日越大学構想・国内支援事務局において、皆様に本メールマガジンの配信をおこなってまいりましたが、4 月より、毎月最終週金曜日に、日越大学・日越大学修士課程設立プログラムから直接、皆様に配信することになりました。
つきましては、配信元の変更に伴い、この機会に配信の中止をご希望の方は、恐れ入りますが、mail.magazine@vju.ac.vn （担当：石田、浅田）までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に 1 期生、２期生合わせて、約 150 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究（MAS)、企業管理（MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE))の各専攻プログラムを勉強しています。
また、2018 年 9 月には、気候変動・開発(MCCD)が新たなプログラムとして開講予定です。

【今月のトピックス】

1 日越大学ニュース

2018 年 9 月入学第 3 期生募集中

日越大学では、2018 年 9 月に入学する第 3 期生を募集しています。海外からの留学生、特に日本人学生を積極的に募集していますので、ご関心のある方はこの機会にぜひ応募をご検討ください。
募集情報ページ　http://admission.vju.ac.vn/
日越大学では、6 月～7 月中旬にかけて隔週で大学説明会をおこなう予定です。詳細な情報は、日越大学 Facebook ページに掲載いたしますので、ご関心ある方はぜひチェックしてみてください。
https://www.facebook.com/VietnamJapanUniversity/

第 1 期生が就職活動を開始しました

2016 年 9 月に入学をした第 1 期生が今年 7 月に卒業します。第 1 期生のうち 7 割以上の学生が日系企業への就職を希望しており、日越大学では日系企業と学生のマッチング支援を進めています。日越大学学生の採用にご関心のある企業は、以下の連絡先までご連絡ください。
日越大学就職支援課　（担当：田中／浅田）
TEL：(+84) 247-306-6001（内線 5094）　Email：phongdaotao@st.vju.ac.vn

武部新環境大臣政務官来学

5 月 2 日（水）に武部新環境大臣政務官が来学され、Dung 副学長、Oanh 副学長からそれぞれ日越大学の概要について説明しました。
武部新環境大臣政務官からは、本学で 9 月から開講予定の気候変動・開発（MCCD)プログラムがベトナムにおける先駆的な役割を担うことを期待しており、また、今後、環境省として、日越大学と科学的知見の共有、人材育成等について議論していくと共に、事業成果についても協力を進めていきたいと考えている旨のお話を頂きました。その後、環境工学プログラムで実施していた二酸化炭素排出量の削減に

関する講義を見学されました。

日越大学 HP(英語)：https://goo.gl/LBTZRx

岸田文雄自由民主党政調会長来学

5月5日（土）に岸田文雄自由民主党政調会長及び3名の国会議員が来学されました。
古田学長から日越大学の概要、学部設立計画、課題等の説明の後、日越大学が抱えている課題に対する対策や日越大学の将来構想について意見交換をおこなわれました。キャンパス内を視察し、公共政策プログラムの講義を見学され、学生との意見交換も行われました。学生がベトナムのお土産を手渡すという嬉しいハプニングもありましたが、終始和やかな雰囲気での視察となりました。
在ベトナム日本国大使館 HP：
http://www.vn.emb-japan.go.jp/itpr_ja/Kishidafumiodaijinniyorunichietsudaigakuhoumon.html

日越大学の学生が日本語フェスティバル（主催：国際交流基金）で優勝しました。

5月20日、国際交流基金が主催した「日本語フェスティバル2018」が日越45周年事業として開催されました。「日本に伝えたい、ベトナムの魅力」をテーマとした日本語スピーチ部門には、予選を勝ち抜いた１０名が参加し、非常にレベルの高い発表が行われた結果、見事、日越大学の地域研究プログラムに所属する Hoang Thi Cham さんが優勝を勝ち取りました。優勝した Cham さんのスピーチは、「ベトナムの生活リズム」と題して、小松みゆきさんの著書を原作とする映画「ベトナムの風に吹かれて」のストーリーを取り上げながら、ベトナムの穏やかな生活のリズム、助け合いの精神や思いやりの心が、認知症をわずらっていた主人公の母親の回復につながった、という内容で、Cham さん独自の発想や分析が審査員から高く評価されました。

ビジネスマナー講座の実施

日本語教育プログラムでは、今期から日本のビジネス・マナーの紹介講座を実施しています。日系企業あるいは日本での就職を考える学生のみならず、VJU に勤めるスタッフ全員も参加しています。全５回のうち、これまで３回実施しました。日常のマナーから始まり、「会食時・車両に乗るときの席次」や「仕事を行う際の時間感覚」「報・連・相談」等の日本のビジネスマナーについて紹介しています。講座はクイズ形式で、地域研究の学生の日越通訳や、学務の田中専門家による模範演技のおかげで、インタラクティブで、笑いが絶えない講座になっています。実は、学生よりも VJU のスタッフからの評価が高いのは、VJU で日本人と働くのがいかに大変であるのかを示唆しているのかもしれません。

VJU サマープログラム 2018 募集開始

昨年初めて開催し、好評をいただいたサマープログラムを、今年も開催することになりました。
今年は、昨年より期間を延ばし、8月19日（日）から29日（水）の間、ハノイと近郊で開催します。
日越大学でのベトナム語やベトナム文化についての講義、学生との交流、ハノイ市内の見学や、２つの世界遺産：ハロン湾とニンビン省（チャンアン複合景観）への訪問等々、日越大学ならではの盛りだくさんな内容を予定しています。
募集人数は25名で、申込み締切は７月１日です。多くの日本人学生の参加をお待ちしています。
問い合わせ：summerprogram@vju.ac.vn

JCC (Joint Coordinating Committee)会議開催

5 月 15 日（火）に日越大学を支援している JICA 技術協力プロジェクトの活動、評価、進捗状況をベトナム国家大学ハノイ校(VNU-HN)に報告する合同調整委員会(Joint Coordinating Committee)を開催しました。
古田日越大学学長、Dung 副学長、Oanh 副学長及び米田チーフアドバイザーからそれぞれ Hai 副総長に対して報告をおこないました。VNU-HN 幹部職員、在ベトナム日本大使館、JICA ベトナム事務所からは、これまでのプロジェクトの成果が高く評価され、残り約 2 年間のプロジェクト実施に関する、貴重且つ有意義なコメント、助言を頂きました。

幹事大学会議の開催

5 月 23 日 JICA 本部にて、日越大学を支援する 7 つの日本の大学で構成する幹事大学会議が開催されました。日越大学への日本側の支援は、今年で 3 年目に入りました。会議では、今後の日越大学の持続可能な発展を目指して、ベトナム人教員の採用と育成、日越大学の知名度向上のための第 1 期生の就職率の向上などについて、活発な協議が行われました。

2 日越大学職員の紹介

今月号では、日越大学の Vu Anh Dung（ヴー・アイン・ズン）副学長をご紹介いたします。
ズン副学長は、国際企業管理分野で、アメリカのウェブスター大学において修士号（MBA）を取得し、国際オペレーション・マネジメント分野で、ケンブリッジ大学博士号を取得しました。
日越大学設置プロジェクトに当初から参画しており、2014 年にベトナムの首相（グエン・タン・ズン首相・当時）によって、ベトナム国家大学ハノイ校の傘下大学として日越大学の設置が承認された後、6 つの修士課程プログラムの設置及び発展に尽力してきました。
また、現在は日越大学における経営管理を担当しており、日越大学の人事、会計、将来のホア・ラックキャンパス移転に向けての調整業務を統括し、企業連携や広報、人文社会分野での研究等、幅広い分野で古田学長を支えています。
日越大学に勤務する前は、同じくベトナム国家大学ハノイ校の傘下大学である、経済・経営大学（University of Economics and Business）の副学長として、教育や研究、大学の質保証、企業連携、学術雑誌の発行等を担当していました。
「自分の情熱や努力、経験が、この日越大学プロジェクトの発展に貢献し、アジアにおける国際的な大学としての地位を築き、ベトナムと日本の友好関係を象徴する架け橋となることを期待しています」とのコメントをズン副学長から頂きました。

3 今後の主な予定、行事

- 7 月 20 日（金）　第 3 回日越大学理事会
- 7 月 21 日（土）　第 1 回日越大学卒業式
- 7 月 21 日（土）　リベラルアーツセミナー
  （場所：ハノイ市コンツム講堂　19 Lê Thánh Tông 通り）

■□■

【お問合せ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会　石田、浅田

Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://admission.vju.ac.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会にメール等にてご連絡をお願いいたします。

【日越大学メールマガジン Vol.13 2018 年 6 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に 1 期生、２期生合わせて、約 150 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理（MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE))の各専攻プログラムを勉強しています。また、2018 年 9 月には、気候変動・開発(MCCD)が新たなプログラムとして開講予定です。

【今月のトピックス】

1 日越大学ニュース

日越大学有識者会議大学院分科会開催

5 月 28 日（月）、日越大学構想の推進に関する有識者会議に属する大学院分科会が開催されました。永田恭介筑波大学学長、モンテ・カセム大学院大学至善館学長、内田勝一早稲田大学参与が参加され、日越大学大学院と来年 9 月に開講を予定している 4 年制の学部について活発な議論が行われました。本会議で得られた意見は、7 月に開催される第 3 回日越大学理事会に議題として挙げられる予定です。

日越大学文系学部カリキュラム・シラバス検討調査団派遣

日越大学では学部開設に向けた検討が進められています。今回その一環として、6 月 25 日、26 日の両日、日本の大学教員で構成された調査団が来越し、日越大学タスクフォースメンバーと学際社会科学プログラムのカリキュラムについて意見交換を行いました。2 日間の充実且つ闊達な討議を通じて、魅力的なプログラム作りに向けて一歩前進することができました。

社会基盤(MIE))プログラムフィリールドトリップ実施

6 月 7 日～9 日の日程で、教員 6 名（本邦からの来訪教員も含む)、スタッフ 1 名及び 2 期生 13 名の計 21 名がホーチミン市地域におけるインフラ事業（ビンキャン橋、都市鉄道 1 号線のトンネル、カイメップコンテナ港、ビルの基礎工事等）を視察しました。
日本企業によって施工された技術を直接視察できたことに加え、現場がしっかりと整理整頓されていること、十分な安全対策がとられていること等の点について、学生は大変強い印象を受けたようです。また、ホーチミン市のグエン・タット・タイン大学の教員、学生も本視察に合流し、本学学生との交流を行うと共に、同大学で学生募集セミナーも実施しました。同大学の指導層からの強いコミットメント（同大学の教員が VJU において修士号を取得する場合は 2 年間の給与の維持、生活費の支給。また学生が取得する場合は卒業後に教員として採用する）を頂き、今後、VJU への応募者数が増加する確かな手ごたえを感じました。

ミャンマーでの学生募集説明会実施（6 月 16 日、17 日）

日越大学は初めてとなる海外での学生募集説明会をミャンマーにて実施しました。ヤンゴン市、マンダレー市の 2 箇所にて、約 50 名の学生と学生の両親が参加しました。ミャンマーでは外資系の教育機関が教育プログラムを展開し始めていますが、一般に学費が高く品質が低いという問題を抱えています。日越大学の教育モデルと品質の高さはミャンマーの方々には魅力的に映ったようで、早速ミャンマーからの問い合わせが日越大学に寄せられています。

ベトナム日本商工会議所(JCCI)にて日本企業向けの第 1 期生の就職状況報告

3 月のベトナム日本商工会議所商工会理事会での報告に続き、7 月の卒業を直前にした現在の進捗状況を参加した日系企業会員に報告しました。日越大学の第 1 期生は、日本本社採用の内定を獲得した学生のほか、日本の大学に博士留学する学生もおり、今後の活躍が期待されます。

7 月 21 日（土）リベラルアーツセミナー開催

日越大学が教育理念のひとつに掲げるリベラルアーツを主題にしたアカデミックセミナーを開催いたします。日本からは、プレゼンターとして早稲田大学参与の内田勝一氏、総評として相澤益男氏（国立研究開発法人科学技術振興機構顧問)、モンテ・カセム氏（大学院大学至善館学長)、武内和彦氏（日本学術会議副会長）が参加いたします。

- 日時：7 月 21 日（土）9:00-12:00　場所：ハノイ市コンツム講堂（19 Le Thanh Tong 通り）

日越大学教職員募集中

日越大学では、日越大学では、常勤教員を募集しております。文系・理系合わせて 9 つのポジションで採用を予定しております。ハノイで日越大学とともに新しい教育を実践したいという意欲のある方の応募をお待ちしております。

- ✓ 募集ページ：http://vju.vnu.edu.vn/en/recruitment/all-jobs

また、JICA では日越大学の技術協力専門家として勤務する学務担当者を募集しております。応募締め切りが 7 月 4 日（水）とせまっていますが、大学職員経験をお持ちの方のご応募をお待ちしております。

- ✓ 募集ページ：http://partner.jica.go.jp/RecruitDetailSubscription?id=a0L7F000009gzqQUAQ

2 日越大学職員の紹介

今月号では、日越大学の Nguyen Hoang Oanh 副学長をご紹介いたします。
オアイン副学長は、日越大学の公共政策プログラムの幹事大学でもある筑波大学の数理物質科学研究科物理学専攻において、修士・博士課程を修了しました。
そのため、日越大学きっての親日家であり、日本語、日本の文化習慣にも精通しているため、日越大学の日本人専門家のみならず、本邦関係者からも信頼を得ています。
日越大学では、教育・学生支援、R&D 及び社会連携担当の副学長として、8 プログラム（地域研究、企業管理、公共政策、ナノテクノロジー技術、社会基盤、環境技術、気候変動及び開発、日本語教育）の日越双方のプログラムディレクターと連携を図り、また、古田学長、中島学長補佐とタッグを組み、大学のマネジメントの一翼を担っています。更に、ベトナム国家大学ハノイ校(VNU)のグエン・キム・ソン総長、ハイ副総長及び関係が深い国際部、人事部、財務部等の幹部とも太いパイプがあり、VNU と日越大学との関係構築強化のために大きな貢献をしています。
また、オアイン副学長の人柄ゆえ、一緒に働いている職員、JICA 専門家からも尊敬、信頼を得ており、職員との会議、外部関係大学との打合せ等々で多忙な毎日を送る中でも、不定期ながら、専門家、スタッフとの飲みニケーションを自ら率先して行うなど、日越大学（VJU）のスローガンでもある、“One VJU”の達成に向け、精神的な面からも大きな役割を果たしています。

3 今後の主な予定、行事

- 7 月 6 日（金）　　学生募集説明会（場所：日越大学ミーディンキャンパス４階）

- 7 月 20 日（金）　　第 3 回日越大学理事会
- 7 月 21 日（土）　　第 1 回日越大学卒業式、リベラルアーツセミナー
- 8 月 19 日～29 日　サマープログラム
- 8 月 27 日　　　　45 周年記念特別セミナー（場所：日越大学ミーディンキャンパス４階）
- 9 月上旬　　　　　第 3 回入学式

■□■

【お問合せ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会　石田、浅田
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://admission.vju.ac.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】
本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn （担当：石田、浅田）までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.14 2018 年 7 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に 1 期生、２期生合わせて、約 150 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理（MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE))の各専攻プログラムを勉強しています。また、2018 年 9 月には、気候変動・開発(MCCD)が新たなプログラムとして開講予定です。

【今月のトピックス】

1 日越大学ニュース

第 3 回理事会の開催

7 月 20 日（金）第 3 回日越大学理事会が 19 名（2 名のテレビ会議出席を含む）の理事の出席を得て開催されました。
理事会では、①日越大学の 2025 年までの発展戦略、2035 年の展望および 2018 年～2030 年財務計画について、②2019 年開講予定の日本学学部プログラムの構想に関して、③2018 年サステナビリティ学研究院開設構想に関して、の 3 つの議題について真剣な議論が繰り広げられました。
各理事の方々から頂戴した貴重なご助言、ご提案は、今後の日越大学の運営の参考にさせて頂き、日本とベトナムの友好の象徴となる大学として、更に前進していく所存ですので、引き続きご支援の程宜しくお願いします。

第 1 回卒業式の開催

日越大学の第 1 回目となる学位記授与式が、7 月 21 日（土）開催されました。日越大学で 2 年間の修士課程を修了した 56 名の第 1 期生が、日越大学の古田元夫学長から学位記を授与されました。
当日は、来賓として、武部勤氏（日本ベトナム友好議員連盟特別顧問、日越大学理事）、梅田邦夫氏（在ベトナム日本国大使館特命全権大使、日越大学理事）、内田勝一氏（早稲田大学参与、日越大学副理事長）、To Huy Rua 氏（ベトナム日本友好協会会長、日越大学名誉学長）、Nguyen Kim Son 氏（ベトナム国家大学ハノイ校総長、日越大学理事長）をはじめ、日本の大学関係者、ベトナムに拠点を有する日本企業など各界のリーダーが多く出席しました。
古田日越大学学長は祝辞にて、卒業生に対し、今後、持続可能な発展を推進する上では、人間と自然、短期的な目標と長期的な目標、過去と未来、個人の利益と社会の利益の均衡を求めることが重要であると言及しました。

また、日越大学は、日本とベトナム両国の友好関係のシンボルであり、卒業生はその象徴として、卒業後も、日本とベトナム双方の文化的価値と精神を体現する模範となるよう激励しました。第 1 期生として卒業する学生の中には、日本企業の本社に採用が内定している学生や、日本の大学に博士課程への留学が決定している学生が多くおり、今年の 9 月頃から日本に渡りそれぞれの道を進み始めます。また、ベトナム国内の日系企業に就職した学生も多く、今後の日越関係の架け橋として、産業界・学術界で活躍することがおおいに期待されています。

https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20180723-00000007-nna_kyodo-asia

リベラルアーツセミナーの開催

7 月 21 日、日越大学が教育理念の一つに掲げるリベラルアーツを主題にしたアカデミックセミナーを開催いたしました。

日本からは、プレゼンターとして早稲田大学名誉教授の内田勝一氏、総評として相澤益男氏（国立研究開発法人科学技術振興機構顧問）、モンテ・カセム氏（学校法人至善館学長）、武内和彦氏（日本学術会議副会長）が参加しました。日本・ベトナム・ヨーロッパにおける、それぞれ地域のリベラルアーツ教育について意見交換をすることで、日越大学がベトナムでつくる新たな教養教育の方向性を展望することができたイベントとなりました。

2　第 1 期生を振り返って～

7 月 21 日に日越大学大学院第 1 期生 56 名が卒業式を迎え、それぞれの卒業生が新たな道へと巣立っていきました。

思い起こせば、2 年前の 2016 年 9 月 9 日、当地ベトナム・ハノイに日本とベトナム両政府の支援と大きな期待を受けて開学した日越大学大学院に、希望と不安を抱え、69 名の第 1 期生が本学に入学しました。

新設の大学院ということで、色々な面で未整備な状況の中、学生たちは、夜遅くまで自習室や図書室で勉強に打ち込んだり、日越双方の講師陣とお酒を飲みながら議論に明け暮れたりと、学生なりに一生懸命頑張っていた姿が走馬灯のように駆け巡っています。また日越から多くの見学者、訪問者、スタディーツアーの学生等々が来訪して頂いた中で、来訪者の一部の方々に、特別講師として学生に有益なセミナーを講義した頂いたこともあり、1 期生の学生にとっては貴重な時間を共有できたと思います。
そこで、第 1 期生に寄り添い、この 2 年間を過ごしてきた JICA 専門家の教員陣にこの 2 年間を振り返って頂きます。

（中島淳日越大学学長特別補佐）
共通科目の Basic Sustainability Science をはじめ、文系理系が一緒に学ぶ初めての体験に戸惑いもみられましたが、6 プログラムの学生が同じテーブルで違った立場からディベートを深めたり、その結果を役割分担してプレゼンしたり、VJU ならではの成長の姿がみられました。日本語学習での発表やサマースクールなどのイベントへの協力でも、プログラムを超えた強いつながりがみられたと思います。彼ら彼女らが、ベトナムの未来を創り出してゆくことと期待します。

地域研究プログラム

中臣専門家
ベトナム研究 1 期生 4 人の名を漢字で書くと燕鳳装秋となります。私はこの四人組と緒に『ベトナムの経営管理』について学びましたが、燕さんがフランチャイズ制のカフェ、鳳さんが航空会社、装さんが銀行、秋さんが食品会社を取り上げて書いたレポートはいずれも見事な出来栄えで、私はそこから多くのことを学ぶことができました。それから 1 年後、燕さんはベトナムに進出した日本企業の文化的変質、鳳さんは村落の文化空間、装さんは日本に私費留学するベトナム人学生、秋さんはベトナムのフェイスブック文化をテーマに、それぞれが読み応えのある修士論文に仕上げてくれたが、これらの論文を読み返しながら、彼女たちの 2 年間が文字通り「持続的成長」の 2 年間だったことを改めて実感しています。

伊藤専門家
MAS 日越研究第 1 期生 8 名が巣立っていきました。着任以後、学生等と共に泣き笑いの一年半でした。特に印象深いのは、修士論文提出間際にもかかわらず、何の音沙汰もない学生たちの態度に怒りの鉄槌を下したところ、翌日、反省文と蓮の花が届けられたことでしょうか。今となっては良い思い出です。今後は、彼ら自身が VJU 育ちの「花」として、その個性を生かしながら、日越社会を飛び越えた国際社会に豊かな彩を添えていってほしいと思います。最後になりましたが、先生方、スタッフの皆さま、これまで見守って下さり、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

企業管理プログラム

日野専門家
1 期生ということもあり、MBA の学生は様々企業を訪問する機会、著名な方とお会いする機会が数多くありました。どの場面においても、MBA の学生の学習意欲、積極性、団結力や社交性などを高く評価して頂くことが多く、彼らが MBA の 1 期生であることを心より誇りに思っておりました。
最初の学年としての日越大学での勉強は非常に多くの困難もあったと思いまが、横浜国立大学をはじめとする多くの方の多大なご助力もあり、彼らは無事に日越大学を卒業することができました。今後はそれぞれの将来の夢に向かって歩み始めることになります。この日越大学での 2 年間の経験を糧に、将来の夢に向かって MBA の卒業生が着実に進んでいかれますことをご期待申し上げます。

公共政策プログラム

桂専門家

学生も教員スタッフも必死の２年間でしたが、１名以外、全員修士論文を執筆できたことはなりよりでした。また、1 名を除くすべての学生がそれぞれ就職・進学先が決まったことも良かったと考えています。本学での教育を通じて、振る舞い、姿勢において、大きな人間的な成長があったことが成果のひとつです。他方、色々と反省すべき点は多々ありますが、特に教員の益々の力量の充実が課題と考えます。

最後に卒業生へ、大きな「ゆめ」「ゆとり」「ゆうき」を！！

社会基盤プログラム

Phan Le Binh 専門家

入学した１期生の中には英語能力に不安がある学生もいましたが、2 年間の猛勉強の結果、修論発表の際には、流暢な英語で説明し、質疑にきちんと応答した姿を見て、その成長ぶりに感激しました。

教員にとって最も報われたと思う瞬間でした。卒業前から、積極的に進学と就職の道を探したり、自力で奨学金を獲得したり、また日本企業での内定をもらったりと、明らかに優れた能力がこの 2 年間で醸成されました。

今後、それぞれが自分の道で、日越大学の卒業生という誇りを持って、精一杯活躍していくことを、心から願っています。

ナノテクノロジープログラム

Dinh Van An 専門家

この 2 年間、皆さんは新設された日越大学で、新しい知識を修得し、探求してきました。学問の道は時には大きな壁にぶつかり、決して平坦な道ばかりではありません。しかしながら、この大学で学んだことは必ず、皆さんの将来を大きく切り開くことができる糧になると信じていますし、私は皆さんが将来、それぞれ進んだ分野の先駆者になることを期待しています。

皆さんの学び舎である日越大学の教員、職員は皆さんをいつも待っていますので、懐かしい気持ちになったらいつでもこの大学に笑顔で顔を出してください。

人生は終わりのない長い旅の如くと言われていますが、皆さんが科学研究の分野において、いつも向上心、探求心をもって全身してくれることを期待しています。

環境技術プログラム

片山専門家

個性的な 6 名が巣立っていきました。英語のコミュニケーションに不安を抱えながらのスタートでしたが、テト明けに実施したホーチミンでのフィールド演習で東京大学の大学院生らと一緒に学び、ひと皮、むけたようでした。日本でのインターン、その後の修士の研究と、それぞれ努力して成果をあげ、無事に皆が修了できたことは喜ばしい限りです。今後の活躍を期待しています。

日本語教育プログラム

粟飯原専門家

第１期生への日本語教育は、１年目の夏学期までで、９０時間でした。

何も覚えていてくれてないのではないかと思いますが、きっと「こんにちわ」の挨拶は、また会った時に、してくれそうですよね。

いつか「日本語は楽しかったな。」と思い出してくれて、「また、日本語勉強しようかな」と思ってく

れるとうれしいなあ。

松浪専門家

初めて彼らの授業を担当したのは、夏の集中講義でした。日本語学習を始めてから１年も経っていない学生がほとんどでしたが、日に日に日本語で話す量が増えていく姿を見て、非常にうれしく思ったのを覚えています。修了後引き続き日本語に触れる機会がある学生、ない学生もいるかと思いますが、日越大学で学んだことを活かしていけるよう、今後も応援していきたいと思います。

3　今後の主な予定、行事

- 8 月 11 日～12 日　日本学セミナー開催
- 8 月 19 日～29 日　サマープログラム
- 8 月 27 日　45 周年記念特別セミナー（場所：日越大学ミーディンキャンパス４階）
- 8 月 27 日～28 日　法律に関する特別講義
- 8 月 27 日～29 日　立命館大学スタディーツアー
- 9 月 10 日　第 3 回入学式

■□■

【お問合せ先】

日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会　石田、浅田

Tel: +84 (0) 247-306-6001

E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn

日越大学 HP　http://admission.vju.ac.vn/

日越大学 Facebook（ベトナム語）　https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts

日越大学 Facebook（日本語）　https://www.facebook.com/jicavju/

JICA HP　https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn （担当：石田、浅田）までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.16 2018 年 9 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に 2 期生 82 名、3 期生 88 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の各専攻プログラムを勉強しています。

【今月のトピックス】

1 日越大学ニュース

第 3 期生入学式

9 月 10 日にベトナム国家大学ハノイ校(VNU-HN)の Nguyen Van Dao Hall において、日越双方から多数の政府関係者、大学関係者、民間企業の方々にご出席頂き、88 名の第 3 期入学生の門出を祝いました。

第 3 期入学生のプログラム別入学生数は以下のとおりです。
地域研究（日本研究：6 名、ベトナム研究：5 名)、企業管理（20 名)、公共政策（9 名)、社会基盤（7 名)、ナノテクノロジー技術（6 名)、環境工学（10 名)、気候変動・開発（25 名)、また、第 3 期入学生の中には、日越大学として初めての国際学生 7 名（ミャンマー人：2 名、ナイジェリア人：5 名）を迎え、国際大学としての一歩を踏み出しました。
古田元夫日越大学学長から新入生に対して、「現在、ベトナムや世界の情勢は大きく変化しており、急速に変化する社会での人生は、これまでの常識が通用しない「羅針盤なき航海」という面があり、本学の 2 年間でそれぞれのプログラムでは、この「羅針盤なき航海」に堪えうるために必要な資質の養成を重視しています。大学院教育は、学生を特定の型にはめ込むものではなく、様々な種が様々な花を結ぶように学生一人一人がもつ豊かな個性を開花させることに主眼を置くべきです。従って、皆さん一人一人が日越大学だという自覚に立って、日越大学らしさの創造に関わってくれることを期待しています。」という旨の式辞がありました。

また、日本側来賓を代表して、武部勤氏（日越友好議員連盟特別顧問、日越大学理事）から、「私が北海道出身だということで、ベトナムの多くの友人からお見舞いと励ましを頂きました。北海道の地震は日本人にとって想定外のことでしたが、世界ではこれから何が起こるか、だれも予測できない時代になっているので、この時代に如何に適応、対応するかという能力が求められます。この能力の醸成を皆さんに期待しています。また、現代はアジアの時代だと言われており、多くの民族、文化、宗教があり、これらをどのように活用するかが重要になっていますが、それを皆さんのような若者が新しいエネルギー、知恵をもって対応してください。これから 2 年間、勉学に励み、新しい未来を切り開き、グルーバルな人間になってください。」という旨のご祝辞を頂きました。

これに対して、新入生を代表して、公共政策プログラムの Hoang Van Trung さんから、「VJU は広くもない、長い歴史もない、学生数も多くない、立派なキャンパスもありませんが、VJU は社会における大きな変化を起こすことを恐れない人間になれる、自分を変えてくれるための「翼」をつけてくれる大学だと信じています。将来は日本とベトナムの 2 国間の友好関係、双方の繁栄のために寄与できる行動力を持った人材になりたいと思っています。」と頼もしい言葉で入学の決意を語ってくれました。

特別講演の開催

9 月 10 日に第 3 期生入学式終了後に、三村信男茨城大学学長、大久保達也東京大学大学院工学系研究科長・工学部長に、それぞれ以下の演題で英語による特別講演をおこなって頂きました。

（演題）

三村茨城大学学長：”Sustainability Science for Our Common Future”

大久保東京大学大学院工学系研究科長・工学部長：”Academic Excellence through the Development of Future Society”

特別講演には、日越大学関係者、日越大学 2 期生、第 3 期生を初め、他大学からの学生も出席し、日本だけでなく世界的に著名なお二人の講演に対して、出席した学生は熱心に聞いていました。講演終了後、学生から一般的な質問だけでなく、専門的な質問もなされ、学生の意識の高さ、興味の高さを裏付ける有益な講演となりました。

学生のひとりは、「日越大学で、より専門的な知識を世界的に著名な先生方から学ぶことができ、日越大学に入学し、ベトナムにおいて国際的な視点から色々な知識を修得できることを楽しみにしています。」という声も聞かれました。

日越大学では、今後も学生に対して、様々な分野から知的刺激を与えることが出来るような講演を開催していきたいと思っています。

福井照内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方領土、消費者および食品安全、海洋政策）

武部新環境大臣政務官兼内閣府大臣政務官による特別講義の開催

9 月 6 日に福井照内閣府特命担当大臣、武部新環境大臣政務官兼内閣府大臣政務官に来学頂き、3 期生の学生に対して、特別講演を行って頂きました。

福井大臣からは、” Toward the Ethical Globe”というテーマで、消費者行政の仕組みや消費者庁の組織・業務のご説明、消費者行政と経済の好循環について、また、「エシカル消費（倫理的消費）」について、① 取り組む必要性、②取り組む意義（消費者の視点、事業者の視点、行政の視点）、③推進方策の方向性という観点から講演をして頂きました。

また、武部政務官からは、”生活ごみの削減とエシカル消費”という観点から、①気候変動の緩和と適応策について、②食品ロスについて、③海洋プラスチックについて具体的な事例を踏まえてご説明を頂きました。

「エシカル消費」という言葉、概念は、日本においてもここ 1〜2 年ぐらい前から耳にするようになった言葉ですので、ほとんどのベトナム学生にとっては、聞いたことがあっても実際にどのようなものか、どのように対応していけばよいかを理解していませんでしたが、福井大臣、武部政務官から具体例を盛り込んだ分かり易い説明で、学生も一定の理解をした様子でした。

日越大学と茨城大学間の MOU 調印式

9 月 10 日（月）、今年新設される気候変動・開発プログラム（MCCD）の開講に伴い、茨城大学と日越大学は MOU（覚書）を締結し、今後の教育・研究に係る連携を確認しました。

これまで 6 つのプログラムが開講されており（2016 年）、今回開講する MCCD プログラムは日越大学において 7 つめのプログラムとなります。
三村信男茨城大学長は､｢本プログラムは､アジアにおいて気候変動に特化した初めてのプログラムです。アジアは 21 世紀の世界の成長のセンターといわれていますが、同時に気候変動の一番大きな影響を受ける可能性もあります。そのため、アジアの人たち自身が環境の大きな変動を視野に入れながら将来を構想していく人材の育成が不可欠になります。そういう人材の育成に踏み出したことに大きな意義があります。」と述べられました。

https://www.nikkei.com/article/DGXMZO35398990U8A910C1L60000/

ANA ホールディングスと日越大学の包括連携協定調印式

9 月 21 日（金）、ANA ホールディングス（東京都港区、代表取締役社長：片野坂真哉、https://www.ana.co.jp/group/　以下、ANAHD）と日越大学は、産学相互に緊密な連携と協力を図り、日本とベトナムの友好関係の深化に貢献することを目的として、包括連携協定を締結しました。

調印式に出席した ANAHD 芝田浩二 上席執行役員は、「航空業界や旅行業界は世界が平和でなければ成り立たない。日越大学との提携を通じて、日越両国間の架け橋となる人材の育成、ならびに両国間の関

係強化への貢献、ひいては世界の平和的な発展にも ANA グループとして貢献していきたい。」と述べられました。

当日は、梅田邦夫 在ベトナム日本国大使館特命全権大使、キムソン ベトナム国家大学ハノイ校総長、小中鉄雄 JICA ベトナム事務所長にも出席頂きました。

VJU サマープログラム 2018 の　実施について

8 月 19 日から 29 日までの期間、日越大学では２回目となるサマープログラムを実施しました。昨年は 8 日間だったところ、今回は、ハロン湾とニンビン（チャンアン複合景観）という二つの世界遺産見学を含む、11 日間のプログラムとして実施しました。

昨年の参加者は２つの大学の学生に限られていましたが、今回は、９大学（法政、筑波、福島、東京、横浜国立、立命館、京都、京都外国語、北九州）から 13 名の参加者を迎えることができ、ハノイにおける日本の学生同士の交流という意味でも、日越大学ならではのプログラムになりました。

実施内容としては、初日に日越大学教員によるベトナム語入門や、JICA 専門家によるベトナム文化・経済についての講義を聴講した後、市内及び近郊の観光、また民族博物館や水上人形劇の鑑賞、JETRO や AEON といった在ベトナム日系企業等への訪問をおこない、ハノイ市内の他大学を含む学生交流プログラム、さらに日越の学生が一緒に行動する二つの世界遺産見学などを実施しました。他にも、自由行動日には、オプショナル・アクティビティーとして、貧しい癌患者を療養する「K ホスピタル」でボランティア活動も盛り込むなど、実施に際して日越の教職員が協力できる日越大学ならではの大変充実した 11 日間となりました。
プログラム終了後も Facebook 等を通じて日越学生の交流が続くなど、参加学生の満足度は非常に高いものでした。

日越外交関係樹立 45 周年記念特別セミナーの開催について

8 月 27 日に、上記サマープログラムでの特別プログラムとして、日越外交関係樹立 45 周年を記念した特別公開セミナーを本学 415 教室において実施しました。セミナーは３部構成で、（１）日越大学２期生 Hoang Thi Cham さんによる日本語スピーチ発表、（２）サマープログラムに参加中の日本人学生によるプレゼンテーション、そして、（３）ハノイに長く在住される小松みゆきさんによる特別講演を実施

しました。

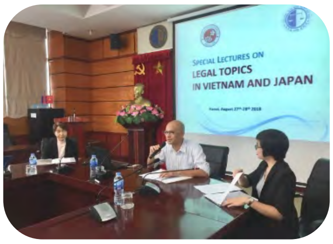
小松さんは、日本語教師として滞在される傍ら、ベトナム残留日本兵のご家族の問題にスポットライトを当てられ、昨年の天皇・皇后両陛下との御接見実現に大きく貢献された方です。

日本語スピーチを発表した Cham さんは、今年３月に、国際交流基金主催の「日本語フェスティバル 2018」スピーチコンテストにおいて、見事優勝を果たした学生です。今回のセミナーでは、優勝スピーチの内容に、サマープログラム学生向けのメッセージを追加したものを発表しました。
司会進行は、サマープログラム参加学生が務め、学生発表では、サマープログラム開始時に設定したテーマをもとに、ベトナムでの体験や驚き、日本との違いについて、英語や日本語で報告しました。そして、小松さんの特別講演では、元日本兵の妻スアンさんとの交流や、元日本兵の家族の来日についてのお話があり、日本人学生のみならず、出席した日本人教職員や学生の心を強く打ちました。講演後は学生から多くの質問が出されるなど、こちらも非常に充実したセミナーとなりました。

法律に関する特別講座の開催

8 月 27 日と 28 日にハノイ法科大学院にて、法律に関する特別講座が開催されました。
今回はより多くの法律に関心をもつ院生等への参加促進のため、場所を本学から法科大学院に変えて、おこなわれました。

講師陣は、本年 3 月に開催された同様の特別講座にも出席頂いた、内藤加代子先生（大江橋法律事務所）、田丸祐輔先生（一橋大学）、塚原長秋先生（アイパートナーズ法律事務所）、杉田昌平先生（名古屋大学大学院法学研究科）に加え、土生英里先生（静岡大学）、岩瀬真央先生（兵庫県立大学）の 6 名をお迎えし、日本とベトナムとの経済開発促進に欠かせない法律に関する知識や情報及び現代的課題や展望についての講義でした。また、講義後には活発な質疑応答もおこなわれました。
将来、学部開設に必要な法律に関する講義充実のためにも有意義な特別講座となりました。



2　2018 年インターンシップについて

９月 10 日より 68 名の学生が、1～4 ヶ月間、日本の大学でインターンシップ活動を行います。
8 月 31 日には日越大学内で全体オリエンテーションがあり、日本で生活等について事前学習を行いました。インターンシップでは、受け入れ大学で、日本人学生と一緒に講義や研究指導を受けるほか、企業

訪問、文化交流イベントへの参加等多彩な活動が組まれています。
インターンシップを通じて、研究面の成果だけでなく、日本の経済、社会、文化への理解がより一層深まることが期待されます。

プログラム	受入大学	人数	開始日	終了日
公共政策	筑波大学	11	9/26	12/21
ナノテクノロジー	大阪大学	10	10/1	11/30
地域研究（ベトナム研究）	東京大学	2	10/1	11/4
地域研究 (日本研究)	東京大学	2	9/17	12/15
地域研究 (日本研究)	東京大学	5	9/10	1/23/19
社会基盤	東京大学	10	9/26	12/14
環境工学	立命館大学	6	9/20	11/18
環境工学	東京大学	5	9/24	11/21
経営管理	横浜国立大学	17	10/3	2/2/19

3 今後の主な予定、行事

- 10 月 27 日　　第 4 次産業革命がもたらす大学教育への影響に関するセミナー（MIE プログラム）

4 人事往来

- 8 月 31 日　　片山浩之専門家（環境工学）　帰国
- 9 月 1 日　　春日郁郎専門家（環境工学）　着任
- 9 月 11 日　　志水美友さん（早稲田大学大学院日本語教育研究科）インターン
- 9 月 22 日　　田中一平専門家（プログラム調整）　帰国

■□■

【お問い合わせ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://admission.vju.ac.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】
本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.17 2018 年 10 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に 2 期生 82 名、3 期生 83 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の各専攻プログラムを勉強しています。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

二階俊博自由民主党幹事長ご一行の来学

9 月 26 日に、チャン・ダイ・クアン前国家主席の国葬に日本政府総理特使として参列された二階俊博自由民主党幹事長を初め、林幹雄衆議院議員、武部勤日越友好議員連盟特別顧問、梅田邦夫ベトナム駐箚特命全権大使、石川浩司アジア太平洋州局審議官他が来学されました。
日越両国のシンボルとして設立された日越大学で学ぶ学生にエールを送りたいというご希望で、過密スケジュールの間を縫ってお越し頂きました。

まず、古田元夫学長から本学概要説明、質疑応答がおこなわれました。二階幹事長からは「日越大学は日越両国の貴重な財産であり、今後も応援していきたい。」という力強いエールを頂きました。

その後、環境工学プログラムの講義を視察された際に、学生達と短い懇談をされましたが、学生達は一様に緊張した様子でした。

2018 年度 ODA ツアーご一行来学

10 月 2 日に JICA への投資家の方々を中心とした ODA ツアー25 名の皆さんが来学されました。

JICA は、主に開発途上地域におけるインフラ整備など経済・社会発展への取組みを支援する有償資金協力事業に活用するために、「ソーシャルボンド」という、国際資本市場協会（International Capital Market Association：ＩＣＭＡ）が定義する「ソーシャルボンド」の特性に従った、社会課題の解決に資する事業を資金使途とする債券を発行しており、今回の皆さんはその投資家の方々で、各国で実施している JICA 事業の視察の一環として、本学にお越しになりました。

まず、日越大学の概要ビデオを視聴して頂いた後、古田元夫学長からパワーポイントを活用して本

学の説明がおこなわれ、その後、学内を視察されました。

参加者の皆さんは、ベトナムにとって不可欠な人材育成に日本が積極的に協力をおこなっている現場を視察され、投資した資金が有効に活用されていることを再認識して頂いた様子でした。

ベトナム投資カンファレンスにて ANA ホールディングス株式会社と連携協定を交換

10 月 10 日都内にて開催されたベトナム投資カンファレンス（独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）主催）に、日越大学も登壇し、ANA ホールディングス株式会社との連携協定を交換いたしました。

当日は、日越両国から約 1,000 名の企業関係者が参加し、日越大学を含む 19 組の協定交換式が執り行われました。

JASSO 主催の留学フェア

10 月 7 日、ハノイ市内で開催された日本留学フェア（独立行政法人日本学生支援機構　主催）に日越大学も出店しました。

当日は、日本留学を希望する学生や保護者が多くつめかけました。日越大学ブースには、日本留学と並行して、ベトナム国内で教育を受けることを検討している方が多く立ち寄られました。英語だけでなく日本語を流暢に話す学生も多く、当地の若者の優秀さにいつも驚かされます。

日越大学幹事校会議開催

10 月 26 日（金）に幹事校会議が開催されました。

本会議では、古田元夫日越大学学長から①現状報告、②日越大学発展戦略、財務計画、③コンソーシアム立ち上げについて、④修士課程プログラムの入試、論文作成などに関する日越大学の規定の変更について等の報告があり、今後の日越大学の方向性に関する報告、議論がおこなわれました。また、JICA本部より、次期技術協力プロジェクトについての考え方、及び今後のスケジュール等の説明がありました。

2　日越大学第三期生へのインタビュー

今年 9 月 10 日に希望に胸を膨らませて、本学の門をくぐった、7 プログラム 83 名の第 3 期生を迎えました。そこで、今月号から 3 回に亘って、外国人新入生の声をお伝えしたいと思います。まずは、初めてのミャンマーからの留学生として来越した Nan Kay Zar Phone Myint（ナンカイ）さんです。ナンカイさんは、９月から MBA プログラムで勉強をしています。

Q（VJU）：初めて日越大学のことを知ったのはいつですか？

A（ナンカイ）：今年の６月にヤンゴンで行われた、日越大学の学生募集説明会に参加しました。ちょうど海外の大学院の奨学金プログラムを探していたときで、日越大学は奨学金プログラムが充実していて、日本人教員が多いのが魅力でした。また、以前、日系企業で秘書を５ヶ月間していたことがあり、日本には以前から興味がありましたが、日越大学に受かるとは思っていませんでした。

Q（VJU）：日越大学に入ってみて、どうですか？

A（ナンカイ）：忙しいです。４時間続けての授業は初めての経験です。ベトナム人の学生もとても一生懸命勉強しているので、最初はカルチャーショックでした。プレッシャーもありました。でも、今はもう慣れました。あと、日越大学はグループワークが多くて、学生中心の講義スタイルが特徴的ですね。日本語の授業は好きです。逆に、専門科目のクラスが大変です。
調べること、考えることが多くてすごく時間がかかりますね。でも、ミャンマーでは学費を稼ぎながら大学に通っていたので、それに比べれば、今は奨学金をもらえて、勉学に集中できるのはありがたいです。

Q（VJU）：ベトナムでの生活はどうですか？

A（ナンカイ）：授業は大変ですが、生活は楽しいです。食べ物はフォーが好きです。ミャンマーと似た料理が多くありますが、味は甘めですね。宗教がミャンマーと異なるのも面白いです。元々は同じ仏教なのに、ベトナムのお寺はミャンマーと非常に違うのも興味深いです。妊娠をしてお腹が大きくなっている女性が歩き回っているのを見たときは驚きました。ミャンマーでは、お腹が大きくなると外を出歩かないです。

Q（VJU）：ホームシックにはなりませんか？

A（ナンカイ）：ミャンマーの友達には会いたいですが、ホームシックはありません。日越大学は留

学生がいますし、ミャンマーからの留学生とはルームメイトなので寂しくはありませんね。２月の旧正月のときに一時帰国しようと思っています。

Q（VJU）：卒業後の予定は何ですか？

A（ナンカイ）：ミャンマーに帰国します。ただ、異文化の中で働くことが好きなので、多国籍企業や NGO で働きたいと思っています。また、父が小さい会社を経営していて、とてもハードワーカーなので、日越大学で学んだことを活かして手伝いたいと思っています。

3　今後の主な予定、行事

日越大学第２期インターンシップ生 来日記念交流会　東京 麹町にて開催

日越大学と JICA（独立行政法人国際協力機構）は、11 月 12 日、ホテルルポール麹町（千代田区）にて、現在インターンシップ生として来日中の第２期生を集めたレセプションと企業交流会を開催いたします。

当日は、野上内閣官房副長官やグエン・クオック・クオン駐日ベトナム大使が参加される他、日越大学を支援する国内企業や大学関係者が集まります。

お申込方法は、10 月 29 日（月）までに①お名前、②ご所属、③役職、④メールアドレスを、JICA 内日越大学構想・国内支援事務局（1rtd3-vju@jica.go.jp）までご連絡ください。

（昨年の様子）

■□■

【お問い合わせ先】

日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会

Tel: +84 (0) 247-306-6001

E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn

日越大学 HP http://admission.vju.ac.vn/

日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts

日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/

JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.18 2018 年 11 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に 2 期生 82 名、3 期生 83 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の各専攻プログラムを勉強しています。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

自由民主党前国会議員会の来学

11 月 5 日（月）に以下の自由民主党前国会議員会の 6 名の先生方が本学にお越しになりました。

1) 斉藤 斗志二氏　（元衆議院議員、元防衛庁長官）
2) 小川 元氏　（元衆議院議員、元駐チリ大使）
3) 合馬 敬氏　（元参議院議員）
4) 武部 勤氏　（元衆議院議員、元農水大臣）
5) 中村 正三郎氏　（元衆議院議員、元環境庁長官、元法務大臣）
6) 宮路 和明氏　（元衆議院議員、元厚労副大臣）

当日は、古田元夫学長から日越大学の概要説明をおこない、各先生方から学生の様子、勉学・研究への取り組み、日越大学の将来構想等、多岐に亘って質問がおこなわれ、日越大学への興味の高さをうかがうことができました。
その後、高村ゆかり東京大学サステナビリティ学連携研究機構教授による「サステナビリティ学基礎講座」の講義を見学された後に、第 3 期生学生と和やかに歓談されました。

日越大学第 2 期インターンシップ生来日記念交流会の開催

独立行政法人国際協力機構（JICA）と日越大学は、11 月 12 日（月）、東京（千代田区）にて第二期インターンシップ生来日記念交流会を開催しました（後援：日本経済団体連合会、日本商工会議所、文部科学省、経済産業省）。当日は、日本の企業や大学など関係者約 250 名が参加し、来日中の第

二期生68名と親睦を深めました。古田元夫 日越大学学長の冒頭挨拶の後、登壇した野上浩太郎 内閣官房副長官からは、「(日越大学は)各界から高い期待を寄せられている」、「日本政府としても引き続き日越大学の発展に協力する」とのお言葉を頂戴しました。また日越友好議員連盟から、河村建夫副会長、武部勤特別顧問からもご挨拶をいただき、学生たちが将来日越の架け橋となることへの期待を表しました。レセプションの後に行われた企業と学生のマッチングイベントでは、参加した14社の日本企業と学生が個別に面談を行いました。学生は日本企業から事業内容の説明を直接聞くことができ、日本企業への理解を深め、また日本での就職を身近に意識することができたようです。

「教師の日」に学生が歌や踊りを披露

11月20日はベトナムでは「教師の日」として有名で、日頃お世話になっている先生に、学生が感謝の言葉とともに贈り物をする習慣があります。日越大学では、教師の日に学生が歌や踊りを披露するイベントを開催しました。学生たちは、この日のために授業の合間を縫って集まり、会議と練習を重ねてきました。当日は、学生から教師に暖かい感謝の言葉を贈り、日頃の練習の成果を発揮し素晴らしい歌と踊りを披露しました。日本人、ベトナム人教師ともにおおいに盛り上がったイベントとなりました。

国際シンポジウム「明治維新150周年：ベトナムからの視点」の共催について

11月22日(木)、「The 150th Anniversary of Meiji Restoration: Vietnam's Perspectives（明治維新150周年：ベトナムからの視点）」と題した国際シンポジウムが、ハノイ市内のInternational Convention Centerにて開催されました（主催：ベトナム国家大学・経済大学。日越大学ほか共催）。シンポジウムでは、古田学長による講演のほか、日越の交流や日本の近代化について、日越の研究者による

発表や報告、議論が行われました。特にベトナムの研究者からは、「明治維新のような変革がベトナムで起きなかったのはなぜか」や、「日本の近代化の過程の中で、ベトナムが参考にできる点は何か」といった点について、深い議論がなされました。12月に、本シンポジウムの成果をまとめたプロシーディングが発行されることになっています。

第 5 回研究教育評議会の開催

11 月 30 日に第 5 回研究教育評議会が開催され、以下の議題で議論がおこなわれました。

1) 学部開設の現状について
2) 修士課程の教育に関する暫定規程について
3) 修士課程来年度応募要項について
4) サステナビリティ研究院の設置について

当日は、Vu Minh Ging 議長が急遽欠席をされ、古田元夫学長が議長代理となり、評議会が進行されました。
まず、Dung 日越大学副学長から「新大学教育法」の概要説明がありました。その後、上記 1)～4)について、古田学長、Oanh 副学長、及び中島学長特別補佐（研究分野）からそれぞれの議案について説明があり、各委員間で闊達な議論がおこなわれた結果、上記 1)、3)、4)については、満場一致で採択されました。また、2)については、各委員からのコメントに基づき、日越大学において成案を策定し、改めて同評議会に提出することになりました。
今後、採択された議案については、日越大学が日越双方の関係する大学、機関等と協力しながら、準備を進めていく予定です。

2　日越大学第三期生へのインタビュー

今年 9 月 10 日に希望に胸を膨らませて、本学の門をくぐった、7 プログラム 83 名の第 3 期生を迎え、先月号から 3 回に亘って、外国人新入生の声をお伝えしています。
第 2 回目は、1 回目に続きミャンマーから留学をしている Mai Ei Ngwe Zin（マイ）さんです。マイさんは 9 月から気候変動・開発プログラムで勉強をしています。

Q（VJU）：初めて日越大学のことを知ったのはいつですか？

A（マイ）：今年の 6 月にヤンゴンで行われた日越大学の学生募集説明会に参加しました。日本語は勉強したことはなかったですが、日本に興味がありました。日越大学で勉強したら、日本とミャンマーの架け橋になれると思い応募しました。
奨学金プログラムが充実していましたし、日本人教師が多いのも魅力でした。あと、ミャンマーもベトナムと同じで、気候変動の影響を受けて災害が多い国の一つです。これまで、ヤンゴンで医療系の仕事を 4 年してきました
が、キャリアチェンジをして気候変動を専門的に勉強したかったので、ちょうどいいタイミングで日越大学の学生募集説明会に参加することができました。

Q（VJU）：日越大学に入ってみて、どうですか？

A（マイ）：日越大学は、ミャンマーの大学とは違い、学生中心にすすめられています。グループワークやレポートが多くクラススケジュールも詰まっていて、目が回るくらい忙しいです。

Q（VJU）：ベトナムでの生活はどうですか？

A（マイ）：ベトナムは空気が汚いですね。最初、バイクに乗っている人が、みんなマスクをしていて驚きました。今は、学生寮に住んでいます。6 人部屋なので狭いですが、ルームメイトにベトナム人と日本人がいるのでよく話します。仲は良いので、住み心地はいいです。週末に旧市街などの観光地にも行きました。クラスが落ち着いたらハノイから出てハロン湾やサパに旅行をしたいです。

Q（VJU）：ホームシックにはなりませんか？

A（マイ）：いいえ、全く（笑）。ベトナムに来て、フォーにハマりました。スープがミャンマーの辛いスープと違い甘いですがとても美味しいです。ベトナムのお米はミャンマーより粘りがあり、ミャンマーとは違いますが慣れました。

Q（VJU）：卒業後の予定は何ですか？

A（マイ）：ミャンマーに帰国し、日本の NGO で働きたいです。できれば、環境系の政策提言に携わりたいと思っています。

3　今後の主な予定、行事

- 2018 年 12 月 2 日～8 日　　運営指導調査団来訪
- 2019 年 1 月 23 日（水）～24 日（木）
  第 4 回 NIES 国際フォーラム／4th International Forum on Sustainable Future in Asia
  http://www.nies.go.jp/i-forum/

4　日越大学からのお知らせ

山口専門家、書籍の発刊

日越大学に JICA 専門家として派遣されている山口昌志専門家（学務、教務支援）が、講談社から発刊された「決戦！設楽原　徳川軍 VS.織田・徳川軍」において、佐々成政にスポットを当てた「佐々の鉄砲戦」を共著されていますので、興味のある方は、是非ともご一読ください。

山口専門家は、2015 年「老虎の檻」で九州さが大衆文学賞「笹沢佐保賞」を受賞、また、2018 年「光秀の友—吉田兼和」で第 4 回「決戦！小説大賞」を受賞した、新進気鋭の歴史小説家という一面をもっています。

■□■

【お問い合わせ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://admission.vju.ac.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】
本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.19 2018 年 12 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に 2 期生 82 名、3 期生 80 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の各専攻プログラムを勉強しています。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

JICA 運営指導調査団来学

12 月 2 日〜8 日の期間で、運営指導調査団（団員：宮城兼輔職員、榊美菜職員、谷口邦生国際協力専門員）が来学しました。
今回の調査目的は、(1) 円滑かつシームレスな次期技術協力プロジェクト(以下、TC2)の立ち上げに向けたベトナム側関係機関（日越大学、ベトナム国家大学ハノイ校(VNU)、ベトナム政府）との協議、及び、(2) 大学の運営体制強化に向けた情報収集、及び今後の対応に係る日越大学等関係者との協議でした。
TC2 の立ち上げについては、日越大学幹部、VNU 幹部、投資計画省 (MPI)との協議では、現行の技術協力プロジェクト (TC1)終了後、継ぎ目なく、2020 年 4 月から TC2 を開始できるよう、ベトナム政府からの早期要請書の提出、日本政府による承認に向けて、お互いに協力しながら、その手続きを進めていくことが合意されました。
また、大学の運営体制強化に向けた情報収集では、谷口専門員による 26 名におよぶ日越大学幹部、専任教員及び長期教員専門家等への精力的なヒアリングがおこなわれ、現状の課題、今後の対応についての方向性を整理することができました。

日越大学支援大学コンソーシアム準備会合の開催

12 月 18 日（火）、日越大学と協働しベトナムにおける人材育成を推進するため、日本側で日越大学との協力に関心を持つ 13 大学が集まり、コンソーシアム準備会合が開催されました。
古田学長から日越大学の現況について説明があり、2035 年に向けてのビジョンが共有されました。日本側支援大学からは、2020 年 9 月の学部設置に向けた積極的な提言が出され、活発な意見交換が行われました。

日越大学修士課程幹事大学会議の開催

12 月 18 日（火）日越大学の修士課程を支援する 7 校の日本側支援大学（幹事大学）が集まり、JICA との意見交換が行われました。JICA からは 2020 年 3 月に終了する予定の現行の技術協力プロジェクト (TC1)後の展望等について概要説明がありました。また、日越大学からは来年の ASEAN 出身留学生を対象とした奨学金についての情報共有がおこなわれました。

会社説明会シリーズの開催

日越大学学生の日本企業への理解の深化、就職意識の促進を目指し、10 月から 12 月にかけて、毎週企業代表者や人事担当者をお招きし、会社説明会を行いました。合計 9 社の日系企業・ベトナム企業にご参加いただき、各会 20 名ほどの学生が参加しました。学生は、これまで知らなかった様々な企業の活動、ビジネスモデルに触れることができ、卒業後の進路について広く考える機会となりました。

[日越大学 HP] https://vju.ac.vn/en/news/all/how-to-be-a-global-staff

ハノイ人文社会科学大学と VJU 共催によるワークショップ「浅羽佐喜太郎記念碑－日越交友の新しいシンボル」の開催

12 月 19 日にシンポジウム「浅羽佐善太郎記念碑－日越友好の新しいシンボル」が、ハノイ人文社会科学大学（以下、人文大）と日越大学の共催により、人文大にて開催されました。近年、日越交流が更なる発展を迎えるなかで、その新たなシンボルとして取り上げられるようになった浅羽は、19 世紀後半の仏領インドシナで独立を目指すために訪日した多くのベトナム人志士たちの生活を民間レベルで支援した人物です。シンポジウムでは、浅羽の偉業を語り継ぐために活動してきた浅羽ベトナム会代表の安間幸甫氏が基調講演し、日越史におけるその重要性を改めて強調しました。人文大からは学長、副学長をはじめ、東洋学部教員と多数の学生たちが、また日越大からは地域研究プログラムの教員が参加し、活発に意見交換がなされるなど盛況な会となりました。

国際ワークショップ「東南アジア気候変動適応研究拠点ネットワーク」の共催

12月22日、日越大学にて”Southeast Asia Research-based Network on Climate Change Adaptation Science (SARNCCAR)"と題した国際ワークショップが茨城大学地球変動適応科学研究機関と日越大学の共催で開催されました。同ワークショップはJSPS研究拠点形成事業（2018～2020年度）の一環として実施されています(http://www.icas.ibaraki.ac.jp/research/e-asia-adaptation2018-20/)。

ワークショップには日本、ベトナム、タイ、フィリピンからの様々な分野の研究者およびMCCD学生ら総勢53名が参加し、熱い議論が交わされました。

またその前日にはエクスカーションツアーが企画され参加者はNam Dinh省沿岸部を訪問しました。午前はそれぞれの国や地域での気候変動適応に関する研究および活動報告がポスターセッション形式にて行われ、20件の発表の内、MCCD学生からも3件の発表がありました。午後は3つのタスクグループ（「自然災害」「適応と緩和」「環境」）に分かれ、今回のワークショップから

インターローカルに何を学びどう生かすのかをテーマに、ラウンドテーブル形式での集中的な議論が行われました。
本ワークショップを皮切りに、気候変動適応研究の東南アジア研究者ネットワークが始動し、日越大学はその重要拠点の一つとして機能していくことになります。ここから新たな共同研究や協働の取り組み、また共著論文等ができていくことが期待されます。

博士進学及び奨学金説明会の開催

12月20日に、日本での博士進学を検討・希望する学生を対象とした、博士進学と奨学金説明会を開催しました。
日越大学では、第一期56名の修了生のうち9名が奨学金付きの博士留学の機会を得ることができ、その中の6名が日本国政府奨学金（大使館推薦・大学推薦）に採択されており、学生の博士留学への関心と、奨学金獲得に向けた意欲は高まっています。
当日は、２期生や３期生を中心に30名以上が出席し、日本の大学事務経験を持つJICA専門家から、日本側教員とのコンタクトの取り方や奨学金の申請方法についてなど、詳しい説明を受けるとともに、活発な質疑応答がありました。

タイの２大学からの訪問団受け入れ

日越大学では、12月6日に、タイの仏教系有力大学 Mahachulalongkornrajavidyalaya University（マハチュラロンコン　ラジャヴィジャラヤ大学）から、82名の学生・教職員訪問団を受け入れるとともに、20日には、タイ東部の有力大学 Ubon Ratchathani Rajabhat University（ウボン　ラチャタニ　ラジャバト大学）からの35名の学生・教職員を受け入れ、日越大学の設立から現在の修士課程、また将来構想について紹介しました。

マハチュラロンコン ラジャヴィジャラヤ大学

ウボン ラチャタニ ラジャバト大学

津島淳衆議院議員、武部新衆議院議員の来学

12月27日、津島淳衆議院議員、武部新衆議院議員、及び関係省庁職員、更に在ベトナム大使館、

JICAベトナム事務所からそれぞれ本学にお越しになりました。当日、津島先生、武部先生は過密スケジュールのなか、空港から直行で本学にお越し頂きました。
まず、古田学長から本学についての概要説明がおこなわれ、その後、本邦における大学制度の見直しに関する勉強会にも参加されるなどご尽力頂いている津島先生からベトナムの教育の現状について、日越大学日本学部の概要・将来的展望等に関する質問がありました。更に津島、武部両先生から政治的側面からも本学をフォローしていきたいという力強いお言葉を頂戴しました。

2　日越大学第三期生へのインタビュー

今年9月10日に希望に胸を膨らませて、本学の門をくぐった、7プログラム80名の第3期生を迎え、外国人新入生の声をお伝えしています。
第 3 回目は、初となるナイジェリアからの留学生として日越大学で学んでいる、Alayande Kunle Samuel（サミュエル）さんと Oladele Adedayo Honour（オーナー）さんです。サミュエルさんは公共政策プログラム、オーナーさんは環境工学プログラムに在籍しています。

Q（VJU）：ベトナムにはどのような経緯で来たのですか？

A（オーナー）：ナイジェリアで通っていた学校でベトナムの FPT 大学の学部課程を紹介してもらいました。ナイジェリアからベトナムは非常に遠いですが、学費が安かったのと学校の紹介で査証手続きも難しくなかったので思い切ってベトナムに来ました。ベトナムには4年いますが、まだベトナム語はできません・・。

（オーナーさん）

Q（VJU）：日越大学での生活はどうですか？

A（サミュエル）：授業のスケジュールが非常にタイトです。また、内容はとても専門的でレベルが高く、難しいですがとても面白いです。
日越大学の教育環境は非常に整っていると思います。

Q（VJU）：日越大学はどのようにして知ったのですか？

A（オーナー）：学部時代からベトナム国家大学ハノイ校の学生寮に住んでいました。寮の友人に日越大学の職員がいて紹介してもらいました。
奨学金が充実していたのと、プログラム内容が魅力的だったので受験しました。

(サミュエルさん)

Q（VJU）：日越大学を卒業した後の予定は？

A（サミュエル）：ナイジェリアに帰国する予定です。具体的には未定ですが、ベトナムで学んだことを活かしたいと思っています。

3　今後の主な予定、行事

- 2019 年 1 月 9 日　　参議院 ODA 調査団来学
- 2019 年 1 月 23 日～24 日　　第 4 回 NIES 国際フォーラム (4th International Forum on Sustainable Future in Asia)　http://www.nies.go.jp/i-forum/
- 2019 年 1 月 26 日（土）　　ミャンマー学生募集説明会（ヤンゴン）
- 2019 年 1 月 27 日（日）　　ミャンマー学生募集説明会（マンダレー）
- 2019 年 2 月 2 日～10 日　　ベトナムテト休暇
- 2019 年 2 月 23 日　　日越大学オープンキャンパス

4　日越大学からのお知らせ

2019 年入学試験日程のお知らせ

日越大学修士課程第 4 期生の募集が始まりました。
昨年は、初の外国人留学生の入学があり、また、今年も日本人大学院生の長期インターンシップを受け入れるなど、学生支援体制も少しずつですが、整備されてきました。
経済発展著しい、熱気あふれるベトナムでの修士課程留学に興味関心のお持ちの方がいれば、是非、募集案内をお知らせください。受験から渡航、就学、卒業まで、現地日本人スタッフが間に入って、サポートしてまいります。

一次試験　出願締切：2019 年 3 月 18 日（月）
　　　　　試験日程：2019 年 3 月 22 日（金）～4 月 1 日（日）
　　　　　（インターネット面接可。日程や試験項目の詳細はプログラムによって異なります）
二次試験　出願締切：2019 年 7 月 19 日（金）
　　　　　試験日程：2019 年 7 月 22 日（月）～31 日（水）
　　　　　（インターネット面接可。日程や試験項目の詳細はプログラムによって異なります）
入試情報 URL：http://admission.vju.ac.vn/

□■□

【お問い合わせ先】

日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP　http://admission.vju.ac.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語）　https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語）　https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP　https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】
本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.20 2019 年 1 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として
新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。
現在修士課程に 2 期生 82 名、3 期生 80 名の学生が在籍し、共通科目の日本語
と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノ
テクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の
各専攻プログラムを勉強しています。
また、2018 年に入学した第 3 期生には、ミャンマーから 2 名、ナイジェリアから 4 名の計 6 名の外国人学生も入学し、国際大学としての第 1 歩を歩み始めました。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

参議院 ODA 調査団来学

1 月 9 日（水）に参議院 ODA 調査団として、以下の方々が日越大学にお越しになりました。

① 岩井茂樹 議員（自民党）団長
② 秋野公造 議員（公明党）
③ 斉藤嘉隆 議員（立憲民主党）
④ 矢田わか子 議員（国民民主党）
⑤ 岩波祐子 参議院内閣委員会調査室主席調査員
⑥ 大柳涼 参議院決算委員会調査室調査委員

また、在ベトナム日本大使館から公使、担当書記官、JICA ベトナム事務所長が同席されました。
当日は、古田日越大学学長から、日越大学の概要説明をおこない、その後、質疑応答がおこなわれました。
各議員の方々から、「日越大学の自立性について」、「日本から派遣されている教員に対する大学側の評価、指導効果について」、「日越大学の優位性について」、「日本の大学との文化交流について」、「卒業後の学生と企業のマッチングについて」等々、的確な質問と共に、日越大学に対する今後への期待と発展に対する激励のお言葉を頂戴しました。
その後、講義風景、施設等、日越大学キャンパス内をご見学いただきました。

4th International Symposium Sustainable Future in Asia/ 4th NIES Forum がハノイで開催

1 月 23～24 日にハノイのパンパシフィックホテルにおいて、「第 4 回 International Forum on Sustainable Future in Asia」が開催されました。
本フォーラムは、日本の国立環境研究所(NIES)によって主催され、日越大学環境工学プログラム、東京大学サステイナビリティ学連携研究機構およびアジア工科大学院アジア太平洋地域資源センターが共催をおこない、それぞれの研究成果をアジアに向けて発信するとともに、各国の研究機関・大学等との研究連携を強化することを目的に、アジアを中心とした各国の専門家による講演および全体討論を行い、アジア地域の環境問題の解決と持続可能な未来のために今後進むべき方向について議論をおこないました。
また、古田元夫日越大学学長に、「日越大学と持続可能な開発」について基調講演をおこなって頂きました。様々な国から様々な経歴を持つ約 150 名の研究者がフォーラムに参加し、口頭およびポスターによるプレゼンテーションを通して研究成果を共有することができました。 なお、フォーラムに参加した研究グループの中から VJU メンバーが最優秀ポスター賞を受賞しました。

ミャンマーにおいて、2019 年学生募集説明会を開催

1 月 26 日、27 日の日程で、昨年に続き、ミャンマー日本人材開発センター (MJC)に協力を頂き、ミャンマーにて日越大学の学生募集説明会を行いました。
今年も昨年同様、ヤンゴンとマンダレーの 2 か所で開催し、昨年を上回る 60 名の参加がありました。昨年は、日越大学が初めてミャンマーで説明会を行うとあって「学生の父親」の参加が目立ちましたが、今年は父親の姿はなく若者が多く参加しており、日越大学の魅力を直接伝えることができました。
また、説明会では、昨年 9 月に入学した第 3 期生のミャンマー出身の現役生のひとりが現地で参加、他 1 名は日越大学と現地を TV 会議システムでつなぎ、それぞれ日越大学での学びや体験、ベトナムでの暮らしなどについて参加者に伝えて頂きました。
昨年よりもよりリアルな情報を提供することができ、説明会後のアンケートでは、応募に関心のある学生が多く回答していたことから、今年もミャンマー出身の仲間が増えることが期待されます。

2　2018年インターンシップを振り返って

昨年から今年にかけて、第２期生の日本でのインターンシップがおこなわれました。
そこで、今月号から３月号にかけて、日本でのインターンシップを終えた学生の声をお伝えします。
今月は、ナノテクノロジープログラムの Ta Thi Luong さん、環境工学プログラムの Dang Trung Hieu さんの声をお伝えします。
なお、掲載に際して、学生の感想、インパクト等を尊重し、原文のままで掲載していますので、宜しくご理解の程お願いします。

【ナノテクノロジープログラム】

(1) Name of program: Master of nanotechnology
    Name: Ta Thi Luong
(2) Time of internship: from Oct 1 to Nov 30, 2018
(3) Internship site: Graduate School of Engineering, Osaka University, Suita Campus, Osaka, Japan
(4) Internship activities:

We began our journey to Osaka on a sunny day. Japan from the first impression is a beautiful and modern country; it is hard to imagine that a few days before a strong storm swept through this place. From the first surprise, we started writing our own experiences, which I believe are valuable to each of us not only for academics but for life as well.
As an engineering student, we spend most of our time in the lab. And to understand and learn how to the Japanese do and master their research, there is no way to be more effective than working with them in the same lab. I really enjoyed working time at lab, herein, something is very special the atmosphere of effort and consistency with scientific love.

Every week, we have lab seminars for the members of the group to present and discuss with their research. Each master student or Ph.D. student must present their research progress before the others at least twice a year. We, who are newcomers, are also required to have a talk about our previous study in this seminar. Besides, students usually have discussions with their professor once a week about their recently obtained results as well as their new gained knowledge.
These discussions have helped me a lot to understand deeply my work, more importantly, through these precious talks, I also was learning the way to find problems and solve problems toward creating valuable results in research. The image of the professor working from morning to late in the lab made me understand that in science, there is no secret of success other than the diligence and the enthusiasm.
In addition, we also have an opportunity to have a direct interview with several Japanese businesses in order to find out what Japanese employers look for in the candidates. Since then, each of us will have a clearer strategy to achieve our goals.

Besides academic activities, we also have unforgettable experiences in exploring Japanese culture, nature, and cuisine. It is hard to choose the most impressed one among all the kindness, dedication, and discipline of the Japanese, the bustling crowds of Dotonbori or the autumnal beauty of Kyoto. At this moment, I am thinking of an experience of mine on the train. A mother and a 5-year-old boy boarded the train when there were no seats available. I stood up and gave my seat to the baby

but the mother just thanked and refused… Maybe those small things have created an admirable Japan where full of independent and resilient people today.

Hereafter is a picture show our joyful moment at first time seeing Momiji in Osaka.

【環境工学プログラム】

私は、環境工学プログラムの Dang Trung Hieu と申します。

私のインターンシップは、2018 年 9 月 20 日～11 月 18 日の期間で、主に北九州市立大学（University of Kitakyushu City）で行いました。インターンシップでは、有機廃棄物をメタンガスや肥料に変える嫌気分解について勉強しました。また、研究以外では、「ありがとう」という他人に対する感謝の気持ちや、計画立案時におけるチームワークスキルについても、私が学んだ重要なことでした。

更に、今回のインターンシップの経験を通して、将来、私は、固形廃棄物・排水処理分野専門家になりたいと思います。また、日本滞在中に一番印象に残ったことは、日本の美しい景色と日本人の仕事に対して取り組む姿勢と礼節を重んじる心でした。

最後に、このインターンシップに関わったすべての関係者の皆さんに心から感謝します。どうもありがとうございました。

4　今後の主な予定、行事

- 2019 年 2 月 2 日～10 日　　ベトナムテト休暇
- 2019 年 2 月 23 日　　日越大学オープンキャンパス

5　日越大学からのお知らせ

大学臨時休校について

ベトナムの正月休暇（テト休暇）に伴い、本校も 2 月 2 日〜10 日までの期間、休校となります。関係者の皆様方にはご迷惑をおかけして申し訳ございませんが、ご理解とご協力の程、宜しくお願いします。なお、2 月 11 日（月）からは、通常どおり業務をおこないます。

2019 年入学試験日程のお知らせ

日越大学修士課程第 4 期生の募集が始まりました。
昨年は、初の外国人留学生の入学があり、また、今年も日本人大学院生の長期インターンシップを受け入れるなど、学生支援体制も少しずつですが、整備されてきました。
経済発展著しい、熱気あふれるベトナムでの修士課程留学に興味関心のお持ちの方がいれば、是非、募集案内をお知らせください。受験から渡航、就学、卒業まで、現地日本人スタッフが間に入って、サポートしてまいります。

一次試験　出願締切：2019 年 3 月 18 日（月）
　　　　　試験日程：2019 年 3 月 22 日（金）〜4 月 1 日（日）
　　　　　（インターネット面接可。日程や試験項目の詳細はプログラムによって異なります）
二次試験　出願締切：2019 年 7 月 19 日（金）
　　　　　試験日程：2019 年 7 月 22 日（月）〜31 日（水）
　　　　　（インターネット面接可。日程や試験項目の詳細はプログラムによって異なります）

入試情報 URL：http://admission.vju.ac.vn/

□■

【お問い合わせ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP　http://admission.vju.ac.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語）　https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語）　https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP　https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】
本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.20 2019 年 2 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として
新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。
現在修士課程に 2 期生 82 名、3 期生 80 名の学生が在籍し、共通科目の日本語
と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノ
テクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の
各専攻プログラムを勉強しています。
また、2018 年に入学した第 3 期生には、ミャンマーから 2 名、ナイジェリアから 4 名の計 6 名の外国人学生も入学し、国際大学としての第 1 歩を歩み始めました。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

VJU オープンキャンパス開催

2 月 23 日（土)、日越大学にて第 2 回目となるオープンキャンパスが開催されました。今年も昨年に続き、150 名を超える大勢の来訪者がありました。日越大学のオープンキャンパスでは、各専攻プログラムの日本人・ベトナム人教員が直接プログラムの紹介を行い、キャンパスや研究室を案内します。参加した学生からは多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。これとは別に、日越大学の教職員や現役学生が中心となり、茶道・浴衣の試着・日本語講座など、様々な日本文化体験プログラムも実施され参加した学生たちは大いに楽しんでいました。

ANA インターンシッププログラムに参加するため、日越大学から 4 名の学生が渡日

2 月 18 日～21 日まで、ANA ホールディングス株式会社(ANA HD)が日本で実施をしたインターンシッププログラムに、日越大学の大学院 1 年生 4 名が参加をいたしました。これは、ANA HD と日越大学が 2018 年 9 月に締結をした包括連携協定に基づき、ANA HD よりご支援いただいたもので、ベトナムからは本学の学生が唯一の参加となります。参加した 4 名は、ANA HD の講師陣から航空業界について多く学び、一緒に参加した日本人学生とディスカッションをする中で、様々なアイディアに触れ、日本人が重視するチームワークについても理解を深めて帰国をいたしました。

日本文化講座の開催

日本語教育の PG である宮崎先生のお口添えにより、2 月 14 日、荒汐部屋の力士 12 名を始め、荒汐親方（元小結大豊）、女将、行司、床山と後援会の総勢 36 名をお迎えし、本学の学生との交流会が実現いたしました。親方による相撲の説明、MAS の学生が作成したテトに関するクイズ、腕相撲や紙相撲など、参加者全員が楽しめるイベントになりました。司会の MAS の学生も、会を盛り上げられるほど、流暢な日本語を披露してくれました。

福岡女学院大学スタディー・ツアー

2 月 19 日（火）午後、日越大学において福岡女学院大学のスタディ・ツアー（引率：国際キャリア学部櫻田陽一教授）を受け入れ、大学紹介ならびに学生交流プログラムを実施しました。学生交流プログラムでは、福岡女学院大学の学生 8 名から英語による大学の説明を受けた後、日越大学の学生から、ベトナムの旧正月の風習や、特別な食べ物について紹介しました。福岡女学院大学スタディ・ツアーの受け入れは、昨年度に引き続いてのことで、今年も日越双方の学生にとって、たいへん有意義な時間になりました。

「日本メコン地域経済委員会」訪ベトナム・ラオス経済ミッションの来学

2 月 25 日（月）に小林洋一日本メコン地域経済委員会委員長（伊藤忠商事株式会社副会長）を団長とする訪ベトナム・ラオス経済ミッションの団員 29 名が日越大学を訪問されました。
当日は、古田日越大学学長から日越大学の概要説明をおこない、その後、Mr. Nguyen Quang Dieu (2 期生／地域研究（日本研究）)が昨年の日本でのインターンシップに関するプレゼンテーションをおこないました。また、Ms. Le Thi Thuy Trinh (3 期生／地域研究（日本研究）)、Ms. Luong Thi An(3 期生/公共政策)のそれぞれの学生も参加し、学生とミッションメンバーの方々と和やかに歓談がおこなわれました。
ミッションメンバーの方から学生に対して、「ベトナム人学生の多くが、日本を初め外国に留学している状況の中で、何故、日越大学を選んだのか？」という質問に対して、それぞれの学生は、「日本への留学経験があり、日本の文化に触れて、更に日本についてもっと知りたいと思った。」「日本語習得のために日本へ留学した際に日本に興味を持ち、更に日本、日本語について勉強したいと思った。」「家族がいるので、家族と一緒に暮らしながら、「政策の仕組み」について、更に理解して、将来は「政策」を立案する立場になりたい。」との回答に対して、ミッションメンバーの方々から、日越大学の学生の真面目な姿勢・態度に共感された様子でした。

2　2018 年インターンシップを振り返って

昨年から今年にかけて、第 2 期生の日本でのインターンシップがおこなわれました。
そこで、今月号から 3 月号にかけて、日本でのインターンシップを終えた学生の声をお伝えします。
今月は、社会基盤プログラムの Le Viet Hung さん、公共政策プログラムの Dang Thi Bich Thao さんからの声をお伝えします。
なお、掲載に際して、学生の感想、インパクト等を尊重し、原文のままで掲載していますので、宜しくご理解の程お願いします。

【社会基盤プログラム】

Name: Le Viet Hung
Program: Master Program in Infrastructure Engineering
From September to December 2018, I had a chance to head to Japan, Tokyo to work on a lab as an intern at the University of Tokyo (Todai). Before coming to Todai, some friends warned me that the Japanese work a lot and it requires more efforts at the most famous university in Japan. My first day at the lab was very hectic. And I knew that my

next few days were going to be even more hectic. The official working hours here are from 10 AM to 6 PM. But the kind of work culture which I saw in the lab was very amazing. People in the lab used to work from 10 AM to midnight. The fascinating thing which I found is that they do not enforce these long working hours on to students or faculty. But they have created a work culture where people feel ashamed if they leave from work early. So when the new members join the lab, they themselves follow the same work culture.
During my stay in Japan, I was greeted with great hospitality. Many colleagues were patient with my lack of the language, and the technical staff in my laboratory even downloaded a translation app to better communicate with me.
As for what I did with my time outside the lab, the list goes on and on. From trips with my professors to Yokohama, to sitting in on Japanese class, to taking hot spring baths, to evening walks in Tokyo's streets, to the tastiest dinners with my roommates in the hotel. I experienced a time like I never had before. My time outside the lab still consisted of travelling with my friends. Thinking back on it, it truly has been a very valuable, incredibly fulfilling, enormously enriching, and indescribably enjoyable internship. The time I spent in Japan last year will remain a remarkable chapter of my life. My time in Japan made me love the country, its people, and its culture. I will do my best to find a way back to Japan again someday. Thank you, VJU and JICA, for providing me what has truly been a treasure of a lifetime.

【公共政策プログラム】

My name is Dang Thao, I am a student of the Master Program in Public Policy, Vietnam – Japan University. From September to December 2018, I spent 3 months internship at the University of Tsukuba, Japan. During the internship, I spent most of my time conducting my master research under the instruction of my supervisor.
I also attended a class in regional and urban science where I gained interesting knowledge on spatial economics. In addition, I had chance to participate in many interesting fields trips to various Government agencies, research institutions and companies. The internship in Japan not only supported me to improve my research skill but also help me to understand more on the operation of Japanese Government at both local and central levels. The active academic life in Japan was very impressive to me and I do hope to have chance coming back here to pursue my further studies.

3　今後の主な予定、行事（予定）

- ３月４日　　次期フェーズ分科会開催
- ３月７日　　富山県高等学校生の海外派遣事業受入れ

- ⌖ 3 月 9 日　　　学生募集説明会開催
- ⌖ 3 月 16 日　　Training Workshop “R&D Activities in Malaysia and Vietnam”開催
- ⌖ 3 月 22 日　　福岡市ベトナムミッション来訪
- ⌖ 4 月 18 日　　第 4 回日越大学理事会開催
- ⌖ 4 月 20、21 日　日越大学ジョブフェア

4 人事往来

- ✈ 離任
  - ✧ 3 月 23 日　桂良太郎専門家（プログラム運営・実施：公共政策プログラム）
  - ✧ 4 月 1 日　中島淳専門家　（プログラム運営・実施：環境工学プログラム）
- ✈ 着任
  - ✧ 3 月 21 日　岡本直久専門家（プログラム運営・実施：公共政策プログラム）
  - ✧ 3 月 25 日　谷口邦生専門家（大学運営強化）
  - ✧ 3 月 30 日　佐藤圭輔専門家（プログラム運営・実施：環境工学プログラム）
  - ✧ 3 月 31 日　柳定賢専門家　（プログラム運営・実施：グローバルリーダーシッププログラム）
  - ✧ 3 月 31 日　田中清子専門家（プログラム調整：学務）

5　日越大学からのお知らせ

2019 年入学試験日程のお知らせ

日越大学修士課程第 4 期生の募集が始まりました。
昨年は、初の外国人留学生の入学があり、また、今年も日本人大学院生の長期インターンシップを受け入れるなど、学生支援体制も少しずつですが、整備されてきました。
経済発展著しい、熱気あふれるベトナムでの修士課程留学に興味関心のお持ちの方がいれば、是非、募集案内をお知らせください。受験から渡航、就学、卒業まで、現地日本人スタッフが間に入って、サポートしてまいります。

一次試験　出願締切：2019 年 3 月 18 日（月）
　　　　　試験日程：2019 年 3 月 22 日（金）～4 月 1 日（日）
　　　　　（インターネット面接可。日程や試験項目の詳細はプログラムによって異なります）
二次試験　出願締切：2019 年 7 月 19 日（金）
　　　　　試験日程：2019 年 7 月 22 日（月）～31 日（水）
　　　　　（インターネット面接可。日程や試験項目の詳細はプログラムによって異なります）
入試情報 URL：http://admission.vju.ac.vn/

日越大学サマープログラム 2019 の募集について

昨年第 2 回目を開催し、たいへんご好評をいただいたサマープログラムを今年も開催する予定です。期間は 8 月 18 日（日）～28 日（水）頃、費用は昨年と同じ 800 ドル程度を予定しています（いずれも変更の可能性あり）。
詳しい募集案内は 3 月下旬頃にホームページに掲載するとともに、次回のメールマガジンにてお知らせしますので、ご関心を持ちそうな学生さんに、是非お知らせください。

□■

【お問い合わせ先】

日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会

Tel: +84 (0) 247-306-6001

E-mail:	mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP	http://admission.vju.ac.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語）	https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語）	https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP	https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.21 2019年3月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016年9月にベトナム・ハノイで開校しました。
現在修士課程に2期生82名、3期生80名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の各専攻プログラムを勉強しています。
また、2018年に入学した第3期生には、ミャンマーから2名、ナイジェリアから4名の計6名の外国人学生も入学し、国際大学としての第1歩を歩み始めました。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

Training Workshop “R&D Activities in Malaysia and Vietnam”の開催

3月16日に、日越大学で「研究所や国際大学における科学技術活動の発展–各国からの経験」というテーマで、国際セミナーが、日越大学、ハノイ国家大学アジア研究支援センター（ARC)、マレーシア工科大学（Universiti Teknologi Malaysia）及び立命館大学の共催でおこなわれました。

まず、古田学長から、「日越大学はベトナム政府と日本政府が連携して世界に新しい価値をもたらす大学を構築しており、将来的には研究志向大学として発展することを目指しています。
今回のセミナーの目的は、科学技術活動（特に研究開発活動）の経験の共有、大学・研究所と企業間の連携の促進、地域の国際的な大学と研究所間のネットワーク開発及びその連携の強化です。
このセミナーを第一歩として、大学間での活発な学術交流がおこなわれることを期待しています。」との挨拶がありました。

次に、科学技術研究活動を促進するために設立された、マレーシア工科大学マレーシア日本国際工科院(MJIIT)のAli Selamat院長が、「大学と研究所間の連携による科学技術の発展について、多くの開発モデルが展開されることを期待しており、ASEAN諸国内での意見交換を活発にし、科学技術活動の発展を共に目指すことを望んでいます。」と述べられました。
MJIITは2010年に設立され、マレーシア工科大学(UTM)の組織の一つで、マレーシアの教育と日本の教育の高度な研究活動の組み合わせを方針とし、近代的な設備を備えた20ヶ所の研究所を設け、素晴らしい学習環境及び研究環境のもと、マレーシアにおける研究活動の一翼を担っている組織です。
また、立命館大学の中谷吉彦教授から、立命館大学がTechno Producer向けの効率的な支援モデルを展開しており、科学研究製品を数多く作り出し、研究機関と企業間の緊密な協力関係に基づいた技術を応用していることを説明されました。

更に、ハノイ国家大学アジア研究支援センター(ARC)の Mai Ngoc Anh 教授から、国際機関と協力をおこない、Le Quy Don 工科大学の事例をケーススターディーとして説明されました。

日越大学は、今後も科学技術の発展に伴い、各地域・各国間の科学者・研究者間の連携構築について、積極的に関与していく予定です。

学生募集説明会の開催

日越大学では、2019 年 9 月入学生の募集をおこなっており、応募に関心のある学生を対象に、3 月 11 日（月）に大学説明会を開催しました。毎年、社会人からの応募が多くあることから、一般的な就業時間後の 18：00 開始とし、40 名を超える参加者が集まりました。本学は、他のベトナムの大学院と違い、フルタイムで授業が行われるため、仕事との両立に関する相談や、奨学金についての質問が多く寄せられました。また、本学では毎年 3 月と 7 月の 2 回にわたり入試を実施しており、第 1 次募集は 3 月 18 日が締め切りとなり、3 月下旬から、各プログラムにおいて、日本人とベトナム人の教員による入試が実施される予定です。

キャリア・オリエンテーションの開催

4 月 20 日（土）と 21 日（日）に第 1 回日越大学ジョブフェアを開催予定で、これに合わせて、第 2 期生の卒業生の就職活動への意識を高めるべく、外部講師を招いてキャリア・オリエンテーションを開催しました。
オリエンテーションでは、日本企業の求人をどこで探せばいいのか、日本語レベルはどれくらい必要か、日本企業で働いた場合の給与や生活について、など幅広く説明が行われました。当日は、40

名の学生が参加し、日本企業に対して理解を深めました。

三井ビジネスマナー講座：敬語教育の開催

ハノイ国家大学外国語大学主催の三井ビジネスマナー講座（全9回）で、本学日本語教育プログラムの粟飯原専門家が3月9日、10日の2日間の講義をおこないました。講義は今回で4回目となり、ビジネス場面で使われる敬語の基礎から応用までを、ベトナム人学生に教授しました。また、学生だけではなくベトナムの現職の日本語教師24名も見学し、教師研修の一端を担いました。
このように、日本語教育コースは、本学の学生に対する日本語の向上だけでなく、ベトナムでの日本語教育の底上げに深く関わって社会貢献をおこなっています。

富山県高等学校生の海外派遣事業の受入

3月7日、富山県高等学校生徒海外派遣事業の一環で、富山県の高校生20名が日越大学を訪問しました。富山県が主催し、県内の高校生の国際的な視野を広げることを目的に実施された事業で、日越大学には国際親善を図るために来学されました。当日、富山県の高校生には、日本語クラスに参加していただき、日越大学学生と日本語で交流をしていただきました。富山県の高校生からは、富山県の特産やお祭りなどを紹介したプレゼンテーションや空手のデモンストレーションなどが披露されました。ベトナムでは触れることの少ない富山県について理解を深めた日となりました。

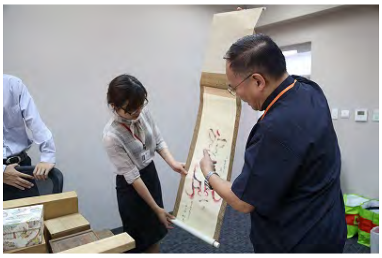
福岡市ベトナムミッション来訪

3月22日（金）に福岡市ベトナムミッション8名の方々が本学に来訪されました。現在、福岡市は、福岡市へのベトナムIT企業誘致と、福岡地場IT企業とベトナムIT企業のネットワーキングやビジネスマッチングを通じたビジネス創出・地場企業の海外展開支援を目指しており、今回の来訪目的は、日越大学卒業生（主にマネジメント系）の就職先として、福岡に拠点を持つ企業を検討してもらいたいということで、福岡市として、今後どのような連携の可能性があるかを意見交換するということでした。

まず、日越大学側から日越大学及び技術協力プロジェクトに関する概要説明、その後、質疑応答がおこなわれました。ミッションからは、卒業生の日系企業への就職状況や本学が主催する”ジョブフェア”について関心がある旨や、今後本学での”福岡市企業説明会“実施の可能性について、今後も本学と連携を図っていきたい旨の要望が示されました。
その後、日本語教育コースが実施している”日本語カフェ“に飛び入り参加し、学生と日本語でコミニュケーションを図り、楽しいひと時を過ごされました。

JICA 専門家より日越大学に日本文化紹介のための物品を寄付

日越大学には、日本文化に関心の高い学生が多く在籍していますが、当地では本物の日本文化に触れる機会は限られています。そこで、JICA より派遣されている 3 名の長期専門家（桂、粟飯原、浅田）より、個人で所有していた茶器や着物、掛け軸など、日本文化を紹介するための物品計 70 点を寄付しました。今後、日越大学が日本文化の発信拠点となるような活動をする際に活かしてくれることを期待します。



2　2018 年インターンシップを振り返って

昨年から今年にかけて、第 2 期生の日本でのインターンシップがおこなわれました。
そこで、今月号から 3 月号にかけて、日本でのインターンシップを終えた学生の声をお伝えします。
最終回の今月は、企業管理プログラムの Phan Thi Thanh Tam さん、地域研究プログラム（日本研究／ベトナム研究）の Nguyen Quang Dieu さん、Ngo Xuan Cong さんからの声をお伝えします。
なお、掲載に際して、学生の感想、インパクト等を尊重し、原文のままで掲載していますので、宜しくご理解の程お願いします。

【企業管理プログラム】
<Student Name>　　　　Phan Thi Thanh Tam

<Program Name> Master of Business Administration

<Internship Term> from October 3rd, 2018 until February 2nd, 2019

I did an internship at Yokohama National University (YNU), one of the most famous historical universities in the beautiful city of Yokohama in Japan. While studying at YNU, I attended four academic courses and two seminars weekly under my supervisory professors. Throughout the learning activities, I gained much knowledge but more importantly, I also had an exciting chance to experience studying in an international environment where I became acquainted with foreign students from different countries around the world. It was a great opportunity for me to enhance my Training of communication skills that I practiced through the giving of presentations, in discussions with my supervisory professors, and working in teams with my classmates from foreign countries.

Figure 1: FANCL Corporation

During the 120 days stay in the most beautiful season of Japan, the Momiji season, I have visited 14 companies, two field trips and raveled to eight cities: Yokohama, Tokyo, Kyoto, Kobe, Osaka, Nagoya, Chiba, and Hokkaido. The company visits provided me information about not only their company business history but also of their operations and management. Furthermore, they provided me knowledge of many different business fields such as food and beverage, automotive, cosmetic, logistics, and the airline industry which will be necessary for my career in the future.

Figure 2: Welcome party for foreign students

Additionally, I participated in exchange cultural activities organized by YNU and volunteer organizations (KSGG, RCA, Hippo family) such as welcome parties, year-end parties, homestay, cooking contests, teaching Vietnamese language skills, and many other visiting activities. By participating in those activities, I fully experienced Japanese culture and its people. I also had a chance to exchange my own Vietnamese culture with Japanese and other foreign students. My four-month internship in Japan is a precious and unforgettable time in my life. I studied hard, joyfully traveled, made new friends, and had many other enjoyable experiences while there. I totally fell in love with Japan because of its beautiful landscapes and also by Japanese people and culture.

I would like to convey my gratitude to VJU, JICA and YNU for unding and arranging this wonderful Internship Program, which helped me to develop myself both academically, professionally, and socially.

<Student Name>	Ngo Xuan Cong
<Program Name>	Master of Area Studies (Vietnamese Studies)
<Internship Term>	from October 1st until November 4th , 2018

My name is Ngo Xuan Cong. I'm a master student of Vietnam - Japan University, majoring in Area Studies specialized in Vietnamese Studies.
I am completing my thesis after a month of internship at the University of Tokyo, Japan, which lasted from 1st October to 4th November.
During my time in Japan, I had the opportunity to visit the University of Tokyo, Kyoto University, Kanda University of International Studies, Daito Bunka University and Kobe University. Through the meeting and consulting with professors and students, I could find some special ideas to reconstruct the framework of my thesis.
Aside from the learning academically, I had also gained valuable lessons on professional manners and etiquette as I was able to spend time as trainee at prestigious companies, such as Fuji Xerox, FANCL and Yoshinoya. Above all, it was the people that I met – their kindness, and their respect for principles - that left unforgettable memories.

(Visiting YOSHINO-YA Holding)

(Receiving certifications from Prof. Iwatsuki, the University of Tokyo)

【地域研究プログラム（ベトナム研究／日本研究)】

<氏　名>	Nguyen Quang Dieu
<プログラム名>	地域研究プログラム、日本研究
<インターンシップ期間>	2018 年 9 月 10 日〜2019 年 1 月 23 日

地域研究プログラムの 5 名が、2018 年 9 月から 2019 年 1 月までの間、東京大学でのインターンシップに参加させていただきました。
４ヶ月という短い期間ですが、東京大学の聴講生として、講義や研究活動、そして部活動にいたるまでのあらゆる面で「東大生の日々」を過ごすことができ、その苦しさと楽しさを実感しました。
東京大学の他に、早稲田大学や昭和女子大学、山梨県立大学でも充実した講義やフィールドワークにも参加できました。インターンシップ期間中は、日本人学生だけではなく、多くの外国人留学生とも交流することで、世界のボーダーレス化を強く感じることができました。これから日越大学で学んだことを活かして国境を超えたグローバル人材を目指していきたいと思います。

（東京大学の合唱団の定期演奏会に参加）

地域研究プログラムの学生と荒汐部屋を見学）

3　今後の主な予定、行事（予定）

- 4 月 18 日　第 4 回日越大学理事会開催
- 4 月 20、21 日　日越大学ジョブフェア
- 5 月 3 日　RILP セミナー開催
- 5 月 18 日　学生募集説明会

4 人事往来

- 離任
  - 3 月 23 日　桂 良太郎 専門家（プログラム運営・実施：公共政策プログラム）
  - 4 月 1 日　中島　淳 専門家　（プログラム運営・実施：環境工学プログラム）
- 着任
  - 3 月 21 日　岡本 直久 専門家（プログラム運営・実施：公共政策プログラム）
  - 3 月 25 日　谷口 邦生 専門家（大学運営強化）
  - 3 月 30 日　佐藤 圭輔 専門家（プログラム運営・実施：環境工学プログラム）
  - 3 月 31 日　熊谷 真人 専門家（チーフアドバイザー）
  - 3 月 31 日　柳　定賢 専門家（プログラム運営・実施：グローバルリーダーシッププログラム）
  - 3 月 31 日　田中 清子 専門家（プログラム調整：学務）

5　日越大学からのお知らせ

2019 年入学試験日程のお知らせ

引き続き、日越大学修士課程第 4 期生の願書を受け付けています。
昨年は、初の外国人留学生の入学があり、また、今年も日本人大学院生の長期インターンシップを受け入れるなど、学生支援体制も少しずつですが、整備されてきました。
経済発展著しい、熱気あふれるベトナムでの修士課程留学に興味関心のお持ちの方がいれば、是非、募集案内をお知らせください。受験から渡航、就学、卒業まで、現地日本人スタッフが間に入って、サポートしてまいります。

- 二次試験　出願締切：2019 年 7 月 19 日（金）
  試験日程：2019 年 7 月 22 日（月）～31 日（水）
  （インターネット面接可。日程や試験項目の詳細はプログラムによって異なります）

入試情報 URL：http://admission.vju.ac.vn/

日越大学サマープログラム 2019 の募集について

昨年第 2 回目を開催し、たいへんご好評をいただいたサマープログラムを今年も開催する予定です。期間は 8 月 18 日（日）～28 日（水）、費用は昨年と同じ 800 ドル程度を予定しています（いずれも変更の可能性があります）。
詳しい募集案内は 3 月末にホームページに掲載します。
ご関心を持ちそうな学生さんに、是非お知らせください。

【昨年の様子】

□■

【お問い合わせ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://admission.vju.ac.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html
【メール配信停止・変更】
本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.22, 2019 年 4 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。
現在修士課程に 2 期生 82 名、3 期生 80 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の各専攻プログラムを勉強しています。
また、2018 年に入学した第 3 期生には、ミャンマーから 2 名、ナイジェリアから 4 名の計 6 名の外国人学生も入学し、国際大学としての第 1 歩を歩み始めました。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

1. 第 4 回日越大学理事会の開催

4 月 18 日（木）に第 4 回理事会が開催されました。
当日は、日越それぞれ 10 名ずつ（計 20 名）の理事のうち、日本側 9 名（うち 2 名はテレビ会議にて出席)、越側 8 名の計 17 名の理事の方々に出席頂きました。
今回の議題は、①日越大学の 2025 年までの発展戦略と 2035 年までの展望について、②2030 年までの教育研究分野の契約及び 2019 年の事業計画について、③サスティナビリティ学研究院開設に関する提案について、③日本語教育センター開設構想について、でした。
各議題について、理事の方々から日越大学の現状に即した有意義且つ適切なご意見、ご助言を頂き、今後の日越大学の展望と発展に対して大変参考になるものでした。
また、日越大学から提案した各議題について、全て理事会において承認を頂きましたが、日越両国がおかれた現状と課題を見極めながら、適切な対応をとることが肝要であるとのご意見も頂きました。

2. 第 1 回エクゼクティブ・プログラムの開催

日越大学における「社会貢献」の一環として、「第 1 回日越大学エクゼクティブ・プログラム」を 4 月 20 日（土）に独立行政法人国際協力機構（JICA）ベトナム事務所の支援を頂き、JICA ベトナム事務所で開催しました。

当日は、在ベトナム日本大使館から梅田大使、ベトナム日本商工会議所から松下副会頭（パナソニックベトナム）、及びベトナム国内の日系企業の方々を中心に 41 名の参加を頂きました。
また、講師は、ベトナムにおける党、政府の幹部養成機関であるホーチミン国家政治学院副院長及び共産党中央理論委員会委員のグエン・ヴィエット・タオ氏をお迎えし、「ベトナムの政治システム」と題して講義をして頂きました。
更に、コメンテーターとして、ト・フィ・ルア氏（越日友好協会会長、元ベトナム共産党政治局員）もお迎えしました。

講義では、グエン・ヴィエット・タオ氏から、(1) ベトナムの政治システムの概観と特徴、(2) ドイモイ時代におけるベトナムの政治システムの活動状況、(3) 新しい環境のもとでのベトナムの政治システムの活動の刷新、といった内容でベトナムにおける政治システムの長所と短所、時代に即した政治システムの在り方等について、お話しいただきました。
また、モデレーターを務めた古田日越大学学長からグエン・ヴィエット・タオ氏に対して、普段は聞くことができないベトナムの政治システムの疑問点、課題等について質問をして頂き、出席者にとっては、ベトナムの違った一面を知ることができた有意義な講義になりました。

なお、**「第 2 回エクゼクティブ・プログラム」**（テーマ：「ベトナムから見た世界情勢」、講師：ヴー・コアン氏（元ベトナム副首相（対外経済担当）、元共産党中央委員、元共産党書記局員）が 4 月 27 日（土）に開催されましたが、本プログラムの様子は、来月号（5 月号）でお伝えさせて頂きます。

3. ジョブフェアの開催

4 月 20 日（土）～21 日（日）にかけて、日越大学として初めてのジョブフェアを開催いたしました。日越大学学生のみを対象としたフェアでしたが、日系企業 11 社に参加をしていただきました。当日は、午前に会社説明会、午後に採用面接会を実施し、2 日間で約 80 件の書類選考、約 40 回の面接が実施されました。日本、或いはベトナムの日系企業で就職を希望する学生たちは、企業の採用担当者と直接話ができる機会とあって、積極的に就職活動をしていました。
ジョブフェア終了後、参加をした企業からは「日越大学の学生は他のベトナムの大学の学生より、はるかに優秀です。」や「面接をした学生全員を採用したいです。」といった嬉しいコメントが寄せられました。すでに、日本本社との面接がセッティングされている学生もおり、非常に実り多いイベントとなりました。

日越大学 HP：http://vju.ac.vn/job-fair-nde142.html

2　日越大学専任教員の横顔

昨年度から日越大学では、専任教員の雇用を積極的におこない、本学の教育の質の充実を図るために優秀な専任教員を採用しています。
そこで、今月から、各プログラムの専任教員を紹介していきます。
今月は、ナノテクノロジープログラムの Dr. Pham Tien Thanh と環境工学プログラムの Dr. Nguyen Thi An Hang を紹介します。

【ナノテクノロジープログラム】

- ✧ 名　　前：ファン　テイエン　タイン（PHAM　TIEN　THANH）
- ✧ プログラム：ナノテクノロジープログラム
- ✧ 学　　歴：2006 年から 2010 年まで東工大の電気電子学科学部を修了し、2010 年から 2014 年まで東工大の物理電子システム創造専攻で修士課程と博士課程を修了しました。
- ✧ VJU の仕事：東工大の博士課程を卒業した後、ベトナムでの就職を決心し、ベトナムに戻り、日越大学で働くチャンスを見つけました。日越大学は日本の文化とベトナムの文化を融合する場であると考え、その場に日本で蓄えてきた経験や知識を生かせると思っているので、VJU で仕事を始めました。

- ✧ 研究テーマ　：ナノ粒子や金属の薄膜で励起される表面プラズモン共鳴という物理現象を用いて、バイオセンサーや黒体、光吸収体などの開発を研究しています。また、自然界に存在するナノ構造等を分析し、そのナノ構造を用いて、光エネルギーを熱エネルギーに変えるデバイスを研究しています。
- ✧ 将来の研究テーマ：自然界に存在するナノ構造を用いて、海水炭水化や太陽熱蒸気発生に応用デバイスを開発したいと考えています。

【環境工学プログラム】

- ✧ Name　: Dr. Nguyen Thi An Hang
- ✧ Program: Lecturer cum Coordinator of Master’s Program in Environmental Engineering (MEE)
- ✧ Education Background:

  she graduated from VNU University of Science (HUS) with an outstanding degree in Biology.

In the next 2 years, with a full-scholarship from Vietnam Government, she completed her master study with an excellent degree in Soil Science and Environment. She has worked for the Centre for Regional Research and Development (CRD) under Ministry of Science, Technology & Environment (MOSTE) as a researcher, deputy head, and head of the Research and Development Department for almost 10 years. She also had experience as the project and program managers with NGOs. In 2011, she was granted a full-scholarship by Australia Government to study PhD on Environmental Engineering. She completed her PhD course at the University of Technology, Sydney (UTS), Australia in 2015. During her PhD study, she published 01 book-chapter, 07 technical and review papers with high impact factors. As a result, she won PhD student's publication awards from UTS for publishing in high quality journals in 2 consecutive years of 2014, 2015.

✧ Responsibilities at VJU:

Since July 2015, she has started to work for VJU Management Board as an academic staff to prepare necessary conditions for establishing master's programs. When VJU came into operation in 2017, she successfully applied and became the full-time Lecturer cum Coordinator of MEE and works from then till now. Besides teaching, she actively involves in many research activities.

✧ Research Theme:

Her main research interests include water and wastewater treatment, soil pollution, heavy metals decontamination, phosphorus removal and recovery, biosorption, landfill leachate treatment, phytoremediation, constructed wetlands, etc. She is keen on developing and applying environmental technologies, which are research projects, sponsored by VJU, JICA, ARC, and NAFOSTED. She is a key member of VJU's task force to prepare for SATREPS project proposal. She hopes to strongly develop her professional career makes great contributions to VJU, and become a pillar of MEE soon.

3　今後の主な予定、行事（予定）

- 5月3日　　RILPセミナー開催
- 5月4日　　Vietnam Japan Science and Technology 2019 Symposium
- 5月18日　　学生募集説明会（ハノイ）

⌖ 5 月 27 日　　　学生募集説明会（ラオス ヴエンチャン）

4 人事往来

✈ 離任

✧ 5 月 4 日　米田　一弘 専門家　（チーフアドバイザー）

✧ 5 月 7 日　中臣　久　専門家　（プログラム運営・実施：地域研究プログラム）

5 日越大学からのお知らせ

2019 年入学試験日程のお知らせ

引き続き、日越大学修士課程第 4 期生の願書を受け付けています。

昨年は、初の外国人留学生の入学があり、また、今年も日本人大学院生の長期インターンシップを受け入れるなど、学生支援体制も少しずつですが、整備されてきました。

経済発展著しい、熱気あふれるベトナムでの修士課程留学に興味関心のお持ちの方がいれば、是非、募集案内をお知らせください。受験から渡航、就学、卒業まで、現地日本人スタッフが間に入って、サポートしてまいります。

◆ 二次試験　出願締切：2019 年 7 月 19 日（金）
試験日程：2019 年 7 月 22 日（月）～31 日（水）
（インターネット面接可。日程や試験項目の詳細はプログラムによって異なります）

入試情報 URL：http://admission.vju.ac.vn/

日越大学サマープログラム 2019 の募集について

今年の日越大学サマープログラムを募集開始しました。

http://vju.ac.vn/summer-program-2019-is-officially-open-nde143.html

期間：8 月 18 日（日）～28 日（水）　参加費：800 USD

24 日朝に帰国する短期間での参加も可能です（費用は 600 USD となります）

参加定員は 35 名で、申込締切は 6 月 20 日です（定員に達しましたら締めきります）

ご関心を持っていそうな学生さんに、是非お知らせください。

【昨年の様子】

□■

【お問い合わせ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://admission.vju.ac.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.24, 2019 年 5 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。
現在修士課程に 2 期生 82 名、3 期生 80 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の各専攻プログラムを勉強しています。
また、2018 年に入学した第 3 期生には、ミャンマーから 2 名、ナイジェリアから 4 名の計 6 名の外国人学生も入学し、国際大学としての第 1 歩を歩み始めました。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

1. 第 2 回、第 3 エクゼクティブ・プログラムの開催

4 月 27 日（土）に第 2 回エクゼクティブ・プログラムを、また、5 月 11 日（土）に第 3 回エクゼクティブ・プログラムをそれぞれ、JICA ベトナム事務所会議室で開催しました。

第 2 回エクゼクティブ・プログラムでは、講師にヴー・コアン氏（元ベトナム副首相（対外経済担当)、元共産党中央委員、元共産党書記局員）をお迎えし、「ベトナムから見た世界情勢」というテーマで講義を頂きました。
講師のヴー・コアン氏は、1999 年～2000 年に外務次官として、アジア・太平洋地域、ASEAN、APEC を担当され、その後、商業大臣、WTO 加盟交渉ベトナム代表団長を歴任され、2002 年～2006 年に対外経済担当副首相として、ベトナムの WTO 加盟にご尽力されました。
当日は、在ベトナム日本大使館から梅田大使、在ベトナム日本企業から 23 名の方々にご参加いただきました。
講義では、1) 短期・中期的な国際経済情勢について、2) 国際社会の課題について、3) 国際政治と安全保障について、それぞれ同氏の経験、実例を挙げて、分かり易く説明をして頂きました。
また、Q&A セッションでは、参加者から「現状ではベトナムの慢性的な財政的問題について」、「中国とベトナム間の今後の関係について」、「税制改革について」等々、現在のベトナムが抱えている根本的な課題に対しても丁寧にお答えいただきました。

（講師のヴー・コアン氏）

（講義の様子）

第 3 回エクゼクティブ・プログラムでは、講師にヴー・ミン・ザン氏（元ベトナム国家大学ハノイ校副総長、現研究教育評議会議長、日越大学理事、日越大学地域研究プログラム・ディレクター）をお迎えし、「ベトナムの歴史と文化」というテーマで講義を頂き、また、モデレーターは古田元夫日越大学学長がおこないました。
講師のヴー・ミン・ザン氏は、ベトナム前近代史を専門とするベトナムを代表する歴史学者です。また、日本との交流も深く、1996 年には東京大学文学部客員教授として来日され、教鞭をとられた経験があります。
当日は、在ベトナム日本企業から 23 名の方々にご参加いただきました。
講義では、ベトナムにおいて正統とされているベトナム歴史像は、固定的なものではなく、時代を経て変化をしてきましたが、こうした最新のベトナムの歴史学界の描くベトナム史像を過去からの変化も念頭においてお話しいただきました。
また、Q&A セッションでは、参加者から、「最近のベトナムの若者はあまり歴史の勉強を好まないことが問題になっているが、この問題に対する先生のお考えは？」、「植民地支配の歴史的遺産、特に文化的遺産に対するベトナム歴史学界の最近の動向について」、「ベトナムの中高校生は、どこまで 20 世紀のベトナムの歴史を学んでいるのか」等の質問に対して、ベトナムの歴史認識も踏まえた丁寧に回答いただきました。

（講師のヴー・ミン・ザン氏と古田学長）

（講義の様子）

なお、第 4 回エクゼクティブ・プログラムは、6 月 1 日（土）に JICA ベトナム事務所会議室において、第 3 回と同様に講師にヴー・ミン・ザン氏をお迎えし、「ベトナムの歴史と文化」というテーマで講義を頂く予定です。

2. 特別講座「日越における法律に関する諸問題」の開催

5 月 3 日（金）に日越大学において、特別講座「日越における法律に関する諸問題 (Special Lecture on Legal Topics in Vietnam and Japan)」が、特定非営利法人アジア・環太平洋地域法律研究所 (Research Institute of law of Asia-Pacific Region, RILAP) と日越大学の共催で開催しました。

本講義の概要は、①ベトナム民法の基本原則やその原則に則った規程について日本法との比較、②会社のガバナンスの日本における最近の動向や腐敗防止についてで、また、講師を務めて頂いた、先生方のそれぞれの講義のテーマは、

(1) 内藤加代子弁護士:「取締役会の基本的機能及び取締役会の経 営陣に対するモニタリング機能を強化する日本での試みについて」

（上段：内藤弁護士、下段：布井弁護士）

(2) 布井千博弁護士:「コーポレート・ガバナンスと腐敗の防止」
(3) 桜木和代弁護士: 「民法」
(4) 塚原長秋弁護士:「民法の基本原則の適用:とりわけ企業との取引について」

でした。
テーマが日越における法律の諸問題という、極めて専門的な内容でしたが、パワーポイントを効果的に活用し、学生にも理解できるような工夫がされた有用な講義でした。

(上段:桜木弁護士、下段:塚原弁護士)

(講師、参加者及び日越大学関係者との記念写真)

3. **Vietnam-Japan Science and Technology 2019 Symposium の開催**

5月4日、日越大学は日本に滞在しているベトナム人の有志で構成される研究者ネットワーク（The Vietnamese Academic Network in Japan (VANJ)）と協力して、“Towards Sustainable Development”と題したシンポジウムを開催しました（http://vjst.org/index.html#)。約200名が参加し、10カ国から147の論文が投稿・発表されました。論文の著者の70%がベトナムから、24%が日本からの研究者で、他からはマレーシア、ロシア、台湾、アメリカ、ドイツ、韓国、イタリアからでした。

シンポジウムの午前の部では、ベトナム国家大学ハノイ校セミナー会場で全体セッションを行い、ベトナム国家大学ハノイ校元総長の Mai Trong Nhuan 教授から「気候変動に対するベトナムによる対応」について、大阪大学の渋谷陽二教授から「材料と構造のサイズとスケール」について、立命館大学の杉山進教授から「スマートシティの実現に必要なMEMS技術の開発における日越協力」について、また大阪市立大学の川田則文教授から「肝臓の疾患に関する研究」について、講演頂き、発表後、活発な質疑応答がおこなわれました。

(全体セッション会場)

また、午後の部では、会場を日越大学に移し、以下の9つの専門セッションで研究成果が発表されました。

① Applications of AI, ICT, IoT and Robotics in Sustainable Development
② Bio-Medical Sciences and Public Healthcare
③ Clean-Renewable Energy and Smart-Technology for Power Networks
④ Climate Change Mitigation and Adaptation
⑤ Environmental Engineering and Management

⑥ Green Chemistry, Sustainable Agriculture and Food Safety
⑦ Micro/Nano Science, Material Science for Sustainable Development
⑧ Policies and Economical Strategies for Sustainable Development
⑨ Transportation, Infrastructure Engineering

専門セッションは、日越大学での研究分野と VANJ メンバーの専門分野を考慮して設定されたもので、その多様性がシンポジウムの魅力のひとつでもありました。
それぞれのセッションでは、質の高い論文が英語で発表され、活発な議論がおこなわれました。また、セッションでの発表のほか、ポスター発表も実施され、30 件の論文が発表されました。

今回の本シンポジウムの開催によって、日越大学のプレゼンスが高められたことは大きな成果のひとつでした。今回の開催の成功を踏まえて、来年以降も定期的に実施する方向で、更に各大学・機関等と連携構築を進めていきたいと考えています。

（ポスター発表）

（全体セッションでの記念写真）

4. 学生募集説明会の開催

5 月 18 日（金）日越大学にて学生募集説明会を開催しました。
6 月から 7 月にかけて、ベトナムの大学が卒業式シーズンに入ることもあり、大学院進学を検討する学生が増える時期になりました。当日は、日越大学の修士課程に関心を持つ学部生が多く参加し、教職員と熱心に意見交換を行いました。また、日本から TV 会議で参加をした日本人学生からは、「英語の入学資格をしっかり取得して受験したい」と意気込みを語りました。

次回の説明会は、6 月 19 日（水）18：00～19：00 に開催します。

（学生募集説明会の様子）

5. ラオスでの学生募集説明会

5 月 29 日(水)に、ラオス国立大学において初めて開催された「ベトナム留学フェア」に、日越大学が参加しました。ベトナムの隣国であるラオスからは、近年多くの学生がベトナムに留学しており、ラオス学生の獲得に熱心なベトナムの各高等機関も増えています。今回の留学フェアには、

ベトナムから 58 の高等教育機関が参加しました。

留学フェアに併せて、ラオス国立大学の Chanhthavong 副学長を表敬訪問するとともに、JICA プロジェクトによる支援を受けている学内「ラオス日本センター」を訪問し、日越大学の紹介や、新たな奨学金プログラムについて説明しました。
さらに、同大学の自然科学部（Faculty of Natural Science）において個別の説明会を開催し、日本留学経験者である副部門長 Dr. Kesiny Phomkeona（豊橋技術科学大学卒）とも、ラオス国内における教育事情や留学の重要性等、幅広く意見交換を行いました。

日越大学では、昨年初めてミャンマー等からの留学生を受け入れており、今後もとりわけ ASEAN 諸国からの学生受け入れを拡充させたいと考えています。

(留学フェア、個別説明会の様子)

2　日越大学専任教員の横顔

昨年度から日越大学では、専任教員の雇用を積極的におこない、本学の教育の質の充実を図るために優秀な専任教員を採用しています。
そこで、本欄にて、各プログラムの専任教員を紹介していきます。
今月は、企業管理(MBA)プログラムの Dr. Tran Thi Bich Hanh 先生と公共政策 (MPP)プログラムの Dr. Vu Hoang Linh 先生を紹介します。

【企業管理(MBA)プログラム】

- **Name　:** Tran Thi Bich Hanh
- **Program:** Master Program in Business Administration
- **Education Background:**

  Dr. Tran Thi Bich Hanh received her Ph.D degree in Business Administration from University of Ulsan, South Korea in 2017. She earned a Master's degree in Business Administration from University of Ulsan, Korea in 2013 and a Master's degree in English linguistics from Chungnam National University in Korea in 2012. Before that, she got her Bachelor's degree in English education at Hanoi National University of Education in 2006.
- **Process of joining VJU**

  Prior to joining VJU as a lecturer and coordinator of MBA program, Dr.

Hanh joined RMIT University in Ho Chi Minh City as a senior research officer. Earlier to this, she worked as a lecturer of marketing at University of Ulsan in South Korea for one and a half year and participated in research projects with professors in South Korea.

- ✧ **Research Theme:**

  Dr. Hanh's research interest is marketing-related topics. Her particular research interests include consumer behaviours, sales force management, sustainable consumption. Her recent interest topics cover value co-creation, B2B cooperation, and e-commerce. Her research papers appear in reputational journals such as Psychology & Marketing, Total Quality Management & Business Excellence, Journal of Management & Organization, and Social Behaviour & Personality: An International Journal.

- ✧ **Future research plans and aspirations at VJU**

  The ongoing research that Dr. Hanh is carrying out as the principal investigator includes a national-level project (NAFOSTED) on sustainable consumption, a ministerial level project on cooperation between universities and enterprises, and a JICA project on M&As' performance.

(Dr. Tran Thi Bich Hanh)

【公共政策 (MPP)プログラム】

- ✧ **Name** : Vu Hoang Linh
- ✧ Program: Master Program in Public Policy (MPP)
- ✧ **Education Background:**

  Dr. Linh had a Ph.D in Applied Economics from University of Minnesota, U.S.A. in 2008, a Master Degree in Economic Theory from Toulouse School of Economics in 2003, a Master degree in Development Economics and a Bachelor degree in Economics from National Economics University, Hanoi in 2001 and in 1998 respectively.

  He has published in international journals

(Dr. Vu Hoang Linh)

and co-author several books and book chapters. Currently he has 10 published articles in international journals including 5 ISI and 3 Scopus articles. He co-authored two books published by the World Bank.

✧ **Responsibilities at VJU:**

Dr. Linh joined VJU in 2017. Previously to working at VJU, he was a Regional Expert for the Mekong River Commission and a consultant for the World Bank. Dr. Linh was Economist at the Hanoi office of the World Bank from 2012 to 2016, during which he worked on poverty, equity and socio-economic issues. He taught courses in economics at VNU University of Economics and Business from 2012 to 2014 and at Thang Long University from 1998 to 2002. Dr. Linh had experience working as a senior researcher in a government institution, several private consulting companies and an international NGO.

✧ **Research Theme:**

Dr Linh's broad research theme is applied and development microeconomics. He has published on such issues as poverty, agriculture and food consumption, migration, education and social security issues. His current research includes a study funded by Vietnamese Government on the effect of family size and birth order to children's education achievement.

✧ **Future research plans and aspirations at VJU:**

Ongoing and future research plans at VJU includes a study on the access and inequality in Vietnam's higher education system and a study on the implications of aging society for Vietnamese economy.

3　今後の主な予定、行事（予定）

⌖ 6月11日～14日（予定）	運営指導調査
⌖ 6月19日	学生募集説明会（ハノイ）
⌖ 7月20日	第2期生修了式
⌖ 8月5日～18日（予定）	法政大学職員インターンシップ
⌖ 8月18日～28日	サマープログラム
⌖ 9月5日（予定）	第4期生入学式

4 人事往来

➔ 離任

✧ 6月3日　鈴江 敬志 専門家 （産学連携／財務管理）

5　日越大学からのお知らせ

2019年入学試験日程のお知らせ

引き続き、日越大学修士課程第4期生の願書を受け付けています。

昨年は、初の外国人留学生の入学があり、また、今年も日本人大学院生の長期インターンシップを受け入れるなど、学生支援体制も少しずつですが、整備されてきました。
経済発展著しい、熱気あふれるベトナムでの修士課程留学に興味関心のお持ちの方がいれば、是非、募集案内をお知らせください。受験から渡航、就学、卒業まで、現地日本人スタッフが間に入って、サポートしてまいります。

◆　二次試験　出願締切：2019 年 7 月 19 日（金）
試験日程：2019 年 7 月 22 日（月）～31 日（水）
（インターネット面接可。日程や試験項目の詳細はプログラムによって異なります）
入試情報 URL：http://admission.vju.ac.vn/

日越大学サマープログラム 2019 の募集について

今年の日越大学サマープログラムを募集開始しました。
http://vju.ac.vn/summer-program-2019-is-officially-open-nde143.html
期間：8 月 18 日（日）～28 日（水）　参加費：800 USD
24 日朝に帰国する短期間での参加も可能です（費用は 600 USD となります）
参加定員は 35 名で、申込締切りは 6 月 20 日です（定員に達しましたら締めきります）
ご関心を持っていそうな学生さんに、是非お知らせください。

【昨年の様子】

□■

【お問い合わせ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://admission.vju.ac.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】
本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.25, 2019 年 6 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。
現在修士課程に 2 期生 82 名、3 期生 80 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の各専攻プログラムを勉強しています。
また、2018 年に入学した第 3 期生には、ミャンマーから 2 名、ナイジェリアから 4 名の計 6 名の外国人学生も入学し、国際大学としての第 1 歩を歩み始めました。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

1. **修士論文審査会の開催**

(1) 企業管理プログラム

6 月 13 日、14 日の 2 日間に渡って、MBA プログラムの修士論文の最終審査が行われました。今年度は指導教員に最終審査を受けることを認められた 16 名の学生が最終審査に望みました。最終審査では学生が修士論文の内容を説明した後、質疑応答が行われました。時には厳しいコメントや質問もありましたが、学生は、この 2 年間で学んだ知識を活かして回答しました。

(2) 地域研究プログラム

地域研究プログラム（以下、MAS）では、3 分野に分けて修士論文審査会を実施しました。

まず 7 月 13 日（木）に開かれたベトナム研究 2 名の審査会では、いずれも現代ベトナム社会の現象を対象とする社会学的な視点に基づいた内容で、一つは「大学生の現実生活」について、もう一つは「日本マンガのベトナム人年少者に対する影響」について考察したものでした。

続く 7 月 17 日(月)には日本研究のゼンショー支援生 3 名を対象にした審査会を行いました。扱われたテーマは時代や分野が様々で「江戸期の漢詩における子供の表象」から「現代日本語新語における漢語的要素」、また「日本企業のオフショア開発における文化的要素」などが取り

上げられ、審査委員からはいずれも高い評価を受けました。

そして最後に 7 月 18 日（火）には日本研究の日本語教育を専門とする 2 名を対象にした審査会が行われました。ここでは「ベトナムにおける中等レベルの日本語教育政策」および「ベトナムにおける日本語教育分野でのアクティブラーニングの応用性」に関する論文が公表されました。

いずれの論文も学生たちが VJU で 2 年間にわたり学んできた集大成であると同時に、今後の発展に大いに期待したい内容のものばかりでした。日頃から学生たちと身近に接してきた一教員としては、質疑応答に果敢に挑む学生たちを見ながら、自分のことのように痛みを感じつつも、同じ研究者という立場からは彼らの独創的な視点に刺激を受ける機会になりました。今後の益々の飛躍を楽しみにしたいと思っています。

(3) 公共政策プログラム

2019 年 6 月 12 日および 13 日の 2 日間にわたって、公共政策プログラム 2 期生の修士論文最終審査を筑波大学との TV 中継も交えて行いました。

指導教員なっていただいた筑波大学の教員も、ご自身の学生の発表を見守って頂くとともに、審査委員として質疑応答に参加して頂きました。17 名の学生による研究対象は、税制、教育政策、環境政策をはじめとして、多岐にわたっており、本学学生の精力的な興味の深さを改めて認識した次第です。

2. 裏千家淡交会ハノイ同友会による茶道ワークショップに 10 名の学生が参加

6 月 10 日（月）裏千家淡交会ハノイ同友会様のご協力で、10 名の学生が茶道ワークショップに参加しました。

当日は、同会の井芹幹事長による茶の湯に関する紹介の後、同会会員による濃茶のお点前をご披

露いただきました。その後、学生は茶室に上がり、客人としての一連の所作を教えていただき、会員の方が立てた抹茶もおいしくいただきました。

ベトナム人学生にとって、正式な茶道に触れることや茶室に上がる機会はほとんどなく、貴重な機会をいただきました。茶道の美しい立ち居振る舞いに、学生たちはずっと目が釘付けになっていました。公共政策プログラムの学生１名は今年４月に同会に入会し、茶道の奥深さを学び始めました。
https://bit.ly/2MUYJMg

3. **学生募集説明会の開催**

7 月 19 日(金)の第二次募集締め切りに向けて、日越大学では今月は 3 回、奨学金及び入試説明会を開催しました。

経済成長著しいベトナムにおいては、近年、大学院進学率が大きく下がっているというデータがある中で、修士課程のみの日越大学への進学希望者数は横ばい傾向を示しています。今年開設の「グローバルリーダーシップ・プログラム」を始めとする全８プログラムで、引き続き、優秀な学生の獲得を目指して募集活動を続けて参ります。

4. **運営指導調査団来訪**

6 月 11 日（火）～14 日（金）の日程で、3 名の団員からなる運営指導調査団が来越しました。調査目的は、1) 現行技術協力プロジェクトの終了時評価（8 月予定）に向けた方針および評価項目を確認すること。2) 次期技術協力プロジェクトの詳細計画策定調査（8 月予定）に向け、基本方針を伝えるとともに、プロジェクトの枠組み、及び協力内容に関し、日越大学と協議することでした。短期間ながら、日越大学の積極的な協力もあり、想定された成果を得ることができた調査でした。

2 日越大学専任教員の横顔

昨年度から日越大学では、専任教員の雇用を積極的におこない、本学の教育の質の充実を図るために優秀な専任教員を採用しています。
そこで、本欄にて、各プログラムの専任教員を紹介していきます。
今月は、日本語教育プログラムの Dr. Vuong Thi Bich Lien 先生を紹介します。

【日本語教育プログラム】

- **Name** : Dr. Vuong Thi Bich Lien
- **Program:** Japanese Language Education Program (JLE)
- **Education & Working Background :**

  She graduated Bachelor of Hanoi University (HANU,1998), Master of Linguistic Theory (VNU, 2007), and PhD in Graduate School of East Asian Studies of Yamaguchi University in Japan, related to Japanese Linguistic and Education Development (Yamaguchi Univ., 2013).

  Since1998, she had been actively involved in teaching at different universities in Vietnam as well as in consulting in Japanese Language Education. She has taught several courses in undergraduate, for example as Japanese Basic, Japanese Linguistic theory, Japanese Cultural, Japanese History, Reading Japanese Literature, Japanese Language Teaching Method.

  She has enjoyed VJU since September 2017. Before that, she had been working as Japanese teacher in Thang Long University. However, she wanted to improve my ability in teaching and researching in more high level, so that she came to VJU.
- **Responsibilities at VJU/ Research Theme:**

  She is teaching the Basic Japanese Language while researching fields in Japanese Linguistic studies, Japanese culture and Education development studies. she hope that she would like to cooperate with foreign researcher in above fields.
- **Future research plans and aspirations at VJU:**

  She hopes that she will be developed her career in VJU. More importantly, she expects to be able contribute for development of VJU and the educational development of Vietnam, especially to maintain and further develop the Vietnam-Japan relation.

3　今後の主な予定、行事（予定）

7月6日	学生募集説明会
7月20日	第2期生修了式
8月5日～18日（予定）	法政大学職員インターンシップ
8月18日～28日	サマープログラム
9月9日	第4期生入学式

4 人事往来

特記事項なし

5　日越大学からのお知らせ

◆ 2019 年入学試験日程のお知らせ

引き続き、日越大学修士課程第 4 期生の願書を受け付けています。
昨年は、初の外国人留学生の入学があり、また、今年も日本人大学院生の長期インターンシップを受け入れるなど、学生支援体制も少しずつですが、整備されてきました。
経済発展著しい、熱気あふれるベトナムでの修士課程留学に興味・関心をお持ちの方がいれば、是非、募集案内の情報を共有して頂ければ幸いに存じます。
なお、日本人学生に対しては、受験から渡航、就学、卒業まで、現地日本人スタッフが間に入って、サポートをしてまいります。

- 二次試験　出願締切：2019 年 7 月 19 日（金）
  試験日程：2019 年 7 月 22 日（月）～31 日（水）
  （インターネット面接可。日程や試験項目の詳細はプログラムによって異なります）
  入試情報 URL：http://admission.vju.ac.vn/

◆ 日越大学サマープログラム 2019 の開催について

6 月 20 日に今年の日越大学サマープログラムの参加募集を締め切りましたが、過去最多となる 25 名から参加申し込みをいただきました。今年は高等専門学校の学生さんや、日本で学ぶ留学生からの応募もあり、さらに多彩な交流が期待されます。日越大学では現在、皆さんに充分楽しんでいただけるよう、訪問先やアクティビティの調整を進めています。

http://vju.vnu.edu.vn/news/international-news/summer-program-2019-is-officially-open-nde143.html

期間：8 月 18 日（日）～28 日（水）

【昨年の様子】

◆ **日越大学ホームページリニューアル、日本語版ランディングページの公開**

日越大学のホームページ（英語・ベトナム語）のデザインがリニューアルされました。
教員陣の情報・研究成果・産学連携などの情報がさらに充実しております。

また、今回のリニューアルを機に日本語版ランディングページを立ち上げましたので、是非ともご覧ください

☞ 日越大学ホームページ ：http://vju.vnu.edu.vn/
☞ 日本語版ランディングページ ：http://vju.vnu.edu.vn/VietnamJapanUniversity.html

□■

【お問い合わせ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://vju.vnu.edu.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】
本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.26, 2019 年 7 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に 3 期生 80 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)、各専攻プログラムを勉強しています。また、グローバルリーダーシッププログラム (MGL)を 2019 年 9 月から新たに開講する予定です。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

1. **古田元夫日越大学学長が令和元年度外務大臣表彰を受賞**

   古田元夫学長が令和元年度外務大臣表彰を受賞され、7 月 23 日に外務省飯倉公館において、河野外務大臣から直接表彰状が授与されました。

   外務大臣表彰は、国際関係の様々な分野で活躍し、日本と諸外国との友好親善関係の増進に多大な貢献をしている中で、特に顕著な功績のあった個人および団体について、その功績を称えるとともに、その活動に対する一層の理解と支持を国民各層にお願いすることを目的としており、今回、ベトナムからは、16 個人（日本人：12 名、ベトナム人：4 名)、2 団体がこの栄誉を贈られました。

   日越大学は、古田学長のもと、世界で活躍することができる「人材」の輩出をおこない、世界に通用する研究志向大学として、一歩ずつ着実に歩んでいく所存ですので、引き続き、宜しくご支援の程お願いします。

2. **2019 年学位記授与式**

   7 月 20 日（土）にベトナム国家大学ハノイ校 Nguyen Van Dao Hall において、日越関係者、卒業生の家族・友人、第 3 期生在校生、日越大学教職員等、約 200 名のご出席を頂き、修士課程第 2 期生 72 名の卒業式が盛大に執り行われました。

   古田学長からは、卒業生の門出に際し、「① 仕事と人生において、持続可能な発展の理念を心にとめて活用することを期待する。② 日越両国民を結び付ける大使となり、日越双方の文化的価値と精神を体現する模範になってほしい、③ 社会と共同体での日越大学のイメージアップのために積極的に広報をおこない、貢献してくれることを期待する。」旨の祝辞がありました。

   また、来賓としてご出席頂いた、武部勤日越友好議員連盟特別顧問からは、「日越大学は世界初のサステナビリティ大学院として、リベラルアーツを主軸にしているのが特徴であるが、卒業生に「目測力」という言葉を贈る。この目測力というのは、タクシー運転手を例に挙げると、ベテランの運転手の場合は、目・頭・心で正確に状況を把握し、道路状況を見極め、迂回路を使って早く目的地まで到着をすることができる。これはある意味リベラルアーツである。また、これからアジアが世界で地球丸の船長になっていくにあたり、日越大学の卒業生からその船長が出てくる

ことを期待する。」とのご祝辞を頂きました。

更に、芝田浩二上席執行役員（ANA ホールディングス株式会社）からは、「ボーダレス化が進む今日、成長著しいベトナムから、アジアそして世界の持続的発展に寄与する有為な人材として巣立っていくが、日越大学の高邁な建学の理念を胸に刻み、大いに活躍して頂くことを期待している。」旨のご祝辞を頂きました。

卒業生 72 名は、それぞれの新たな道や以前の職場に復職し、日越大学の強力なサポーターとして、日越大学を支えてくれることを確信しています。

3. 修士論文審査会の開催

(1) 環境工学プログラム

環境工学プログラムでは、6 月 29 日（木）に修士論文審査会を行い、2 期生の 12 名が日頃の研究成果を発表しました。学生たちは、環境マネジメントから環境汚染の実態解明、排水処理の技術開発など幅広い研究テーマに取り組みました。
本プログラムのスタッフはもちろん、幹事校である東京大学と立命館大学の先生方、他プログラムの同級生たち、及び後輩の 3 期生らが参加するなか、審査員の厳しい質問にも適格に一生懸命答えている様子が印象的でした。
なお、社会基盤プログラム、ナノテクノロジープログラムでの修士論文審査会の様子については、次号にてご報告させて頂きます。

（修士論文審査会の様子）

（審査会の学生と教員の懇親会）

4. JET プログラム等壮行会

学位授与式の前日、7 月 19 日（金）に、在ベトナム大使公邸において、「JET プログラム／国費留学（日本語・日本文化研修留学生）／アジア高校生架け橋プロジェクト壮行会」が開催され、

日越大学からは、JETプログラムにより日本に派遣される第2期生ホアン・ティ・チャムさんが、梅田駐ベトナム国大使を初め、多くの関係者から激励を受けました。

JETプログラムは、「語学指導等を行う外国青年招致事業」という、世界最大級の語学指導と国際交流を行うプログラムで、「外国語教育の充実と地域レベルの国際交流の進展を図ることを通じて、日本と諸外国との相互理解の増進と日本の地域の国際化の推進を目的として、昭和 62 年度から実施されています(*)。
今年度ベトナムからは、日越大学修了生であるチャムさんを含む3名が派遣される予定で、最長で5年間、日本の各自治体における「国際交流員」として活躍することが期待されています。
（）自治体国際化協会発行のパンフレットによる*

チャムさんは、日越大学地域研究プログラム（日本研究）の第2期生として勉学に励み、2018年5月には、国際交流基金主催の「日本語フェスティバル 2018」のスピーチコンテストにおいて見事1位に輝いた実績があり、また、日本語で修士論文を完成させ、今年6月の論文審査会でも高い評価を得ました。

チャムさんは、他のJETプログラム採択者とともに、8月4日にベトナムを出発して、富山県庁国際課において勤務する予定です。

（写真左：チャムさん（左端）と他のJETプログラム採択者・梅田大使）
（写真右：JETプログラム採択者・国費・架け橋プロジェクト採択者・大使御夫妻・来賓の方々）

5. **日越大学付属日本語教育センター（JLEC）実務関係者意見交換会の開催**

2018年5月31日の日越共同声明において、「日本語教師の質的な向上及び数の増加を含む、日本語教育のための環境のさらなる整備」に向けた協力の一環として、日越大学付属日本語教育センター（JLEC）の開設が明記されました。それを受け、日越大学では、7月22日にJLEC設立に向けた実務関係者意見交換会を開催しました。

当日は、在越日本大使館や国際交流基金の他に、ハノイ市内で日本語教育を行う日本語センターや技能実習生送り出し機関で従事する日本語教師が多く集まりました。

日越大学から、JLEC設立に向けた日本語教師向けパイロット研修の紹介が行われ、活発な意見交換がおこなわれました。パイロット研修は今年8月から12月までの4か月間実施され、ハノイ市内で日本語教育に従事する教員を対象に、日本語会話の指導能力向上を目指したトレーニングを行います。

2　日越大学専任教員の横顔

昨年度から日越大学では、専任教員の雇用を積極的におこない、本学の教育の質の充実を図るために優秀な専任教員を採用しています。そこで、本欄にて、各プログラムの専任教員を紹介していきます。今月は、社会基盤プログラムの Dr. Nguyen Tien Dung 先生とナノテクノロジープログラムの Dr. Bui Nguyen Quoc Trinh を紹介します。

【社会基盤プログラム】

✧ **Name: Nguyen Tien Dung**

✧ **Program: Master program in Infrastructure Engineering (MIE)**

✧ **Education background:**

Dr. Nguyen graduated Bachelor of Engineering in Civil and Industrial Construction Engineering (NUCE, 2001), Master of Engineering in Engineering Geology (AIT, 2004), and PhD in Geotechnical Engineering (Dong-A Univ., 2008).　Since 2009, he has actively worked as a scholar and consulting engineer in the area of geotechnical engineering. Dr. Nguyen has published more than thirty technical papers in the field of geotechnical engineering, of which ten papers are in ISI indexed journals.

✧ **Process of joining VJU**

Prior to joining VJU as a lecturer and coordinator of MIE program, Dr. Nguyen had worked as a lecturer and researcher at Dong-A University, S. Korea, for more than seven years. During his time at Dong-A University, he also participated in as a part-time lecturer at other universities in Korea and Vietnam. Besides, he also actively involved in consulting work for industrial firms in Korea and Vietnam.

✧ **Research themes**

Dr. Nguyen's researches focus on the following fields in geotechnical engineering: (*i*) deformation behavior of geomaterials; (*ii*) bearing capacity and settlement of shallow and deep foundations; (*iii*) ground improvement. Rather than theoretical approach, most of the researches are conducted using laboratory and filed experiments.

✧ **Future research plans and aspirations at VJU**:

As staff member of MIE program of VJU, Dr. Nguyen is inspired to contribute his knowledge to a more sustainable infrastructure system of Vietnam in the aspect of better or optimal solutions for foundation work of construction projects. In particular, he would focus on doing researches on ground improvement and deep foundations. Besides, he would also actively involve in researches related to tunneling in urban areas such as Hanoi and HCM cities.

(Dr. Nguyen Tien Dung)

【ナノテクノロジープログラム】

✧ **Name**: BUI NGUYEN QUOC TRINH

✧ **Program**: Nanotechnology Program

✧ **Education Background**:

Dr. Trinh had been awarded, a high-school degree in 1998, a bachelor degree in 2002 and a master degree in 2004 at VNU University of Science, Hanoi, Vietnam; a doctor degree in 2007 at Japan Advanced Institute of Science and Technology (JAIST).

✧ **Process of joining VJU**:

Right after having a PhD degree in 2007, Dr. Trinh with a position of post-doc researcher worked at JAIST. From 2008 to 2012, he with the same position changed to Japan Science and Technology Agency, Exploratory Research for Advanced Technology. Prior to join VJU, he was a senior lecturer at VNU University of Engineering and Technology (VNU-UET) for seven years.

✧ **Research theme**

His research interests included non-Si based semiconductor nano-materials and nano-devices, ferroelectric memories technology, flexible display technology, solar-cell development, and atmospheric-pressure plasma application.

✧ **Future research plans and aspirations at VJU**

- Future research plans

Eight years ago, we succeeded to develop a ferroelectric-gate thin film transistor by using all solution processes, for the very first time in the world, towards printable inorganic electronic devices. Based on such findings, a future research plan will be proposed at Vietnam Japan University as follows. (1) Developing thin film transistors using low-costed materials for display technology; (2) Scaling down devices with non-vacuum technology; (3) Fabricating inorganic solar cells with all solution process, towards printable solar-cell panels; (4) Opening a novel research direction on nanoelectromechanical system, satisfying to low-carbon network.

- Aspirations

Fortunately, he was a member in the delegation of Vietnam National University, to discuss with Japanese professors at Osaka University for the construction of master program in nanotechnology in VJU, in 2015. Furthermore, after a close-knit duration for 8 years in Japan and 16 years at Vietnam National University, he's expecting to transfer whole researching and educating experiences to students. That is, he understands in depth both Vietnamese and Japanese societies require high-quality human resources, in order to catch up the 4.0 industrial revolution, in which nanotechnology is one of key basis. Therefore, he with great honors would have a small contribution to solve the outcome matter of undergraduate and graduate students in both Vietnam and Japan for the long-term period.

✧ **Others**

From a point of view in scientific society, he has contributed to international conferences as a committee member, a symposium chair, an invited speaker, and a reviewer for ISI journals.

Taken at VJU on the first working day (2019/03/01).

Taken with my 1st intake VJU student, for VJU advertisement at Waseda University (in 2017). He's now working at Tokyo.

Taken with my 1st intake VJU student, during internship at Kansei Gakuin University (in 2017). He's now doing PhD degree at National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan.

3 今後の主な予定、行事（予定）

- 8 月 5 日～17 日　　法政大学職員インターンシップ
- 8 月 11 日～17 日　　法政大学フィールドワーク
- 8 月 18 日～28 日　　サマープログラム
- 9 月 9 日　　第 4 期生入学式

4 人事往来

- 離任
  - 8 月 17 日　浅田 康史 専門家 （業務調整 2）
- 着任
  - 7 月 29 日　神崎 博之 専門家 （産学連携／財務計画）
  - 8 月 12 日　浅水 伸介 専門家 （業務調整 2）

5 日越大学からのお知らせ

◆ **日越大学サマープログラム 2019 の開催について**

間もなく開催される今年の「日越大学サマープログラム」には、過去最多となる 27 名から参加

申し込みをいただきました。今年は高等専門学校の学生さんや、日本で学ぶ留学生からの応募もあり、さらに多彩な交流が期待されます。
日系企業訪問や日本企業と深いつながりを持つベトナム企業人からの講演や、企業訪問等、日越大学ならではの充実したプログラムとなるよう、さらに調整を進めています。
http://vju.vnu.edu.vn/news/international-news/summer-program-2019-is-officially-open-nde143.html

期間：8 月 18 日（日）～28 日（水）

【昨年の様子】

◆ **日越大学ホームページリニューアル、日本語版ランディングページの公開**

日越大学のホームページ（英語・ベトナム語）のデザインがリニューアルされました。
教員陣の情報・研究成果・産学連携などの情報がさらに充実しております。

また、今回のリニューアルを機に日本語版ランディングページを立ち上げましたので、是非ともご覧ください

☞ 日越大学ホームページ：http://vju.vnu.edu.vn/
☞ 日本語版ランディングページ：http://vju.vnu.edu.vn/VietnamJapanUniversity.html

□■□

【お問い合わせ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://vju.vnu.edu.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】
本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.27, 2019 年 8 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナム・ハノイで開校しました。
現在、修士課程に 3 期生 80 名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語等の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の各専攻プログラムを勉強しています。また、グローバル・リーダーシッププログラム (MGL)を 2019 年 9 月から新たに開講する予定です。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

1. 2019 年第 2 回入学試験の実施

日越大学修士課程では、入学試験を年に 2 度実施しており、今年も 3 月と 7 月に実施しました。

経済発展著しいベトナムにおいて、大学院全体の受験者数は減少傾向にあるものの、日越大学では、昨年とほぼ同じ 141 名の受験者があり、このうち約 90 名超の学生が、第 4 期生として 9 月に日越大学に入学する見込みとなっています。
昨年度はミャンマーやナイジェリアといった、外国籍学生を受け入れましたが、今年度も、日本、ラオス、スリランカ、フィリピンといった、さらに多様な国籍の学生が仲間に加わる予定です。

また、今年度は新たに、地球・地域規模課題の解決を牽引できるグローバルリーダー・高度職業専門人を養成する「グローバル・リーダーシッププログラム」が開設されるため、さらに多様な、教育・研究活動が期待されています。

2. 日越大学サマープログラム 2019 の開催

8 月 18 日から 27 日までの期間、今年で 3 回目となるサマープログラムを実施しました。

今年は、6 日間で終了する短期プログラムと、10 日間の長期プログラムの 2 種類を実施し、昨年の参加者 13 名から倍以上となる 27 名の学生を受け入れました。日本に留学中の中国籍学生や、4 校の高等専門学校を含む 11 機関からの学生が集まり、昨年以上に、日越大学主催ならではの、多様な学生交流が実現できました。

プログラム内容についても、ベトナム語入門や JICA 専門家によるベトナム文化・社会についての講義、ベトナム企業の CEO を招いての特別講義、さらに市内観光、ドンラム村の文化的景観や民族博物館の見学、外部のベトナム人講師による月餅作り体験、更に、在ベトナム日系企業訪問として、AEON 及び AEON Mall 訪問に加えて、モールより出される廃棄物のリサイクル工場見学といった、ベトナムにおける経済発展に伴う社会問題についての学習もおこないました。また、ハノイ市内の他大学を含む学生交流プログラム、さらに日越の学生が一緒に行動する二つの世界遺産見学など、日越大学ならでは、濃密なプログラムとなりました。

サマープログラムは来年以降も継続して実施できればと考えています。

3. 日越大学付属日本語教育センター（JLEC）でのパイロット研修を開始

本パイロット研修が 8 月 15 日に始まりました。この研修は、2020 年以降に予定されている JLEC 事業のための試験的プロジェクトとして実施され、「反転授業」の指導技術を学び、日本語会話と文法の実践的な教え方を習得することを目的としています。受講生は 6 名で、ベトナムの日系企業や、日本の技能実習生受入機関で業務経験のある方々です。

オリエンテーションでは、早稲田大学日本語教育プログラムの宮崎里司教授からパイロット研修の目的についての説明がありました。また、粟飯原 JICA 専門家、松浪 JICA 専門家より、全体のスケジュール、シラバス、学習目標などの説明がありました。

この研修は、理論、実践、実習の 3 つの項目から構成されており、合計 36 時間のコースで、12 月上旬まで実施されます。参加者からは、「日本語の指導力を向上したい」「多くの指導方法を学びたい」などといった意気込みが感じられました。

（パイロット研修の様子）

4. 修士論文審査会の開催

(1) 社会基盤プログラム

2019 年 6 月 24 日に、日越大学社会基盤プログラムの 2 期生に対する修士論文審査会が行われました。
1 期生では 7 名が修士論文を発表したのに対し、2 期生には 12 名が発表し、人数が 2 倍近く増え、また、1 期生と 2 期生の審査会では、実施の形式が大きく変わりました。1 期生の審査会ではベトナム従来の審査会の形に準じて、学生の発表の前に、司会者が学生の名前、卒業した大学、日越大学での履修科目の平均点を読み上げた後に、審査委員 2 名が予め用意したコメントと質問を読み上げる形式でしたが、2 期生の審査会ではこういった形式的な活動を一切省き、審査員と学生との間の質疑応答に徹し、日本の大学での審査会に準じる形になりました。
審査会において、十分な内容を説明し、かつ所定時間内に発表を終えることを教員が指導し、学生が徹底的に練習を繰り返した結果、本番の発表では学生が流暢な英語で研究成果を発表

し、入学した当時の英語力から大きく成長したことが確認できました。これは日越大学における 2 年間の学習の成果の一つであると考えています。

12 名の 2 期生の研究テーマは実に多様であり、「太陽光パネルの材料となるプレートの力学特性のシミュレーション」、「ベトナム全土の風力エネルギーマップの作成」、「基礎杭の形状改良の最適形状の算定」、「BRT（専用レーンで走るバス）の導入効果の分析」、「都市内地価の推定」など、いずれも実質的な課題に着目し、科学的な根拠に基づき、データの分析をおこなったり、シミュレーションをおこなったりと、実践的な成果を示すことができ、審査の結果、12 名全員が合格しました。

今後、修士論文の結果を取りまとめた論文が学術誌へ投稿されており、出版される日を是非ご期待ください。

（学生による発表の様子）

（2 期生と審査会に出席した教員）

(2) ナノテクノロジープログラム

6 月 17 日にナノテク・プログラムの 10 名の学生が、学生、教員及び VJU 関係者約 30 名が参加する中、最終修論発表をおこないました。また、日本側教員と共同ディレクターの渋谷教授も遠隔で参加いただきました。

修論審査会では、「癌を早期に発見するセンサーの新材料を計算科学で設計する研究」、「 バイオセンサーを活用した実験研究」、また、「鉄の炭素ドーピング効果に関する研究」のテーマなどが発表され、10 名の学生全員の修論研究の方向性や研究結果が高く評価されました。

卒業後、2 名の学生（Mr. Ta Thi Luong、Mr. Ho Ngoc Nam）は大阪大学 Quantum Electronic Design Course (QEDC)の博士課程に進学し、大阪大学推薦の国費奨学金を受けられることになりました。また、他 1 名の学生（Mr. Nguyen Thanh Hai）は、国立研究開発法人 物質・材料研究機構 (NIMS)の ジュニア研究員として採用される可能性があり、採用された場合は、生活費等を心配することなく、研究に専念できることになります。

（2 期生と審査会に出席した教員）

5. 法政大学職員インターンシップ受入

昨年に引き続き、今年も VJU と法政大学との協定に基づき、8 月 5 日～17 日の 2 週間、法政大学の職員（法政大学人事部人事課、佐藤宏喜さん）をインターンシップ生として受け入れました。

今回は、学生支援や教務だけでなく、人事課職員との意見交換の時間も持っていただき、先進的な法政大学の事例についてご紹介いただきました。また、ベトナム人の就業意識や大学における就職支援をテーマに、VJU の学生や職員に対してのみならず、ハノイ法科大学やハノイ大学（旧外国語大学）でもヒアリングを行った結果を取りまとめ、最終プレゼンテーションで VJU の職員に紹介いただきました。

多くの VJU の職員が、日本の大学職員としての豊富な業務知識や経験のみならず、自発的に行動する中で課題を発見し、課題解決・政策を提言するという佐藤さんの働く姿勢に感銘を受け、大学職員としてのあるべき姿について改めて考える機会となったと語っています。また、佐藤さんにとっても、異なる言語や環境の中、知恵を絞って自分の力で取り組んだ経験は今後の大きな自信と糧になるに違いありません。

今後も双方の成長に繋がる本プログラムの継続と更なる発展に向けて取り組んでいく予定です。

6. 法政大学 SDGs フィールドワーク実施

8 月 11 日から 17 日まで、タインホア省の LASUCO 社で、「持続可能な地域開発と企業の役割」に関するフィールドワークが実施され、法政大学から 6 名、日越大学側から 11 名の学生及び教職員が参加し、日越協働型の「サスティナビリティとは何か」を学ぶユニークな協働研修プログラムが開催されました。

LASUCO 社は、日越大学と昨年、学術交流協定を結び、有機農法による「砂糖会社」から、現在では、「竹に関するエコパーク事業」にまで発展させ、9 月には世界の竹の専門家を集める国際会議を誘致する企業集団として、「サスティナビリティ社会」とは何かを学ぶ『もう一つの学び舎』的存在として注目を浴びています。

今回のプログラムでは、日・越の学生が寝食を共にし、お互いの壁を取り払い、協働をすすめることができ、参加した学生にとって貴重な体験となりました。

（LASUCO 社でのフィールドワーク）

（参加者の記念写真）

7. プロジェクト終了時評価、及び次プロジェクト詳細計画策定調査実施

8 月 8 日～21 日の期間、終了時評価調査団が来学しました。今回の調査目的は、（1）プロジェクト終了時における成果、実施プロセスの確認、評価 5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）に基づく評価、及び、（2）次期技術協力プロジェクト（TC2）の開始に向けたベトナム側関係機関（日越大学、VNU 幹部）との協議でした。

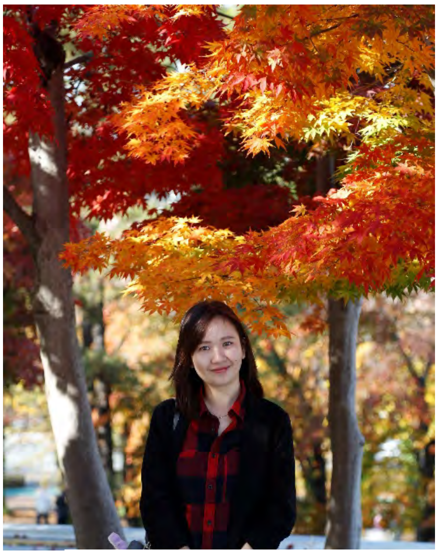
期間中、日越大学幹部、VJU 専任教員及び長期専門家等へのヒアリングが行われ、TC１に係る評価、及び TC2 に向けての課題、今後の対応に関する方向性について、プロジェクト関係者間で整理をすることができました。

2　日越大学専任教員の横顔

昨年度から日越大学では、専任教員の雇用を積極的におこない、本学の教育の質の充実を図るために優秀な専任教員を採用しています。そこで、本欄にて、各プログラムの専任教員を紹介していきます。最後を飾るのは、環境工学プログラム (MEE)の Dr. Tran Thi Viet Ha 先生を紹介します。

【環境工学プログラム】

1. Name: Tran Thi Viet Ha
2. Program: Master Program of Environmental Engineering (MEE)
3. Education Background:
   Dr. Ha received her Ph.D. in Environmental Engineering from Ulsan University, Republic of Korea in February 2018. Before that, she got the Bachelor's degree in Environmental Management at VNU Hanoi University of Science in 2009.
4. Process of joining VJU
   After graduation, Dr. Ha worked as senior researcher at UTO Engineering company - which is focus on Environmental Engineering - in Korea. In October and November 2018, Dr. Ha joined Air Environment and Energy Research Laboratory in Civil and Environment Engineering Department, University of Ulsan, Korea as an invited lecturer. Dr. Ha joined VJU as a full-time lecturer in December 2018.



筆者の Dr. Tran Thi Viet 先生

5. Research theme
   Dr. Ha's research theme is Environmental Engineering, specify in advanced materials (photocatalyst, anti-wetting/super-wetting surface etc. for environmental treatment. Her research papers appear in the top journals in Environmental Engineering or Material Science area such as Journal of Hazardous Materials, Scientific Reports, Journal of Photochemistry and Photobiology A: Chemistry, etc.
6. Future research plans and aspirations at VJU
   Future research plans at VJU includes the study on the developing of advanced materials for environmental treatment. She also joined several projects at on cooperation between universities, and a Jica project for full time lecturer of VJU.

3　今後の主な予定、行事（予定）

- 9月6日　　東洋英和女学院吉川教授ゼミ　来学
- 9月6日　　静岡大学アジアブリッジ・プログラム(ABP)海外研修　来学
- 9月9日　　第4期生入学式
- 9月18日　 電経連（電機･電子･情報通信産業経営者連盟）海外研修　来学

4 人事往来

特記事項なし

5　日越大学からのお知らせ

◆ 第3期生インターンシッププログラムの実施について

9月より順次、合計で72名の修士2年次学生（第3期生）が、日本の各幹事大学を中心に、インターンシップを開始します。
実施期間は1週間程度から4か月程度まで多様ですが、必修科目であるインターンシップは、日越大学修士課程カリキュラムの大きな特色の一つで、日本の各大学において、修士論文執筆に向けた高度な研究・学習を行うとともに、企業訪問や短期実習、また日本企業担当者との面会などを予定しています。このインターンシップを通じて、研究面での成果だけでなく、日本の社会や文化への理解がより深まることが期待されており、関係する皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

◆ 日越大学ホームページリニューアル、日本語版ランディングページの公開

日越大学のホームページ（英語・ベトナム語）のデザインがリニューアルされました。
教員陣の情報・研究成果・産学連携などの情報がさらに充実しております。

また、今回のリニューアルを機に日本語版ランディングページを立ち上げましたので、是非ともご覧ください

☞　日越大学ホームページ　　　　：http://vju.vnu.edu.vn/
☞　日本語版ランディングページ　：http://vju.vnu.edu.vn/VietnamJapanUniversity.html

□■

【お問い合わせ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://vju.vnu.edu.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.28, 2019 年 9 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナムハノイで開校しました。
現在、修士課程に 3 期生 79 名の学生が在籍し、9 月から第 4 期生 92 名（うち 14 名の外国人学生：日本人 1 名、ミャンマー人 5 名、ラオス人 1 名、フィリピン人 1 名、スリランカ人 1 名、ロシア人 1 名、ナイジェリア人 3 名、コンゴ人 1 名）【9/27 時点】が加わり、計 171 名の学生が、共通科目の日本語と英語等の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)、グローバル・リーダーシップ (MGL)の各専攻プログラムを勉強しています。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

1. 第 4 期生入学式の開催

（第 4 期生入学式）

9 月 9 日（月）に VNU Nguyen Van Dao Hall において、第 4 期生入学式を挙行しました。
式典では、修士課程の学生 92 名の他、日越大学関係者（在学生、教職員）、ご家族、日越民間企業の方々、大学関係者、JICA 関係者、そして、来賓として、日本側から、武部勤先生（日越友好議員連盟特別顧問）、越村敏昭相談役（東急株式会社）、岡部大介公使（在越日本大使館）、田中寧理事（JICA）、また、ベトナム側からは、Truong Tan Sang 元ベトナム国家主席、To Huy Rua 先生（越日友好協会会長）、Nguyen Kim Son 総長（ベトナム国家大学ハノイ校）等にご臨席いただき、合わせて約 200 名に出席頂きました。

式では、古田学長から、「日越大学は、ベトナム、日本、地域、世界で国際的な資質を持った人材の養成をおこなうという使命をもっており、そのためには、「広い分野での応用力をもつ幅広い基本的な知識を統合する能力」、「社会の大きな変化に対応できる能力」、「高い道徳性や倫理性をもった指導的役割を発揮できる能力」が必要であり、本学では、あらゆるしがらみから解放することを目標とした教育、構成員の多様性と学生ひとりひとりの個性を重視する教育をおこなっていきたい。」との告辞が述べられました。

また、来賓を代表し、武部勤先生からは、「この大学はリベラル・アーツ教育を目指しており、

高度な専門知識を修得することも必要だが、幅広い様々な知識を身につけて頂きたい。そして、皆さん自身で、サスティナビリティ学大学はこうあるべきだということを考えて実現して頂きたい。」との力強い励ましのお言葉を頂きました。

更に、越村敏昭東急株式会社相談役からは、「今後求められる社会での適応力の源泉は、専門知識だけではなく、むしろ自然科学、社会科学、文化や近代史等の幅広い知識、即ち「リベラル・アーツ」であるので、あらゆる事象に興味や関心をもち、環境に適応し、日本とベトナム両国間の政治、経済関係発展のキーパーソンとして活躍することを期待する。」との祝辞を頂きました。

これに対して、新入生を代表して、MGL プログラムの Tran Huong Giang さんから、「日越大学は、学問、人間形成の面から、学生を開発、発展させることのできる最適な大学であると確信しており、卒業後に大学で習得した知識、経験を基礎にして、それぞれの専門分野において主導的役割を果たすことができる人材になることを誓います。」との宣誓が述べられました。

2. サスティナビリティ学研究院開所式の開催

第 4 期生入学式に先立ち、サスティナビリティ学研究院 (ISS)の開院式を挙行し、来賓として、三村信男茨城大学学長、Pham Bao Son ベトナム国家大学ハノイ校副総長等をお招きしました。

古田学長から、「日越大学は、本日、ISS を開院し、中島淳教授を初代院長としてお招きした。本学は研究志向大学として歩んでいるなかで、この研究院の開院は本学として大きな一歩となった。今後、ISS がサスティナビリティ・サイエンスの分野において、地域の権威のある研究機関となるよう、VNU とその提携大学及び日本の関係機関の支援を受けることを期待している。」との告辞が述べられました。
また、初代院長に就任した中島淳教授からは、「今後、ISS は、研究だけでなく、国内外の科学者を招いて専門的な交流や活動を積極的におこない、国際的な学際的研究グループを形成する役割を果たしていきたい。」と抱負が述べられました。

更に、式典の最後に、三村信男茨城大学学長に「パリ協定（気候変動）後の変化」と題して、「変革の時代の大きな流れ」、「パリ協定と SDGs の影響」、「社会的、環境的、経済的問題への統合的アプローチ」、及び「サスティナビリティ・サイエンス研究の課題」という 4 つのトピックスで、特別講演をおこなって頂きました。

（中島淳 ISS 所長

（三村信男茨城大学学長）

（来賓出席者）

3. 電機・電子・情報通信産業経営者連盟（電経連）の来学

9 月 18 日（水）、電機メーカー58 社が加盟する日本の電機産業の人事・労務関係の経営者団体である電経連の海外研修の一環として、日本を代表する 11 社の電機メーカー（下記参照）の方々が VJU を訪問され、古田学長による VJU 紹介、オアイン副学長によるベトナムの高等教育や人材育成の現状に係る説明、質疑応答に引き続き、学生・教員との交流が行われました。

開始に先立ち、参加者代表の篠崎氏（東芝株式会社）より、「ベトナムは経済が急成長しており、活気に溢れている。建学の精神を持つ VJU の皆さんとの交流を通して、日本とベトナムの友好関係を築きたい」と、挨拶がありました。

古田学長、オアイン副学長によるブリーフィングに引き続き行われた交流会には、20 名程の学生・教員が参加しました。
参加者からは「VJU の学生さんは日本語、英語、ベトナム語ができるので大きなアドバンテージである」、「将来はベトナム人をより多く雇っていきたいので、日本語を頑張ってもらいたい」との激励がありました。また、「日系企業は長い目で人を見ている。社員に対する研修を重視しており、社員は自分の成長を実感できるのではないか。それが日系企業の（報酬以上の）魅力ではないか」という話等、熱心な意見交換が続きました。

今回参加した学生の多くは入学したばかりの 1 年生で、初めて日本企業の人事・労務担当者と直接話をする機会となり、積極的な学生の姿勢に、参加者の皆さんにもベトナムの活力、VJU 学生の魅力を感じていただけたことと思います。

※（名簿順）沖電気工業(株)、ソニー(株)、(株)東芝、日本電気(株)、パナソニック(株)、(株)日立製作所、富士通(株)、富士電機機器制御(株)、三菱電気(株)、(株)明電舎、電機・電子・情報通信産業経営者連盟

（来訪者と参加した学生、教職員）

4. 第 4 期生オリエンテーションの実施

9 月 3 日（火）から 7 日（土）にかけて、第 4 期生に対するオリエンテーション・ウィークが実施されました。
日越大学で行われるリベラル・アーツ教育についての説明や、大学での研究活動、研究者倫理といった学内講義の後、9 月 5 日には Vinh Phuc 省に移動して、チーム・ビルディングのためのアクティビティを実施しました。新入生や教職員が一体になって、さまざまなゲームに挑戦し、新たな学生生活を送るための「絆（きずな）」を深めました。

（参加者全員での記念撮影）

（チーム・ビルディングのためのアクティビティの様子）

5. 日本の大学との交流

(1) 静岡大学アジアブリッジ・プログラム (ABP)海外研修

9 月 6 日に、静岡大学アジアブリッジ・プログラム (ABP)の海外研修の一環として、6 名の学部生と教職員 3 名が本学を訪問しました。

本海外研修は「目指せ、ネクストグローバルリーダー」をテーマに、海外で活躍する日本のグローバルリーダー（ブリッジ人材）との交流を通して、将来、グローバルリーダーとして活躍するための知識と経験を積むことを目的としたもので、高等教育分野におけるグローバルリーダーとしての古田学長に焦点を当てた講義及び質疑応答が行われました。
古田学長からは日越大学の紹介に加え、ベトナム研究を始めたきっかけやベトナムでの生活を始めた頃の苦労、長いベトナムへの関わりを経た現在の日越大学への強い思い等を話され、非常に興味深い内容になりました。

(2) 東洋英和女学院大学

9 月 6 日(金)に、東洋英和女学院大学国際社会学部の吉川健治教授と、ゼミ学生 9 名が本学を訪問しました。
吉川ゼミの本学訪問は、昨年度に続いてのもので、国際協力に関心のある学生さんに対し、常駐する専門家より日越大学や JICA プロジェクトの説明を行うとともに、学内見学を実施し、ベトナムと日本の関係について、またベトナムの現状について理解を深めました。

(3) 立命館大学

9 月 12 日(木)に、立命館大学国際関係学部の大田英明教授と、ゼミ学生 7 名が本学を訪問しました。
この日の訪問では、今月入学したばかりのグローバル・リーダーシップ・プログラムの第一期生が、国際機関の役割や入学動機、また今後の学習・研究や将来への抱負についてなど、幅広く英語でディスカッションを行い、双方にとって有意義な時間となりました。

（立命館大学学生と日越大学学生との交流の様子）

6. ベトナムでの幹事大学情報

(1) 茨城大学

日越大学入学式の前週は各プログラムのイベントで目白押しでしたが、MCCD でも新入生歓迎パーティーとオリエンテーションを開催し、茨城大学からは三村学長をはじめ総勢 12 名の教職員が駆け付け、新入生達を祝いました。

オリエンテーションでは、気候変動科学、気候変動影響・脆弱性、気候変動適応・緩和策をテーマとするグループに分かれ、学生達は初めての共同作業となるグループワークを経験しました。また MCCD 修士課程の 2 年間で自分は何を学び、将来何になりたいのか、教員と先輩達も交えながら熱い議論が交わされました。

彼らの先輩となる 2 年生によるセッションでは、日越大学の厳しい学生生活において成功するための様々な Tips が学生の視点から紹介され、この日緊張し通しだった新入生達にとっては最もためになる話のようでした。

（オリエンテーションの様子）

(2) 筑波大学

9 月 16 日に、公共政策プログラム幹事大学である筑波大学の国際室長・大根田教授はじめ 8 名の教員・職員が、本学を表敬訪問されました。

今回の来越は、「ベトナム・インドネシアにおける筑波大学留学フェア・高校説明会」が主目的でしたが、スケジュールの合間を縫って来学され、本学の今後の展開などについての意見交換がなされました。

一行は 16 日ハノイ市内、17 日ホーチミン市内のそれぞれ国家大学傘下の大学(自然科学大学、人文社会科学大学、附属高校等)において模擬授業を行い、非常に多くの学生が参加しました。

（筑波大学と本学との意見交換）

（模擬講義の様子＠自然科学大学, VNU）

7. 日越大学協定締結情報

8 月 26 日、研究・教育の発展充実を目指し、古田学長は大阪産業大学（大阪府大東市）との大学

間交流に係る包括協定に署名しました。これにより、今後、同大学との学生・教員交換、研究・教育協力を含む積極的な連携協力が推進されることが期待されます。

本学では、開設以来、国内外の大学・部局等との人材および教育・研究交流の発展に向けた連携を進めており、大阪産業大学が19番目の協定締結先高等教育機関となります。

2　日越大学専任教員の横顔

昨年度から本学では、専任教員の雇用を積極的におこない、本学の教育の質の充実を図るために優秀な専任教員を採用しており、各プログラムの専任教員を紹介していきます。

今回は、本年7月に、本学では初めて採用された日本人専任教員の地域研究プログラム(MAS)の上田新也先生、及び、来年度から開設予定の学部において開講される日本学プログラムの専任教員である Dr. Duong Thi Thuy 先生をご紹介します。

【地域研究プログラム(MAS)】

（上田新也先生）

1. 氏名　　：　上田　新也（UEDA Shinya）
2. プログラム名：　地域研究プログラム（ベトナム学）
3. 学歴 (Education Background)：
   2000年3月：早稲田大学法学部　卒業
   2003年3月：広島大学文学部 (編入学)　卒業
   2006年3月：広島大学文学研究科修士課程　修了
   2010年3月：広島大学文学研究科博士課程　修了
4. 日越大学に働くことになった経緯：
   広島大学に院生として在籍時より長らく近世ベトナム史、特に村落文書を活用した研究をおこなってきましたが、私の研究手法上、現地での史料収集に多くの労力を割かざるをえません。ベトナムの研究機関に所属することは、研究上の地の利が得られるうえ、ベトナム語やその他の点で自分のスキルアップにもつながると考えています。
5. 研究テーマ：　近世ベトナム史、村落文書
6. 日越大学での研究計画と抱負：
   これまで主に近世ベトナムの制度史や村落文書を用いた社会経済史を中心に研究してきており、おぼろげながら「ベトナム版小農社会」が明らかになってきました。これからはフエを中心とした村落文書の収集を進めつつ、近世ベトナム社会を東南アジア史、東アジア史といったより広い視点から捉える同時に、歴史学的観点からベトナムの地域性、ないし地域性の形成過程といったものについて考えていきたいと考えています。

（村での史料撮影風景）

【日本学プログラム（学士課程)】

1. Name: Duong Thi Thuy
2. Program: Office for Promotion of Bachelor’s Program in Japanese Studies
3. Education Background:

Dr. Thuy received the Bachelor's degree in Japanese at the University of Languages and International Studies – Vietnam National University in June 2012. After that, she got her Master's and Doctoral degree in Marketing and Distribution Sciences at the University of Marketing and Distribution Science, Kobe, Japan (04/2014 – 03/2019).

4. Process of joining VJU:

After getting the doctoral degree, Dr. Thuy returned to Vietnam and has been working as a lecturer in the office for promotion of bachelor's program in Japanese Studies at Vietnam Japan University since August 2019. Currently, in addition to teaching and doing research, she gets involved in some tasks for launching the Japanese Studies program.

（ズオン・ティ・トゥイ先生）

5. Research theme:

Her research interests included marketing, distribution systems, retail internationalization, and service internationalization. She is researching focus on domestic development strategies, internationalization strategies of companies from developing countries, and foreign-invested companies that have made inroads in developing countries such as Vietnam.

6. Future research plans and aspirations at VJU:

Future research plans at VJU includes the study of internationalization, marketing, and distribution. With those studies, she would like to explore possibilities to work with companies to find out solutions and directions in the current global environment.

3　今後の主な予定、行事（予定）

⌖ 10 月 5~6 日	JASSO 日本留学フェア（5 日：ホーチミン市、6 日：ハノイ市）
⌖ 10 月 24~30 日	さくらサイエンス in 水俣（MBA 学生 2 名、専任講師 1 名参加）
⌖ 11 月 5 日	第 3 期生インターンシップ懇親会／企業就職説明会（東京）
⌖ 11 月 7~9 日	Asian Computational Materials Design Workshop (11th CMD Workshop, Vietnam)
⌖ 11 月 25 日	神戸商工会議所海外ミッション 来学
⌖ 11 月 28 日	国際シンポジウム「Application of High Performance Computing Device」開催
⌖ 11 月 29 日	Geo-technic Hanoi 2019 開催

4 人事往来

特記事項なし

5　日越大学からのお知らせ

◆ 第 3 期生インターンシッププログラムの実施について

日本でのインターンシップを実施するため、9 月 10 日出発の地域研究プログラム（日本研究）を皮切りに、日越大学の第 3 期生が、順次、日本の幹事大学に向けて出発しています。

必修科目であるインターンシップは、本学修士課程カリキュラムの大きな特色の一つです。学生たちは、受け入れ大学において、修士論文執筆に向けた高度な研究・学習をおこなうと共に、企業訪問や短期実習、また日本企業担当者との面会などを予定しています（一部学生はベトナム国内で実施します）。
インターンシップを通じ、研究面での成果だけでなく、日本社会や日本文化への理解がより深まることが期待されており、関係する皆様方のご支援をよろしくお願いします。

◆ 日越大学ホームページリニューアル、日本語版ランディングページの公開

日越大学のホームページ（英語・ベトナム語）のデザインがリニューアルされました。
教員陣の情報・研究成果・産学連携などの情報がさらに充実しております。

また、今回のリニューアルを機に日本語版ランディングページを立ち上げましたので、是非ともご覧ください

☞ 日越大学ホームページ ：http://vju.vnu.edu.vn/
☞ 日本語版ランディングページ ：http://vju.vnu.edu.vn/VietnamJapanUniversity.html

□■

【お問い合わせ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://vju.vnu.edu.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】
本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn 、石田までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.29, 2019 年 10 月/11 月合併号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナムハノイで開校しました。
現在、修士課程に 3 期生 79 名と、9 月から第 4 期生 91 名（うち 14 名の外国人学生：日本人１名、ミャンマー人５名、ラオス人１名、フィリピン人１名、スリランカ人１名、ロシア人１名、ナイジェリア人３名、コンゴ人１名）【11/25 時点】の、計 170 名の学生が、共通科目の日本語と英語等の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)、グローバル・リーダーシップ (MGL)の各専攻プログラムを勉強しています。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

1. 第 3 期インターンシップ生来日記念交流会・企業個別面談会の開催（11 月 5 日／東京）

インターンシップのため訪日中の学生 67 名は、日本の産官学等関係者と、自身が取り組んでいる研究内容をはじめ滞在中に体験したことなどを話題に、活発な交流を行いました。
交流会には、岡田直樹官房副長官、ヴ―・ホン・ナム駐日ベトナム特命全権大使、武部新日越友好議員連盟事務局次長、武部勤日越友好議員連盟特別顧問等の方々にご臨席頂き、日越大学学生を代表して、MCCD プログラムのチャン・フエン・チーさんが、また卒業生を代表して、グエン・マイン・ハオさんが、それぞれお越し頂いた方々に挨拶をおこないました。

企業個別面談会では、学生達が各企業のブースを訪れ、より深くそれぞれの企業の業務内容について学び、日本での就職について検討する絶好の機会になりました。企業からの参加者は、「ベトナムには若くて力強い人材が多いという印象を受けた。今後、ベトナム進出を考えているので、このような機会でベトナム人学生と直接話ができるのは貴重でした。」と、ベトナムでの高度人材への期待を寄せていました。

（第 3 期インターンシップ生来日記念交流会）

2. JASSO 日本留学フェアへの参加

日本学生支援機構（JASSO）主催の日本留学フェアに、今年も日越大学が参加しました。

日本留学フェアは、10 月 5 日（土）にホーチミン市、6 日（日）にハノイ市でそれぞれ開催され、ハノイで開催された留学フェアの開会式では、日越大学の Oanh 副学長が来賓としてテープカット及びオープニング・スピーチを飾り、日越両国が教育面でも連携できる点などを説明しました。

JASSO の発表によれば、ハノイでの全体の参加者数は 1,921 名で過去最多になったとのことで、日越大学のブースにも、来年設置を目指す学部課程への希望者を含めて多くの学生が訪れました。

（Oanh 副学長によるスピーチ）

（個別説明会の様子）

3. ISS セミナーの開催

(1) 狩野光伸氏（外務大臣次席科学技術顧問）による講演

11 月 14 日（木）11 時より、狩野光伸外務大臣次席科学技術顧問による「Science, Technology and Innovation in Japan - From Perspectives of Life Science and Science and Technology Diplomacy -」をテーマとした講演が、第 1 回 ISS セミナーとして開催され、VJU の学生および教職員、JICA 専門家等、77 名が熱心に聞き入りました。

日本とベトナムの科学技術の連携強化が創造する価値について、医師でもある狩野氏ご自身の研究も交えて、興味深いお話をしていただきました。学生からも近年ベトナムの社会や健康問題などに関連した質問が相次ぎ、一つ一つに丁寧にお答え頂きました。

今回、在ベトナム日本大使館のご厚意により、学生・教職員にこのような貴重な機会をいただきました。今後とも、日越大学で学んでいるからこそ得られる学びの機会をより多く提供できるよう、関係機関との連携を強めて行きたいと思います。

（狩野光伸外務大臣次席科学技術顧問による講演の様子）

(2) Prof. Dr. Sander Van der Leeuw による講演

11 月 21 日（木）に VJU において、アリゾナ州立大学サステナビリティ学部学部長の Sander Van der Leeuw 教授による「Solutions Cause Problems: Lessons from Water Management in the Rhine Delta, the Netherlands」をテーマとした第２回 ISS セミナーが行われ、環境工学プログラム（MEE）、気候変動・開発プログラム（MCCD）の学生を中心に VJU の教職員、JICA 専門家等、約 30 名が参加しました。

ラインデルタの事例をもとに、Solutions（解決策）が思いもかけない問題を引き起こすことがあることが紹介され、先進国の Solutions が必ずしも良いわけではなく、それぞれの国にあったそれぞれの方法で対応していくことの必要性について講演頂きました。

(Prof. Dr. Sander Van der Leeuw による講演)

4. **さくらサイエンス in 水俣プログラム**

熊本県にある水俣環境アカデミアが主催した「さくらサイエンスプラン」水俣研修に、本学 MBA プログラムの Tran Thi Bich Hanh 講師と、学生２名が参加しました。

さくらサイエンスプランは、 科学技術振興機構（JST）が実施する、日本とアジアの青少年交流事業です。10 月 24 日から 30 日までの期間中、日越大学からを含め、ベトナム、台湾、タイ、中国、シンガポールからの参加者 14 名が、水俣市内にある環境関連施設や九州大学などを訪問し、研究者から最新の研究成果についての講義を受けるとともに、地元の高校生との交流やホームステイ体験、ベトナム文化の紹介など、たいへん充実した活動を行いました。

（Tran Thi Bich Hanh 講師によるプレゼンテーション）

5. 民間連携／大学間交流／来訪

(1) 鈴木秀生外務省国際協力局局長

11 月 7 日に鈴木秀生外務省国際協力局局長が日越大学を訪問されました。

熊谷チーフアドバイザーから VJU の概要説明後、VJU 学生、教職員、JICA 専門家との懇談が和やかな雰囲気の中でおこなわれました。
鈴木局長からは、「日越大学の開学が実現し、本学を訪問することができ大変嬉しく思うと共に、このような素晴らしい大学に成長していることに対して、ベトナム政府、日越大学教職員の皆さん、JICA 専門家の皆さん、そして情熱と強い意志をもって本学で学んでいる学生に心から感謝の意を表したい。」とのお言葉を頂くと共に、「日越大学を真の知識と研究の中心となるように、ホアラックキャンパスの建設及び早期学部開設について、ベトナム政府と話し合う予定である。」との心強い応援を頂きました。

なお、鈴木局長の来学に先立ち、10 月 10 日に、鈴木滋外務省外務省国際協力局国別開発協力第一課長も本学を訪問されました。

（鈴木局長と懇談参加者）

(2) JENESYS プログラム

11 月 14 日(木)に、21 世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS プログラム）による、北海道教育大学と、幹事大学でもある横浜国立大学の学生 15 名を受け入れました。

JENESYS プログラムでは、訪問国の歴史・文化・産業等を総合的に学ぶと共に、日本の ODA の援助現場を訪れることで日本の役割への理解を深め、派遣先の青少年と直接交流し、相互理解や友情等を深めることが期待されています。

15 名の参加学生は、JICA ベトナム事務所を訪問した後で日越大学を訪問し、日越大学プロジェクトの概要について、常駐する専門家から説明を聞いた後、留学生を含む、本学の第４期生（修士１年次）との交流会を実施しました。交流方法やテーマをあえて指定せず、手探りながら英語でコミュニケーションを取ることで、日越学生双方にとって、有意義な、楽しい機会となりました。

（学生と日越大学学生との交流の様子）

(3) 法政大学

11 月 22 日に法政大学の評議員、理事等７名が日越大学を表敬訪問されました。

古田学長による日越大学の紹介の後、MSA、MBA、MCCD の学生７名が加わり、修了後の就職希望等について日本語で懇談が行われました。

修了後日系企業への就職を希望する多くの学生に対し、大手企業の役員経験のある評議員の方々等より、日本の企業の現状や外国人雇用の課題が説明され、また、今後の学生達への期待と温かい励ましの言葉をいただきました。

法政大学からは公共政策分野での講義にご協力いただいているだけでなく、毎年、日越大学で職員インターンシップを行う等、既に太い絆がありますが、今回の訪問を通じて、日越大学をより身近に感じていただけたとのことで、更なる関係構築が期待されます。

（法政大学の皆さんと日越大学学生との懇談の様子）

(3)　神戸商工会議所ビジネスミッション

11 月 25 日に伊藤紀美子神戸商工会議所副会頭を団長とする神戸商工会議所ビジネス交流ミッションの 11 名を日越大学にお迎えし、古田学長による日越大学およびベトナムの高等教育についての紹介や実験室を含む施設見学を行いました。

質疑応答では、修了生の就職先企業や業界の特徴、修了生が期待されている役割、日越大学が日本の企業側に期待すること等、多くの質問をいただき、ベトナムの人材および日越大学への関心と期待の高さが感じられました。

なお、今回は、R&D 部門の Tu 副課長の事前調整により、当日の司会は神戸の大学院で学んだ Thuy 先生が、また実験室の案内は MNT の Tanh 先生が主に担いました。
日本で博士号を取得した 3 名が、日本で学んだ経験と力を活かして全面的に対応し、日越大学の教職員の力量を示すよい機会となりました。

（神戸商工会議所ビジネスミッションの方々と VJU 参加者）

(4)　滋賀県議員団

11 月 25 日に滋賀県より県議会議員団（団長：生田邦夫議長)、県内企業等より 24 名が来学され、古田学長による日越大学の概要、教員専門家による研究内容、日本語教育プログラム、地域研究プログラムの取り組みについての紹介を行いました。

日越大学学生が入学してから専門分野の研究に忙しい毎日を過ごしながらも、初めて学ぶ日本語に奮闘している様子が紹介されました。

滋賀県では、今回の視察を受けて、今後ベトナム人材の受入れを積極的に進めていきたいとのことでした。

（古田学長から滋賀県議員団の皆さんに日越大学についてご説明をされました）

6. ベトナムでの幹事大学情報

➢　茨城県水戸市で台風 19 号被災復興ボランティアへ参加

インターンシップ中の気候変動・開発プログラムの学生 20 名は、台風 19 号で被災した茨城県水戸市で復興ボランティアに参加し、この様子が一部メディアにも取り上げられました。
学生たちは「復興のための制度や技術が整備されていること、被災者が強い意志を持って団結して復興に取り組んでいることに心を打たれた。地球上で起こっている様々な問題にどう対応していくか、これからも研究に励んでいきたい。」と、抱負を語りました。

また、学生たちは、訪日前に学内で集めた義援金約 10 万円を持参し、被災地に寄付しました。

- 関連情報：
- 茨城県庁 HP：
  https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/kokusai/koryu/20181127_hyokei.html
- 茨城大学ニュース： https://www.ibaraki.ac.jp/news/2019/11/07010585.html

2 第 3 期生インターンシップ報告

本年 9 月から、第 3 期生の日本でのインターンシップがおこなわれています。
そこで、今月号から各プログラムの日本でのインターンシップ報告をお伝えします。

今月は、環境工学プログラム、そして地域研究プログラム（ベトナム研究）からの報告をお伝えします。

【環境工学プログラム(MEE)】

日越大学環境工学修士課程プログラムの M2 学生が、約 2 か月に渡る本邦インターンシップを無事に終えて帰国致しました。
日本での研究活動のみならず企業研修や学生交流、一般的な生活を通じて得られた研修学生の率直な感想と将来設計に与えた影響などについて、東京大学、立命館大学に派遣された各 5 名の学生から 1 名ずつの報告をします。
本事業にご協力いただきました日本の幹事校、官公庁および日本企業の皆様に深く感謝申し上げます。

(1) 東京大学におけるインターンシップ（2019 年 9 月 23 日～11 月 21 日）に参加した **Vu Thi My Hanh** さん（写真の右から 2 番目）からのレポート

The two-month internship at The University Of Tokyo (UoT), Japan is a decisive period for my current and future study career. It was my great pleasure to study at the Department of Urban Engineering of UoT, one of the most prestigious universities in the world. Thanks to the enthusiastic guidance from professors as well as advanced laboratory conditions, I was able to complete my experiments quickly and accurately.
The library system here allowed me to approach the up to date scientific papers. I also improved my presentation skills during lab meetings and got much useful advice from the multi-aspect viewpoints to adjust my research direction. Working with Japanese people trained me to be on time and organize my work effectively. Besides, I have also had chances to visit companies and research institutes such as TSS Tokyo Water Company, National Institute for Environmental Studies along with a memorable field trip to Sado Island in Nigata Prefecture. During these days, I got some new friends and expanded my international network relationship. These trips provided us with helpful information about

opportunities for Ph.D. research or working in companies in Japan, thereby helping us shape our future goals after graduation.
Furthermore, this occasion is a time to experience the daily life and explore the amazing landscapes, culture, history, and people of Japan. It was different from short-term travel when I lived and worked as a resident. I felt interesting to communicate with local people in English and my limited Japanese as sometimes, body language was necessary to understand each other. However, I happily realized that my Japanese has been improved after two months. Returning from this internship, I have been better planning the way that I will go ahead with the valuable experience I have gained. My friends all admire me for having such a desirable training period, and I am very grateful to Vietnam Japan University for that great thing!

(2) 立命館大学におけるインターンシップ（2019 年 9 月 19 日～11 月 19 日）に参加した **Pham Thi Kieu Chinh** さん（写真の右から 2 番目）からのレポート

I had a delightful journey in Japan for 2 months. During the time in Ritsumeikan University, I worked at modern laboratory which was well trained by Japanese professors. Especially, I had an opportunity to make new friend from Japan and four corner of the world whose being funny and kindness.
Two months are not so long previous of time but it is enough to accumulate a lot of experiences and open the window.
When I visited company in Japan, I was so surprised in term of the professional process of working, large scale and warm hospitality welcome from director and all of staffs. So that, this internship has contributed to my passion for research and my desire to learn more after graduating Vietnam Japan University. I hope that soon I will officially become a PhD student at Ritsumeikan University so that I can learn the most advanced Japanese technologies which to apply flexibly and appropriately in the Vietnamese environment.

【地域研究プログラム(MAS) ベトナム研究】

地域研究プログラムのベトナム研究 3 期生 4 名は、10 月 1 日から 11 月 4 日までの約 1 カ月間、日本でのインターンシップに参加しました。日本に到着してすぐに大型台風に見舞われ、宿舎内で心細い思いもしたようです。しかしながら、その後の日本滞在中は、幹事校である東京大学を拠点としながら、各科目に係るフィールドトリップに参加し、日本での稲刈り体験をしたり、5 社の企業様（FANCL 様、祐幸計装様、イノアック・コーポレーション様、フューチャー・デザイン・ラボ様、ユニクロベトナム様）を訪問し、各社の企業精神や日本での働き方に触れる機会を得たりと、充実した時間を過ごすことができました。

他方で学生たちは、修士論文の研究活動にも励み、神田外語大学や昭和女子大学、または京都大学や大阪大学で、ベトナム研究専門の先生方と交流の時間をもったり、直接の指導を受けることもできました。期間終盤で実施した東京大学での修論進捗報告会では、先生方から高い評価を頂き、これからの本格的な修士論文執筆に役立てようと奮起しながら、帰国の途に着きました。

このインターンシップを通じて、学生たちは日本に対するイメージが変わったようです。単なる経済発展の視点でのみ日本を見るのではなく、多様な視点から日本社会や文化の仕組みを理解することで、改めてベトナムと比較し、双方の社会のサステナブルな関係のあり方を模索するヒントを得たことこそが、今回の最大の成果ではないでしょうか。彼らの今後の更なる成長を期待しています！

（東京大学駒場キャンパスで開催された日越研究双方の学生揃っての懇親会にて）

3　今後の主な予定、行事（予定）

- 12 月 5 日　　大武元国税庁長官来学
- 12 月 19 日　　富山県東南アジア貿易投資ミッション来学
- 1 月 23 日～29 日　　ベトナムテト（旧正月）休暇
- 2 月（予定）　　第 5 回日越大学理事会開催
- 3 月 12 日　　富山県高等学校生徒海外派遣受入

4　人事往来

特記事項なし

5　日越大学からのお知らせ

☞ 日越大学は、テト休暇（ベトナム旧正月休暇）に伴い、2020 年 1 月 23 日（木）～29 日（水）の期間、大学は閉校となりますので、予めご了解ください。

□■

【お問い合わせ先】

日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会

Tel: +84 (0) 247-306-6001

E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn

日越大学 HP http://vju.vnu.edu.vn/

日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts

日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/

JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn 、石田までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

【日越大学メールマガジン Vol.30, 2019 年 12／2020 年 1 月合併号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016 年 9 月にベトナムハノイで開校しました。
現在、修士課程に 3 期生 79 名と、9 月から第 4 期生 87 名（うち 13 名の外国人学生：日本人 1 名、ミャンマー人 5 名、ラオス人 1 名、フィリピン人 1 名、スリランカ人 1 名、ロシア人 1 名、ナイジェリア人 3 名）【1/9 時点】の、計 166 名の学生が、共通科目の日本語と英語等の習得に加え、地域研究 (MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)、グローバル・リーダーシップ (MGL)の各専攻プログラムを勉強しています。

【今月のトピックス】

1　日越大学ニュース

1. 日越大学企業管理プログラムの学生が ANA を訪問

日本でのインターンシップに参加中の MBA プログラムの学生は、11 月 25 日に ANA を訪問させていただきました。

まずは、最新の訓練施設である ANA Blue Base を訪問させていただき、ANA の歴史や活動の説明、パイロットや客室乗務員の訓練の説明を受けました。この ANA Blue Base は一般見学開放前であるにも関わらず、特別に見学させていただく機会をいただき、その後は、羽田空港に移動し、実際のオペレーションを見学させていただきました。

今回の訪問には、ANA ハノイ支店から支店長や現地スタッフの方々も参加して頂き、さまざまな場面でサポートしていただき、学生たちも生き生きと質問をすることができ、学生たちの学びに繋がりました。

なお、このインターンシップは ANA のウェブページでも取り上げられしました。
https://www.anahd.co.jp/ana_news/2020/01/21/20200121-1.html

（参加者との記念写真）

2. 文化講座の開催

1)　古代文字アート

2020 年 11 月 15 日、古代文字アートの芸術家グループ・天遊組が本学を訪問し、漢字の成

り立ちや意味の講義をおこなって頂いた後に、墨と筆で文字を書き、漢字に親しむワークショップを行いました。

ワークショップ終了後、過去に漢字圏であったベトナム人学生達に感想を聞いたとところ、自国の歴史的建造物に残されている漢字や、日本語の授業で触れる漢字に親しみが湧いたと感想を述べていました。
最後に天遊氏に「学」という古代文字を書いて頂き、本書は日越大学ゲストルームに展示しています。

（古代文字「学」と古田学長）

（ワークショップの様子）

2) 折り紙

日本語教育プログラムでは、学期ごとに日本文化への理解を深め日本語学習への動機づけを高めることを目的とし、国際交流基金ベトナム日本文化交流センターの協力のもと、日本文化講座を実施しています。

2019 年 12 月には、第４回目となる講座を実施し、３期生、４期生の学生、職員の希望者計 26 名が参加しました。

当日は、「折り紙で学ぶ日本文化」と称したテーマで、クイズを通して折り紙に関する歴史に関する知識を深め、サンタクロース・トナカイといった季節に合わせた折り紙の折り方を学びました。
最後に行われたグループ対抗クリスマスリースのコンテストでは、各グループ、チームワークを発揮しながら白熱し、にぎやかな講座となりました。

（折り紙ワークショップの様子）

3. 気候変動国際ワークショップの開催

１月９-10日の日程で、“Natural Resources, Human Resources, and Risk Management in the Context of Climate Change” と題するワークショップが、ハノイ自然資源環境大学（HUNRE）にて開催されました。

本ワークショップは日越大学、茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）およびHUNREとの共催であり、日越大学からも教員と学生が参加しました。
初日の9日にはハノイ南西約100kmにあるハイフォン省ティエンラン県の沿岸地域にてエクスカーションツアーを実施し、現地ではマングローブ林や漁村等を訪れ現地の気候変動影響と適応策について学びました。
翌日10日のワークショップでは気候変動における自然-人的資源とそのリスク管理について、12の口頭講演と約30のポスター発表が行われ、約150名の参加者の間で活発な議論が交わされました。また、ポスターコンテストではMCCDの2年生Nguyen Thi Hong Duongさんが、研究課題：Disaster risk reduction activities in schools: International lessons and case studies in Da Nang Cityでベストポスター賞を受賞しました。

次回の本ワークショップは今年11月頃、茨城大学にて開催される予定です。

（ワークショップの様子）

（ポスターコンテスト受賞の様子）

4. 民間連携／大学間交流／来訪

1) 富山県東南アジア投資ミッション

2019 年 12 月 19 日、富山県東南アジア貿易投資ミッションによる日越大学への訪問が実施されました。

古田学長による大学概要説明に続き、カリキュラム、各プログラムの特徴など、活発に意見交換がおこなわれました。

本投資ミッション・チームは、富山県内の商工会議所や企業、県職員など 16 名で構成されており、昨今の日本の人材不足を背景に、ベトナム人の採用を前向きに考えていきたいとの意見がありました。特に、「日越大学の学生は、専門分野に加えて日本への理解も深いため、将来の人材確保のために今後も関係構築を維持していきたい」とのご意見を頂きました。

（意見交換の様子）

2　第３期生インターンシップ報告

本年９月から本年１月にかけて、第３期生の日本でのインターンシップがおこなわれ、その様子を今月号、来月号において、各プログラムの日本でのインターンシップ報告をお伝えしていく予定で、今月は、ナノテクノロジー技術プログラム（MNT）と社会基盤プログラム（MIE)からの報告をお伝えします。

【ナノテクノロジー技術プログラム(MNT)】

I am a second year Msc. student majoring in Nanotechnology at Vietnam-Japan University. I am gratefully under supervision of Dr. Dinh Van An, a JICA long-term expert and VJU lecturer in my program. Thanks to ceaseless assistance of JICA and Dr. An, I was chosen to be an intern in Prof. Morikawa Yoshitada's Lab with great hopes of sharpening my skills in simulation calculation.

I was surprised that I was not only tutored by a private PhD mentor assisting my research and giving me advice in Japanese life but also participated in lots of lab meetings, study groups, and paper-reading club.

Hence, I have gradually instilled how to organize and give a presentation in English, how to ask and answer questions in the scientific talks. I recognized that I have made a great progress of my own project through the discussion with professors, senior students at a very collaborative atmosphere. I am now more comprehendible and confident to take steps in research life.

Otherwise, it was my fortune to join some conferences and activities in Osaka University such as Quantum Engineering Design Workshop 2019, ASIAN-22.

I am wholeheartedly very satisfied with this once-in-a-life-time research experience. Personally, I would love to thank Dr. An, Prof. Morikawa, other professors/lecturers and members in MNT program for their support and kindness.

Besides, I am grateful to JICA staff, especially Ms. Sumiko Hanyaku and Mrs. Nakamura Minoru for giving us a warm welcome with open arms. This is the first time I have been to Japan and I have already had an unforgettable and great memory about the hospitality of Japanese people and the great discipline of Japanese lifestyle.

I have happily met and made friend with international and Japanese students, then have been invited to some traditional cuisines and guided to some places of interest.

Apart from research in Osaka University, I have also enjoyed the local life in Osaka as well as Kyoto. There was a fantastic opportunity for me to see and capture the most spectacular scenery of Osaka and Kyoto in autumn. All in all, I am thankful to JICA for organizing this internship for VJU MSc. student to live and enjoy Japan in both daily life and research life.

By great support of JICA, you have lightened my financial burden during my internship which allows me to concentrate more of my time on research and enjoy life in Japan. Your generosity has infused me with a great source of spirituality. I promise I will study laboriously and eventually I hope I will be able to

accomplish my MSc. thesis in success.

【社会基盤プログラム（MIE)】

本年度も日越大学社会基盤プログラム第3期インターン生7名が9/25～12/13（計80日間）に来日し、インターンシップを実施しました。

（東京外郭放水路（地下神殿）の見学）

インターンシップ期間中は、それぞれの学生の修士論文の研究テーマに合わせて、東京大学社会基盤学研究科の3研究室および生産技術研究所の1研究室に配置されました。
学生は、研究室や図書室で関連論文を検索・レビュー、研究テーマに役立つ授業を聴講したり、現場見学（東京外郭道路のトンネル、横浜港、フジタ社の技術センター、つくば市役所（公共政策プログラムとの合同実施）、東京外郭放水路（通称地価神殿）など）や研究室個別の見学会に参加したりしました。
更に、研究室ゼミに出席し、インターシップの指導教員から論文指導を受けることもでき、大変充実した研究活動をおこないました。
インターンシップ期間後半には、それぞれの修士論文にかかるレビューがほぼ終了し、一部の学生には初期の計算モデルの構築や分析結果が得られるまでになりました。
また、インターンシップの期間中は英語で集中的にコミュニケーションを行ったため、インターンシップの発表を来日前と終了直前に聴講していた4期生は、「3期生の英語力が著しく向上した」と評価していました。
インターンシップの期間中、3期生にとって非常に印象深かったのは、台風19号の襲来でした。夜中に風が強くドアをたたき、携帯電話の避難勧告メッセージが鳴り続けていたことを体験し、日本がいかに自然災害に備えているかについて、学生が身をもって体験することができました。
自然災害対策を担うことが期待される社会基盤分野のエンジニアにとっては学ぶことが多い貴重な経験をおこなうことができました。

学習・研究の面のみならず、学生は日本の社会を体験することができ，日本人の礼儀正しさ、物事を実施する際の計画の周到さ、街の清潔さおよび電車の時間の正確さ等を肌で感じ、日本での研究や就職の意欲が大きく高まったと話していました。

（研究室での修論テーマ発表）

（研究室での実験参加）

3　留学生に聞いてみた！

今月号から、新シリーズ「留学生に聞いてみた！」を始めます。日越大学では、今年 87 名の入学生のうち 14 名が留学生(８か国)であるなど、国際化が進んでいます。

そこで本コーナーでの記念すべき第１号は、日越大学初の日本人留学生、渡辺 明莉（めいり）さんです。

Q1.ベトナムに興味を持ったきっかけは？

元々はタイ・チェンマイの少数民族を訪れ、東南アジアに興味を持ったのがきっかけです。小学生の頃から偏頭痛と肩こり持ちで、整体に通っていましたが、整体の先生の紹介がきっかけで、高校生の時に学生ツアーでチェンマイを 10 日間訪れることができました。そのとき出会ったカレン族の方とは、今も文通を続けています。
大学では英米語学科専攻でしたが、タイへの関心もあって、東南アジア中心に勉強していました。サークル活動では、Habitat for Humanity（住宅支援 NGO）に所属し、マレーシアなどで家を建てるのを手伝ってきました。
その中で、ベトナムという国に勢いを感じ、７ヶ月ハノイ大に留学しました。また、ベトナムの食と相性がバッチリ合ったというのも理由です。今もベトナム料理が世界一だと思います。

Q2.どうして日越大学に？

新卒で入った日系の衣料品関係の企業では、1 年半ほどフンイェン省で駐在していましたが、何年も同じ仕事が続くのではと不安になり、ベトナム市場開拓を目指すメーカーに転職しました。しかし、ベトナム案件が進展せず、海外営業として赴任することもなく、日本で事務作業を繰り返す日々に苦しむなかで、ベトナムについて包括的に学び直したいと思うようになりました。最初は日越の通訳学校を探していたのですが、たまたま学生時代に VietJo のニュースで見た、日越大学のことをふと思い出したのです。

VJU 入学式で表彰された各コース首席
（※渡辺さんは左から５番目）

思い切って日越大学に連絡してみたところ、JICA 専門家の方とコンタクトが取れ、メールの返信も非常に早く、１聞けば２返してくれるような手厚いサポート体制に感動し、日越大学への留学を決意しました。
学部時代にハノイ大に留学したときは、学費が突然３倍になるなど色々と苦労したこともあり、他大学でも成績証明書を出してくれない等のトラブルがあると聞いていたのですが、日越大ならそういうことはなく、きっと勉学に集中できるという安心感がありました。

Q3.日越大学を通じて、どのような将来を目指していきたいですか？

地域研究コースに入学し、論文テーマを、チェンマイのカレン族をきっかけに問題意識を持ってきた、少数民族の教育経済格差にしようと思っています。
今年４月にはプラン・インターナショナル(女性支援 NGO)のサポーターになり、ハザン省のモ

ン族の子供を担当しています。手紙が来るのですが、両親は読み書きができず職員が代筆していて、これまでハノイで知り合ってきたキン族との違いに驚き、少数民族の実態を痛感しているところです。

社会人になって、ベトナムや少数民族から離れていたことにモヤモヤしてきたので、今は楽しいです。卒業してもベトナムに居続け、国際協力に関わる NGO 等に携わりたいと思います。とはいえ、まずはベトナム語での地域研究の授業についていくのに必死です。

4 今後の主な予定、行事（予定）

⌖ 2 月 16～22 日	さくらサイエンス交換プログラム
⌖ 2 月 17 日	RILAP 特別講座
⌖ 2 月 18 日	第 5 回日越大学理事会
⌖ 2 月 23 日	日越大学オープンキャンパス
⌖ 2 月 25 日	福岡女学院大学（学生交流）

5 人事往来

特記事項なし

□■

【お問い合わせ先】
日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会
Tel: +84 (0) 247-306-6001
E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn
日越大学 HP http://vju.vnu.edu.vn/
日越大学 Facebook（ベトナム語） https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts
日越大学 Facebook（日本語） https://www.facebook.com/jicavju/
JICA HP https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html

【メール配信停止・変更】
本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn 、石田までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

Project Design Matrix (PDM)

Version: 0

Date: February 2015

Project Title : Project for the Establishment of the Master Programs of Vietnam-Japan University (VJU)
Implementation Agency : Vietnam National University, Hanoi (VNU-HN)
Target Group : (Direct) Students of VJU-HN, Teaching Staffs of VJU and VNU-HN
(Indirect) Private Companies, Universities, and Central/ Local Governments in Vietnam
Period of Project : April 2015 to March 2020 (5 years)
Project Site : Hanoi

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement
Overall Goal Graduates of Master Programs of VJU will play active roles in the society.	Reputation of the graduates.	Interview and Questionnaire to industry and academic societies.		
Project Purpose VJU will provide high-quality Master Programs continuously.		Record of VJU		
Outputs 1. Organization management of VJU is consolidated.	1. Basic Plan 2. Rules and Regulations 3. University Development Plan	Record of VJU		
2. Master Programs of VJU are prepared.	1. Number of Master Programs set up AY 2016. 2. Number of Master Programs set up AY 2017.	Record of VJU		
3. Master Programs of VJU are implemented and improved continuously.	1. Number of students obtains Master degree though programs set up in AY 2016. 2. Number of students obtains Master degree though programs set up in AY 2017. 3. Curriculum and Syllabus of Master Programs are revised regularly based on the result of the monitoring.	Record of VJU		

Activities	Inputs		Pre-conditions	
	<The Japanese Side>	**<The Vietnamese Side>**		
1-1. To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts. 1-2. To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU. <approved by Prime Minister> 1-3. To appoint executive and recruit administrative staff. 1-4. To formulate and update basic plan (Activity Plan, Financial Plan etc.). 1-5. To improve capabilities of VJU human resources for University management. 1-6. To improve the collaboration and network with international and local partners (Universities, Private companies). 1-7. To formulate and update University Development Plan.	1. Dispatch of Experts (1) Long-term experts - Chief Adviser/ Organization Management - Coordinator/ Industry-academia collaboration - Program Coordination 1 (Social Science) - Program Coordination 2 (natural Science) (2) Short-term experts - Program Development and Implementation 1 (Programs to be started in AY 2016) - Program Development and Implementation 2 (Programs to be started in AY 2017) 2. Training (1) Short-term Training of management members and core teaching staff of VJU (2) Short-term Training of Master Programs Students 3. Machinery and Equipment (1) Equipment necessary for Master Programs to be set up in AY 2016 and 2017	1. VNU's counterpart personnel (1) Project Director: Vice-president, VNU-HN (2) Project Manager: Director, VJU Management Board (3) VJU Management Board (4) Academic affairs & Technology Unit (5) International Corporation and Partnership Development Unit (6) Financial Planning and ODA Unit (7) Human Resource Development & Office Administration Unit 2. Suitable Office space for VJU Management Board & Japanese experts 3. Necessary budget for the implementation of the project 4. Others (1) Credentials or Identification cards	Necessary budget for the project implementation is secured.	
2-1. To implement field survey for curriculum development for all candidate programs. 2-2. To secure classrooms and equipment necessary for Master Programs to be started in AY 2016 and 2017. 2-3. To recruit and train teaching staff for Master Programs to be started in AY 2016 and 2017. 2-4. To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master Programs. 2-5. To develop curriculums and syllabuses of Master Programs to be started in AY 2016. 2-5-1. To develop curriculums (consist of 1) programs outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master Programs to be started in AY 2016. 2-5-2. To approve Master Programs to be started in AY 2016. <approved by VNU President>				

2-5-3. To develop detail syllabuses of Master Programs to be started in AY 2016. 2-6. To develop curriculums and syllabuses of Master Programs to be started in AY 2017. 2-6-1. To develop curriculums (consist of 1) programs outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master Programs to be started in AY 2017. 2-6-2. To approve Master Programs to be started in AY 2017. <approved by VNU President> 2-6-3. To develop detail syllabuses of Master Programs to be started in AY 2017.				
3-1. To do promotion activities for Master Programs to be started in AY 2016 and 2017. 3-2. To recruit students for Master Programs to be started AY 2016. 3-3. To implement Master Programs to be started in AY 2016. 3-4. To recruit students for Master Programs to be started AY 2017. 3-5. To implement Master Programs to be started in AY 2017. 3-6. To monitor the state of implementation of Master Programs semi-annually. 3-7. To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring.				

Annex I

Project Design Matrix

Version 1
29-Apr-16

Project Title: Project for the Establishment of the Master programs of Vietnam-Japan University (VJU)

Implementing Agency: Vietnam National University, Hanoi (VNU-HN)

Target Group: (Direct) Students of VJU and VNU-HN, Teaching Staffs of VJU and VNU-HN

(Indirect) Private companies, universities, and Central/Local governments in Vietnam,

Period of Project: April 2015 to March 2020 (5 years)

Project Site: Hanoi

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remarks
Overall Goal					
Graduates of Master programs of VJU will play active roles in the society.	1. Graduates of VJU obtain high reputation from stakeholders	Interview and Questionnaire to industry and academic societies			
Project Purpose					
VJU will provide high-quality Master programs continuously.	~~1. VJU obtains high reputation from academic societies.~~ 2. Number of applicants will increase. 3. Numeber or ratio of international students will increase. ~~4.VJU obtains institutional based accreditation by external organizations (ex. MOET).~~ ~~5.A few programs obtains program based accredition by external organizations (ex. AUN).~~ 6.More than the graduates get employed or entering doctor programs within six months after graduation. (To be reviewed later) 7. Internal quality assesment report is developed	Interview and Questionnaire to academic societies Record of VJU			
Outputs					
1. Organization and management system of VJU ~~for Master Programs is~~ are consolidated.	1.~~Basic plans~~ VJU is establised with its organization. 2.Necessary rules and regulations are developed. 3.University Development Plan is developed.	Record of VJU			
2. Master programs of VJU are prepared.	1. Seven (7) master programs are prepared.	Record of VJU			
3. Master programs of VJU are implemented and improved continuously.	1.One hundred twenty (120) students obtain Master degree though programs set up in AY 2016. (Maximum 20 students*50%*6programs*2 batches) 2. Ten (10) students obtain Master degree though programs set up in AY 2017.(Maximum 20 students*50%*1 program*1 batch) 3. Curriculum and Syllabus of master programs are revised regularly based on the result of the monitoring.	Record of VJU			

Activities	Inputs: The Japanese Side	Inputs: The Vietnamese Side	Pre-Conditions
1-1 To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts 1-2 To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU <Approved by Prime Minister> 1-3 To appoint executives and recruit administrative staff 1-4 To formulate and update basic plan (Activity Plan, Financial Plan, etc.) 1-5 To improve capabilities of VJU human resources for University management 1-6 To i… ernational and lo… 1-7 To… lan 2-1 To… ment for all car… 2-2 To… r Maste… 2-3 To… ms to be sta… 2-4 T… teria) for the stu… 2-5 T… Master progra… 2-5-1 … outline, 2) pro… f Master progra… 2-5-2 … d in AY 2016 … 2-5-3 … ns to be started 2-6 T… Master progra… 2-6-1 … utline, 2) progra… f Master progra… 2-6-2 … d in AY 2017 … 2-6-3 … ns to be started 3-1 T… s to be started 3-2 To… ed in AY 2016 3-3 To imp… in AY 2016 3-4 To recruit students for Master programs to be started in AY 2017 3-5 To implement Master programs to be started in AY 2017 3-6 To monitor the state of implementation of Master programs semi-annually 3-7 To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring **Activities will be revised accoring to the revised Plan of Operation (PO).**	(a) Dispatch of Experts Long-term experts -VJU Rector -Chief Advisor~~/Organization Management~~ -Project Coordinator~~/industry-academia collaboration~~ -Financial Mamangemenr/industry-academia collaboration ~~-Program Coordination1 (Social Science)~~ -Program Coordinator (Admission & Educational Affairs) ~~-Program Coordination 2 (Natural Science)~~ -Program Coordinator (Student Affairs) -Program Development and Implementation (7programs: Area Studies, Public Policies, Business Administration, Environmental Engineering, Nanotechnology,Infastructure engineering, Climate Change) -Program Development and Implementation (Japanese Language Education) Short-term experts -Program Development and Implementation ~~1~~ (7 Programs ~~to be started in AY 2016.~~) -Program Development and Implementation ~~2~~ (Japanese Language Education~~Programs to be started in AY 2017~~) (b) Training - Short-Term Training of management members and core teaching staff of VJU - Short-Term Training of Master program Students (c) Machinery and Equipment - Equipment necessary for Master programs to be set up in AY 2016 and 2017 (d) Part of running expenses necessary for the implementation of the Project: To be discussed on April 22	(a)VNU's counterpart personnel (b) Suitable office space for VJU Management Board and Japanese experts (c) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the equipment provided by JICA (d) Credentials or identification cards (e) Available data (including maps and photographs) and information related to the project (f) Part of running expenses necessary for the implementation of the Project (g) Expenses necessary for transportation within Vietnam of the equipment procured by the Japanese side as wellas for the installation, operation and maintenance thereof	Necessary budge for the project implementation is secured. **<Issues and countermeasures>**

RECORD OF DISCUSSIONS

ON

THE PROJECT FOR THE ESTABLISHMENT OF THE MASTER PROGRAMS OF VIETNAM-JAPAN UNIVERSITY (VJU)

IN

THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM

AGREED UPON BETWEEN

VIETNAM NATIONAL UNIVERSITY, HANOI

AND

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Hanoi, February 13 , 2015

Mr. Fumihiko OKIURA Senior Representative Vietnam Office Japan International Cooperation Agency	Dr. Nguyen Hoang Hai Vice-President Vietnam National University, Hanoi

Based on the Minutes of Meetings on the third survey for the Project for the Vietnam-Japan University (hereinafter referred to as "the Project") signed on November 14, 2014 between Vietnam National University, Hanoi (hereinafter referred to as "VNU-HN") and the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), JICA held a series of discussions with VNU-HN and relevant organizations to develop a detailed plan of the Project.

Both parties agreed the details of the Project and the main points discussed as described in the Appendix 1 and the Appendix 2 respectively.

Both parties also agreed that VNU-HN, the counterpart to JICA, will be responsible for the implementation of the Project in cooperation with JICA, coordinate with other relevant organizations and ensure that the self-reliant operation of the Project is sustained during and after the implementation period in order to contribute toward social and economic development of the Socialist Republic of Vietnam (hereinafter referred to as "Vietnam").

The Project will be implemented within the framework of the Agreement on Technical Cooperation between the Government of Vietnam (hereinafter referred to as "GOV") and the Government of Japan (hereinafter referred to as "GOJ") signed on October 20, 1998 (hereinafter referred to as "the Agreement") and the Note Verbal to be exchanged between GOJ and GOV.

Appendix 1: Project Description
Appendix 2: Main Points Discussed
Appendix 3: Minutes of Meetings on the third survey team for the Project for the Vietnam-Japan University

Appendix 1

PROJECT DESCRIPTION

Both parties confirmed that there is no change in the Project Description agreed and described in the minutes of meetings on the third survey for the Project signed on November 14, 2014 (Appendix 3) other than some items which had been further discussed after the third survey.

I. BACKGROUND

In Vietnam, rapid economic development has continued since the Doi Moi policy. However, while the economic growth is strong, industrial development and international competitiveness are still the biggest challenges. The Vietnamese Government has set the goal for industrialization of the country by 2020, the same goal as in the "Ten-Year Socio-Economic Development Strategy (2011-2020)" and the "Five-Year Socio-Economic Development Plan (2011-2015)". In order to become an industrialized country and to achieve sustained economic growth, the development of industrial human resources is crucial. By establishing the "Human Resource Development Strategy 2011-2020 (HRDS)" and the "Human Resource Development Master Plan 2011-2020 (HRDMP)", Vietnam aims to strengthen international competitiveness of human resources to achieve international integration and social stability. In particular, the "Higher Education Reform Agenda 2006-2020 (HERA)" was made to attain qualitative improvement and quantitative expansion of higher education institutions, and also to strengthen the management capacity and research capability of universities.

The concept of supporting Vietnam to establish a high-quality human resource training center at higher education level was supported by the "Japan - Vietnam Joint Statement on the Strategic Partnership for Peace and Prosperity in Asia" dated 31 October 2010. In the statement, Prime Minister Nguyen Tan Dung proposed that Japan work in examining the possibility of establishment of a high-quality University in Vietnam believing that this is a substantive cooperation of special significance for Japan-Vietnam cooperation in the long term. Prime Minister Naoto Kan expressed his intention to consider this proposal by Vietnam.

On December 15th 2013, Prime Minister Shinzo Abe held a meeting with H.E. Mr. Nguyen Tan Dung, Prime Minister of Vietnam, who was visiting Japan to attend the ASEAN-Japan Commemorative Summit. Prime Minister Abe mentioned the importance of the development of human resources, and stated that GOJ would like to cooperate with Vietnam for the concept of the VJU, towards which the people concerned in both countries are moving forward. Prime Minister Dung expressed hope that both governments would work together towards early realization of VJU.

On March 18th 2014, Prime Minister Shinzo Abe held a meeting with H.E. Mr. Truong Tan Sang, President of the Socialist Republic of Vietnam, and singed the Japan - Vietnam Joint Statement on the Establishment of the Extensive Strategic Partnership for Peace and Prosperity in Asia. In the

statement, the two sides affirmed the continuation of the two Government's cooperation in the VJU project, which is being promoted by relevant stakeholders of the two countries.

JICA has implemented the "Data Collection Survey for Vietnam - Japan University in the Socialist Republic of Vietnam" (hereinafter referred to as "Survey"). Human resource needs has been confirmed by the Survey as (1) the need for persistent workers, (2) the need for the "Japanese Way of Working", (3) the need for a wide range of science-related education, (4) the need for skilled human resources in charge of research and development, and (5) the need for advanced Japanese language study. For instance, 65% of surveyed Japanese enterprises expressed the expectation towards VJU as the "education to deepen the understanding of business practices and culture of Japan".

The Survey proposed 10-year development plan of VJU from 2016 to 2025 which shall be divided into three stages. In the first stage (September 2016 - August 2019), Master programs of VJU named the "Graduate School of Sustainability" or suitable School(s)/Faculties will be established at the existing facilities of VNU-HN at Hanoi. In the second stage (September 2019 - August 2022), Doctoral programs and undergraduate programs will be established at the Hoa Lac Hi-tech Park (hereinafter referred to as "HHTP") as well as the Hoa Lac new campus of VNU-HN. In the third stage (September 2022 - August 2025), assuming the progress of construction of VJU is implemented as scheduled, four faculties/twelve programs in the field of humanities & social sciences and natural sciences would be established. The relevant facilities such as industry-academia collaboration facilities and research institutions would be also constructed and a variety of high-level human resource development programs and training courses would have been developed by the mid-2023.

In order to start the two year Master programs in 2016, (1) VJU with its organization structure and human resources needs to be officially established under the VNU-HN, (2) educational programs need to be formulated, (3) class rooms and administrative office spaces need to be secured at the existing VNU-HN campus, and (4) full-time lecturers and staffs need to be hired. The GOV requests the GOJ to implement the Technical Cooperation Project for the initiation of the Master programs of VJU.

II. OUTLINE OF THE PROJECT

Details of the Project agreed for the commencement of the Project are described in the Logical Framework (Project Design Matrix: PDM) (Annex I) and the tentative Plan of Operation (Annex II).

The outline of the Project will be decided through further discussions and will be finalized approximately within 1 year from the start of the Project.

1. Title of the Project
   Refer to ANNEX I

2. Overall Goal
   Refer to ANNEX I

3. Project Purpose

Refer to ANNEX I

4. Outputs
Refer to ANNEX I

5. Activities
Refer to ANNEX I

6. Input

(1) Input by JICA

(a) Dispatch of Experts

<u>Long-term experts</u>

-Chief Advisor/Organization Management
-Coordinator/ Industry-Academia Collaboration
-Program Development 1 (Social Science)
-Program Development 2 (Natural Science)

<u>Short-term experts</u>

-Program Development and Implementation

The details (area of cooperation, number of experts, period, and schedule etc.) will be considered, determined and subject to change based on the mutual discussions on the framework of the Project, future progress and the Project, and the budgetary constraint.

(b) Training in Japan/ in country/ the third country

- Short-Term Training of management members, administrative staff and core teaching staff of VJU
- Short-Term Training of Master program Students

(c) Machinery and Equipment

- Equipment necessary for Master programs to be started in Vietnamese Academic Year 2016 and 2017 in specific areas

In case of importation, the machinery, equipment and other materials under II-6 (1) (c) above will be treated in accordance with the Agreement on Technical Cooperation signed on 20 October 1998 between GOJ and GOV.

Input other than indicated above will be determined through mutual consultations between JICA and VNU-HN during the implementation of the Project, as necessary.

(2) Input by VNU-HN

VNU will take necessary measures to provide at its own expense:

(a) Services of VNU-HN's counterpart personnel as referred to in II-7;
(b) Suitable office space for VJU Management Board as referred to in II-7 and Japanese experts;
(c) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles,

tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the equipment provided by JICA;
(d) Credentials or identification cards;
(e) Available data (including maps and photographs) and information related to the Project;
(f) Part of running expenses necessary for the implementation of the Project;
(g) Expenses necessary for transportation within the Socialist Republic of Vietnam of the equipment referred to in II-6 (1) as well as for the installation, operation and maintenance thereof.

7. Implementation Structure

The Project organization chart is given in the Annex III. The roles and assignments of relevant organizations are as follows:

(1) VNU-HN

(a) Project Director

Vice-President of VNU-HN will bear the highest and final responsibility for overall administration and implementation of the Project.

(b) Project Manager

Director of VJU Management Board will be responsible for the managerial and technical matters of the Project.

(c) VJU Management Board

VNU-HN has already established a VJU Management Board to manage the implementation of the Project. The representatives of relevant units and organizations assigned by the President of VNU-HN are members of the Board.

(2) JICA Experts

The JICA experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to VNU on any matters pertaining to the implementation of the Project.

(3) Joint Coordinating Committee

Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established in order to facilitate inter-organizational coordination. JCC will be held at least once a year and whenever deems it necessary. JCC will approve an annual work plan, review overall progress, conduct evaluation of the Project, and exchange opinions on major issues that arise during the implementation of the Project. A list of proposed members of JCC is shown in the Annex IV.

8. Project Site and Beneficiaries

(1) Project Site

Hanoi

(2) Direct Beneficiaries
Students of VJU and VNU-HN, Academic Staffs of VJU and VNU-HN

(3) Indirect Beneficiaries
Private companies, Universities, and Central/Local governments in Vietnam

9. Duration
The duration of the Project will be five (5) years from the date of R/D signing.

10. Reports
VNU-HN and JICA experts will jointly prepare the following reports in English.
(1) Monitoring Sheet on semiannual basis until the project completion
(2) Project Completion Report at the time of project completion

11. Environmental and Social Considerations
VNU-HN agreed to abide by 'JICA Guidelines for Environmental and Social Considerations' in order to ensure that appropriate considerations will be made for the environmental and social impacts of the Project.

III. UNDERTAKINGS OF VNU-HN AND GOV
VNU-HN and GOV will take necessary measures to:

(1) ensure that the technologies and knowledge acquired by the Vietnamese nationals as a result of Japanese technical cooperation contributes to the economic and social development of Vietnam, and that the knowledge and experience acquired by the personnel of the Socialist Republic of Vietnam from technical training as well as the equipment provided by JICA will be utilized effectively in the implementation of the Project; and

(2) grant privileges, exemptions and benefits to the JICA experts referred to in II-6 (1) above and their families, which are no less favorable than those granted to experts and members of the missions and their families of third countries or international organizations performing similar missions in Vietnam.

Other privileges, exemptions and benefits will be provided in accordance with the Agreement on Technical Cooperation signed on 20 October 1998 between GOJ and GOV.

IV. MONITORING AND EVALUATION
JICA and the VNU-HN will jointly and regularly monitor the progress of the Project through the Monitoring Sheets based on the Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operation (PO). The Monitoring Sheets shall be reviewed every six (6) months.
Also, Project Completion Report shall be drawn up one (1) month before the termination of the Project.

JICA will conduct the following evaluations and surveys to mainly verify

sustainability and impact of the Project and draw lessons. The VNU-HN is required to provide necessary support for them.

1. Ex-post evaluation three (3) years after the project completion, in principle
2. Follow-up surveys on necessity basis

V. PROMOTION OF PUBLIC SUPPORT

For the purpose of promoting support for the Project, VNU-HN will take appropriate measures to make the Project widely known to the people of the Socialist Republic of Vietnam.

VI. MISCONDUCT

If JICA receives information related to suspected corrupt or fraudulent practices in the implementation of the Project, VNU-HN and relevant organizations shall provide JICA with such information as JICA may reasonably request, including information related to any concerned official of the government and/or public organizations of the Socialist Republic of Vietnam.

VNU-HN and relevant organizations shall not, unfairly or unfavorably treat the person and/or company which provided the information related to suspected corrupt or fraudulent practices in the implementation of the Project.

VII. MUTUAL CONSULTATION

JICA and VNU-HN will consult each other whenever any major issues arise in the course of Project implementation.

VIII. AMENDMENTS

The record of discussions may be amended by the minutes of meetings between JICA and VNU-HN.

The minutes of meetings will be signed by authorized persons of each side who may be different from the signers of the record of discussions.

Annex I Logical Framework (Project Design Matrix: PDM)
Annex II Tentative Plan of Operation (PO)
Annex III Project Organization Chart
Annex IV A List of Proposed Members of Joint Coordinating Committee (JCC)

Annex 1

Project Design Matrix

Project Title: Project for the Establishment of the Master programs of Vietnam-Japan University (VJU)

Implementing Agency: Vietnam National University, Hanoi (VNU-HN)

Target Group: (Direct) Students of VJU and VNU-HN, Teaching Staffs of VJU and VNU-HN

(Indirect) Private companies, universities, and Central/Local governments in Vietnam,

Period of Project: April 2015 to March 2020 (5 years)

Project Site: Hanoi

Version 0

February, 2015

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remarks
Overall Goal					
Graduates of Master programs of VJU will play active roles in the society.	Reputation of the graduates	Interview and Questionnaire to industry and academic societies			
Project Purpose					
VJU will provide high-quality Master programs continuously.					
Outputs					
1. Organization management of VJU is consolidated.	1.Basic plans 2.Rules and regulations 3.University Development Plan	Record of VJU			
2. Master programs of VJU are prepared.	1. Number (X1) of master programs set up in AY 2016. 2. Number (X2) of master programs set up in AY 2017.	Record of VJU			
3. Master programs of VJU are implemented and improved continuously.	1. Number (X3) of students obtain Master degree though programs set up in AY 2016. 2. Number (X4) of students obtain Master degree though programs set up in AY 2017. 3. Curriculum and Syllabus of master programs are revised regularly based on the result of the monitoring.	Record of VJU			

Activities	Inputs		Pre-Conditions
	The Japanese Side	The Vietnamese Side	
1-1 To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts 1-2 To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU <Approved by Prime Minister> 1-3 To appoint executives and recruit administrative staff 1-4 To formulate and update basic plan (Activity Plan, Financial Plan, etc.) 1-5 To improve capabilities of VJU human resources for University management 1-6 To improve the collaboration and network with international and local partners (universities, private companies) 1-7 To formulate and update University Development Plan 2-1 To implement field survey for curriculum development for all candidate programs 2-2 To secure classrooms and equipment necessary for Master programs to be started in AY 2016 and 2017 2-3 To recruit and train teaching staff for Master programs to be started in AY 2016 and 2017 2-4 To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master programs 2-5 To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2016 2-5-1 To develop curriculums (consist of 1) programs outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master programs to be started in AY 2016 2-5-2 To approve the Master programs to be started in AY 2016 <Approved by VNU President> 2-5-3 To develop detail syllabuses of Master programs to be started in AY 2016 2-6 To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2017 2-6-1 To develop curriculums (consist of 1) program outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master programs to be started in AY 2017 2-6-2 To approve the Master programs to be started in AY 2017 <Approved by VNU President> 2-6-3 To develop detail syllabuses of Master programs to be started in AY 2017 3-1 To do promotion activities for Master programs to be started in AY 2016 and AY 2017 3-2 To recruit students for Master programs to be started in AY 2016 3-3 To implement Master programs to be started in AY 2016 3-4 To recruit students for Master programs to be started in AY 2017 3-5 To implement Master programs to be started in AY 2017 3-6 To monitor the state of implementation of Master programs semi-annually 3-7 To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring	(a) Dispatch of Experts Long-term experts -Chief Advisor/Organization Management -Coordinator/industry-academia collaboration -Program Coordination 1 (Social Science) -Program Coordination 2 (Natural Science) Short-term experts -Program Development and Implementation 1 (Programs to be started in AY 2016.) -Program Development and Implementation 2 (Programs to be started in AY 2017) (b) Training - Short-Term Training of management members and core teaching staff of VJU - Short-Term Training of Master program Students (c) Machinery and Equipment - Equipment necessary for Master programs to be set up in AY 2016 and 2017	(a)VNU's counterpart personnel (b) Suitable office space for VJU Management Board and Japanese experts (c) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the equipment provided by JICA (d) Credentials or identification cards (e) Available data (including maps and photographs) and information related to the project (f) Part of running expenses necessary for the implementation of the Project (g) Expenses necessary for transportation within Vietnam of the equipment procured by the Japanese side as wellas for the installation, operation and maintenance thereof	Necessary budge for the project implementation is secured. **<Issues and countermeasures>**

Tentative Plan of Operation

Version 0 **Annex II**

February, 2015

Project Title: Project for the Establishment of the Master programs of Vietnam-Japan University (VJU)

Inputs		Calendar Year: 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019 / 2020; Vietnamese AY: 2014 / 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019	Remarks	Monitoring: Issue	Monitoring: Solution
Expert					
Chief Advisor/Organization Management	Plan				
	Actual				
Coordinator/industry-academia collaboration	Plan				
	Actual				
Program Coordination 1 (Social Science)	Plan				
	Actual				
Program Coordination 2 (Natural Science)	Plan				
	Actual				
Program Development and Implementation 1 (Programs to be started in AY 2016)	Plan				
	Actual				
Program Development and Implementation 2 (Programs to be started in AY 2017)	Plan				
	Actual				
Equipment					
Equipment necessary for Master programs to be set up in AY 2016 and 2017	Plan				
	Actual				
Training in Japan					
Short-Term Training of management members and core teaching staff of VJU	Plan				
	Actual				
Short-Term Training of Master program Students	Plan				
	Actual				
In-country/Third country Training					
	Plan				
	Actual				

No.	Activities / Sub-Activities						Japanese FY: 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019 / 2020; Vietnamese AY: 2014 / 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019	Responsible Organization: Japan	Responsible Organization: GOV	Achievements	Issue & Countermeasures
Output 1:Organization management of VJU is consolidated.											
1.1	To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts		○			Plan					
						Actual					
1.2	To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU <Approved by Prime Minister>	○				Plan					
						Actual					
1.3	To appoint executives and recruit administrative staff	○	○			Plan					
						Actual					
1.4	To formulate and update basic plan (Activity Plan, Financial Plan, etc.)	○				Plan					
						Actual					
1.5	To improve capabilities of VJU human resources for University management	○		○	○	Plan					
						Actual					
1.6	To improve the collaboration and network with international and local partners (universities, private companies)	○		○	○	Plan					
						Actual					
1.7	To formulate and update University Development Plan	○	○	○	○	Plan					
						Actual					

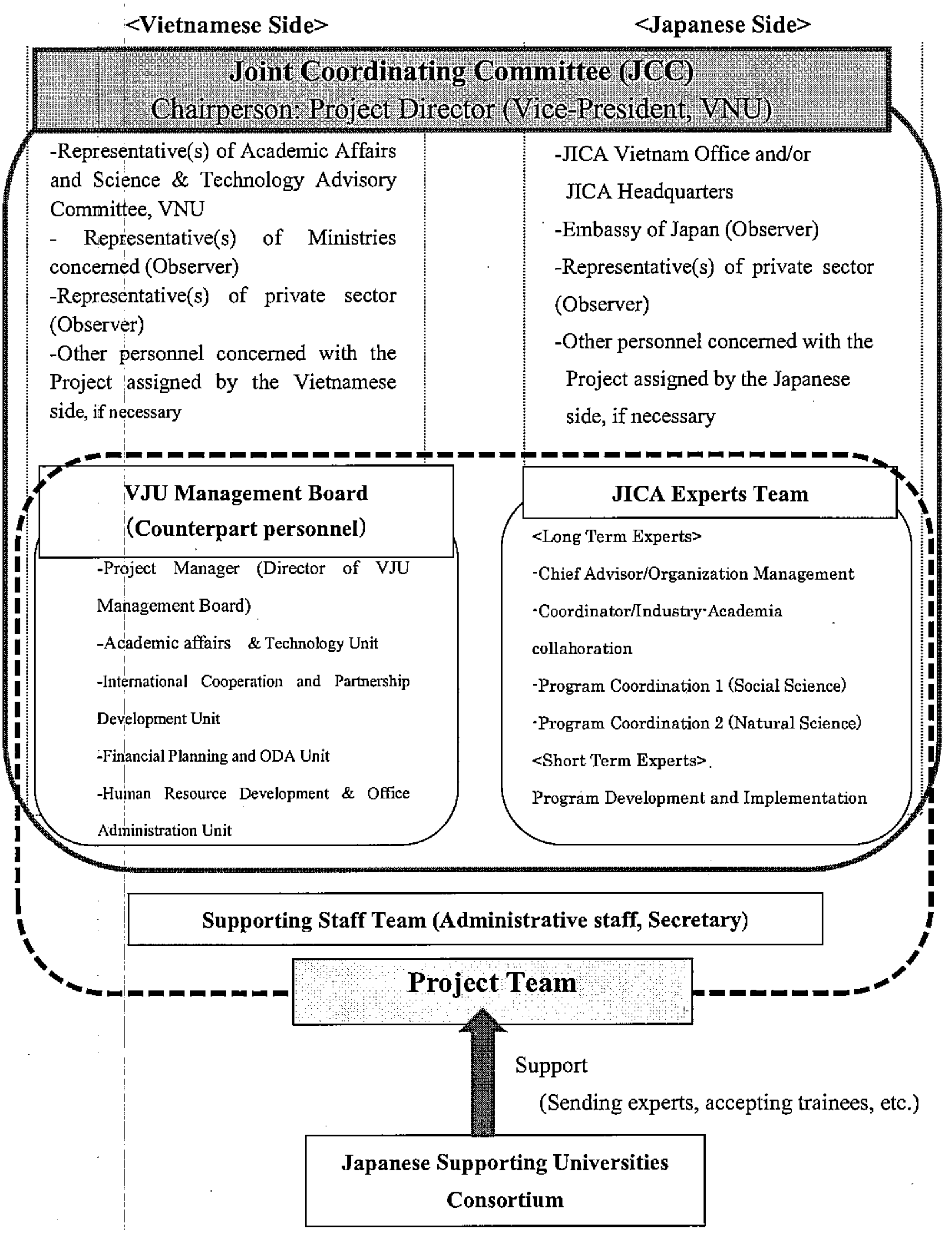
No.	Activity								Schedule			
Output 2:Master programs of VJU are prepared.												
2.1	To implement field survey for curriculum development for all candidate programs	O		O	O			Plan				
								Actual				
2.2	To secure classrooms and equipment necessary for Master programs to be started		O	O	O			Plan				
								Actual				
2.3	To recruit and train teaching staff for Master programs to be started in AY 2016 and 2017		O	O	O			Plan				
								Actual				
2.4	To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master programs	O		O	O			Plan				
								Actual				
2.5	To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2016							Plan				
								Actual				
2.5.1	To develop curriculums (consist of 1) programs outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master programs to be started in AY 2016			O	O	O		Plan				
								Actual				
2.5.2	To approve the Master programs to be started in AY 2016 <Approved by VNU President>							Plan				
								Actual				
2.5.3	To develop detail syllabuses of Master programs to be started in AY 2016					O		Plan				
								Actual				
2.6	To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2017							Plan				
								Actual				
2.6.1	To develop curriculums (consist of 1) program outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master programs to be started in AY 2017			O	O		O	Plan				
								Actual				
2.6.2	To approve the Master programs to be started in AY 2017 <Approved by VNU President>							Plan				
								Actual				
2.6.3	To develop detail syllabuses of Master programs to be started in AY 2017						O	Plan				
								Actual				
Output 3:Master programs of VJU are implemented and improved.												
3.1	To do promotion activities for Master programs to be started in AY 2016 and AY 2017			O	O			Plan				
								Actual				
3.2	To recruit students for Master programs to be started in AY 2016			O	O			Plan	for 1st batch; for 2nd batch; for 3rd batch; for 4th batch; for 5th batch			
								Actual				
3.3	To implement Master programs to be started in AY 2016					O		Plan	1st batch; 2nd batch; 3rd batch; 4th batch			
								Actual				
3.4	To recruit students for Master programs to be started in AY 2017			O	O			Plan	for 1st batch; for 2nd batch; for 3rd batch; for 4th batch			
								Actual				
3.5	To implement Master programs to be started in AY 2017						O	Plan	1st batch; 2nd batch			
								Actual				
3.6	To monitor the state of implementation of Master programs semi-annually	O		O	O	O	O	Plan				
								Actual				
3.7	To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring					O	O	Plan				
								Actual				

Duration / Phasing	Plan / Actual	Japanese FY 2015–2020 / Vietnamese AY 2014–2019			
Duration / Phasing	Plan				
	Actual				

Monitoring Plan		Japanese FY: 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020 / Vietnamese AY: 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019	Remarks	Issue	Solution
Monitoring					
Joint Monitoring / Submission of Monitoring Sheet	Plan				
	Actual				
Joint Coordination Committee / Approving annual PO	Plan				
	Actual				
Monitoring Mission from Japan	Plan				
	Actual				
Post Monitoring	Plan		1~3year(s) later after completing the project		
	Actual				
Reports/Documents					
Project Completion Report	Plan				
	Actual				
Public Relations					
Entrance Ceremony of students for Master programs (AY 2016)	Plan				
	Actual				
Graduation Ceremony of students for Master programs (AY 2016)	Plan				
	Actual				

ANNEX III

Project Organization Chart



ANNEX IV

Composition and Functions of Joint Coordinating Committee (JCC)

The Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be formed and its meetings will be held twice a year for the smooth implementation of the Project. The detail of operational rules will be decided by the Chairperson of JCC and JICA after starting the Project. The prospective functions and members of the JCC are as follows.

1) Functions

(a) To authorize an annual work plan of the Project based on the Plan of Operation within the framework of M/M

(b) To monitor and evaluate the progress of the Project and the results of the annual work plan

(c) To discuss and advise on major issues that arises during the implementation period of the Project.

2) Members

(a)Chairperson

Vice-President, Vietnamese National University, Hanoi (VNU-HN) as Project Director

(b) Members:

<Vietnamese Side>

(1) VJU Management Board, including Director of the Board as Project Manager

(2)Representative(s) of Academic Affairs and Science & Technology Advisory Committee, VNU-HN

(3)Representative(s) of Ministries concerned (as observer)

(4)Representative(s) of private sector (as observer)

(5)Other personnel concerned with the Project assigned by the Vietnamese side, if necessary.

<Japanese side>

(1)JICA experts

(2)Representative of JICA Vietnam Office and/or JICA Headquarters

(3)Representative of Embassy of Japan (as observer)

(4)Representative(s) of private sector (as observer)

(5)Other personnel concerned with the Project assigned by the Japanese side, if necessary

*The JCC can invite other personnel (as official/temporary members) as necessary.

Appendix 2

MAIN POINTS DISCUSSED

(1)Budget secured by the Government of Vietnam

As a national project which was agreed between the state heads of Vietnam and Japan, both Governments' support to the Project should be highly anticipated. In this regard, securing budget for VJU by the Government of Vietnam is expected and necessary for the smooth and sustainable management of VJU, especially at the initial stage since tuition and support from private sector may be insufficient. Therefore, JICA requested VNU-HN to make its best effort to get necessary budget through further negotiation with the Ministry of Finance of Vietnam.

(2)Input

In response to VNU-HN's request on cost sharing about some items, JICA explained its basic policy on each item as follows, while details of each item, such as amount and duration of JICA's input, will be examined carefully and decided within one year after the commencement of the Project through further discussions between VNU-HN and JICA.

Since costs for these items should be borne by the recipient country in principle, JICA requested VNU-HN to make its continuous effort to enhance the ratio of VNU-HN's input throughout the Project, which leads to sustainable operation of VJU. VNU-HN accepted it.

1) Administrative Staff

JICA is ready to bear part of the cost of administrative staffs and secretaries of VJU, who will work for "the Project Team" which consists of both VJU Management Board and JICA Experts Team as shown in the ANNEX III (Project Organization Chart) in the R/D.

2) Necessary equipment for the office space of VJU Management Board and JICA Experts Team

JICA is ready to bear part of the cost of equipment necessary for the office space of VJU Management Board and JICA experts Team located at the 9th and 10th floors of the Administrative Building of VNU-HN. Equipment will be procured in accordance with JICA's regulation, where JICA cannot reimburse any expenses already paid by VNU-HN.

This office space is temprorary, and will be relocated to new place outside of VNU-HN campus which would be secured for implementation of the Master programs. In principle, the equipment prvided by JICA should be relocated to the new place at the time of office-relocation.

3) Suitable classrooms for Master programs

JICA is ready to bear the cost of carpentry work and the rent for classrooms until around the end of Vietnamese Academic Year 2017 (August, 2018), if they are secured outside of VNU-HN campus in Hanoi. It will be discussed with proper timing between JICA and VNU-HN who bears the rent for Vietnamese Academic Year 2018 and afterward.

4) Part of running expenses necessary for the implementation of the Project

Further discussion is required between JICA and VNU-HN on which item of running expenses, including ones paid to personnel inside VNU-HN for their extra works, will be borne by which side.

(3) Project organizational chart

Since a new Director was appointed for the VJU Management Board, both sides agreed to assign the Director as Project Manager, and to assign the Vice-President of VNU-HN as Project Director.

(4) Involvement of related Ministries

As seen in the ANNEX III (Project Organization Chart) and ANNEX IV (Composition and Functions of Joint Coordinating committee (JCC) in the R/D, the Project should be equipped with mechanism to involve related parties of the Project either as an official member of the JCC or as an observer. Since VNU-HN has special status as national university directly belonging to the Office of Government, VNU-HN would consider the involvement of related Ministries carefully and inform the result to JICA prior to the 1st Joint Coordinating Committee.

MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
AND
VIETNAM NATIONAL UNIVERSITY, HANOI
ON
THE THIRD SURVEY
FOR
THE PROJECT FOR THE VIETNAM-JAPAN UNIVERSITY

The Third Survey Team for the Project for the Vietnam-Japan University (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") visited the Socialist Republic of Vietnam (hereinafter referred to as "Vietnam") in November 2014 for the purpose of preparation for formulating the technical cooperation project for the Vietnam-Japan University (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in Vietnam, the Team had a series of discussions with the Vietnam National University, Hanoi and the authorities concerned of Vietnam, jointly developed idea and exchanged views on the Project.

As a result of the discussions, both parties agreed on the matters referred to in the documents attached hereto.

Hanoi, November 14, 2014

佐野 景子	[signature]
Ms. Keiko Sano Deputy Director General Human Resources Development Department Japan International Cooperation Agency	Dr. Nguyen Hoang Hai Vice-President Vietnam National University, Hanoi

THE ATTACHED DOCUMENT

I. Draft of R/D

Drafted Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D") is attached as Appendix I. The R/D will be signed by and exchanged between JICA and Vietnam National University, Hanoi (hereinafter referred to as "VNU-HN") after the official adoption of the Project by the Government of Japan followed by necessary procedures at JICA and VNU-HN.

II. Main points discussed.

1.Fields and Master programs of Vietnam-Japan University

VNU-HN and JICA agreed to establish the Master programs of Vietnam-Japan University (hereinafter referred to as "VJU") in the name of "the Graduate School of Sustainability Science" by putting the value on "Sustainability" for the integrity of the new university. Regarding the fields and candidate Master programs for Academic Year (hereinafter referred to as "AY")2016 or AY2017, which is the direct target of the Project, both sides reached the common understanding described in Appendix II. Prior to the final set up of the Master programs in AY2016 or AY2017, VNU-HN will implement field survey in collaboration with the Japanese side in order to grasp the industries' needs or expectations in detail towards each program for reference.

2. Project Implementation Issues

(1)Official Request of the Project and Project title

VNU-HN has already submitted the official request of the Project to the Ministry of Planning and Investment of Vietnam, but it has not been reached to the Embassy of Japan in Vietnam yet because of the internal procedure of the Government of Vietnam. Both VNU-HN and JICA will follow up and make the best efforts in order that the request will be sent to the Embassy as soon as possible (by the end of November 2014). Early submission is quite important so that the Project will be able to start in the beginning of Japanese Fiscal Year 2015 by having adequate preparation time for the Master programs to be started in AY2016.

In addition, based on the agreement between JICA and VNU-HN during the stay of the Team in Hanoi, the current Project title "Project for the Vietnam-Japan University" should be changed to "The Project for the Establishment of the Master programs of Vietnam-Japan University (VJU)" in order to clearly define the direct target of the Project, namely, establishment of Master programs. Both sides will take necessary procedures for the change of the project title before exchange of the R/D.

(2)Budget secured by the Government of Vietnam

As a national project which was agreed between the state heads of Vietnam and Japan, both Governments' support to the Project should be highly anticipated. In this regard, securing budget for VJU by the Government of Vietnam is expected and necessary for the smooth and sustainable management of VJU, especially at the initial stage since tuition and support from private sector may be insufficient. Therefore, JICA requested VNU-HN to make its best effort to get necessary budget through further negotiation with the Ministry of Finance of Vietnam (hereinafter referred to as "MOF").

(3)Input

Regarding the input for the Project, VNU-HN requested JICA to bear costs for the following items which should be borne by the recipient country in principle, because no additional budget for the Project is provided by MOF at present.

1) Administrative Staff

VNU-HN has already assigned seven administrative staff for setting up VJU, and more staff might be needed along with the expansion of operations when the Project will start.

2) Necessary equipment of the office space for VJU Management Board and JICA Experts Team

VNU-HN has already started extension work to secure the office space at the 9th and 10th floors of the Administrative Building of VNU-HN as the headquarters of VJU at the initial stage by its own expenses. However, equipment will be furnished later and VNU-HN asked if JICA could bear those costs.

3) Suitable classrooms for Master programs for AY 2016 and 2017

Due to lack of classrooms in the VNU-HN campus in Hanoi, VNU-HN proposed to secure classrooms of VJU at the business complex near the headquarters of the VJU. Costs of carpentry work and the rent for the first couple of years are asked to be borne by JICA.

4) Part of running expenses necessary for the implementation of the Project

VNU-HN will bear running expenses in principle, but some items such as honorarium to external experts for the work of curriculum development, usage fee of facilities and equipment of other universities under VNU etc., are asked to be borne by JICA.

JICA took note of the requests from VNU-HN and will examine the possibility of bearing these costs with calculation of the total cost of the

KS

Project and examine the necessity of each item carefully by the timing of exchange of the R/D. Therefore, these items above are excluded in the current draft R/D. To that end, JICA requested VNU-HN to provide necessary information by the reference materials by the end of November 2014 such as;

- Quotation of carpentry work of candidate classroom
- Quotation of rent of candidate classroom, and
- Usage fee of facilities and typical equipment at VNU-HN (internal rate).

(4) Involvement of related Ministries

As seen in the ANNEX III (Project Organization Chart) and ANNEX IV (Composition and Functions of Joint Coordinating committee (JCC) in Drafted R/D, the Project should be equipped with mechanism to involve related parties of the Project either as an official member of the JCC or as an observer. Since VNU-HN has special status as national university directly belonging to the Office of Government, VNU-HN would consider the involvement of related Ministries carefully and inform the result to JICA prior to exchanging Record of Discussions.

END

Appendix I: Draft R/D
Appendix II: Fields and Candidate Master programs for Academic Year 2016 or 2017

KS.

Appendix I: Draft Record of Discussions

RECORD OF DISCUSSIONS

ON

THE PROJECT FOR THE ESTABLISHMENT OF THE MASTER PROGRAMS OF VIETNAM-JAPAN UNIVERSITY (VJU)

IN

THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM

AGREED UPON BETWEEN

VIETNAM NATIONAL UNIVERSITY, HANOI

AND

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Hanoi, ______________

Mr. Mutsuya MORI Chief Representative Vietnam Office Japan International Cooperation Agency	Dr. Phung Xuan Nha President Vietnam National University, Hanoi

KS.

Based on the Minutes of Meetings on the third survey for the Project for the Vietnam-Japan University (hereinafter referred to as "the Project") signed on November 14, 2014 between Vietnam National University, Hanoi (hereinafter referred to as "VNU-HN") and the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), JICA held a series of discussions with VNU-HN and relevant organizations to develop a detailed plan of the Project.

Both parties agreed the details of the Project and the main points discussed as described in the Appendix 1 and the Appendix 2 respectively.

Both parties also agreed that VNU-HN, the counterpart to JICA, will be responsible for the implementation of the Project in cooperation with JICA, coordinate with other relevant organizations and ensure that the self-reliant operation of the Project is sustained during and after the implementation period in order to contribute toward social and economic development of the Socialist Republic of Vietnam (hereinafter referred to as "Vietnam").

The Project will be implemented within the framework of the Agreement on Technical Cooperation between the Government of Vietnam (hereinafter referred to as "GOV") and the Government of Japan (hereinafter referred to as "GOJ") signed on 20 October 1998 (hereinafter referred to as "the Agreement") and the Note Verbal 【exchanged on [date]】between GOJ and GOV.

Appendix 1: Project Description
Appendix 2: Main Points Discussed
Appendix 3: Minutes of Meetings on the third survey team for the Project for the Vietnam-Japan University

Appendix 1

PROJECT DESCRIPTION

Both parties confirmed that there is no change in the Project Description agreed and described in the minutes of meetings on the third survey for the Project signed on November 14, 2014 (Appendix 3) other than some items which had been further discussed after the third survey.

I. BACKGROUND

In Vietnam, rapid economic development has continued since the Doi Moi policy. However, while the economic growth is strong, industrial development and international competitiveness are still the biggest challenges. The Vietnamese Government has set the goal for industrialization of the country by 2020, the same goal as in the "Ten-Year Socio-Economic Development Strategy (2011-2020)" and the "Five-Year Socio-Economic Development Plan (2011-2015)". In order to realize becoming an industrialized country and to achieve sustained economic growth, the development of industrial human resources is crucial. By establishing the "Human Resource Development Strategy 2011-2020 (HRDS)" and the "Human Resource Development Master Plan 2011-2020 (HRDMP)", Vietnam aims to strengthen international competitiveness of human resources to achieve international integration and social stability. In particular, the "Higher Education Reform Agenda 2006-2020 (HERA)" was made to attain qualitative improvement and quantitative expansion of higher education institutions, and also to strengthen the management capacity and research capability of the university.

The concept of supporting Vietnam to establish a high-quality human resource training center at higher education level was supported by the "Japan - Vietnam Joint Statement on the Strategic Partnership for Peace and Prosperity in Asia" dated 31 October 2010. In the statement, Prime Minister Nguyen Tan Dung proposed that Japan work in examining the possibility of establishment of a high-quality University in Vietnam believing that this is a substantive cooperation of special significance for Japan-Vietnam cooperation in the long term. Prime Minister Naoto Kan expressed his intention to consider this proposal by Vietnam.

On 15 December 2013, Prime Minister Shinzo Abe held a meeting with H.E. Mr. Nguyen Tan Dung, Prime Minister of Vietnam, who was visiting Japan to attend the ASEAN-Japan Commemorative Summit. Prime Minister Abe mentioned the importance of the development of human resources, and stated that GOJ would like to cooperate with Vietnam for the concept of the VJU, towards which the people concerned in both countries are moving forward. Prime Minister Dung expressed hope that both governments will work together towards early realization of VJU.

On 18 March 2014, Prime Minister Shinzo Abe held a meeting with H.E. Mr. Truong Tan Sang, President of the Socialist Republic of Vietnam, and singed the Japan - Vietnam Joint Statement on the Establishment of the Extensive Strategic Partnership for Peace and Prosperity in Asia. In the statement, the two

sides affirmed the continuation of the two Government's cooperation in the VJU project, which is being promoted by relevant stakeholders of the two countries.

JICA has implemented the "Data Collection Survey for Vietnam - Japan University in the Socialist Republic of Vietnam" (hereinafter referred to as "Survey"). Human resource needs has been confirmed by the Survey as (1) the need for persistent workers, (2) the need for the "Japanese Way of Working", (3) the need for a wide range of science-related education, (4) the need for skilled human resources in charge of research and development, and (5) the need for advanced Japanese language study. For instance, 65% of surveyed Japanese enterprises expressed the expectation towards VJU as the "education to deepen the understanding of business practices and culture of Japan".

The Survey proposed 10-year development plan of VJU from 2016 to 2025 which shall be divided into three stages. In the first stage (September 2016 - August 2019), Master programs of VJU named the "Graduate School of Sustainability" will be established at the existing facilities of VNU-HN at Hanoi. In the second stage (September 2019 - August 2022), Doctoral programs and undergraduate programs will be established at the Hoa Lac Hi-tech Park (hereinafter referred to as "HHTP") as well as the Hoa Lac new campus of VNU-HN. In the third stage (September 2022 - August 2025), assuming the progress of construction of VJU is implemented as scheduled, four faculties/twelve programs in the field of humanities & social sciences and natural sciences would be established. The relevant facilities such as industry-academia collaboration facilities and research institutions would be also constructed and a variety of high-level human resource development programs and training courses would have been developed by the mid-2023.

In order to start the two year Master programs in 2016, (1) VJU needs to be officially established under the VNU-HN, (2) educational program needs to be formulated, (3) class rooms and administrative office spaces need to be secured at the existing VNU-HN campus, and (4) full-time lecturers and staffs need to be hired. The GOV requests the GOJ to implement the Technical Cooperation Project for the initiation of the Master programs of VJU.

II. <u>OUTLINE OF THE PROJECT</u>

Details of the Project agreed for the commencement of the Project are described in the Logical Framework (Project Design Matrix: PDM) (Annex I) and the tentative Plan of Operation (Annex II).

The outline of the Project will be decided through further discussions and will be finalized approximately within 1 year from the start of the Project.

1. Title of the Project
   Refer to ANNEX I

2. Overall Goal
   Refer to ANNEX I

3. Project Purpose
   Refer to ANNEX I

KB.

4. Outputs
Refer to ANNEX I

5. Activities
Refer to ANNEX I

6. Input
(1) Input by JICA
(a) Dispatch of Experts
Long-term experts
-Chief Advisor/Organization Management
-Coordinator/ Industry-Academia Collaboration
-Program Development 1 (Social Science)
-Program Development 2 (Natural Science)
Short-term experts
-Program Development and Implementation
The details (area of cooperation, number of experts, period, and schedule etc.) will be considered, determined and subject to change based on the mutual discussions on the framework of the Project, future progress and the Project, and the budgetary constraint.)

(b) Training in Japan/ in country/ the third country
- Short-Term Training of management members, administrative staff and core teaching staff of VJU
- Short-Term Training of Master program Students

(c) Machinery and Equipment
- Equipment necessary for Master programs to be started in AY 2016 and 2017 in specific areas

In case of importation, the machinery, equipment and other materials under II-6 (1) (c) above will be treated in accordance with the Agreement on Technical Cooperation signed on 20 October 1998 between GOJ and GOV.

Input other than indicated above will be determined through mutual consultations between JICA and VNU-HN during the implementation of the Project, as necessary.

(2) Input by VNU-HN
VNU will take necessary measures to provide at its own expense:
(a) Services of VNU-HN's counterpart personnel as referred to in II-7;
(b) Suitable office space for VJU Management Board as referred to in II-7 and Japanese experts;
(c) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the equipment provided by

KB. & [initials]

JICA;

(d) Credentials or identification cards;

(e) Available data (including maps and photographs) and information related to the Project;

(f) Part of running expenses necessary for the implementation of the Project;

(g) Expenses necessary for transportation within the Socialist Republic of Vietnam of the equipment referred to in II-6 (1) as well as for the installation, operation and maintenance thereof.

7. Implementation Structure

The Project organization chart is given in the Annex III. The roles and assignments of relevant organizations are as follows:

(1) VNU-HN

(a) Project Director

President of VNU-HN will bear the highest and final responsibility for overall administration and implementation of the Project.

(b) Project Manager

Vice President of VNU-HN will be responsible for the managerial and technical matters of the Project.

(c) VJU Management Board

VNU-HN has already established a VJU Management Board to manage the implementation of the Project. The representatives of relevant units and organizations assigned by the President of VNU-HN are members of the Board.

(2) JICA Experts

The JICA experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to VNU on any matters pertaining to the implementation of the Project.

(3) Joint Coordinating Committee

Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established in order to facilitate inter-organizational coordination. JCC will be held at least once a year and whenever deems it necessary. JCC will approve an annual work plan, review overall progress, conduct evaluation of the Project, and exchange opinions on major issues that arise during the implementation of the Project. A list of proposed members of JCC is shown in the Annex IV.

8. Project Site and Beneficiaries

(1) Project Site

Hanoi

(2) Direct Beneficiaries

Students of VJU and VNU-HN, Academic Staffs of VJU and VNU-HN

KS.

(3) Indirect Beneficiaries

Private companies, Universities, and Central/Local governments in Vietnam

9. Duration

The duration of the Project will be five (5) years from the date of R/D signing.

10. Reports

VNU-HN and JICA experts will jointly prepare the following reports in English.

(1) Monitoring Sheet on semiannual basis until the project completion
(2) Project Completion Report at the time of project completion

11. Environmental and Social Considerations

VNU-HN agreed to abide by 'JICA Guidelines for Environmental and Social Considerations' in order to ensure that appropriate considerations will be made for the environmental and social impacts of the Project.

III. UNDERTAKINGS OF VNU-HN AND GOV

VNU-HN and GOV will take necessary measures to:

(1) ensure that the technologies and knowledge acquired by the Vietnamese nationals as a result of Japanese technical cooperation contributes to the economic and social development of Vietnam, and that the knowledge and experience acquired by the personnel of the Socialist Republic of Vietnam from technical training as well as the equipment provided by JICA will be utilized effectively in the implementation of the Project; and

(2) grant privileges, exemptions and benefits to the JICA experts referred to in II-6 (1) above and their families, which are no less favorable than those granted to experts and members of the missions and their families of third countries or international organizations performing similar missions in Vietnam.

Other privileges, exemptions and benefits will be provided in accordance with the Agreement on Technical Cooperation signed on 20 October 1998 between GOJ and GOV.

IV. MONITORING AND EVALUATION

JICA and the VNU-HN will jointly and regularly monitor the progress of the Project through the Monitoring Sheets based on the Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operation (PO). The Monitoring Sheets shall be reviewed every six (6) months.

Also, Project Completion Report shall be drawn up one (1) month before the termination of the Project.

JICA will conduct the following evaluations and surveys to mainly verify sustainability and impact of the Project and draw lessons. The VNU-HN is required to provide necessary support for them.

KG.

1. Ex-post evaluation three (3) years after the project completion, in principle
2. Follow-up surveys on necessity basis

V. PROMOTION OF PUBLIC SUPPORT

For the purpose of promoting support for the Project, VNU-HN will take appropriate measures to make the Project widely known to the people of the Socialist Republic of Vietnam.

VI. MISCONDUCT

If JICA receives information related to suspected corrupt or fraudulent practices in the implementation of the Project, VNU-HN and relevant organizations shall provide JICA with such information as JICA may reasonably request, including information related to any concerned official of the government and/or public organizations of the Socialist Republic of Vietnam.
VNU-HN and relevant organizations shall not, unfairly or unfavorably treat the person and/or company which provided the information related to suspected corrupt or fraudulent practices in the implementation of the Project.

VII. MUTUAL CONSULTATION

JICA and VNU-HN will consult each other whenever any major issues arise in the course of Project implementation.

VIII. AMENDMENTS

The record of discussions may be amended by the minutes of meetings between JICA and VNU-HN.
The minutes of meetings will be signed by authorized persons of each side who may be different from the signers of the record of discussions.

Annex I Logical Framework (Project Design Matrix: PDM)
Annex II Tentative Plan of Operation (PO)
Annex III Project Organization Chart
Annex IV A List of Proposed Members of Joint Coordinating Committee (JCC)

Appendix 2

MAIN POINTS DISCUSSED

- To be added, if any.

Appendix 3

(Minutes of Meetings on the third Survey will be attached.)

KS.

Annex I

Project Design Matrix

Project Title: Project for the Establishment of the Master programs of Vietnam-Japan University (VJU)

Implementing Agency: Vietnam National University, Hanoi (VNU-HN)

Target Group: (Direct) Students of VJU and VNU-HN, Teaching Staffs of VJU and VNU-HN

(Indirect) Private companies, universities, and Central/Local governments in Vietnam,

Period of Project: XXXXX 2015 to XXXX 2020 (5 years)

Project Site: Hanoi

Version 0

Dated November 14, 2014

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remarks
Overall Goal					
Graduates of Master programs of VJU will play active roles in the society.	Reputation of the graduates	Interview and Questionnaire to industry and academic societies			
Project Purpose					
VJU will provide high-quality Master programs continuously.					
Outputs					
1. Organization management of VJU is consolidated.	1.Basic plans 2.Rules and regulations 3.University Development Plan	Record of VJU			
2. Master programs of VJU are prepared.	1. Number (X1) of master programs set up in AY 2016. 2. Number (X2) of master programs set up in AY 2017.	Record of VJU			
3. Master programs of VJU are implemented and improved continuously.	1. Number (X3) of students obtain Master degree though programs set up in AY 2016. 2. Number (X4) of students obtain Master degree though programs set up in AY 2017. 3. Curriculum and Syllabus of master programs are revised regularly based on the result of the monitoring.	Record of VJU			

KS.

Activities	Inputs		Pre-Conditions
	The Japanese Side	The Vietnamese Side	Necessary budge for the project implementation is secured.
1-1 To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts	(a) Dispatch of Experts Long-term experts -Chief Advisor/Organization Management -Coordinator/industry-academia collaboration -Program Coordination 1 (Social Science) -Program Coordination 2 (Natural Science) Short-term experts -Program Development and Implementation 1 (Programs to be started in AY 2016.) -Program Development and.Implementation 2 (Programs to be started in AY 2017) (b) Training - Short-Term Training of management members and core teaching staff of VJU - Short-Term Training of Master program Students (c) Machinery and Equipment - Equipment necessary for Master programs to be set up in AY 2016 and 2017	(a)VNU's counterpart personnel (b) Suitable office space for VJU Management Board and Japanese experts (c) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the equipment provided by JICA (d) Credentials or identification cards (e) Available data (including maps and photographs) and information related to the project (f) Part of running expenses necessary for the implementation of the Project (g) Expenses necessary for transportation within Vietnam of the equipment procured by the Japanese side as wellas for the installation, operation and maintenance thereof	<Issues and countermeasures>
1-2 To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU <Approved by Prime Minister>			
1-3 To appoint executives and recruit administrative staff			
1-4 To formulate and update basic plan (Activity Plan, Financial Plan, etc.)			
1-5 To improve capabilities of VJU human resources for University management			
1-6 To improve the collaboration and network with international and local partners (universities, private companies)			
1-7 To formulate and update University Development Plan			
2-1 To implement field survey for curriculum development for all candidate programs			
2-2 To secure classrooms and equipment necessary for Master programs to be started in AY 2016 and 2017			
2-3 To recruit and train teaching staff for Master programs to be started in AY 2016 and 2017			
2-4 To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master programs			
2-5 To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2016			
2-5-1 To develop curriculums (consist of 1) programs outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master programs to be started in AY 2016			
2-5-2 To approve the Master programs to be started in AY 2016 <Approved by VNU President>			
2-5-3 To develop detail syllabuses of Master programs to be started in AY 2016			
2-6 To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2017			
2-6-1 To develop curriculums (consist of 1) program outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master programs to be started in AY 2017			
2-6-2 To approve the Master programs to be started in AY 2017 <Approved by VNU President>			
2-6-3 To develop detail syllabuses of Master programs to be started in AY 2017			
3-1 To do promotion activities for Master programs to be started in AY 2016 and AY 2017			
3-2 To recruit students for Master programs to be started in AY 2016			
3-3 To implement Master programs to be started in AY 2016			
3-4 To recruit students for Master programs to be started in AY 2017			
3-5 To implement Master programs to be started in AY 2017			
3-6 To monitor the state of implementation of Master programs semi-annually			
3-7 To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring			

Version 0 **Annex II**

Dated November 14, 2014

Tentative Plan of Operation

Project Title: Project for the Establishment of the Master programs of Vietnam-Japan University (VJU)

Inputs		Calendar Year: 2015	2016	2017	2018	2019	2020	Remarks	Monitoring: Issue	Monitoring: Solution
	Vietnamese AY	2014 / 2015	2015 / 2016	2016 / 2017	2017 / 2018	2018 / 2019	2019			
Expert										
Chief Advisor/Organization Management	Plan									
	Actual									
Coordinator/industry-academia collaboration	Plan									
	Actual									
Program Coordination 1 (Social Science)	Plan									
	Actual									
Program Coordination 2 (Natural Science)	Plan									
	Actual									
Program Development and Implementation 1 (Programs to be started in AY 2016)	Plan									
	Actual									
Program Development and Implementation 2 (Programs to be started in AY 2017)	Plan									
	Actual									
Equipment										
Equipment necessary for Master programs to be set up in AY 2016 and 2017	Plan									
	Actual									
Training in Japan										
Short-Term Training of management members and core teaching staff of VJU	Plan									
	Actual									
Short-Term Training of Master program Students	Plan									
	Actual									
In-country/Third country Training										
	Plan									
	Actual									

Activities	Sub-Activities	Japanese FY / Vietnamese AY	2015 (AY 2014)	2016 (AY 2015)	2017 (AY 2016)	2018 (AY 2017)	2019 (AY 2018)	2020 (AY 2019)	Responsible Organization: Japan	Responsible Organization: GOV	Achievements	Issue & Countermeasures
Output 1:Organization management of VJU is consolidated.												
1.1	To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts	Plan										
		Actual										
1.2	To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU <Approved by Prime Minister>	Plan										
		Actual										
1.3	To appoint executives and recruit administrative staff	Plan										
		Actual										
1.4	To formulate and update basic plan (Activity Plan, Financial Plan, etc.)	Plan										
		Actual										
1.5	To improve capabilities of VJU human resources for University management	Plan										
		Actual										
1.6	To improve the collaboration and network with international and local partners (universities, private companies)	Plan										
		Actual										
1.7	To formulate and update University Development Plan	Plan										
		Actual										

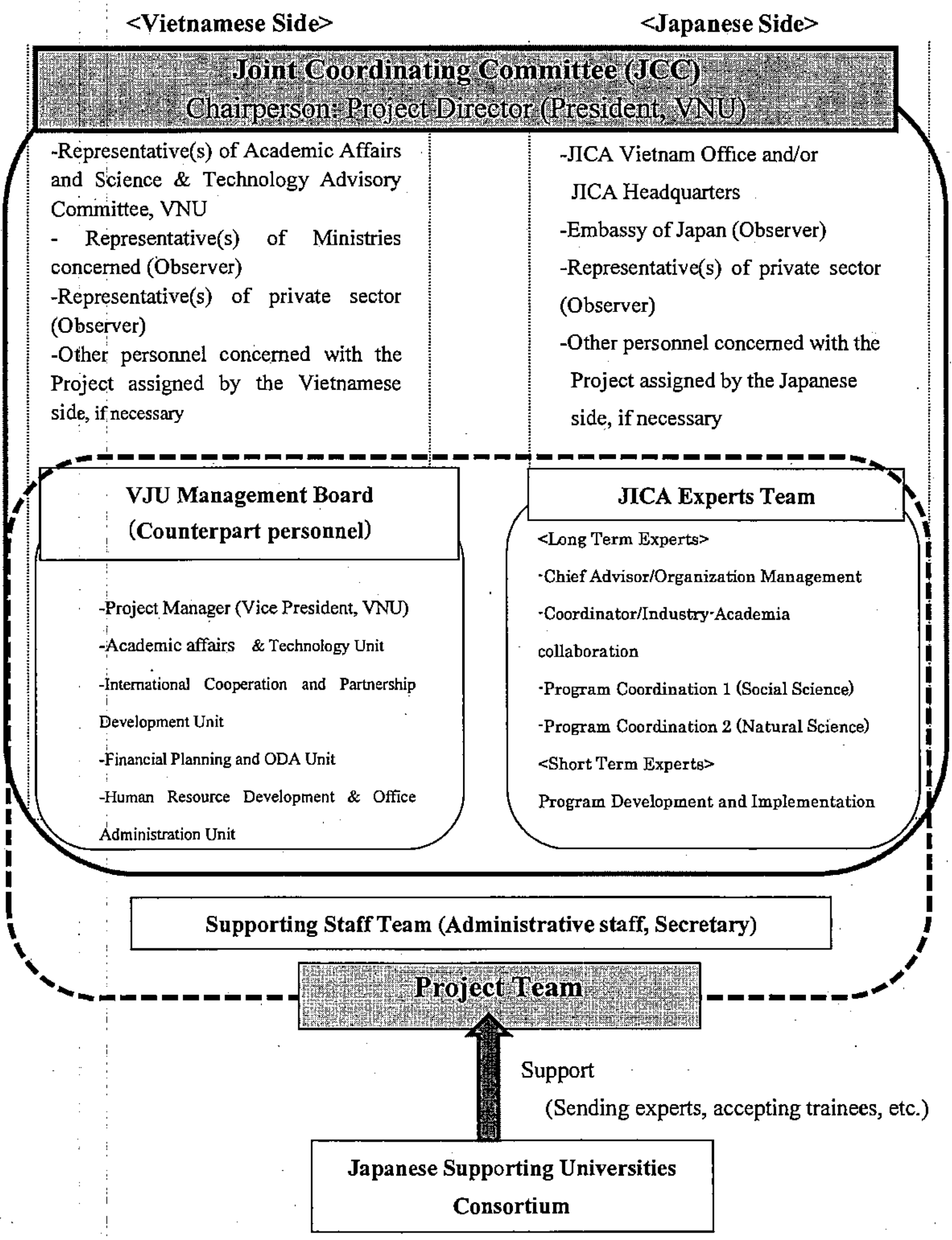
No.	Activities / Sub-Activities		Schedule (Japanese FY 2015–2020 / Vietnamese AY 2014–2019)	Responsible Organization: Japan	Responsible Organization: GOV	Achievements	Issue & Countermeasures
Output 2:Master programs of VJU are prepared.							
2.1	To implement field survey for curriculum development for all candidate programs	Plan					
		Actual					
2.2	To secure classrooms and equipment necessary for Master programs to be started in AY 2016 and 2017	Plan					
		Actual					
2.3	To recruit and train teaching staff for Master programs to be started in AY 2016 and 2017	Plan					
		Actual					
2.4	To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master programs	Plan					
		Actual					
2.5	To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2016	Plan					
		Actual					
2.5.1	To develop curriculums (consist of 1) programs outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master programs to be started in AY 2016	Plan					
		Actual					
2.5.2	To approve the Master programs to be started in AY 2016 <Approved by VNU President>	Plan					
		Actual					
2.5.3	To develop detail syllabuses of Master programs to be started in AY 2016	Plan					
		Actual					
2.6	To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2017	Plan					
		Actual					
2.6.1	To develop curriculums (consist of 1) program outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master programs to be started in AY 2017	Plan					
		Actual					
2.6.2	To approve the Master programs to be started in AY 2017 <Approved by VNU President>	Plan					
		Actual					
2.6.3	To develop detail syllabuses of Master programs to be started in AY 2017	Plan					
		Actual					
Output 3:Master programs of VJU are implemented and improved.							
3.1	To do promotion activities for Master programs to be started in AY 2016 and AY 2017	Plan					
		Actual					
3.2	To recruit students for Master programs to be started in AY 2016	Plan	for 1st batch; for 2nd batch; for 3rd batch; for 4th batch; for 5th batch				
		Actual					
3.3	To implement Master programs to be started in AY 2016	Plan	1st batch; 2nd batch; 3rd batch; 4th batch				
		Actual					
3.4	To recruit students for Master programs to be started in AY 2017	Plan	for 1st batch; for 2nd batch; for 3rd batch; for 4th batch				
		Actual					
3.5	To implement Master programs to be started in AY 2017	Plan	1st batch; 2nd batch				
		Actual					
3.6	To monitor the state of implementation of Master programs semi-annually	Plan					
		Actual					
3.7	To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring	Plan					
		Actual					

Duration / Phasing				
	Plan			
	Actual			

Monitoring Plan		Japanese FY: 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019 / 2020; Vietnamese AY: 2014 / 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019	Remarks	Issue	Solution
Monitoring					
Joint Monitoring / Submission of Monitoring Sheet	Plan				
	Actual				
Joint Coordination Committee / Approving annual PO	Plan				
	Actual				
Monitoring Mission from Japan	Plan				
	Actual				
Post Monitoring	Plan		1~3year(s) later after completing the project		
	Actual				
Reports/Documents					
Project Completion Report	Plan				
	Actual				
Public Relations					
Entrance Ceremony of students for Master programs (AY 2016)	Plan				
	Actual				
Graduation Ceremony of students for Master programs (AY 2016)	Plan				
	Actual				

ANNEX III

Project Organization Chart



KS.

ANNEX IV

Composition and Functions of Joint Coordinating Committee (JCC)

The Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be formed and its meetings will be held twice a year for the smooth implementation of the Project. The detail of operational rules will be decided by the Chairperson of JCC and JICA after starting the Project. The prospective functions and members of the JCC are as follows.

1) Functions

(a) To authorize an annual work plan of the Project based on the Plan of Operation within the framework of M/M
(b) To monitor and evaluate the progress of the Project and the results of the annual work plan
(c) To discuss and advise on major issues that arises during the implementation period of the Project.

2) Members

(a)Chairperson
President, Vietnamese National University, Hanoi (VNU-HN) as Project Director

(b) Members:
<Vietnamese Side>
(1)Project Manager
(2)VJU Management Board including Vice- President of VNU-HN as Project Manager
(3)Representative(s) of Academic Affairs and Science & Technology Advisory Committee, VNU-HN
(4)Representative(s) of Ministries concerned (as observer)
(5)Representative(s) of private sector (as observer)
(6)Other personnel concerned with the Project assigned by the Vietnamese side, if necessary.

<Japanese side>
(1)JICA experts
(2)Representative of JICA Vietnam Office and/or JICA Headquarters
(3)Representative of Embassy of Japan (as observer)
(4)Representative(s) of private sector (as observer)
(5)Other personnel concerned with the Project assigned by the Japanese side, if necessary

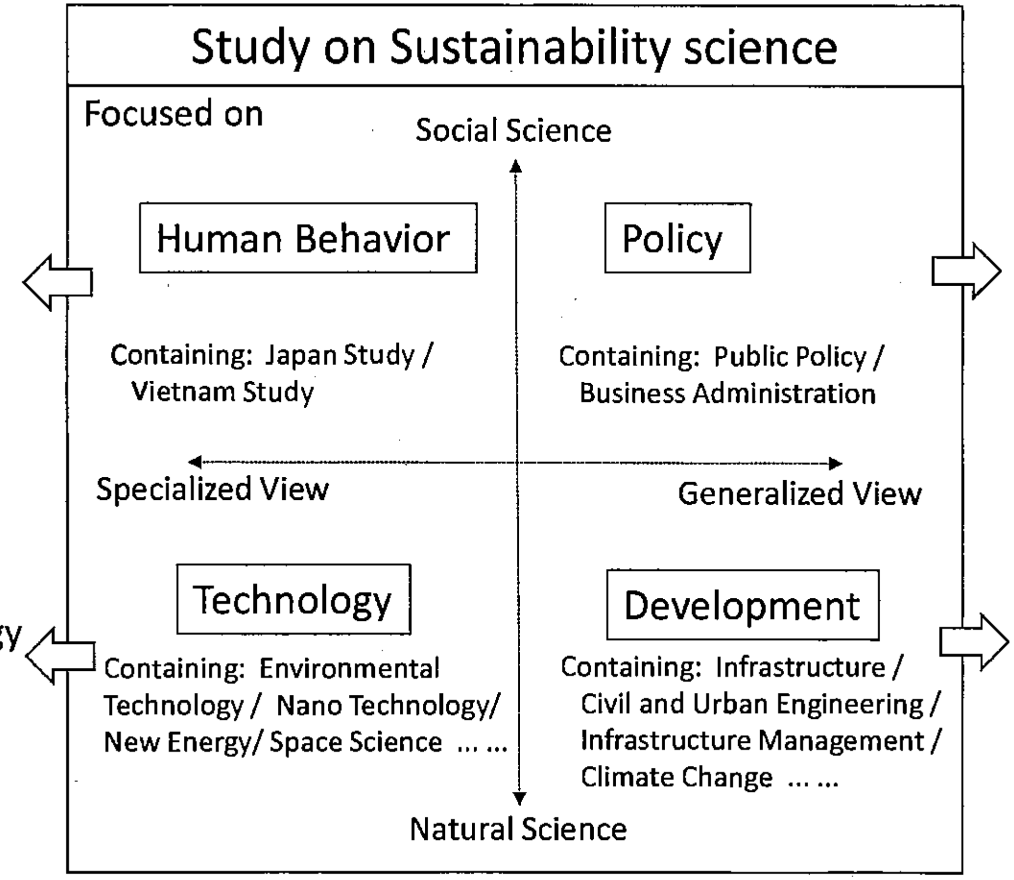
*The JCC can invite other personnel (as official/temporary members) as necessary.

KS.

Appendix II--1

Fields and Candidate Master programs for Academic Year 2016 or 2017
VJU / Graduate School of Sustainability Science

<u>tentative name</u>



Master Program of
Areal Studies

Master Program of
Public Policy for Sustainable Development
Business Administration

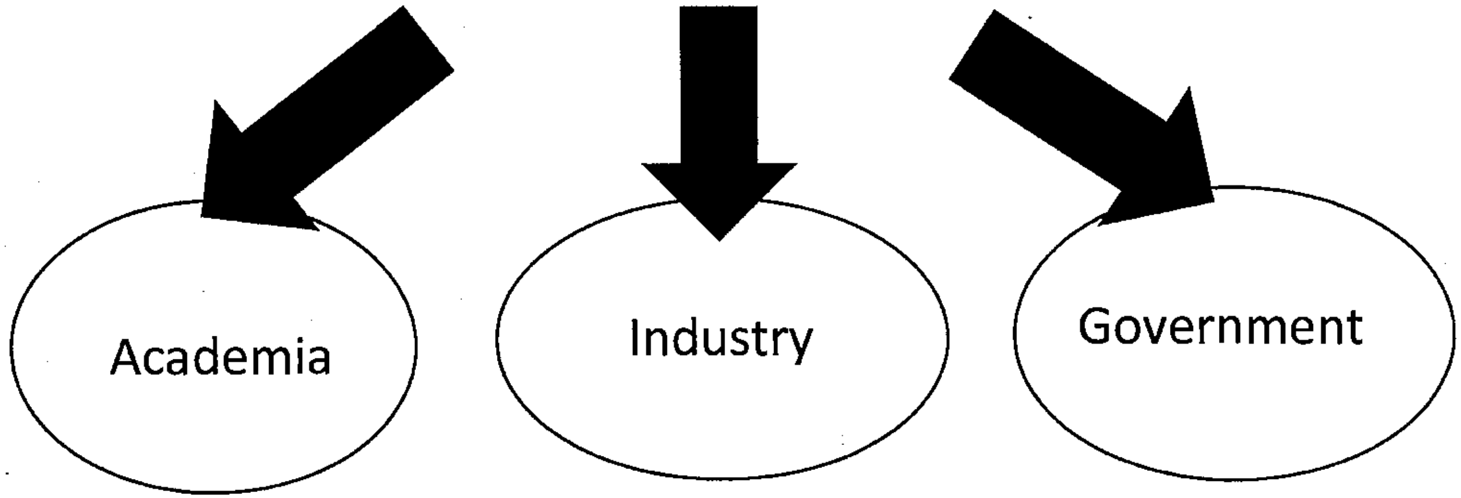
Master Program of
Environmental Technology
Nano Technology
New Energy
Space Science

Master Program of
Infrastructure Engineering
Climate Change

Appendix II-2

Fieleds and Candidate Master programs for Academic Year 2016 or 2017

School	Graduate School of Sustainability Science								
Field	Area Studies	Policy and Business Management		Advanced Technology				Infrastructure Engineering and Management	
Description	This field covers culture, language, etc. with reference to human behavior aiming at realization of stable and sustainable society.	This field covers public policy making, business strategy and administration, governance and finance, etc., aiming at formulation of framework of sustainable societies.		This field covers technology development and transfer,and practical application in society, etc., aiming at maintenance of sustainable environment and society with advanced technology.				This field covers urban planning, rural development, and civil engineering, etc, aiming at realization of sustainable societies through development and management of (social) infrastructure.	
Program Title (Tentative)	Area Studies	Public Policy for Sustainable Development	Business Administration	Environmental Technology	Nano-technology	New Energy	Space Science	Infrastructure Engineering	Climate Change
Master Degree (tentative)	Master of Area Studies and Culture	Master of Public Policy	Master of Management of Technology and Engineering	Master of Environmental Technology	Master of Nano-technology	Master of New Energy	Master of Space Science	Master of Engineering in Infrastructure	Master of Climate Change



MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
AND
VIETNAM NATIONAL UNIVERSITY, HANOI
ON
THE DETAILED PLANNING SURVEY
FOR
THE PROJECT FOR THE ESTABLISHMENT OF THE MASTER PROGRAMS OF VIETNAM-JAPAN UNIVERSITY (VJU)

The Detailed Planning Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") visited the Socialist Republic of Vietnam (hereinafter referred to as "Vietnam") in April 2016 for the purpose of revising the outline of the Project for the Establishment of the Master programs of Vietnam-Japan University (VJU) (hereinafter referred to as "the Project") which had started in April 2015, and discussing some important items for smooth implementation of the Project.

During its stay in Vietnam, the Team had a series of discussions with the Vietnam National University, Hanoi (hereinafter referred to as "VNU-HN").

As a result of the discussions, both parties agreed on the matters referred to in the documents attached hereto.

Hanoi, April 29, 2016

Mr. Masato KUMAGAI
Deputy Director General
Human Resources Development Department
Japan International Cooperation Agency

Assoc. Prof. Dr. Nguyen Hoang Hai
Vice-President
Vietnam National University, Hanoi

THE ATTACHED DOCUMENT

I. Modification of the Record of Discussions

Both sides agreed to amend the Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D") which had been exchanged on February 13, 2015 between JICA and VNU-HN, as follows, taking the current state of the project into consideration.

In order to reflect following amendment, Project Design Matrix and Plan of Operation are revised and attached as Annex I and Annex II.

1. Overall goal (II. 2 of the Appendix 1 of the R/D)

(1) Narrative Summary

No change

(2) Objectively Verifiable Indicators

Before	After Amendment
Reputation of the graduates	1. Graduates of VJU obtain their good position/image from stakeholders

2. Project Purpose (II. 3 of the Appendix 1 of the R/D)

(1) Narrative Summary

No change

(2) Objectively Verifiable Indicators

Before	After Amendment
-	1. Number of applicants will increase (compared with other similar programs at universities in Vietnam). 2. Number or ratio of international students will increase and VJU will have awareness and reputation to Japanese and Vietnamese societies and to some ASEAN countries. 3. Graduates gain skills, knowledge and attitude to work in international environment. 4. Ratio of graduates who are employed or enter doctoral programs within one year after graduation (In comparison with other similar programs at universities in Vietnam).

	5. Internal quality assessment reports are developed before April 2020 for 6 programs to be set up in AY (Vietnamese Academic Year) 2016.

3. Outputs (II. 4 of the Appendix 1 of the R/D)

(1) Narrative Summary

Before	After Amendment
1. Organization management of VJU is consolidated.	1. Organization and management system of VJU's master programs are consolidated.
2. Master programs of VJU are prepared.	No change
3. Master programs of VJU are implemented and improved continuously.	No change

(2) Objectively Verifiable Indicators

Before	After Amendment
[Output 1] 1. Basic plans 2. Rules and regulations 3. University Development Plan	[Output 1] 1. VJU is established with its organization. 2. Necessary rules and regulations are developed. 3. University Development Plan is developed.
[Output 2] 1. Number (X1) of master programs set up in AY 2016. 2. Number (X2) of master programs set up in AY 2017.	[Output 2] 1. Six (6) master programs are set up in AY 2016. 2. One (1) master program is set up in AY 2017. 3. When Feasibility of two (2) more master programs is examined (expected within one year), implementation of the justified program(s) is started.
[Output 3] 1. Number (X3) of students obtain Master degree though programs set up in AY 2016. 2. Number (X4) of students obtain Master degree though programs set up in AY 2017. 3. Curriculum and Syllabus of master programs are revised regularly based on the result of	[Output 3] 1. One hundred twenty (120) students obtain Master degree through programs set up in AY 2016 (Maximum 20 students*50%*6 programs*2 batches). 2. Ten (10) students obtain Master degree through programs set up in AY 2017.

the monitoring.	(Maximum 20 students*50%*1 program*1 batch). 3. Curriculum and Syllabus of master programs are revised regularly based on the result of the monitoring.

4. **Activities (II. 5 of the Appendix 1 of the R/D)**
   Amendment of activities can be referred in Annex III.

5. **Input (II. 6 of the Appendix 1 of the R/D)**
   (1) Inputs of Japanese Side

Before	After Amendment
(a) Dispatch of Experts Long-term experts - Chief Advisor/Organization Management - Coordinator/industry-academia collaboration - Program Coordination 1 (Social Science) - Program Coordination 2 (Natural Science) Short-term experts - Program Development and Implementation 1 (Programs to be started in AY 2016.) - Program Development and Implementation 2(Programs to be started in AY 2017) (b) Training - Short-Term Training of management members and core teaching staff of VJU - Short-Term Training of Master program Students (c) Machinery and Equipment - Equipment necessary for Master programs to be set up in AY 2016 and 2017	(a) Dispatch of Experts Long-term experts - VJU Rector - Chief Advisor - Project Coordinator - Financial Management/industry-academia collaboration - Program Coordinator - Development and Implementation of Program (Area Studies, Public Policies, Business Administration, Environmental Engineering, Nanotechnology, Infrastructure engineering, Climate Change, etc.) - Development and Implementation of Japanese Language Education Short-term experts - Development and Implementation of Program (*same fields as Long-term experts) - Development and Implementation of Japanese Language Education

	(b) Training - Short-Term Training of management members, core teaching staff, administrative staff of VJU - Short-Term Training of Master program Students (c) Machinery and Equipment - Equipment necessary for Master programs to be set up in AY 2016 and 2017 (d) Part of running expenses necessary for the implementation of the Project

6. Implementation Structure (II. 6 of the Appendix 7 of the R/D)

Regarding to the operations of the Project, as VJU's Rector was officially appointed by April 12th, 2016 and the organization of VJU is gradually set up, responsible persons of the Project are re-defined as listed below. Accordingly, the project organization chart and the list of members of Joint Coordinating Committee are revised as Annex IV and Annex V respectively.

Before	After Amendment
[Project Director] Vice-President of VNU-HN will bear the highest and final responsibility for overall administration and implementation of the Project.	[Project Director] Vice-President of VNU-HN will bear the highest and final responsibility for overall administration and implementation of the Project.
[Deputy Project Director] -	[Deputy Project Director] Vice-Rector of VJU will bear responsibility for overall administration and implementation of the Project.
[Project Manager] Director of VJU Management Board will be responsible for the managerial and technical matters of the Project.	[Project Manager] Dean of Faculty of Sustainable Science of VJU will be responsible for the managerial and technical matters of the Project.

Regarding the roles and positioning of JICA experts, both sides agreed as follows.

- JICA experts including lecturers working for VJU have two main roles:1) Giving advices to VJU; 2) Giving supports to VJU in terms of resources (e.g. financial resources, human resources) and guiding VJU to manage the resources according to regulations.
- Lecturers dispatched by JICA are fully integrated into VJU's organization in terms of the role 2) above. This covers the following aspects of management: TOR for those positions need to be defined

clearly prior to their dispatches and agreed by VJU and JICA; the lecturers need to sign the letter of consent to work for VJU; the lecturers are under supervision and management of VJU (e.g. the Dean of Faculty of Sustainability Sciences, the Directors of master programs and/or the Rector board of VJU).

- In order to fullfill the requirement set by the law on the number of full-time lecturers of each porgram, it is necessary to put an article in VJU's University Charter that stipulates special arrangements for counting lecturers dispatched by JICA as full-time lecturers.

7. Duration (II. 9 of the Appendix 9 of the R/D)

Before	After Amendment
The duration of the Project will be five (5) years from the date of R/D signing.	The duration of the Project will be five (5) years from April 1, 2015 to March 31, 2020.

II. Other Important items

1. **Master programs to be set up under VJU**

For the programs to be implemented for AY 2017, VNU-HN emphasized to keep the original idea of three master programs attached to the signed R/D. Within three programs, Climate Change program is remained unchanged. The disciplines would be changed for the rest two programs of New Engergy and Space Science programs to Fishery (Aquatic Products) Science and Political Science. The change in the disciplines to best suit to the situation in Vietnam but is still feasible because of the following reasons:

- Necessary physical facilities have been secured (e.g. the rental campus was designed with sufficient offices/lecture rooms... for these 3 programs for AY 2017; labs required (if any, mostly for fishery science) are being planned in the sharing/hiring mode with local universities/ institutes.
- Sufficient teaching staff (including program development team) were planned by VNU-HN/VJU and about to be appoint.
- Preparation and development of the 3 programs were started by VNU-HN/VJU with involvement of scientists, politicians, policy-makers.
- Collaboration network with the central government and local provinces in Vietnam is developed.
- Regarding Japanese counterpart universities, VNU-HN has signed MOU for cooperation and development with a number of Japanese Universities.
- The cutdown of 2 programs for AY 2017 from the original plan will certainly lead to the significant reduction of the income cashflow and, therefore, increase the shortage of operating budget for VJU, resulting in financial dependence for a longer period of time and a larger amount on stakeholders such as JICA, Vietnamese government etc.
- VNU-HN/VJU already communicated with Japanese side for the titles of the three master programs for AY 2017. More important, the publics and stakeholders have been fully aware of those three programs of VJU for 2017 since 2015.

The Team replied that the feasibility of new programs should be carefully examined by taking enough time, from various aspects such as scope of the programs, relationship with similar programs in other institutions, availability of Japanese universities, necessary facilities, and relevance to the result of the pre-F/S in progress. Compared with Climate Change for which Ibaraki University had already started its work as Coordinating University; much longer time is required for Fishery (Aquatic Products) Science and Political Science. Taking this situation into consideration, the Team proposed to set up solely Climate Change as a new program with deadline of implementation in AY 2017, and to begin looking into the feasibility of the remaining two programs through discussions between VNU-HN, VJU and Japanese universities from May 2016. When feasibility of two (2) more master programs is examined (expected within one year), implementation of the justified program(s) is started.

VNU-HN agreed to this.

2. Tentative key milestone

Both sides agreed upon the tentative milestones toward launching VJU on schedule as Annex VI.

In particular, the Team emphasized the necessity to obtain approval for VJU's University Charter from the Vietnamese Prime Minister by the middle of July 2016 in order to organize the board of trustees of VJU and hold the 1st board meeting early in September 2016 at the time of the opening ceremony of VJU. To achieve it, the Team strongly requested VNU-HN to give a prompt reply to the Embassy of Japan in Vietnam about the draft of University Charter presented by the Japanese side, no later than May 10 2016.

VNU-HN agreed to give a reply to the Embassy by the due date requested by the Team and to make its best effort to accelerate the procedure for obtaining the approval, while addressing that more realistic target completion date is September 2016.

3. Personnel expenses

Both VNU-HN and the Mission reached the same recognition that VJU needs to provide higher personnel expenses than other existing universities, for attracting excellent staff and letting them concentrate on their work and lead VJU to a unique university.

VNU-HN shared plan to submit special regulations on financial supports from the Vietnamese government to VJU, as legal basis to pay higher than basic salary set by the national standard, to permanent staff of VJU. Also, VNU-HN requested JICA to fill the gap between the VJU's set salary and the basic salary until the necessary budget is secured from January 2017.

JICA agreed to bear necessary expenses for filling the gap between June and December 2016 on condition that VNU-HN expresses its commitment to obtain the approval of the special regulations in time, with detailed information on basic salary set by the national standard (i.e., amount of monthly salary, calculation logic), in the form of official letter to JICA office no later than May 10, 2016.

Both sides confirmed that besides permanent staff mentioned above,

contract-based staff and external teaching staff are necessary for operation of VJU as follows, and JICA would bear 100% of their personnel expenses until the end of 2016, and would bear part of them from January 2017. The monthly salary/ honorarium for each position and the ratio of cost-sharing from 2017 will be determined based on the mutual discussion of VJU and JICA expert team.

Contract-based staff of VJU

- Eighteen (18) Administrative staff, including eight (8) administrative assistants for the 7 programs and Japanese Language Education <full-time>
- One (1) Special advisor to Rector <part-time>
- Eight (8) Program directors: 7 programs and Japanese Language Education for the first couple of years <part-time>
- Eight (8) Teaching assistants: 7 programs and Japanese Language Education <part-time>

External teaching staff of VJU

- Part-time lecturers

4. Prerequisite Education prior to the entrance

VNU-HN explained that VJU needs to provide supplementary education to students prior to their entrance. There are two type of supplementary education; one is compulsory, regulated by the law, for teaching subjects related to master programs; and the other one is optional for teaching English to students whose English proficiency is not satisfactory. Although the latter one is optional, VNU-HN addressed its necessity since they are concerned with students' English proficiency measured at the interview of the 1st entrance examination.

Regarding the expenses necessary for supplementary education, the Mission accepted VNU-HN's request to bear it for AY (Vietnamese Academic Year) 2016 only as an emergency measure, sharing the same recognition that students' English proficiency is very important for quality of education at VJU. Meanwhile, the Team requested VJU to bear necessary expenses for AY 2017 onward and to consider the possibility to collect fees from students for English supplementary education, with advance-announcement in the recruitment guidebook that a student has to pay fees by him/herself if he/she is instructed to take the education by VJU.

Regarding Japanese Language Education, both sides confirmed that VJU does not implement supplementary education for AY 2016, while continuing to consider the necessity for AY 2017 onward.

5. Scholarship

The Team explained that the scholarship funded by the government of Japan should be used for the selected excellent students, approximately forty (40) students per year. VNU-HN agreed to it and presented its idea that VJU selects scholarship recipients every semester based on the academic results to encourage students' continuous learning. The Team replied to it as follows.

- The idea from VNU-HN sounds reasonable, but final agreement can be made only after discussing Japanese supporting universities.
- VJU should establish a committee to select scholarship recipients in transparent way.

- Scholarship fund should directly flow from JICA office/JICA expert team to the official account of VJU. Scholarship recipients do not handle the fund by themselves.
- Students receiving scholarship from other sources are not entitled to receiving the scholarship by the government of Japan.
- Implementation mechanism should be elaborated further and finalized by the end of May, 2016.

6. Logo

Both sides agreed that VJU would establish a committee for selection of VJU' Logo, which consists of VJU's Rector and other representatives from both sides appointed by the Rector. The Team requested VJU to complete the work as early as possible to use the developed logo widely for promoting VJU to the public effectively.

7. Other matters relating to the daily operations of the Project

Both sides agreed the necesity of establishing an internal spending system (cost norms) for the project within May 2016.

Both sides agreed to mutually share the information on budget provided by JICA and VNU-HN to VJU and other income of VJU, with detailed breakdown to the extent permitted by internal rules of each side, in order to well plan and allocate resources for the operations of VJU in general and of the master programs in particular.

END

Annex

I: Project Design Matrix (Version 1)
(Revision of the Ver. 0 agreed in February 2015)
II: Plan of Operation (Version 1)
(Revision of the Ver. 0 agreed in February 2015)
III: Amendment of activities
IV: Project organization chart (revised)
V: List of members of Joint Coordinating Committee (revised)
VI: Tentative key milestones

Annex I

Project Design Matrix

Project Title: Project for the Establishment of the Master programs of Vietnam-Japan University (VJU)

Implementing Agency: Vietnam National University, Hanoi (VNU-HN)

Target Group: (Direct) Students of VJU and VNU-HN, Teaching Staffs of VJU and VNU-HN

(Indirect) Private companies, universities, and Central/Local governments in Vietnam,

Period of Project: April 1 2015 to March 31 2020 (5 years)

Project Site: Hanoi

Version 1

29-Apr-16

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remarks
Overall Goal					
Graduates of Master programs of VJU will play active roles in the society.	1. Graduates of VJU obtain their good position/image from stakeholders	Interview and Questionnaire to stakeholders			
Project Purpose					
VJU will provide high-quality Master programs continuously.	1. Number of applicants will increase (compared with other similar programs at universities in Vietnam). 2. Number or ratio of international students will increase and VJU will have awareness and reputation to Japanese and Vietnamese societies and to some ASEAN countries. 3. Graduates gain skills, knowledge and attitude to work in international environment. 4. Ratio of graduates who are employed or enter doctoral programs within one year after graduation (In comparison with other similar programs at universities in Vietnam). 5. Internal quality assessment reports are developed before April 2020 for 6 programs to be set up in AY 2016.	Interview, questionnaire, focus group discussion or field survey to stakeholders. Record of VJU	Economic situation of Vietnam is not worsened drastically,		
Outputs					
1. Organization and management system of VJU's masters programs are consolidated.	1.VJU is established with its organization. 2.Necessary rules and regulations are developed. 3.University Development Plan is developed.	Record of VJU	Most of lecturers continue to work for VJU. Budget allocation from the government of Vietnam and the government of Japan is maitained or increased. Security situation of Hanoi is not worsened.		
2. Master programs of VJU are prepared.	1. Six (6) master programs are set up in AY 2016. 2. One (1) master program is set up in AY 2017. 3. When feasibility of two (2) more master programs is examined (expected to be within one year), implementation of the justified program(s) is started.	Record of VJU			
3. Master programs of VJU are implemented and improved continuously.	1.One hundred twenty (120) students obtain Master degree though programs set up in AY 2016. (Maximum 20 students*50%*6 programs*2 batches) 2. Ten (10) students obtain Master degrees though programs set up in AY 2017(Maximum 20 students*50%*1 program*1 batch) 3. Curriculum and Syllabus of master programs are revised regularly based on the result of the monitoring.	Record of VJU			

Activities	Inputs: The Japanese Side	Inputs: The Vietnamese Side	Pre-Conditions
1-1 To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts	(a) Dispatch of Experts Long-term experts -VJU Rector -Chief Advisor -Project Coordinator -Financial Management/industry-academia collaboration -Program Coordinator -Development and Implementation of Program (Area Studies, Public Policies, Business Administration, Environmental Engineering, Nanotechnology, Infrastructure engineering, Climate Change, etc.) -Development and Implementation of Japanese Language Education Short-term experts -Development and Implementation of Program (*same fields as Long-term experts.) -Development and Implementation of Japanese Language Education (b) Training - Short-Term Training of management members, core teaching staff, and administrative staff of VJU - Short-Term Training of Master program Students (c) Machinery and Equipment - Equipment necessary for Master programs to be set up in AY 2016 and 2017 (d) Part of running expenses necessary for the implementation of the Project	(a)VNU's counterpart personnel (b) Suitable office space for VJU Management Board and Japanese experts (c) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the equipment provided by JICA (d) Credentials or identification cards (e) Available data (including maps and photographs) and information related to the project (f) Part of running expenses necessary for the implementation of the Project (g) Expenses necessary for transportation within Vietnam of the equipment procured by the Japanese side as well as for the installation, operation and maintenance thereof	Necessary budge for the project implementation is secured. **<Issues and countermeasures>**
1-2 To formulate the rules and regulations including organization structure for the management and operation of VJU's Master Programs			
1-3 To appoint Executives and recruit Administrative Staff for managing the Master Programs			
1-4 Formulating and updating the Financial Plans for Master Programs during the Project.			
1-5 To improve the capabilities of VJU human resources for University management			
1-6 To improve the collaboration and network with international and local partners (universities, private companies)			
1-7 To formulate system/mechanism to improve the quality of education and research at VJU			
2-1 To implement field survey for curriculum development for all candidate programs			
2-2 To secure classrooms and equipment necessary for Master programs to be started in AY 2016 and 2017			
2-3 To recruit and train teaching staff for Master programs to be started in AY 2016 and 2017			
2-4 To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master programs			
2-5 To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2016			
2-6 To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2017			
3-1 To do promotion activities for Master programs to be started in AY 2016 and AY 2017			
3-2 To recruit students for Master programs to be started in AY 2016			
3-3 To implement Master programs to be started in AY 2016			
3-4 To recruit students for Master programs to be started in AY 2017			
3-5 To implement Master programs to be started in AY 2017			
3-6 To monitor the state of implementation of Master programs semi-annually			
3-7 To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring			
3-8 To conduct inter-program activities			

Annex II
(as of April 29, 2016)

Revised Plan of Operation (Ver. 1)

Project Title: Project for the Establishment of the Master programs of Vietnam-Japan University (VJU)

Inputs		Calendar Year	Remarks
VJU Rector		Plan	
		Actual	
Chief Advisor		Plan	
		Actual	
Project Coordinator		Plan	
		Actual	
Program Coordination 1		Plan	
		Actual	
Program Coordination 2		Plan	
		Actual	
Finacial Management/ Industry-academia Collaboration		Plan	
		Actual	
Development and Implementation of Program	Coordinating Universities	Plan	
		Actual	
Development and Implementation of Japanese Language Education		Plan	
		Actual	
Equipment			
Equipment necessary for Master programs to be set up in AY 2016 and 2017		Plan	
		Actual	
Training in Japan			
Short-Term Training of management members, core teaching staff, administrative staff of VJU		Plan	
		Actual	
Short-Term Training of Master program Students		Plan	
		Actual	
In-country/Third country Training			
		Plan	
		Actual	

Timeline columns: 2015 (4–12), 2016 (1–12), 2017 (1–12), 2018 (1–12), 2019 (1–12), 2020 (1–3).

No.	Activities / Sub-Activities								Vietnamese Person/s	Calendar Year (2015–2020)	GoJ	GoV
Output 1: Organization and management system of VJU's masters programs are consolidated.												
1.1	**To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts**		◎	○	○					Plan / Actual		◎
1.2	**To formulate the rules and regulations including organization structure for the management and operation of VJU's Master Programs**	◎	○	○	○					Plan / Actual	○	◎
	1.2.1 Formulating the organizational structure and rules of employment of the supporting staff of the VJU Management Board for the Project operation.		○	◎	○					Plan / Actual		
	1.2.2 Formulating the organizational structure and internal regulations for the management of VJU's Master Programs.		○	◎	○					Plan / Actual		
	1.2.3. Revising the rules and regulations needed for the operation of VJU's Master Programs	◎	○	○						Plan / Actual		
	1.2.4 Drafting the Charter of VJU	◎	○	○						Plan / Actual		
	1.2.5 Developing and adopting brand identity system for VJU	◎	○	○	○					Plan / Actual		
1.3	**To appoint Executives and recruit Administrative Staff for managing the Master Programs**	◎	○	○						Plan / Actual	○	○
	1.3.1 Appointing the Director and Vice Directors, and staff of the VJU Management Board.		◎	○						Plan / Actual		
	1.3.2 Employment of the Administrative Staff to support the Project within the Management Board.		○	◎						Plan / Actual		
	1.3.3 Appointing Executives for managing the Master Programs of VJU according to the approved organizational structure.	◎	○	○						Plan / Actual		
	1.3.4 Employment of the administrative staff for operating VJU's Master Programs	◎	○	○						Plan / Actual		
1.4	**Formulating and updating the Financial Plans for Master Programs during the TC Project.**	◎	○	○			○			Plan / Actual	○	○

Activities										Vietnamese	Calendar Year	2015	2016	2017	2018	2019	2020	Responsible Organization	
	Sub-Activities									Person/s		4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	1 2 3	GoJ	GoV
1.5	**To improve the capabilities of VJU human resources for University management**	◎	○	○							Plan							○	○
											Actual								
	1.5.1 Studying in the other universities. (ex. Training in Japan, Study tour in Vietnam)	○	○	◎	○						Plan								
											Actual								
	1.5.2 Organizing workshops, in-country training for the administration staff.	○	○	◎	○						Plan								
											Actual								
	1.5.3 Training of management and administration in Japan	○	○	○	◎						Plan								
											Actual								
	1.5.4 Evaluation of the administrative employees.	◎	○	○							Plan								
											Actual								
1.6	**To improve the collaboration and network with international and local partners (universities, private companies)**	○	○	○			◎				Plan							○	○
											Actual								
	1.6.1 Networking and developing collaboration with the other universities, including joint-research	◎	○	○			○				Plan								
											Actual								
	1.6.2 Networking and developing collaboration with private companies.	○	○	○			◎				Plan								
											Actual								
1.7	**To formulate sytem/mechanism to improve the quality of education and research at VJU**	○	○	○			◎				Plan							○	○
											Actual								
	1.7.1 Conducting international university benchmarking to VJU for development	○	○	○			◎				Plan								
											Actual								
	1.7.2 Setting up and operating international level scientific journal for VJU	◎	○	○			○				Plan								
											Actual								
	1.7.3 Building internal quality assurance system for VJU training programs	○	○	○			◎				Plan								
											Actual								
	1.7.4 Developing Internal report for University Ranking Assessment (e.g. QS)	◎	○	○			○				Plan								
											Actual								
	1.7.5 Developing and operating VJU portal in English, Vietnamese and Japanese	○	○	○			◎				Plan								
											Actual								

No.	Activities / Sub-Activities									Vietnamese Person/s	Calendar Year	2015	2016	2017	2018	2019	2020	Responsible Organization GoJ	Responsible Organization GoV
	Output 2: Master programs of VJU are prepared.																		
2.1	**To implement field survey for curriculum development for all candidate programs**	◎	○		○						Plan / Actual							○	◎
2.2	**To secure classrooms and equipment necessary for Master programs to be started in AY 2016 and 2017**	○	○	◎							Plan / Actual							◎	○
	2.2.1 Finding a suitable place for the temporary campus for Master Programs.		○	◎							Plan / Actual								
	2.2.2 Contracting for rent of the temporary campus.		○	◎							Plan / Actual								
	2.2.3 Developing the principle and design of the My Dinh Campus for operating Master Programs.		○	◎							Plan / Actual								
	2.2.4 Renovating the rented place as the My Dinh (temporary) Campus of VJU for Master Programs.		○	◎							Plan / Actual								
	2.2.5 Procure equipment and books needed for VJU Master Programs.		○	◎															
	2.2.6 Transferring to and activating the operations at the My Dinh Campus.	◎	○	○	○	○	○	○	○		Plan / Actual								
	2.2.7 Reviewing and modifying the use of facilities of the My Dinh Campus for better operation of Master Programs.	◎	○	○							Plan / Actual								
2.3	**To recruit and train teaching staff for Master programs to be started in AY 2016 and 2017**	◎	○	○	○	○		○	○		Plan / Actual							○	◎
	2.3.1 Developing the rules and regulations for recruiting and training the teaching staff.	◎	○	○	○	○		○	○		Plan / Actual								
	2.3.2 Recruiting Japanese lecturers.	◎	○	○	○	○		○	○		Plan / Actual								
	2.3.3 Recruiting Vietnamese lecturers.	◎	○	○	○	○		○	○		Plan / Actual								
	2.3.4 Training of Vietnamese lecturers in Japan.	○	○	◎	◎	○		○	○		Plan / Actual								
	2.3.5. Evaluation & assessment of lecturers	◎	◎		○						Plan / Actual								

Activities	Sub-Activities	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	Vietnamese Person/s	Calendar Year	Responsible Organization GoJ	Responsible Organization GoV
2.4	**To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master programs**	◎	○		○	○		○	○		Plan / Actual	◎	○
	2.4.1 Developing the schedule and guidelines of admission.	◎	○		○	○		○	○		Plan / Actual		
	2.4.2 Developing the set of application forms..	○	○		◎	○		○	○		Plan / Actual		
	2.4.3 Developing the admission/selection criteria.	○	○		◎	○		○	○		Plan / Actual		
	2.4.4 Revision of the admission/selection criteria.	○	○		◎	◎		○	○		Plan / Actual		
2.5	**To develop the curriculums and syllabuses of the Master programs to be started in AY 2016**	○	○		◎			○	○		Plan / Actual	◎	○
	2.5.1 To develop curriculums consisting of 1) programs outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome of the Master programs to be started in AY	○	○		◎			○	○		Plan / Actual		
	2.5.2 To approve the Master programs to be started in AY 2016 <Approved by VNU President>	○	○		◎			○	○		Plan / Actual		
	2.5.3 To develop the detailed syllabuses and teaching materials of the Master programs to be started in AY 2016	○	○		◎			○	○		Plan / Actual		
	2.5.4 To revise the detailed syllabuses and teaching materials of the Master programs to be started in AY 2016	○	○		◎	○		○	○		Plan / Actual		
2.6	**To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2017**	○	○		○	○		◎	◎		Plan / Actual	○	○
	2.6.1 To develop curriculums (consist of 1) program outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome) of Master programs to be started in AY 2017	○	○		○	○		◎	◎		Plan / Actual		
	2.6.2 To approve the Master programs to be started in AY 2017 <Approved by VNU Presiden or the VJU Rectort>	◎	○		○	○		○	○		Plan / Actual		
	2.6.3 To develop detailed syllabuses of Master programs to be started in AY 2017	○	○		○	○		◎	◎		Plan / Actual		
	2.6.4 To revise detailed syllabuses of Master programs to be started in AY 2017 and after	○	○		○	○		◎	◎		Plan / Actual		

Activities	Sub-Activities									Vietnamese Person/s	Calendar Year (2015–2020)	GoJ	GoV
Output 3: Master programs of VJU are implemented and improved.													
3.1	**To conduct promotion activities for the Master programs to be started in AY 2016 and AY 2017**	○	○	◎	○	○		○	○		Plan / Actual	○	○
	3.1.1 Promoting VJU's Master Programs through mass-media including Web, SNS and pamphlets.	○	○	◎	○	○		○	○		Plan / Actual		
	3.1.2 Promoting VJU'S Master Programs through exhibition, seminars, visits, etc.	○	○	◎	○	○		○	○		Plan / Actual		
3.2	**To recruit students for the Master programs to be started in AY 2016**	○	○		◎	◎		○	○		Plan / Actual		
	3.2.1 Making recruit information including admission guideline, application forms, etc. available for download from Website.	○	○		◎	◎		○	○		Plan / Actual	○	○
	3.2.2 Accepting applications and making the database.	○	○		◎	◎		○	○		Plan / Actual		
	3.2.3 Selecting acceptable and announcing admission.	○	○		◎	◎		○	○		Plan / Actual		
	3.2.4 Following up the admitted students.	○	○		◎	◎		○	○		Plan / Actual		
3.3	**To implement Master programs to be started in AY 2016**	○	○	○	○	○	○	◎	◎		Plan (1st batch, 2nd batch, 3rd batch) / Actual	○	○
3.4	**To recruit students for Master programs to be started in AY 2017**	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎		Plan / Actual	○	○
3.5	**To implement Master programs to be started in AY 2017**	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎		Plan (1st batch, 2nd batch) / Actual	○	○
3.6	**To monitor the state of implementation of Master programs semi-annually**	◎	○	○	○	○	○	○	○		Plan / Actual	○	○
3.7	**To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring**	○	○		○	○		◎	◎		Plan / Actual	○	○
3.8	**To conduct inter-program activities**	◎	○	○	○	○	○	○	○		Plan / Actual	○	○
	3.8.1 Implementing Japanese Language Education	○	○		○	○		◎	◎		Plan / Actual	○	○
	3.8.2 Implementing other inter-program activites (ex. Seminar, Workshop)	◎	○	○	○	○	○	○	○		Plan / Actual	○	○

Duration / Phasing	Plan / Actual	2015	2016	2017	2018	2019	2020	Remarks
Monitoring Plan	Calendar Year							
Monitoring								
Joint Monitoring / Submission of Monitoring Sheet	Plan							
	Actual							
Joint Coordination Committee / Approving annual PO	Plan							
	Actual							
Monitoring Mission from Japan	Plan							
	Actual							
Post Monitoring	Plan							1~3year(s) later after completing the project
	Actual							
Reports/Documents								
Project Completion Report	Plan							
	Actual							
Public Relations								
Entrance Ceremony of students for Master programs (AY 2016)	Plan							
	Actual							
Graduation Ceremony of students for Master programs (AY 2016)	Plan							
	Actual							

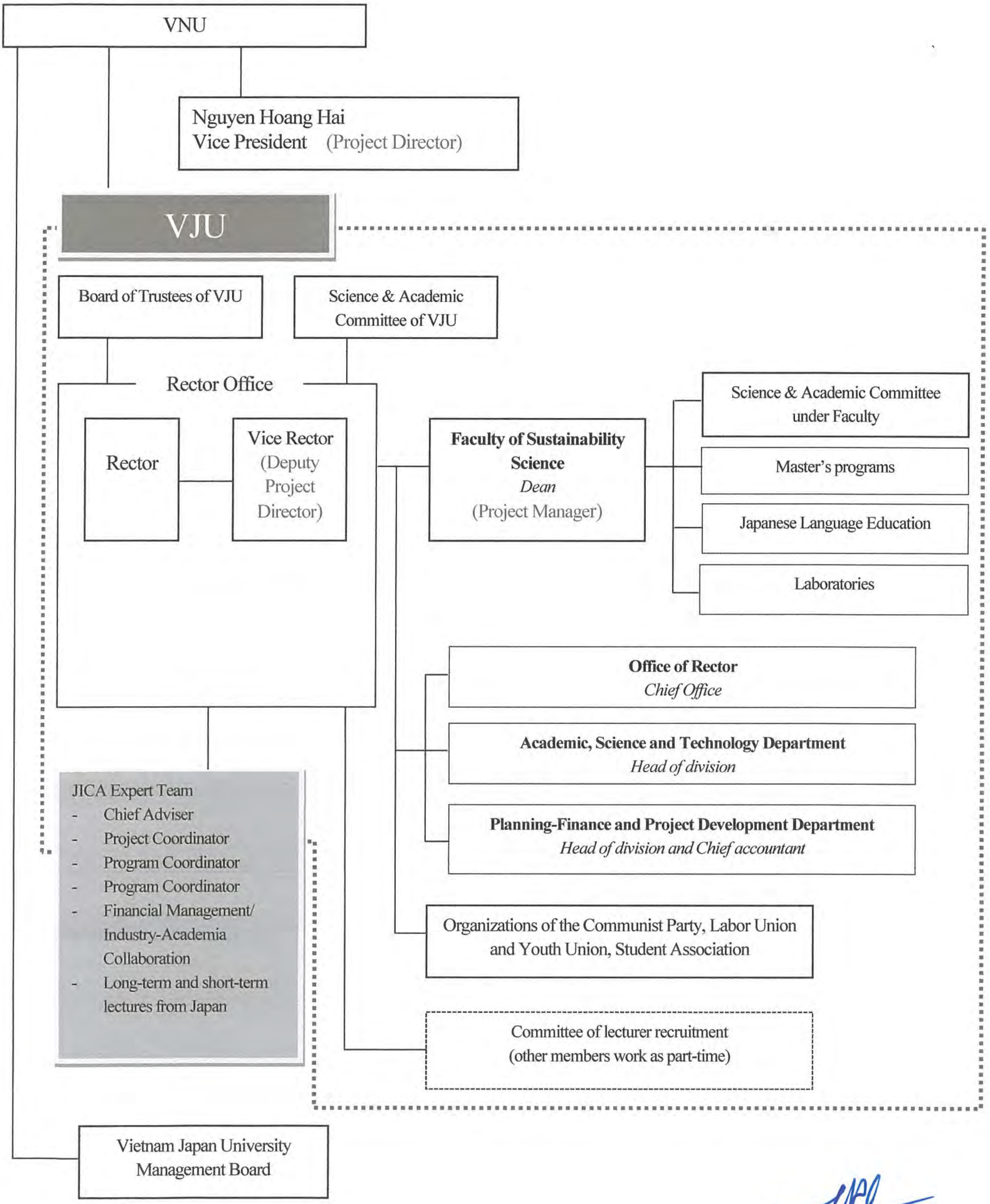
Amendmend of Activites

Before (Original R/D exchanged Febrary 2015)	
Output 1. Organization management of VJU is consolidated.	
1.1	To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts
1.2	To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU <Approved by Prime Minister>
1.3	To appoint executives and recruit administrative staff
1.4	To formulate and update basic plan (Activity Plan, Financial Plan, etc.)
1.5	To improve capabilities of VJU human resources for University management
1.6	To improve the collaboration and network with international and local partners (universities, private
1.7	To formulate and update University Development Plan
Output2. Master programs of VJU are prepared.	
2.1	To implement field survey for curriculum development for all candidate programs
2.2	To secure classrooms and equipment necessary for Master programs to be started in AY 2016 and 2017
2.3	To recruit and train teaching staff for Master programs to be started in AY 2016 and 2017
2.4	To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master programs
2.5	To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2016
2.6	To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2017
Output 3. Master programs of VJU are implemented and improved continuously.	
3.1	To do promotion activities for Master programs to be started in AY 2016 and AY 2017
3.2	To recruit students for Master programs to be started in AY 2016
3.3	To implement Master programs to be started in AY 2016
3.4	To recruit students for Master programs to be started in AY 2017
3.5	To implement Master programs to be started in AY 2017
3.6	To monitor the state of implementation of Master programs semi-annually
3.7	To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring

After amendment	
Output 1: Organization and management system of VJU's masters programs are consolidated.	
1.1	To secure office space for VJU Management Board and Japanese experts
1.2	To formulate the rules and regulations including organization structure for the management and operation of VJU's Master Programs
1.3	To appoint Executives and recruit Administrative Staff for managing the Master Programs
1.4	Formulating and updating the Financial Plans for Master Programs during the TC Project.
1.5	To improve *the* capabilities of VJU human resources for University management
1.6	To improve the collaboration and network with international and local partners (universities, private companies)
1.7	To formulate sytem/mechanism to improve the quality of education and research at VJU
Output 2: Master programs of VJU are prepared.	
2.1	To implement field survey for curriculum development for all candidate programs
2.2	To secure classrooms and equipment necessary for Master programs to be started in AY 2016 and 2017
2.3	To recruit and train teaching staff for Master programs to be started in AY 2016 and 2017
2.4	To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master programs
2.5	To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2016
2.6	To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2017
Output 3: Master programs of VJU are implemented and improved.	
3.1	To do promotion activities for Master programs to be started in AY 2016 and AY 2017
3.2	To recruit students for Master programs to be started in AY 2016
3.3	To implement Master programs to be started in AY 2016
3.4	To recruit students for Master programs to be started in AY 2017
3.5	To implement Master programs to be started in AY 2017
3.6	To monitor the state of implementation of Master programs semi-annually
3.7	To improve curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring
3.8	To conduct inter-program activities

Annex IV

Project Organization Chart (revised)



Annex V

Composition and Functions of Joint Coordinating Committee (JCC)

The Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be formed and its meetings will be held twice a year for the smooth implementation of the Project. The detail of operational rules will be decided by the Chairperson of JCC and JICA after starting the Project. The prospective functions and members of the JCC are as follows.

1) Functions

(a) To authorize an annual work plan of the Project based on the Plan of Operation within the framework of M/M
(b) To monitor and evaluate the progress of the Project and the results of the annual work plan
(c) To discuss and advise on major issues that arises during the implementation period of the Project.

2) Members

(a)Chairperson
Vice-President, Vietnamese National University, Hanoi (VNU-HN) as Project Director

(b) Members:
<Vietnamese Side>
(1) Vice Rector of VJU as Deputy Project Director
(2) Dean of Faculty of Sustainability Science of VJU as Project Manager
(3) Representative(s) of Academic Affairs and Science & Technology Advisory Committee, VNU-HN
(4) Representative(s) of Ministries concerned (as observer)
(5) Representative(s) of private sector (as observer)
(6) Other personnel concerned with the Project assigned by the Vietnamese side, if necessary.

<Japanese side>
(1) JICA experts
(2) Representative of JICA Vietnam Office and/or JICA Headquarters
(3) Representative of Embassy of Japan (as observer)
(4) Representative(s) of private sector (as observer)
(5) Other personnel concerned with the Project assigned by the Japanese side, if necessary

*The JCC can invite other personnel (as official/temporary members) as necessary.

Annex VI

Tentative Key Milestones

No.	Tentative Milestones	Target Date
1	Development of tentative VJU organizational chart (name and functions of each department/office; job positions)	2016 April 29
2	Decision on responsibility and authority of Program Directors	2016 April 29
3	Registration of the first batch students	2016 May 9-13
4	Development of TOR for each position of VJU	2016 May
5	Agreement between VJU and JICA on regulation for payments from JICA (monthly salary scheme and honorarium) after discussing the details based on the official request from the management of VNU	2016 May
6	Internal regulation for expenditures	2016 May
7	Assignment of key staffs (Chief accountant, Head of Admin. Office)	2016 June
8	Supporting students' English proficiency	2016 May-Aug
9	Final Draft of VJU Charter (if getting the consensus from 2 sides)	2016 May
10	Appointment of Program Directors	2016 June
11	Decision for establishment of Sustainability Science Faculty (with Regulation for organization and operation of the Faculty)	2016 June
12	Accomplishment of the 2nd Entrance Examination	2016 June 30
13	Organizing prerequisite subjects for students	2nd half of July
14	Finalization of details curriculums of lectures	2016 August 30
15	Opening Ceremony	2016 Sep. 09

TO: Chief Representative of JICA Vietnam OFFICE

PROJECT MONITORING REPORT

Project Title: **Establishment of the Master Programs of Vietnam-Japan University**

Version of the Sheet: **1（Term: April 01, 2015 – January 31, 2016）**

Submitted by: Takahisa Kusano

Chief Advisor/ Organization Management

Submission Date: February 04, 2016

<Content>

1. **Progress**

1.1. Progress of Inputs …………………………………… p.2
1.2. Progress of Activities ………………………………… p.5
1.3. Achievement of Output ……………………………… p.17
1.4. Achievement of the Project Purpose ……………… p.19
1.5. Changes of Risks and Actions for Mitigation ………… p.19
1.6. Progress of Actions undertaken by JICA ……………… P.20
1.7. Progress of Actions undertaken by VNU ……………… P.20
1.8. Progress of Environmental and Social Consideration
1.9. Progress of Considerations on Gender/Peace Building/Poverty
1.10. Other Remarkable/Considerable Issues

2. **Delay of Work Schedule and/or Problems**

2.1. Detail …………………………………………… p.21
2.2. Causes …………………………………………… p.22
2.3. Action to be taken ………………………………… p.23
2.4. Roles of Responsible Persons/Organization …………… p.24

3. **Modification of the Project Implementation Plan**

3.1. Plan of Operation (PO) ……………………………… p.24
3.2. Other Modification ………………………………… P.25

4. **Preparation of Vietnam toward after Completion of the Project**

Attachment:

(1) Revised Plan of Operation (PO)
(2) Sample Sheet of Weekly Planning/Review

1. Progress

1.2. Progress of Inputs

1.1.1. Japanese side

1.1.1.1. Experts

(1) JICA has dispatched the Chief Advisor/Organization Management (Mr. Takahisa Kusano) from May 30th, 2015 for 2 years.
(2) JICA has dispatched the Project Coordinator/Industry-Academia Collaboration (Mr. Kazuki Ishida) from July 1st, 2015 for 2 years.
(3) JICA has dispatched the Program Coordinator 1 (Ms. Yuko Fukuda) from August 10th, 2015 for 2 years.

1.1.1.2. Consultation Missions:

(1) JICA has dispatched the 1st Consultation Mission headed by Prof. Motoo Furuta, Former Vice President of University Tokyo, with 13 academic members and two (2) JICA officials from June 13 to 18, 2015.
(2) JICA has dispatched Prof. Furuta for academic consultation from August 10 to 14, 2015.
(3) JICA has dispatched a Consultation Mission headed by Mr. Kumagai, Deputy Director General of Human Resource Department, with Prof. Furuta and one (1) JICA official from November 3 to 7, 2015, and from January 24 to 29, 2016.
(4) JICA has dispatched a Consultation Mission headed by Mr. Kumagai with Prof. Furuta and Prof. Mimura and one (1) official from Ibaraki University and one (1) JICA staff from December 10 to 13, 2015.
(5) JICA has dispatched an officer, Dr. Binh for consultation for the drafting of the Charter of VJU from November 26, 2015 to January 6, 2016, and from January 24 to 29, 2016.

1.1.1.3.Coordinating Universities:

(1) JICA has contracted Osaka University to execute the academic supports for Nanotechnology Program, Ritsumeikan University for Environmental Technology Program, the University of Tokyo for Area Study, Infrastructure Engineering and Environmental Technology Programs, and Yokohama National University for Business Administration Program, and Waseda University for Japanese Language training as a common course by the end of July 2015. The Coordinating Universities have been sending academic experts for development of curricula and syllabi. These coordinating universities participate in the Project in academic development by sending experts and lectures, accepting training of lecturers and students in Japan.

(2) JICA has contracted University of Tsukuba to execute the academic supports for Public Policy Program (MPP) by November 2015. JICA had dispatched 2 VNU experts for consultation at University of Tsukuba prior to this, in September 2015.

(3) All the coordinating universities sent delegations to the Introductory Seminar in December 2015 held at VNH Hanoi.

1.1.1.4. Training in Japan:

1. JICA has accepted three (3) senior officials from VNU for Management Training in Kyoto from October 24 to November 6, 2015.
2. JICA has offered an academic training for Environmental Engineering Program at Ritsumeikan University in February 2016. Its application for three (3) lecturers was accepted by JICA.

1.1.1.5. Local Human Resources:

(1) JICA has signed an agreement with 6 Vietnamese expert teams to develop the curriculum and proposals for the establishment application of 6 master programs from October 23rd to December 25th, 2015.

(2) JICA has employed two (2) from August 2015, five (5) from September 2015, one (1) from October 2015 and one (1) Vietnamese personnel from November 2015 as staff of VJU MB.

1.1.1.6. Facilities:

(1) JICA has signed a lease agreement of 3 floors of the Vietnam-Australian Secondary and High School Buildings assigned as the temporary campus (hereafter referred as VJU 'My Dinh Campus') from November 01, 2015 until March 31st, 2020.
(2) JICA has contracted a company to design and supervise the renovation works of My Dinh Campus from November 17th, 2015 to May 31st, 2016.
(3) JICA has announced bidding for the renovation works of My Dinh Campus, and the contract would be signed by February 15, 2016.

1.1.1.7. Equipment:

(1) JICA has rented 1 car and purchased several equipment/stationery to support the Project (shredders, laptops, Microsoft licenses, photocopy machines, timekeeper card machine, etc.)

1.1.2. Vietnamese side

1.1.2.1. VJU MB:

(1) VNU President declared his decision (No. 2589/ QĐ-ĐHQGHN) on the establishment of the VJU Management Board (MB) on July 30, 2014 and assigned its Director (Previously, the initial appointment was with Dr. Nguyen Hoang Hai – Vice President of VNU. Then on 6/2/2015, Dr. Vu Anh Dung was appointed to be the Director of VJU MB per Decision No.519/ QĐ-ĐHQGHN). It was agreed that the Vice President Dr. Hai as the Project Director and VJU-MB Director Dr. Dung as the Project Manager as stipulated in the Record of Discussions (R/D) signed with JICA representative in February 2015.
(2) Four (4) Vice Directors (Dr. Phan Chi Anh – Academic Affairs – Science & Technology Department; Ms. Phung Kim Anh – Cooperation & Development Department; Mr. Tran Thanh Khiet – Financial Management and Construction Investment; Mr. Ho Nhu Hai – Human Resources & Administration Department) on 12/9/2014 (No. 01/ Q -BQL HVN).
(3) Then, Vice Director Phan Chi Anh was replaced by a new successor Dr. Nguyen Hoang Oanh on 11/3/2015 (as per Decision 838/ Q - HQGHN).
(4) Seven (7) staff members were employed from the beginning of the Project, April 1, 2015.

(5) VJU-MB has recommended five (5) of their temporary staff to become the TC Supporting Staff, and so these 5 persons have been employed by JICA from September 2015. (6) VJU-MB has employed five (5) other personnel since September 2015 to assist the Project.

1.1.2.2. VNU Expert teams and Committees:

(1) VNU has appointed 6 teams consisting of experts and professors on the 6 areas of VJU Master Programs. They have worked jointly with the Japanese Coordinating Universities for curriculum and syllabus development, and for other necessary matters for the development of program establishment proposals. (2) VNU has established a Curriculum Assessment Committee in September 2015; Assessment Committee for Opening 6 Master's Programs in December 2015; Admission Policy/ Announcement Committee in January 2016, etc. to review, and assess, even approve the curricula, syllabi, and set of application form, etc. (3) VNU President issued his Decision No.3155/ QD-DHQGHN to establish the Introductory Seminar Organizing Committee on the August 28, 2015 (01 Head of Committee and other 07 members of different Departments of VNU, including VJU).

1.1.2.3. Facilities & Equipment:

(1) VNU has prepared whole space of the 10th floor of VNU Administration Building for the VJU MB and JICA Project Team (Decision No. 2998/Q / HQGHN on 28/8/2014). (2) Decision No. 1039 / TTg-KHTH dated on 13/07/2015 of the Prime Minister about budget allocation for Higher Education Development Policy Program, in which VND110 billion will be funded for VJU Establishment Project is noted. At the moment, VNU is using this fund for the VJU Laboratory Investment Project of the Master's Program. The proposal of this project was submitted to the Ministry of Planning & Investment (MPI) and relevant Ministries for validation.

1-2. Progress of Activities

**Italic words and A: Suggested changes by the Project Team*

Output 1. Organization management of VJU **Master Programs* is

consolidated.

- *Output 1 is confusing the Project purpose, i.e. "*VJU will provide high-quality Master programs continuously" *and VJU development as a whole. Therefore, we propose to define Output 1 to be solely about the Master Program only. We further suggest to delete PO1-7 "*To formulate and update University Development Plan" *from Output 1, and be transformed as Output 4.*

PO 1.1. To secure office space for VJU Management Board (VJU MB) and Japanese experts:

- The 10th floor of VNU's Administration Building has been assigned and accommodated as office for the VJU MB and JICA Project Team since April 2015.

PO 1.2. To formulate the rules and regulations including organization structure for *_the_ management and operation of VJU'*s Master Programs*. ~~of VJU~~ ~~<Approved by Prime Minister>~~:

1.2.1. Formulating the organizational structure and rules of employment of the supporting staff of the VJU Management Board for the Project operation.

(1) The organizational structure and rules of employment of the supporting staff of VJU-MB were agreed and applied since September 2015.

1.2.2. Formulating the Organizational structure and internal regulations for the management of VJU's Master Programs

1.2.2.1. Relevant information have been collected and studied and views were exchanged.
1.2.2.2. The Organizational structure for the VJU Master's Programs has been drafted and is under consideration.
1.2.2.3. The regulation covering organizational management is being drafted.
1.2.2.4. A draft of criteria and key performances indicators for lecturers of VJU Master's Program has been developed and shared with JICA HQ. The regulation covering faculty staff management is being drafted. The Appointment Committee of the academic staff would finalize it.
1.2.2.5. The regulation covering student affair is being developed.
1.2.2.6. The administrative structure and their employment regulations are

drafted and being discussed.

1.2.3. Revising the rules and regulations needed for the operation of VJU's Master Programs

N/A

PO 1.3. To appoint Executives and recruit Administrative Staff for managing the Master's Program:

1.3.1. Appointing the Director and Vice Directors, and staff of the VJU Management Board.

1.2.3.1. There are currently 2 full-time Vice Directors in-charge of Human Resources and Administration Department, and Academic Affairs – Science & Technology Department. There is one part-time Vice Director in charge of Finance, Infrastructure & Facilities Department. The Vice Director in charge of Public Relations, International Development & Cooperation Department has taken special leave since December 2015.

1.3.2. Employment of the Administrative Staff to support the Project within the Management Board.

(1) A total of nine (9) TC supporting staffs including; three (3) Academic Affair Officers; one (1) Infrastructure planning; one (1) Facilities maintenance and management Officer and one (1) Facility and Accounting & Procurement Officer; one (1) Public Relations & Marketing Officer; one (1) HR Officer; and two (2) Assistants to Chief Advisor and Project Coordinator; had been already employed and are presently working for the Project.
(2) Five (5) assistant officers have been employed by VJU-MB.

1.3.3. Appointing Executives for managing the Master Programs of VJU according to the approved organizational structure.

(1) VNU President has informed GoJ his intension of inviting Prof Furuta as the Rector of VJU in December 2015.
(2) VNU President proposed and requested the approval of the appointment of Prof. Furuta as the Rector of VJU to the Prime Minister's Office and other relevant offices in January 25, 2016. *(The endorsement letters have arrived by February 3, 2016)*

1.3.4. Employment of the administrative staff for operating VJU's Master Programs.

(1) To be re-employed as soon as the organizational structure of administrative department/sections of VJU is endorsed.

PO 1.4. To formulate and update *the* basic plan (Activity Plan, Financial Plan, etc.) *of the Project*:

1.4.1. Breakdown the activities and modify the Plan of Operation.

(1) The sub-activities have been elaborated and sorted out.

(2) The Plan of Operation (PO) is being modified.

1.4.2. Rewrite the Project Design Matrix and the Plan of Operation.

(1) The Project Design Matrix and the Plan of Operation are going to be rewritten when Consultation Mission comes and JCC is held in April 2016.

1.4.3. Formulating and updating the Financial Plans for Master Programs during the TC Project.

(1) Basic 5-year Financial Plan for Master Programs during the TC Project has been formulated.

(2) The financial plan for the academic activities of the 1st intake of Master Programs has been formulated and approved.

PO 1.5. To improve *the* capabilities of VJU human resources for University management:

1.5.1. Studying in other universities.

(1) Reference documents from the University of Tokyo, and from other national and private universities of Japan, and member Universities of VNU were shared with VJU MB.

(2) Especially, the documents related to Vietnam German University and University of Science and Technology, Hanoi (USTH: Vietnam French University) had been considered.

(3) Attended the 3rd Conference of Vietnam Japan University Presidents in Danan in September 2015, and made acquaintanceship with both Vietnamese and Japanese university top management. Information on past and on-going Vietnam-Japan universities' collaborations was shared.

1.5.2. Organizing workshops, in-country training for the administration staff.

(1) Received a lecture on organizational management of Hosei University of Japan, when a mission visited in August 2015.

(2) A workshop with the Osaka University's staff would be held on March 2, 2016 with the VJU administration staff.

1.5.3. Training of management and administration in Japan.

(1) A 2-week training of management and administration for VJU managers was organized by Ritsumeikan University for two (2) weeks from October to November 2015. The VNU director of Human Resources and Organization Dept., and two (2) directors of VJU-MB have attended the course.

1.5.4. Evaluation of the administrative employees.

(1) The evaluation form of administrative employees is being developed. Evaluation will be held in late February and early March 2016.

PO 1.6. To improve the collaboration and network with international and local partners (universities, private companies):

1.6.1. Networking and developing collaboration with the other universities.

(1) VNU has signed MoUs with 6 Japanese Coordinating Universities on collaboration for VJU activities and development.

(2) The Japanese Coordinating Universities have networked with several other universities for collaboration in implementation of VJU Master Programs.

(3) Many other universities from Vietnam and Japan have visited VJU-MB.

1.6.2. Networking and developing collaboration with private companies.

(1) JETRO, JBAV, Toshiba, Richo have been visited by JICA Team.

(2) JAL, Richo, SWIing attended the Introductory Seminar in December 2015. SWIing showed its interest to support the Environmental Engineering Program.

(3) VJU-MB has been developing a network with Vietnamese universities.

(4) Visiting potential companies around Hanoi for collaboration will commence in full-scale from March 2016.

PO 1.7. To formulate and update University Development Plan *(*To be made as Output 4)*

1.7.1. Drafting the Charter of VJU. <Prime Minister's Approval>. *=> ***PO 4.1.***

(1) (1) The statutes/charter of Vietnamese, Japanese and western countries have been studied, and the personal views have been exchanged among the members of VJU-MB and JICA Project Team.

(2) The Charter of VJU for Prime Minister’s approval has been drafted and shared with 2 sides for further comments. A part of the Charter has been sent by GoJ through diplomatic channels and an exchange of views had taken place.

(3) GoJ would examine the draft of Charter with the Advisory Committee in February 2016.

(4) The approval of the Charter by the Prime Minister of GoV is essential and indispensable to be able to activate many of the drafted organizations and their regulations, and then to operate the Master Programs from September 2016.

1.7.2. Adopting Logo/Emblems/Color as the symbol of VJU. *=> ***PO 4.2.***

(1) VJU Logo selection procedure and committee had been drafted in August 2015, however MB was ordered to wait for the appointment of the Rector.

(2) The Logo & Emblems are very important to be able to distinctly identify VJU, and they will be used as symbols to represent VJU to society. It is expected to be activated as soon as the Rector is decided.

1.7.3. Planning university development at Hoa Lac Campus. *=> ***PO 4.3.***

(1) Cooperating with the Follow Up Survey team, which has been sent since December 2015 for the follow up development of VJU Master Plan.

1.7.4. Formulating the Financial Plan for VJU. *=> ***PO 4.4.***

- The Financial Plan for VJU as a whole would be formulated from June 2016.

1.7.5. Employment of Executives and administration staff for further development of VJU. *=> ***PO 4.5.***

1.7.6. Developing Research programs of VJU. *=> ***PO 4.6.***

- After the appointment of the Rector, this activity would take place.

Output 2: Master Programs of VJU are prepared.

PO 2.1. To implement field survey for curriculum development for all candidate programs:

(1) The field survey for curriculum development for 6 candidate programs to be started from AY2016 was implemented and the final report was submitted on August 15, 2015.
(2) Survey results were reflected on the modification of the 6 Master Programs.
(3) A similar field survey would be done from May 2016 for the programs to be started from AY2017.

PO 2.2. To secure classrooms and equipment necessary for Master programs to be started in AY 2016 and 2017.

2.2.1. Finding a suitable place for the temporary campus for Master Programs.

(1) Vietnam – Australia School (VAS) was selected as the temporary campus for the Master Programs (to-be-called "My Dinh Campus").

2.2.2. Contracting for rent of the temporary campus.

(1) The rental of the My Dinh campus was contracted by the end of October 2015.

2.2.3. Developing the principle and design of the Campus for operating the Master Programs.

(1) The principle and design of the My Dinh campus were developed in September.
(2) The final drawings with cost estimate were submitted to JICA by a design company named WORKLOUNGE 03-Vietnam Co. Ltd in early December 2015. WORKLOUNGE 03-Vietnam would support the tender and contract process and supervision of the renovation works will be finalized by May 2016.

2.2.4. Renovating the rented place as the My Dinh (temporary) campus of VJU for Master Programs.

(1) Renovation works to make the My Dinh Campus for use as the temporary campus of VJU Master Programs would be contracted with a construction company in February 2016.
(2) Renovation work is expected to complete by the end of May 2016.

2.2.5. Procure equipment and books needed for VJU Master Programs.

(1) Equipment lists and specifications have been collected, and confirmation of specifications is being communicated among MB, the coordinating

universities and VNU's to-be lecturers of VJU Master Programs.

(2) Listing up the books for syllabus and teaching material preparation, text and reference books, has been requested to the Coordinating universities and their counterparts.

(3) They will be purchased in Hanoi or in Japan according to the availability and installed to the My Dinh Campus by August 2016.

2.2.6. Transferring to and activating the operations at the My Dinh campus.

(1) The staff and some equipment of VJU-MB and the JICA Team will be transferred to the My Dinh Campus in June 2016.

(2) Preparation for opening the Master Program will be taken place during June and August 2016.

(3) Official operations of the VJU Master Program will be activated at the My Dinh Campus and prepared for the student enrollment from September 2016.

2.2.7. Reviewing and modifying the use of facilities of the My Dinh campus for better operations of the Master Programs.

- N/A

PO 2.3. To recruit and train **the* teaching staff for **the* Master programs to be started in AY 2016 and 2017:

2.3.1. Developing the rules and regulations for recruiting and training the teaching staff.

(1) A Draft of Criteria and Terms of Reference (ToR) was shared and views were exchanged.

(2) Both sides agreed to respect and to be responsible for the selection of the teaching staff until the VJU adopts the official rules and regulations covering the appointment and employment of the Master Programs faculty staff.

(3) Drafting the 'Rules and Regulations for Appointment and Dismissal of Lectures' will be worked out following the decisions on the Rector and the Charter of VJU.

2.3.2. Recruiting Japanese lecturers.

(1) Japanese lecturers are being recruited by the Coordinating Universities.

(2) Two (2) full-time lecturers/long-term experts for each program would be selected by each Coordinating University and dispatched by JICA for 1~2

years as early as by June 2016.

(3) Part-time lecturers would be dispatched by the Coordinating University of each program from September 2016 onwards.

(4) The mechanism of information sharing on the ‘flying’ and ‘tele-‘ lecturing would be established prior to the commencement of the Master Programs.

2.3.3. Recruiting Vietnamese lecturers.

(1) The list of prospective Vietnamese lecturers both full-time and part-time has been proposed to VNU. The lecturers of VJU Master Programs will be assigned prior to the commencement of individual courses.

(2) The experts for admission evaluation, syllabus and teaching material development would be assigned in February 2016.

2.3.4. Training of Vietnamese lecturers in Japan.

(1) Training of Vietnamese lecturers on Environmental Engineering in Japan was offered and 3 participants were selected by VNU. Dispatch will take place in February 2016.

2.3.5. Evaluation & assessment of lecturers

N/A

PO 2.4. To develop an admission plan (target, selection criteria) for the students of ****the* **Master programs:**

2.4.1. Developing the schedule and guidelines of admission.

(1) The schedule and guidelines of admission were developed, approved and made public on January 23, 2016.

2.4.2. Developing the set of application forms.

(1) The set of application forms was developed, approved and made public on January 23, 2016.

2.4.3. Developing the admission/selection criteria.

(1) The VNU Admission Committee was formed and members were appointed in January 2016.

(2) The admission and selection criteria have been developed in January 2016.

2.4.4 Revision of the admission/selection criteria.

- N/A

PO 2.5. To develop ****the* **curriculums and syllabuses of ****the*** **Master programs to be**

started in AY 2016

2.5.1. To develop curriculums consisting of 1) programs outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome of the Master programs to be started in AY 2016.

(1) Curriculums AY 2016 have been developed and approved by VNU President in October 2015.

2.5.2 To approve the Master programs to be started in AY 2016 <Approved by VNU President>.

(1) The Master programs to be started in AY 2016 were approved by VNU President in December 2015 with minor requirements.
(2) Minor requirements have been fulfilled during in January 2016.

2.5.3 To develop the detailed syllabuses of the Master programs to be started in AY 2016

(1) Detailed syllabuses of the Master programs scheduled for AY 2016 are planned to be started from March 2016.
(2) The contract for detailed syllabuses and teaching materials development is being drafted, and negotiation with JICA Office would take place in later February 2016.

2.5.4 To revise the detailed syllabuses and teaching materials of the Master programs to be started in AY 2016

- N/A

PO 2-6. To develop **the* curriculums and syllabuses of **the* Master programs to be started in AY 2017:

2.6.1 To develop curriculums consisting of 1) program outline, 2) program title, 3) structure, 4) learning outcome of the Master programs to be started in AY 2017.

(1) To be started after the Coordinating Universities would be contracted with JICA, expectedly by April 2016, as originally planned.

2.6.2 To approve the Master programs to be started in AY 2017 <Approved by VNU President>.

(1) It is necessary to receive the approval of the VNU President at the latest December 2016

2.6.3 To develop the detailed syllabuses of the Master programs to be started in AY 2017.

- Expected to commence by April 2017.
2.6.4 To revise detailed syllabuses of Master programs to be started in AY 2017 and after - N/A

Output 3: Master programs of VJU are implemented and improved.

PO 3.1. To ~~do~~ **conduct* promotion activities for **the* Master programs to be started in AY 2016 and AY 2017:

3.1.1 Promoting the Master Programs through mass-media tools including Web, SNS and pamphlets.

(1) VJU MB has produced the 1st pamphlet, and a package of IBCC materials including folders, letterheads, etc. in May & June 2014. These pamphlets were published in both Japanese and Vietnamese (different versions).
(2) Brochure/ pamphlets, and leaflets to publicize the Master's Programs of VJU were developed, printed and distributed to the guests and prospective students during the Introductory Seminar in December 12, 2015.
(3) Interested students approximately 40% were from outside of VNU. Advertisements in the Internet including the VJU Website, Web news, and Facebook were utilized.
(4) News and articles about the introduction of the Master's Program have been regularly uploaded on the VJU website and Facebook in Vietnamese and English.
(5) The next stage advertisement plan has been drafted and is presently waiting for the approval of all admission documents by VNU.

3.1.2 Promoting the Master Programs through exhibition, seminars, visits, etc.

(1) The Introductory Seminar of the 6 Master's Program was successfully conducted in December 12, 2015, with nearly 500 participants including 400 students; the statistics of the needs & the quality of prospective students were consolidated and shared as a significant result of the Seminar.
(2) Visits of enterprises and relevant organizations have been drafted and would take place after the Tet Holiday 2016.
(3) The Opening ceremony of VJU's Master Programs would be in early

September, thus preparations should start in June 2016.

PO 3.2. To recruit students for **the* Master programs to be started in AY 2016:

3.2.1 Recruiting information including admission guidelines, application forms, etc. through VJU's Website.

(1) Recruit information including admission guidelines, application forms, etc. have been made available for download via VJU's Website in January 2016.

3.2.2 Accepting applications and creating the database.

(1) After the announcement was made in January 21, 2016, all applications will be received and will be accepted until March 18, 2016.
(2) A Database has been created and relevant information is being filed.

3.2.3 Selecting acceptable students and announcing admission.

(1) The Criteria for the selection and evaluation of applicants have been agreed and approved by January 2016.
(2) Document screening will take place in March 1, 2016 and will be completed by March 20, 2016.
(3) The sub-Admission Committees of the 6 Master Programs will be held from March 23 to early April 2016.
(4) Oral exams will take place from March 23rd to 31st, 2016.
(5) The VNU Admission Committee for VJU Master Programs will be held in April 2016 to finalize the admission of AY2016 students.
(6) Admission announcement is expected within April 2016.
(7) Official enrollment is expected by September 2016.

3.2.4 Following up the admitted students.

(1) To be carried out after the announcement in April until the completion of the enrollment procedure by September 2016.

PO 3.3. To implement **the* Master programs to be started in AY 2016:

- To start in September 2016.

PO 3.4. To recruit students for Master programs to be started in AY 2017:

- To start by November 2016.

PO 3.5. To implement Master programs to be started in AY 2017

- To start in September 2017.

PO 3.6. To monitor the state of implementation of Master programs

semi-annually:

- To start from September 2017.

PO 3.7. To improve *the* curriculums and syllabuses based on the result of the monitoring:

- To start from April 2017.

1-3 Achievements of Output

Output 1. Organization management of VJU is consolidated.

1.3.1.1. Basic Plans:

(1) The Plan of Operation (PO) of this technical cooperation has been revised, and its alteration and breakdown of activities into sub-activities are suggested. The finalization of the PO together with the Project Design Matrix (PDM) would be made at the Joint Coordinating Committee (JCC) expectedly in April 2016.

(2) The Basic plan of management of the 6 Master Programs would be finalized by the initiative of the Rector, not later than August 2016.

1.3.1.2. Rules and Regulations:

(1) Discussions and preparation of VJU Charter has been progressed, and it would be approved by Prime Minister expectedly by August 2016. The Prime Minister's approval of the VJU Charter, as the basis of all the rules of the university, is the preconditions of all endorsements and will have the power to activate the drafted regulations for the Master Programs.

(2) The essential organizational structure, rules and regulations to manage and operate the first 6 master programs would be readily drafted in August 2016, prior to the opening of the Programs. The Rector would approve these and apply as the regulations of VJU by adjusting with the Charter after Prime Minister's official approval of VJU Charter.

1.3.1.3. University Development Plan:

(1) The so-called Pre-FS may draw the VJU Development Plan to be more feasible by supplementing and modifying the Basic Study in 2014.

(2) Further modification maybe suggested during the course of experiencing the management of the 9 Master Program, and these would be added to make a more practical and feasible VJU Development Plan.

(3) Further appeals through diplomatic channels from both Vietnamese and Japanese sides would bring about a final agreement of the Charter of VJU as an attempt of two cooperating nations. (4) The so-called Pre-FS may draw a feasible management style, especially a workable level of financial independency and sustainability, which are the crucial elements of a newly established university and its management.

Output 2: Master Programs of VJU are prepared.

1.3.2.1. Number of Master Programs set up in AY 2016:

- The 6 Master Programs would be prepared and operated from September 2016, as initially planned.

1.3.2.2. Number of Master Programs set up in AY 2017:

- The number and kind of Master Programs to be opened in AY2017 are expected to be discussed and agreed on during the 1st Joint Coordinating Committee (JCC) between VNU and JICA in April 2016.

Output 3: Master programs of VJU are implemented and improved.

1.3.3.1. Number of students obtain Master degree through Programs set up in AY 2016:

- The 6 Master Programs would have a maximum intake of twenty (20) students each and the courses commence in September 2016. If all of them successfully graduate, 120 Master degrees may be awarded by June 2018.

1.3.3.2. Number of students obtain Master degree through Programs set up in AY 2017:

- This would depend on the agreement mentioned above 1.3.2.2.

1.3.3.3. Curriculums and Syllabuses of Master Programs are revised regularly based on the result of the monitoring:

- Quality would be constantly evaluated and assured from the opening of the Programs in September 2016. Occasional evaluation and revision of the Curriculums and Syllabuses of each program may be re-drawn, and/or some lecturers may be replaced, if deemed necessary.

1.3.3.4. Promotion activities for Master's Programs to be started in AY 2016 &

AY 2017 have been initially done

(1) Advertisement materials such as the printed pamphlets and leaflets, and Internet contents were developed and delivered to the public. (2) An Introduction Seminar of VJU's 6 Master Programs was held and attended by over 500 participants. (3) General MOUs were signed between VNU and the 5 Japanese Coordinating Universities.

1-4 Achievement of the Project Purpose:

VJU will provide high-quality Master programs continuously.

- It seems to be achievable by the end of the Project in March 2020, except financial independency & sustainability.

1-5 Changes of Risks and Actions for Mitigation

(1) Transparency and clear communication between both sides, and within both sides need to be improved for a better understanding and for trusted cooperation. As the involved parties are numerous on both sides, more sophistication and more organized communication are especially indispensable for the success of the Project. Both sides should understand and make clear decision making process of each other. (2) Under-estimation of the procedures on organizational development in Output 1 and the procedures getting endorsement by the VNU President on the academic preparations in Output 2 has become obvious, thus revise the plan with more time given and clear sub-activities, and also early preparation of both sides and more number of experienced staff are necessary. (1) The approval of Prime Minister on VJU Charter is essential to give VJU the status of a university, and the detail rules and regulations to manage and operate the Master Programs has become apparent, therefore the high level agreement and proposal to the Prime Minister as early as possible is urgently needed. Delay of this might jeopardize the Project Purpose.

1-6 Progress of Action undertaken by JICA

(1) JICA has consulted with the Government of Japan (GoJ), and the proposal to establish the University Council with the 1st Rector of VJU to be a Japanese has been made through the Japanese Embassy in November 2015.
(2) A JICA HQ staff was sent to the Project with the mission of drafting the Charter of VJU and later to attain the approval of Vietnamese Prime Minister.
(3) JICA Vietnam Office is actively taking part in processing the large amount of contracts under the Project, and is working closely with the Japanese Embassy to promote early agreement on the Charter and Rector of VJU.
(4) Interest of Private Sector is not as expected. Pre-FS team would elaborate the risks and countermeasures toward this issue. VJU-MB and JICA Project Team would take actions to make more exposure of VJU towards the private sector and attain their interest and collaboration.

1-7 Progress of Action undertaken by VNU

(1) VNU's top management has been giving special consideration and treatment of the matters related to the establishment of the VJU Master Program. Therefore, a majority of decisions and approvals regarding proposals have been awarded to the 6 Programs much faster than other cases of any other universities under VNU.
(2) After considering the qualifications, and capabilities of Prof. Motoo Furuta's, the top-leader meeting of VNU was held and agreed to invite Prof. Motoo Furuta to be the 1st VJU Rector. Then VNU has requested the Prime Minister for approval. *(Which was endorsed in February 3, 2016.)*
(3) VNU has drafted the VJU Charter and shared with JICA. MB members have explained the legal process including roles, functions and duties of stakeholders (Embassy of Japan, Government of VN, etc.).
(4) These high level exchanges through diplomatic channels had enabled the promotion of the activities, especially PO 1-2 and below.

1-8 Progress of Environmental and Social Considerations (If applicable)

- N/A

1-9 Progress of Considerations on Gender/Peace Building/Poverty Reduction (If Applicable)

- N/A

1-10 Other remarkable/considerable issues related/affect to the project (such as other JICA's projects, activities of counterparts, other donors, private sectors, NGOs etc.)

- N/A

2. Delay of Work Schedule and/or Problems

2-1. Detail

PO 1.2. To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU:

(1) This was scheduled to complete by end of August 2015; in fact the rules and regulations to manage and operate VJU have been drafted and so far shared with VJU MB for comments. Such Zero draft has just been translated into Japanese and will be shared with the Japanese side for comments

PO 2.1. To implement field survey for curriculum development for all candidate programs:

(1) The survey for the first 6 Master programs was planned to complete within April, but final report was actually submitted in August 2015.

PO 2.4. To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master programs

(1) Admission Plan was planned to be completed by August 2015 but took up to January 2016.

PO 2.5. To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2016

(1) Development of curriculums was planned to complete by August 2015, but actually approved in October 2015.

PO3.2. To recruit students for Master programs to be started in AY 2016.

(1) Announcement was planned to be done in September 2015, but took until February 1, 2016.

2-2. Causes

PO 1.2 To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU

(2) The original plan miss-judged the period and the procedure needed to get the approval of the Prime Minister on the Charter regarding the basic regulation. The Prime Minister only approves VJU organizational structure prior to rules and regulations.
(3) The original plan under-estimated the procedure to complete this activity, the difficulties and the amount of work involved.
(4) The communication between 2 sides takes longer than expected.
(3) Without the VJU Charter that would contain VJU organizational structure and basic rules and regulations, only temporary organizational structure and regulations could be drafted. This has been delaying the activities under Output 1.
(4) Especially, it had been hindering PO 1-2 to be listed. To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU <Approved by Prime Minister> as Po 4.1 of Output 4.
(5) The PO 1-3 after had also been delayed consequently.

PO 2.1. To implement field survey for curriculum development for all candidate programs:

(1) The response from Japanese companies in Vietnam was too scarce at the end of July 2015, therefore the survey period was extended, and the companies were approached again. The analysis of the consultant took longer than expected. These caused a delay, so the final survey report was submitted at the end of August instead of end of July 2015.

PO 2.4. To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of Master programs

(1) The original plan under-estimated the procedure to complete this activity, the difficulties and the amount of work involved.
(2) The amount of the tasks involved and every procedure had been a quite challenge, as the most of staff lacked the experience in this practice.

PO 2.5. To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in

AY 2016

(1) The original plan under-estimated the volume of documents needed to prepare, and the steps and length of VNU approval procedures. (2) Communication among Vietnamese and Japanese experts/professors and VJU-MB had not been smooth enough in early stage. (3) Too many stakeholders involved, that made VJU-MB difficult to enhance the communication with other groups. (4) Decision on the coordinating university of MPP also caused the change and delay. (5) It is not a major cause, however, some competent but inexperienced staff members in the administrative works in this field added to these difficulties and caused delay.

PO 3.2. To recruit students for Master programs to be started in AY 2016.

(1) Delay of PO 2.4 pushed the procedure to reach announcement of admission, and delayed. (2) The original plan under-estimated the difficulties and amount of work to reach this step. (3) The schedule of interview at late March 2016 had been decided mainly for the convenience of the Japanese side. It has made many tasks shorten its operational days and during the same time. This has been very difficult and tough time for the limited number of staff.

2-3. Action to be taken

PO 1.2 To formulate the rules and regulations including organization structure for management and operation of VJU

(1) High-level agreement on the Charter, and an early proposal to Prime Minister's approval. (2) Accelerating drafts of the structure and regulations following VNU's rules & regulations, and preparing for the Rector's action for processing the internal structure and regulations.

PO 2.4. To develop admission plan (target, selection criteria) for the students of

Master programs

(1) An early start for the AY 2017.
(2) More experienced staffs.

PO 2.5. To develop curriculums and syllabuses of Master programs to be started in AY 2016

- An early start for the AY 2017.

PO 3.2. To recruit students for Master programs to be started in AY 2016.

(1) An early start for the AY 2017.
(2) More number of experienced staffs.

2-4. Roles of Responsible Persons/Organization (JICA, VNU, Others)

(1) GoJ including Vice Cabinet Secretary and his Taskforce, Inter-Ministerial Committee headed by the Assistant Cabinet Secretary, Japanese Embassy in Vietnam, the JICA HQs in Tokyo (Human Resource Development Dept. and Southeast & Pacific Region Dept.) and JICA Vietnam Office have been taking an active role to help solve the delay in establishment of VJU Charter and on appointment of VJU Rector.
(2) The Charter will be reviewed and endorsed by six (6) Ministries consisting of Ministry of Science & Technology (MoST), Ministry of Finance (MoF), Ministry of Planning & Investment (MPI), Ministry of Education & Training (MOET), Ministry of Foreign Affairs (MOFA), Ministry of Home Affairs (MOHA).

3. Modification of the Project Implementation Plan

3-1. Plan of Operation (PO)

(1) To avoid the confusion between the Project and the VJU Establishment, the Project Team proposes to re-define the Output 1 and all the activities under this to be limited to Master Programs.
(2) However, the Master Programs can not be established without the basic regulations of VJU, and the establishment of the Master Programs affect and

influence a lot to development of whole VJU, the PO1-7 "To formulate and update University Development Plan" is proposed to be Output 4, and be elaborated further.

(3) The Team also propose modifications of the work duties of team members; 'Project Coordinator/Industry-Academia collaboration' to become as 'Project Coordinator/Human Resource Development & PR', 'Program Coordination1 (Social Science)' to become as 'Program Coordinator in Social Sciences/Admission & Research Affairs', and 'Program Coordination 2 (Natural Science)' to be as 'Program Coordinator in Science & Technology/ Student Affairs).

(4) Some minor changes in wording are also suggested.

3-2. Other modification on detailed implementation Plan

**Remarks: The amendment of Record of Discussions (R/D) and Project Design Matrix (PDM) (Title of the Project, Duration, Project Site(s), Target Group(s), Implementation Structure, Overall Goal, Project Purposes, Outputs, Activities, and Input) should be authorized by JICA HQs. If the Project Team deems it necessary to modify any part of R.D and PDM, the team may propose the draft.*

4 Preparation of Vietnam toward after Completion of the Project

- N/A

Attachment:

(1) Revised Plan of Operation (PO)

(2) Sample Sheet of Weekly Planning/Review

1st. Joint Coordinating Committee of VJU

1年間を振り返り、今後を展望する

11th of May, 2017

- 第Ⅰ部
- Report on progress of
- Plan of Operation

- 第Ⅱ部
- Report on
- Activities of VJU
for previous 1 Year

- 「協力概要」を振り返る

「上位目標と指標」（協力概要-Ⅰ）

「VJUの修士課程卒業生が、社会において積極的な役割を果たす」

- 卒業生は輩出されていないが、天皇皇后両陛下への学生の謁見、安倍首相と学生の交流、開学式などを通じ社会的な注目を集め、ベトナムの社会的な関心と期待が高まったといえる。

- また、日本の地方政府（三重県知事、茨城県、静岡県来訪など）、日本の大学や企業の関心と期待が高まってきた。

プロジェクト目標と指標（協力概要-Ⅱ）

- 「VJUが高品質の修士プログラムを継続的に提供する」基盤は整いつつある。

- 他方、第1期生の入学志願者数と比較しても、第2期生第1次募集への応募人数は増加していない。その背景として、①はベトナムの大学院はベトナム語で行われることが多いため英語での受験を準備していなかったこと、②就業しながら大学院に通うことが多く、昼間の授業が主であるVJUが敬遠されたこと、③修士課程に必要となる学部時の履修科目とのミスマッチなどが学生から指摘されている。

「期待される成果」（協力概要-Ⅲ）

- ❶「VJUの修士課程の組織･運営体制が確立する」
  →組織･運営体制は立ち上がったが、改善に向けた課題（常勤講師の確保、財政の自立化、マネジメントの改善など）は多い。
- ❷「VJUの各修士プログラムが準備される」
  →6プログラムを実施中、3プログラムを準備中
- ❸「VJUの各修士プログラムが実施され、継続的に改善される」
  →第1期生の第1学期の実績を踏まえた改善、第2期生募集時のプログラムの改善を図っている。例えば、夜間や週末の授業の導入、英語力への柔軟な対応、過去問の公開の検討など。

- 「協力概要」を踏まえつつ、1年間の出来事を振り返る

① 第1期修士課程の開講（ 16年9月）

- 9月9日に開学式を、前日には「記念シンポジウム」を開催。参加者はそれぞれ約250名、450名。
- 日本からは二階日越議連会長、武部同特別顧問、世耕経済産業大臣ら。ベトナムからはPham Minh Chinh 党中央組織委員長、 Phung Xuan Nha MOET大臣、Nguyen Kim Son VNU総長らが参加。
- 当地マスコミの紹介ニュースは計57件、知名度を上げた。
- 第1期生として72名が入学（現在60名が在籍）。海外からは5名が合格したが、1名のみが入学（その後退学）

  →就業との両立が難しいこと、予想以上に学業が厳しいことなど。

<u>協力概要Ⅲの実現に向けた第一歩</u>

② 第2期生の第1次募集（17年3月）

- 第2期生 第1次入試の結果、44名が合格。。
- 応募人員が減少した背景としては6ページの記載参照。

- 第2次募集に向けての主な対策は、中部、南部の大学へのPR。

- また、マスコミの活用については、JICA事務所の協力を得てVJUへのマスコミ・ツアー。

- 来年度に向けての検討課題は（口頭で紹介）

<u>協力概要Ⅲ-❸の実現に向けた取り組みの強化が必要</u>

③「定款」の承認（2017年3月31日）

- 定款の承認により、VJUならではの教育プログラムの実施が保証された。
- 今後、理事会メンバーの選定、第1回理事会の開催（6月ごろ）を行う。財政特別措置、発展戦略の見直し（学部開設前倒しなどを含む）などを決定したい。
- 学部開設前倒しについては研究教育評議会を開催する必要あり。
- 日越大学への社会的な期待に応え、日越大学ならではのプログラムの開発などに取り組む。

- ***<u>協力概要Ⅲ-❶の実現への基盤が整備</u>***

④ 第1回 研究教育評議会の開催（16年11月）

評議会では以下の事項を協議、VJUの今後の方向性を確認。

a. 定款の承認に向けた方向性：
b. 発展戦略の方向性：リベラルアーツとサステナビリティの理念について議論
c. 専任教員の採用方針：採用基準と任務の基準について議論
d. 第1期生の就学状況：研究論文やキャリアサポートなどの議論
e. 第2期生の採用方針：英語能力について議論

協力概要III-❶の実現に向けた基盤が形成された。

⑤ 発展戦略の策定（16年9月）

a. VJUの特徴：リベラルアーツなどサステイナビリティ学などの理念を掲げること、学際的な研究及び総合的な先端技術の開発、日本が優位に立つ新技術･最先端技術重視、
b. 2025年へのビジョン：学際的な科学及び総合技術の開発分野で、ベトナム国内で認められる国際水準に達すること
c. 研究教育分野： バイオナノテクノロジー分野、先端技術分野、サステナビリティ学分野、管理及び開発分野、 国際研究分野
d. 学部・教育及び研究に携わるインスティテュートの組織機構案に日本モデルの導入：学部教育ではFaculty/Collegeとして、大学院教育ではGraduate Schoolとして組織される。

協力概要Ⅲ-❸の実現に向けたビジョンを提起した。

⑥ 日本での各種支援委員会の開催

a. 関係省庁会議：17年2月から約1か月で4回開催、学部開設前倒しの議論。「議員懇話会の決断を仰ぐ」との結論。
b. 有識者会議：第2回会議（16年8月）では、座長から官房副長官に、㋐日本の経済界は高い人間力とマネジメント力を期待、㋑リベラルアーツ重視、ゼミ形式の教育の必要性、修士課程ではサステイナビリティ学を柱に据え、文理一体・問題解決型教育、㋒持続可能性確保のため、中期的には2,000人規模の総合大学を目指すという趣旨の提言。
c. 有識者会議のもと、次期フェーズ分科会、大学院分科会を8回実施。

協力概要Ⅲ-❶の実現を支援する基盤が整備・強化された

⑦ VNUとの対話･VJU内の運営体制の確立

- 16年7月のNguyen Kim Son 総長就任以降、適時、総長･学長の対話を行ってきた。特に、定款、財政特別措置、教育理念（リベラルアーツ等）などの対話を通じて、VJUの運営の根幹についての支援や助言をいただいてきた。
- VJU内には「学長室」メンバーに管理職、TCチームのチーフアドバイザーを加え、毎週の学長室会議により方針を決定。
- 他方、PD(プロジェクト･ダイレクター）との対話は個別の事案に限定され、総合的な情報共有や意見交換に至らなかった。

→第Ⅲ部参照

<u>協力概要Ⅲ-❶の実現のための基盤が形成された</u>

⑧ 次期フェーズを見据えた準備（１）

- JICAはプレF/Sを行い、16年10月に最終報告書を提出。調査中にはVNU及びVJUとの意見調整を行った。
- VNUは、16年10月にPMDを設置、ズン副学長が所長を兼務。PMDによるプレF/Sを進めている。
- JICA及びPMDが協働で行うF/Sの実施に向けて、情報共有・意見交換を行っている。また、JICAはPMDによるプレF/Sを促進するためにコンサルタントを短期間派遣する予定。

<u>協力概要を包括するビジョンを準備する</u>

⑨ 次期フェーズを見据えた準備（２）

- 古田学長は17年2月2日、日越大学推進議員懇話会の席上、学部開設前倒しへの理解を求めた。懇話会は関係省庁会議に検討を指示。その後の経緯は⑥の記載参照。
- 同時に、有識者会議の下にある2つの分科会に作業部会を置き、VJU内に17年2月に設置したタスクフォース（学部開設に必要な基本的な教育理念、ディプロマ･ポリシー及びアドミッション･ポリシー案、カリキュラム案、組織案の作成、必要な手続きの確認などの作業）に助言を与えている。第1回理事会には案の提出を予定。

<u>協力概要 II の実現のための基盤を準備する</u>

⑩ 17年度重要課題の策定（17年1月）

a. 組織機構の改善･課題：理事会の開催、「ONE VJU」の実現、二つのFacultyの設置検討、基金の樹立など
b. 研究教育体制の強化：常勤講師の採用、契約研究者の採用
c. アカデミック分野：第2期生の募集、気候変動プログラムの開講、来年度の新規プログラム開講準備など
d. 産学共同活動の推進：寄付金等支援の獲得
e. 財務特例措置の実現

<u>協力概要Ⅲ-❷及び❸の実現のための当面の目標が共有された</u>

⑪ その他の主な活動（１）

a. 日本におけるVJUセミナー（16年6月東京、7月札幌）
b. 武部特別顧問「特別セミナー」（16年12月）
c. 安倍首相とVJU学生の交流会（17年1月）
d. 天皇・皇后両陛下へのVJU学生の謁見（17年3月）
e. VNUから吉田代表への勲章の授与（17年3月）

協力概要Ⅲ-❶の実現のための環境整備に貢献した

- 第Ⅲ部
- Proposal on
- New Management Structure of VJU’s TC Project

⑫ JICAの協力構造の転換

a. 主体はJICAではなく、VJUであるとの認識に転換
b. 幹事大学はJICAへの協力校ではなくVJUのパートナー校へ転換
c. 幹事大学の推薦を受けた専門家は「特派員」との役割へ転換
d. 幹事大学の協力は人材派遣型から人材育成型へ転換
e. 教育重視型から研究重視型へ転換

協力概要IIを実現するための構造転換に寄与する

⑬ JICAの協力構造の転換を踏まえたTCのマネジメントの転換

a. 幹事大学と各プログラムがアカデミック年度計画案を作り、古田学長に提出
b. 古田学長はVJUの年間計画と統合し、チーフアドバイザーの助言も踏まえ、アカデミック年度計画を作成し、JCCで協議する。
c. 古田学長は、JCCで承認されたアカデミック年度計画をJICAに提出する。
d. JICAは8月を目途にアカデミック年度計画を承認し、幹事大学との契約を締結する。

協力概要III-❶を実現するための基盤を作る

TO CR OF JICA Vietnam Office

PROJECT MONITORING SHEET

Project Title: The Project for the Establishment of the Master Programs of Vietnam Japan University (VJU)
Version of the Sheet: Ver. 20190418 (term: 2018/6 – 2019/3)

Name: Kazuhiro YONEDA
Title: Chief Advisor
Submission Date: 04/18/2019

I. Summary

1. Progress

1-1Progress of Inputs

- Inputs by both sides defined by Record of Discussion(R/D) and Minutes have been made almost as planned, having a bit delay in employment of Vietnamese full-time lectures and administrative staffs

<Japanese Side>

- **Dispatch of Experts**

1)Long-term Experts

(1) Dr. Ikuo Kasuga: Program Development and Implementation (Environmental Technology) 9.1.2018~8.31.2020
(2) Dr. Naohisa Okamoto: Program Development and Implementation (Public policy) 3.21.2019~3.31.2020
(3) Mr. Kunio Taniguchi: University Management/ 3.25.2019~3.31.2020
(4) Dr. Keisuke Sato: Program Development and Implementation (Environmental Technology) 3.30.2019~3.31.2020
(5) Mr. Masato Kumagai: Chief Adviser/ 3.31.2019~3.31.2020
(6) Ms. Kiyoko Tanaka: Program Coordinator/ 3.31.2019~3.31.2020
(7) Dr. Jung Hyun Jasmine Ryu: Program Development and Implementation (Global Leadership)/ 3.31.2019~3.31.2020

2)Short-term Experts

(1) Summer Course, AY2018-AY2019
- Japanese Language Course : 3 experts/ 135 teaching hrs.
- Area Studies : 2 experts/ 60 teaching hrs.
- Business Administration : 4 experts/ 55 teaching hrs.
- Public Policy : 1 expert/ 15 teaching hrs.
- Infrastructure Engineering: 1 expert/ 30 teaching hrs.
- Environmental Engineering: 1 expert/ 10 teaching hrs.

(2) 1st Semester, AY2018-AY2019
- Common Course: 15 experts/ 59 teaching hrs.

- Area Studies: 1 expert/ 30 teaching hrs.
- Public Policy: 6 experts/ 60 teaching hrs.
- Nanotechnology: 5 experts/ 80 teaching hrs.
- Infrastructure Engineering: 3 experts/ 51 teaching hrs.
- Environmental Engineering: 2 experts/ 20 teaching hrs.
- Climate Change & Development: 14 experts/ 129 teaching hrs.

<Vietnamese Side>

1) Staff Allocation JFY 2018
   - Full-time lecturers: 10 lecturers
   - Administrative staff: 38 staffs (Resignation: 4 staffs)
   - Part-time Staff: 9 staffs
   - Outsourcing: 7 staffs
2) Part-time Lecturers
   - Prerequisite Course, AY2018-AY2019
     (1) Business Administration: 3 lecturers/ 12 teaching hrs.
     (2) Public Policy: 5 lecturers: 15 teaching hrs.
     (3) Environmental Engineering: 2 lecturers/ 6 teaching hrs.
   - Summer Course, AY2018-AY2019
     (1) Area Studies: 2 lecturers/ 30 teaching hrs.
     (2) Business Administration: 2 lecturers/ 60 teaching hrs.
     (3) Public Policy: 2 lecturers/ 45 teaching hrs.
     (4) Infrastructure Engineering: 1 lecturer/ 30 teaching hrs.
     (5) Environmental Engineering: 3 lecturers/ 185 teaching hrs.
   - 1st Semester, AY2018-AY2019
     (1) Common Course: 11 lecturers/ 435 teaching hrs.
     (2) Area Studies: 4 lecturers/ 135 teaching hrs.
     (3) Business Administration: 2 lecturers/ 60 teaching hrs.
     (4) Public Policy: 4 lecturers/ 90 teaching hrs.
     (5) Nanotechnology: 3 lecturers/ 62 teaching hrs.
     (6) Infrastructure Engineering: 4 lecturers/ 105 teaching hrs.
     (7) Environmental Engineering: 5 lecturers/ 70 teaching hrs.
     (8) Climate Change & Development: 5 lecturers/ 39 teaching hrs.

3) Provision of Equipment

(1) Office Equipment Purchased by Project Local Cost (more than VND 10,000,000)
: VND 293,158,000

(2) Technical Books: VND 233,899,372 (94 books)

4) Training in Japan

(1) Japanese Language Education: Lecturer Training
Dr. Vuing Thi Bich Lien (7/8~7/14/2018) Waseda University

5) Local Budget JFY 2018

(Japanese Side)

- General Expenses: VND 21,345,059,939
- Research Grant Budget: VND 1,008,056,534

(Vietnamese Side)

- General Expenses: VND 14,789,000,000
- Research Grant Budget: VND 861,000,000

1-2 Progress of Activities

<Main issues in VJU>

(1) Graduation of 1st batch students with 58 masters. 95% graduated students having job or advancing PhD course after 6 months of graduation.
(2) Opened the MCCD program with 23 students' intake.
(3) Completed the preparation for opening Master of Global Leadership.
(4) Newly opened 7 research projects using budget from Vietnamese Government (1 project at national equivalent level, 3 projects at VNU level and 3 projects at VJU level.), and 8 research projects started using JICA research fund, which has been linked to 31 ISI / SCOPUS papers and 8 international conference symposia.
(5) Submitted 8 research proposals to VNU and other research funds.
(6) Successfully applied for JAIF (Japan-ASEAN Integration Fund) with 69 scholarships for students in 4th & 5th batch.
(7) Prepared 2nd Technical corporation Project supported by Japanese Government.
(8) Promoted the process of preparation ODA Loan project for new VJU campus.

<Activities>

(1) University Council Meeting for deciding university policy and direction
- 7/20: 3rd VJU Council Meeting
- 4/18: 4th VJU Council Meeting

(2) Meeting for steering project activities
- 5/15 Joint Coordinating Committee
- 5/28: Council of Advisers to VJU
- 8/1: 4th Scientific and Academic Council Meeting
- 10/26: Meeting with VJU Coordinating University
- 11/30: 5th Scientific and Academic Council Meeting
- 12/18: VJU Consortium Preparatory Meeting (in Japan)
- 12/18: Meeting with VJU Coordinating University

(3) University Main Events
- 7/21: 1st VJU Graduation Ceremony
- 8/19~29: VJU Summer Program (attended 13 students from 9 universities in Japan)
- 9/10: 3rd VJU Entrance Ceremony
- 9/10: MOU with Ibaragi University

- 9/21: MOU with ANA Holdings
- 11/12: 2nd Meetup with VJU Internship students in Tokyo
- 2/14: Japanese Culture Workshop (visited Sumo wrestlers)

(4) Internship training for students

- MAS Program (Japanese Studies) 2 students: 9/17~12/15 at University of Tokyo,
  5 students: 9/26~1/23 at University of Tokyo
  (Vietnamese Studies) 2 students: 10/1~11/4 at University of Tokyo
- Business Administration: 17 students/ 10/3~2/2 at Yokohama National University
- Public policy: 11 students/ 9/26~12/21 at Tsukuba University
- Nanotechnology: 10 students/ 10/1~11/30 at Osaka University
- Infrastructure Engineering: 10 students/ 9/26~12/14 at University of Tokyo
- Environmental Engineering: 5 students/ 9/24~11/21 at University of Tokyo
  6 students/ 9/20~11/18 at Ritsumeikan University

(5) Admission Activities

- 6/16-17: Information Session for Student Recruitment in Myanmar
- July: Entrance Examination
- 1/26-27: Information Session for Student Recruitment in Myanmar
- 2/23: VJU Open Campus
- 3/11: Information Session for Student Recruitment

(6) JICA Mission teams for exchange opinions & views

- 6/25-26: Mission Team for Curriculum & Syllabus of Undergraduate
- 12/2~8: Consultancy Survey Mission

(7) Job Hunting activities

- 8/13~18: ANA Internship Program
- 4/20-21: Job Fair

(8) Seminars/ Workshops

- 7/21: Liberal Arts Seminar: presented by Dr. Katsuichi Uchida, Dr. Masuo Aizawa and Dr. Monte Cassim
- 8/27: Special Seminar: presented by Ms. Miyuki Komatsu
- 8/27~28: Special Seminar for Law
- 9/10: Special Seminar: presented by Dr. Nobuo Mimura and Prof. Tatsuya Okubo
- 11/22: International Symposium
- 12/22: International Workshop (Southeast Asia Research-based Network on Climate Change Adaptation Science (SARNCCAR)
- 1/23-24: 4th International Symposium Sustainable Future in Asia/ 4th NIES Forum
- 3/16: Training Workshop “R&D Activities in Malaysia and Vietnam”

(9) Visitors

- 9/6: Mr. Teru Fukui (Minister) and Mr. Arata Takebe (Parliamentary Secretary)
- 9/26: Mr. Toshihiro Nikai (Secretary-General of LDP) and Mr. Motoo Hayashi (Deputy Secretary-General of LDP)
- 10/2: Member of JICA ODA Tour in 2018 (25 members)

- 11/5: Former Member of the House of Representatives (Mr. Hitoshi Saito, Mr. Hajime Ogawa, Mr. Takashi Aiba, Mr. Tsutomu Takebe, Mr. Shuzaburo Nakamura, Mr. Kazuaki Miyaji)
- 12/6: Study Tour: Mahachulalongkorn Rajavidyalaya University (82 students)
- 12/20: Study Tour: Ubon Ratchathani Rajabhat University (35 students)
- 12/27: Mr. Jun Tsushima and Mr. Arata Takebe (both of Member of the House of Representatives)
- 1/9: ODA Mission from the House of Councilors (Mr. Shigeki Iwai, Mr. Kouzo Akino, Mr. Yoshitaka Saito, Ms. Wakako Yada etc.)
- 2/19: Study Tour: Fukuoka Jo Gakuin University (8 students)
- 2/25: Economic Mission from The Japan-Mekong Business Cooperation Committee (29 members)
- 3/7: Overseas Training Program for Highschool Students in Toyama Prefecture (20 students)
- 3/22: Vietnam Mission from Fukuoka City (8 members)

1-3Achievement of Output

- The main achievements according to PDM (version. 2) are followings:

(1-1)VJU established with its organization.

It has already been established however it needs to be more strengthened in terms of human resources and decision-making system.

(1-2)Necessary rules and regulations are developed.

Rules and regulations are already developed at an initial stage. In the next stage the detailed rules are necessary in addition to the basic rules.

(1-3)University Developments Plan is developed.

Draft paper is discussed many times at the several levels such as Rector board meeting, Scientific and Academic Council meeting and VJU Council meeting. It will be finalized after approval of ODA loan project by Prime Minister of Vietnam.

(2-1)Six (6) Master Programs are set up in AY2016.

Those programs are already completed to set up.

(2-2) One (1) Master Program is set up in AY2017.

MCCD program has opened in AY 2008 with one year delay.

(2-3) When feasibility of Two (2) more Master Programs is examined (expected to be within one).

Global Leadership Program (MGL) has been prepared for documentation and its process will be completed by May 2019, and MGL will be open in September 2019. On the other hand, it is expected that launch of Sustainable Agriculture program (provisional name) is not to be conducted within the period of this technical cooperation.

*(3-1) One hundred twenty (120) students obtain Master degree though programs set up in AY2016 (Maximum 20 students*50%*6 programs*2 batches)*

64 students as the 1st batch were enrolled, and 58 graduated to obtain Master degree. However, 4 dropped out of the school, and 2 were protracted.

The 2nd batch students are 82, who will graduate in July 2019, and 12 were dropped out so far as of April 2019.

*(3-2) Ten (10) students obtain Master degree though programs set up AY 2017 (Maximum 20 students*50%*6 programs*1 batch).*

There is no program set up in AY 2017 but MCCD set up in AY 2018. The 3rd batch students are 80 and 1 were dropped out so far as of April 2019.

(3-3) Curriculum and Syllabus of Mater Programs are revised regularly based on the result of the monitoring.

Each program is reviewed yearly, and the Curriculum and Syllabus have been slightly revised. And, especially for the program launched in AY 2016, fundamental revisions such as sharing of lectures among programs should be considered.

1-4 Achievement of the Project Purpose

1.Number of applicants will increase. (compared with other similar programs at universities in Vietnam).

AY2016: 163, AY2017: 157, AY2018: 158

VJU keeps the almost same number of applicants every year, while the number of students who enter the master's program is decreasing overall in the Vietnam.

2.Number or ratio of international students will increase and VJU will have awareness and reputation to Japanese and Vietnamese.

AY2016: 1 (dropout) , AY2017: 1 (dropout), AY2018: 6 (Myanmar: 2/ Nigella: 4 in school)

3.Graduates gain skills, knowledge and attitude to work in international environment.

Although the formal interviews have not been conducted with the company executives where the VJU graduates have found jobs and work, it is generally reported that the VJU graduates have a good reputation.

4.Ratio of graduate who are employed or enter doctoral programs within one year after graduation (in comparison with other similar programs at universities in Vietnam).

The employment situation of the 1st batch student is as follows;

- ✓ Doctoral program: 10
- ✓ New employment 33
  - Vietnamese organizations & companies: 18
  - Japanese companies: 12 (4 in Japan)
  - Foreign companies: 3
- ✓ Back to the previous Job: 9
- ✓ Job hunting: 6

5.Internal quality assessment reports are developed before April 2020 for 6 programs to be set up in AY 2016.

It will be developed within AY2019 by VJU.

1-5 Changes of Risks and Actions for Mitigation

N/A

1-6 Progress of Actions undertaken by JICA

- As for the research grant activities for the purpose of research promotion of VJU, 7 programs utilized VND 1, 008, 056, 534 in 2018, and the budget of VND 2, 691, 943, 466 will continue to be used in 2019.
- In order to promote private-sector partnership activities, more than 100 Japanese private companies and organizations became our partners for providing with cooperation and collaboration for internship, donations for scholarships, special lectures, opportunity for employment, implementation of career seminars, workshops and job fairs.

1-7 Progress of Actions undertaken by VJU and Government of Vietnam

- Three institutes are to be established: Institute of Interdisciplinary Social Sciences, Institute of Sustainable Science, Institute of Advanced Engineering and Technology. The detailed design of the establishment of Institute of Sustainable Science is completed.
- Functional departments are to be organized to minimize the adverse impact of the vertical distribution of functions and duties of the department and the TOR of the job position, with seeking for agreement with related Japanese organizations on the One-VJU mechanism.
- The art of continuous improvement KAIZEN has been applied for management and operation of university
- Cooperation with laboratories of partner universities and other education institutions in Vietnam is deployed, with investigating the possibilities of cooperation and cooperating with Hoa Lac Hi-Tech Park, and having close cooperation with other laboratories, universities, research institutes and enterprises in Vietnam and Japan for common use of resources and conducting student internship activities.
- 1 project investment policy has been approved by VNU and proposing SATREPS research program.
- Persuading the Vietnamese government to issue special regulations on finance in 2018 and apply for funding VJU accordingly, however, special Regulation on finance is under consideration by Prime Minister.
- Completion of all pre-feasibility, feasibility and design procedures to start facilities construction in Hoa Lac. And promote the process of preparation for ODA loan project.

1-8 Progress of Environmental and Social Considerations (if applicable)

N/A

1-9 Progress of Considerations on Gender/Peace Building/ Poverty Reduction (if applicable)

N/A

1-10 Other remarkable/ Considerable issues related/ affect to the project (such other JICA's projects, activities of counterparts, other donors, private sectors, NGOs etc.)

- Frequent exchanges of opinion and views with Vietnamese German University and Vietnamese French University are conducted in terms of university's policy, education and research

collaboration, issues and problems with Vietnamese Government.

- VJU signed the following MOU and/or Agreement with universities and companies in 2018:

(Domestic Partners)

  - ✓ 3/2017: Coninco
  - ✓ 3/2017: IBST
  - ✓ 11/14/2017: Thanh Hoa Provincial People's Committee
  - ✓ 2/2018: Thay Nguyen University
  - ✓ 2/2018: Nguyen Tat Thanh University
  - ✓ 3/2018: Thu Dau mot University
  - ✓ 5/1/2018: FECON
  - ✓ 8/1/2018: Institute of Transport Science and Technology
  - ✓ 9/28/2018: LASUCO
  - ✓ 11/23/2018: Cuc Ngoai Vu, Bo Ngoai Giano Vietnam

(International Partners)

  - ✓ 11/24/2016: Osaka University, Japan
  - ✓ 2/24/2017: Sekisho Corporation, Japan
  - ✓ 6/27/2017: Ritsumeikan University, Japan (Graduate School of Science and Engineering)
  - ✓ 7/26/2017: Hosei University, Japan
  - ✓ 7/31/2017: University of Tokyo, Japan (Faculty of Arts and Science)
  - ✓ 7/31/2017: Yokohama National University, Japan (Graduate School of International Social Sciences)
  - ✓ 10/23/2017: J.F. Obirin University, Japan
  - ✓ 11/2/2017: Waseda University, Japan
  - ✓ 11/2/2017: Takushoku University, Japan
  - ✓ 2/16/2018: Toyo University, Japan
  - ✓ 4/12/2018: Kobe University, Japan
  - ✓ 7/18/2018: Kansei Gakuin University, Japan (School of Science and Technology)
  - ✓ 8/14/2018: Ritsumeikan University, Japan (MNT and Graduate School of Life Science)
  - ✓ 9/10/2018: Ibaraki University, Japan
  - ✓ 9/21/2018: ANA Holdings Inc.
  - ✓ 2/11/2019: Kanazawa University, Japan

The conclusion of these MOU and Agreement will broaden the circle of collaboration in the future.

2. Delay of Work Schedule and/ or Problems (if any)

2-1. Details

(Staff assignment)

- Although the university's activities have been increasing and expanding, such as opening new programs, students' recruitment activities, enrollment of foreign students and etc., the staff members of VJU, especially at Academic Affairs Department, are limited.
- 18 counterparts are still paid by JICA's local cost support scheme.
- Recruitment of full-time lecturers and administrative staffs was delayed.

(Training)

- Full-time lecturers' counterpart training in Japan could not be carried out as planned in 5 programs in JFY2018.
- Opportunity for training was limited for administrative staffs since no official employment secured by VJU.

(Administrative procedure)

- Decision-making, especially for financial matter, is slow.
- Approval for opening Global Leadership Program was delayed

2-2. Cause

(Staff assignment)

- VJU budget is limited for adequate assignment for staffing while 8 kinds of programs are running.
- The level of salary is not good enough to have qualified personnel.
- A lot of staffs quit in a few months after employment. This may be due to the fact of busy working environment at Academic Affairs Department
- There are few applicants because the recognition level of VJU is still low.
- Salary scale of VJU is lower than applicants expect.

(Training)

- It is considered to be due to the delay in the response of each coordinating university which takes responsible for its implementation with a consultancy-implementation contract with JICA.
- VJU budget is very limited for official employment (salary paid by VJU) of administrative staffs.

(Administrative procedure)

- Because of shortage of budget its usage was limited and also financial proposal came late and in a short notice to decision maker.
- VJU delayed in the preparation of the necessary documents for launching the Global Leadership Program, which has many volumes and kinds.
- The examination process in VNU in terms of quality assurance of the program was complicated and took time more than expected.

2-3. Action to be taken

(Staff assignment)

- Continue to request Vietnamese Government through VNU to allocate necessary budget such as regulating Special Financial mechanism for VJU's excellent university.
- Continue to raise awareness of VJU among Vietnamese society through mass media and to conduct regular VJU awareness surveys etc.

(Training)

- Continue to request Vietnamese Government through VNU to allocate necessary budget such as regulating Special Financial mechanism for VJU's excellent university.
- Conduct smooth information sharing among JICA HQ, Coordinating universities and project.

(Administrative procedure)

- Ensure all the staff do effective usage of budget and take early process of implementation.

- Ask VNU to consider to make approval procedures streamlined

2-4. Roles of Responsible Persons/ Organization (JICA, Gov. of Vietnam, etc.)

- Implementation Structure was revised as follows;
  (1) VNU president will oversee the overall administration and implementation of the project.
  (2) VJU Vice president will be to focal for VJU and support the VJU president to oversee the overall administration and implementation of the project and give necessary guidance and support.
  (3) VJU rector will bear responsibility for overall administration and implementation of the project.

3. Modification of the Project Implementation Plan

3-1. PO

It is revised the PDM and PO as an attached. And parts of corrections and additions are follows;

<PDM>

1) Project Purpose 5:
   Internal quality assessment reports are developed before April 2020 for 7programs to be set up until AY2018.
2) Output 3
   - One hundred Forty (140) students obtain Master degree though programs set up in AY2017. (maximum 20 students*50%*7 program*1 batch)
   - One hundred Forty (140) students obtain Master degree though programs set up in AY2018. (maximum 20 students*50%*7 program*1 batch)
   - One hundred Sixty (160) students obtain Master degree though programs set up in AY2019. (maximum 20 students*50%*8 program*1 batch)
3) Activities
   1-8. To work out VJU development plan, Specific strategic objectives (education, science and technology research, social responsibility) and Basic benchmarks until 2025.
   3-1. To promote the activities for Master programs from AY2016 to AY2019.
   3-2. To recruit students for Master programs from AY2016 to Ay2019.
   3-3. To implement Master programs from AY2016 to Ay2019.
   3-6. To conduct necessary activities for university branding.
4) Pre-conditions
   Continue to be promised Policies of both Japanese Government and Vietnamese Government.

<PO>

The actual results as of March 2019 have been updated.

3-2. Other modifications on detailed implementation plan

N/A

4.Preparation of Gov. of Vietnam toward after completion of the Project
• To secure the financial resources for sustainable operation of VJU.   • To accelerate the construction of the VJU new campus in Hoa Lac area.

3. Project Monitoring Sheet I & II

As Attached, however, Sheet I is omitted since the contents are duplicated to this summary.

TO CR OF JICA Vietnam Office

PROJECT MONITORING SHEET

Project Title: The Project for the Establishment of the Master Programs of Vietnam Japan University (VJU)
Version of the Sheet: Ver. 20191030 (term: 2019/4 – 2019/9)

Name: Masato KUMAGAI
Title: Chief Advisor
Submission Date: 10/30/2019

I. Summary

1. Progress

1-1. Progress of Inputs

Inputs by both sides defined by Record of Discussion(R/D) and Minutes have been made almost as planned.

<Japanese Side>

◆ **Dispatch of Experts**

1) Long-term Experts

2) Short-term Experts

(1) As successors of Long-term Experts, 2 experts are assigned:

- Mr. Hiroyuki Kanzaki: Financial Management/ Industry-academia Collaboration
  29 July 2019-16 January 2020
- Mr. Shinsuke Asamizu: Project Coordinator 2
  12 August 2019-31 March 2020

(2) 2nd Semester, AY2018-AY2019: 69 short-term experts

- Common Course: 1
- Area Studies: 9
- Business Administration: 7
- Public Policy: 8
- Nanotechnology: 7
- Infrastructure Engineering: 8
- Environmental Engineering: 14
- Climate Change & Development: 15

(3) 1st Semester, AY2019-AY2020: 53 short-term experts

- Common Course: 11
- Area Studies: 2
- Business Administration: 2
- Public Policy: 9
- Global Leadership: 2

- Nanotechnology: 6
- Infrastructure Engineering: 2
- Environmental Engineering: 6
- Climate Change & Development: 13

<Vietnamese Side>

1) Staff Allocation JFY 2019 (as of the end of September 2019)
   - Full-time lecturers: 13 lecturers
   - Administrative staff: 33 staffs
     - Rector Board: 2 staffs
     - Institute of Sustainability Science (ISS): 1 staff
     - Administration Department: 10 staffs
     - Planning & Finance Department: 3 staffs
     - Academic Affairs, R&D Promotion Department: 8 staffs
     - Each Program: 8 staffs
     - Laboratory: 1 staff
   - Part-time Staff: 10 staffs
   - Outsourcing: 7 staffs
2) Part-time Lecturers

(1) 2nd Semester, AY2018-AY2019: 77 Part-time Lecturers
- Common Course: 13
- Area Studies: 15
- Business Administration: 1
- Public Policy: 2
- Nanotechnology: 7
- Infrastructure Engineering: 5
- Environmental Engineering: 17
- Climate Change & Development: 17

(2) Summer Course, AY2019-AY2020: 17 Part-time Lecturers
- Common Course: 3
- Area Studies: 1
- Business Administration: 1
- Public Policy: 3
- Environmental Engineering: 4
- Climate Change & Development: 5

(3) 1st Semester, AY2019-AY2020: 40 Part-time Lecturers
- Common Course: 9
- Area Studies: 6
- Business Administration: 1
- Public Policy: 4
- Global Leadership: 3

- Nanotechnology: 3
- Infrastructure Engineering: 4
- Environmental Engineering: 3
- Climate Change & Development: 7

◆ **Provision of Equipment** (as of the end of September 2019)

(1) Office Equipment Purchased by Project Local Cost (more than VND 10,000,000)

: VND 4,139,957,598

◆ **Training in Japan** (as of the end of September 2019)

(1) Climate Change & Development Program: Lecturer Training

✓ Dr. Nguyen Van Quang (28 October ~ 13 November 2019) / Ibaraki University

(2) Nanotechnology Program: Lecturer Training

✓ Dr. Pham Tien Thanh (9 December ~ 12 December 2019) / Osaka University

✓ Dr. Bui Nguyen Quoc Trinh (9 December ~ 12 December 2019) / Osaka University

(3) Japanese Language Education Program: Lecture Training

✓ Dr. Duong Thi Thuy (10days in December 2019) / Waseda University

◆ **Local Budget JFY 2019** (as of the end of September 2019)

(Japanese Side)

- General Expenses: VND 10,315,325,005
- Research Grant Budget: VND 1,047,620,498

(Vietnamese Side) * January ~ September 2019

- Salary & Allowance: VND 4,721,310,577
- General Expenses: VND 3,755,815,892
- Research Grant Budget: VND 853,207,900

1-2 Progress of Activities

<Main issues in VJU>

(1) Implemented the 4th VNU Council Meeting on 18th April.

(2) Graduation of 2nd batch students with 82 masters on 20th July. 88% graduated students having job or advancing PhD course after 3 months of graduation.

(3) Entered the 4th batch students with 92 masters on 9th September. 15% in new students are international students (Japan, Myanmar, Laos, Philippines, Sri Lanka, Nigeria, Congo, Russia). In addition, Blind students was also entered the MGL program.

(4) Established Institute of Sustainability Science (ISS) in VJU, and Dr. Nakajima became the first director.

(5) Dispatched the Terminal Evaluation Team and the Detailed Planning Survey Team from 8th to 21st August.

(6) Started the pilot training course of Japanese Language Education Center (JLEC) from 15th August to the middle of December 2019.

(7) Opened the Master of Global Leadership (MGL) program with 14 students' intake.

(8) VJU accepted blind students as students of the MGL program, and opened the door not only to healthy people but also students with disabilities.
(9) Started the Internship program in each master program from October sequentially.
(10) Prepared 2nd Technical cooperation Project supported by Japanese Government.
(11) Promoted the process of preparation ODA Loan project for new VJU campus.
(12) Decided to send 5 (five) VJU staffs to the training institution in Singapore for the purpose of capacity building during November to December.

<Activities>

(1) University Council Meeting for deciding university policy and direction
- 4/18: 4th VJU Council Meeting

(2) Meeting for steering project activities
- 9/26: Meeting with VJU Coordinating University

(3) University Main Events
- 7/20: 2nd VJU Graduation Ceremony
- 8/18~27: VJU Summer Program (attended 27 students from 11 universities and Kosen in Japan)
- 9/9: 4th VJU Entrance Ceremony

(4) Main Visitors

<VIP>
- 7/20: Mr. Tsutomu Takabe, Dr. Katsuichi Uchida, Mr. Koji Shibata / Attend the 2nd Graduation Ceremony
- 9/9: Mr. Tsutomu Takebe, Mr. Toshiaki Koshimura/ Attend 4th Entrance Ceremony

<Ministries>
- 9/27: (Visit) Mr. Yoshiyuki Yamada (Director of First Southeast Asia Division, MOFA)
- 10/10 (Visit) Mr. Shige Watanabe (Director of Country Assistance Planning Division I, MOFA)

<Private companies>/ Organizations>
- 4/28: (Visit) National Institute of Technology, Japan
- 7/28: (Visit) Iwate prefecture International Exchange Association
- 9/18: (Visit) Japan Employers' Federation of Electrical, Electronics & Information Industries

<Universities>
- 8/18: (Summer program) Participating students of Summer program
- 9/3: (Study tour) Toyo Shinwa Jyogakuin University
- 9/3: (Study tour) Ritsumeikan University
- 9/6: (Study tour) Shizuoka University
- 9/12: (Study tour) Ritsumeikan University

<Others>
- 8/5~8/18: (Internship) Staff of Hosei university

(5) Admission Activities
- 5/18, 6/12, 6/25, 7/13: Admission Session in VJU
- 5/28-30: Attended Vietnam University Fair in Laos

- 6/30-7/2: Admission Session in Myanmar (Yangon, Mandalay)
- 9/6: VJU orientation for new students
- 10/5-6: Joined JASSO Ryugaku Fair in HCMC & Hanoi

(6) JICA Mission teams for exchange opinions & views

- 8/8-21: Terminal Evaluation Team and the Detailed Planning Survey Team

(7) Seminars/ Workshops

- 5/3: (Seminar) RILAP seminar
- 5/4 (Symposium) Vietnam Japan Science and Technology 2019 Symposium
- 7/25: (Seminar) Seminar by lecturers of Ibaraki University

(8) MOU Signing

- 5/29: RILAP
- 8/26: Osaka Sangyo University

(9) Number of lectures by Japanese experts (long-term / short-term) and Vietnamese lecturers (full-time / part-time) (1 unit = 1 hour)

-1. 2nd Semester, AY2018-AY2019

- JICA Long-term Expert: 136 units
  <Details: Common (6), MAS (9), MBA (30), MPP (15), MNT (20), MIE (6), MEE (32), MCCD (18)>
- JICA Short-term Expert: 1,038 units
  <Details: Common (6), MAS (246), MBA (135), MPP (150), MNT (81), MIE (132), MEE (113), MCCD (175)>
- VJU Permanent Lecturer: 390 units
  <Details: Common (76), MBA (45), MPP (30), MNT (75), MIE (30), MEE (116), MCCD (18)>
- Part-time Lecturer: 1,304 units
  <Details: Common (273), MAS (375), MBA (30), MPP (33), MNT (18), MIE (72), MEE (299), MCCD (204)>

-2. Summer Program, AY2019-AY2020: 365 units

<Details: Common (90), MAS (30), MBA (30), MPP (60), MEE (120), MCCD (35)>

-3. 1st Semester, AY2019-AY2020

- JICA Long-term Expert: 207 units
  <Details: Common (48), MAS (9), MBA (30), MPP (14), MNT (30), MIE (18), MEE (13), MGL (45)>
- JICA Short-term Expert: 573 units
  <Details: Common (33), MAS (60), MBA (30), MPP (104), MGL (45), MNT (88), MIE (32), MEE (46), MCCD (135)>
- VJU Permanent Lecturer: 326 units
  <Details: Common (108), MAS (75), MBA (60), MIE (45), MEE (20), MCCD (18)>
- Part-time Lecturer: 1,011 units
  <Details: Common (348), MAS (126), MBA (30), MPP (72), MNT (62), MIE (105),

MEE (50), MCCD (83), MGL (135)

1-3 Achievement of Output

- The main achievements according to PDM (version. 2) are followings:

<Output 1: Organization and management system of VJU are consolidated.>

(1-1) VJU established with its organization.

VJU basic organization as a university with Master programs has been established.

(1-2) Necessary rules and regulations are developed.

VJU basic rules and regulations has been developed, while further enhancement would be needed in some aspect.

(1-3) University Developments Plan is developed.

The university development plan is already prepared. However, it is not yet approved by the VJU council completely.

<Output 2: Master programs of VJU are prepared.>

(2-1) Six (6) Master Programs are set up in AY2016.

Six (6) Master programs were set up in AY2016 already.

(2-2) One (1) Master Program is set up in AY2017.

It was already established in AY2018 which was originally planned to launch in AY2017 because of delayed the process in VNU.

(2-3) When feasibility of Two (2) more Master Programs is examined (expected to be within one).

One of new Master program has been opened in AY2019, and the other program is still under examination because of budget issues and securing human resources.

<Output 3: Master programs of VJU are implemented and improved continuously.>

*(3-1) One hundred twenty (120) students obtain Master degree though programs set up in AY2016 (Maximum 20 students*50%*6 programs*2 batches)*

The total number of students of the 1st and 2nd was 130 students (1st was 58 and 2nd was 72).

*(3-2) Ten (10) students obtain Master degree though programs set up AY 2017 (Maximum 20 students*50%*6 programs*1 batch).*

The number of students of the 3rd was 80 students which set up in AY2017.

(3-3) Curriculum and Syllabus of Mater Programs are revised regularly based on the result of the monitoring.

Curriculum and Syllabus of Mater Programs are being revised based on the annual review by each program basically.

1-4 Achievement of the Project Purpose

1.Number of applicants will increase. (compared with other similar programs at universities in Vietnam).

AY2016: 163, AY2017: 157, AY2018: 158, AY2019: 172

As a recent trend of graduate students in Vietnam, it has reduced to less than half during the last 5years, and the reason behind is that the job opportunity for undergraduate degree students as well as graduates of vocational schools has been increased because of Vietnam’s rapid economic growth in recent year.

2.Number or ratio of international students will increase and VJU will have awareness and reputation to Japanese and Vietnamese.

(Ratio of international students)

AY2016: 0% (1 dropout) , AY2017: 0% (1 dropout), AY2018: 7.5% (6 Myanmar: 2 Nigerian: 4)

AY 2017: 19.5% (1 Japanese, 5 Myanmar, 1 Lao, 1 Filipino, 1 Sri Lankan, 3 Nigerian, 1 Congo, 1 Russian)

3.Graduates gain skills, knowledge and attitude to work in international environment.

The graduates are considered to have gained skills, knowledge and attitude to work in international environment to good extent because of following conditions

- Half of lecturers are conducted by Japanese lecturers in the Master programs.
- There is an internship activity in Japan.
- Learn to Japanese language in the common subject.
- There is an opportunity to go on to study in an international environment.

4.Ratio of graduate who are employed or enter doctoral programs within one year after graduation (in comparison with other similar programs at universities in Vietnam).

92% of the graduates of the 1st students have got stable job after graduation, returned to work at the original enterprise or entered in Doctoral programs within one year.

As for the 2nd graduates, 73% have already got stable job, returned to work or entered Doctoral programs.

The employment situation of 2nd graduates is as follows

53 students in 72 graduates are already offered.

(details)

- Employment: 23 students (44%)
- Returned: 11 students (21%)
- Offered: 8 students (15%)
- Entrepreneurship/ Self-employed: 4 students (7%)
- Enter Doctoral program: 7 students (13%)

5.Internal quality assessment reports are developed before April 2020 for 6 programs to be set up in AY 2016.

It will be developed within AY2019 by VJU.

1-5 Changes of Risks and Actions for Mitigation

N/A

1-6 Progress of Actions undertaken by JICA

- In order to promote private-sector partnership activities, more than 100 Japanese private companies and organizations became our partners for providing with cooperation and collaboration for internship, donations for scholarships, special lectures, opportunity for employment, implementation of career seminars, workshops and job fairs.
- It was dispatched the Detailed Planning Survey Team by JICA rom August 8 to 21 for discuss the outline and details of TC2 with the VJU.

Based on the agreement between JICA and VJU, JICA decided to prepare concrete contents (cooperation mechanism dispatched experts, budget, etc.) for the conclusion of TC2.

1-7 Progress of Actions undertaken by VJU and Government of Vietnam

- Three institutes are to be established: Institute of Interdisciplinary Social Sciences, Institute of Sustainable Science, Institute of Advanced Engineering and Technology. The detailed design of the establishment of Institute of Sustainable Science is completed and Dr. Jun Nakajima was invited as the first director and opened in 9th September.
- Functional departments are to be organized to minimize the adverse impact of the vertical distribution of functions and duties of the department and the TOR of the job position, with seeking for agreement with related Japanese organizations on the One-VJU mechanism.
- The art of continuous improvement KAIZEN has been applied for management and operation of university
- Cooperation with laboratories of partner universities and other education institutions in Vietnam is deployed, with investigating the possibilities of cooperation and cooperating with Hoa Lac Hi-Tech Park, and having close cooperation with other laboratories, universities, research institutes and enterprises in Vietnam and Japan for common use of resources and conducting student internship activities.
- 1 project investment policy has been approved by VNU and proposing SATREPS research program.
- Persuading the Vietnamese government to issue special regulations on finance in 2018 and apply for funding VJU accordingly, however, special Regulation on finance is under consideration by each Ministry in Vietnam.
- Completion of all pre-feasibility, feasibility and design procedures to start facilities construction in Hoa Lac. And promote the process of preparation for ODA loan project.

1-8 Progress of Environmental and Social Considerations (if applicable)

N/A

1-9 Progress of Considerations on Gender/Peace Building/ Poverty Reduction (if applicable)

N/A

1-10 Other remarkable/ Considerable issues related/ affect to the project (such other JICA's projects, activities of counterparts, other donors, private sectors, NGOs etc.)

- Frequent exchanges of opinion and views with Vietnamese German University and Vietnamese French University are conducted in terms of university's policy, education and research collaboration, issues and problems with Vietnamese Government.

2. Delay of Work Schedule and/ or Problems (if any)

2-1. Details

(Staff assignment)

- Although the university's activities have been increasing and expanding, such as opening new

programs, students' recruitment activities, enrollment of foreign students etc., the staff members of VJU, especially at Academic Affairs Department, are limited.

- 18 counterparts are still paid by JICA's local cost support scheme.

(Training)

- Opportunity for training was limited for administrative staffs since no official employment secured by VJU.

(Administrative procedure)

- Decision-making, especially for financial matter, is slow.

2-2. Cause

(Staff assignment)

- VJU budget is limited for adequate assignment for staffing while 8 kinds of programs are running.
- The level of salary is not good enough to have qualified personnel.
- A lot of staffs quit in a few months after employment. This may be due to the fact of busy working environment at Academic Affairs Department
- There are few applicants because the recognition level of VJU is still low.
- Salary scale of VJU is lower than applicants expect.

(Training)

- It is due to the delay in the response of each coordinating university which takes responsible for its implementation with a consultancy-implementation contract with JICA.
- VJU budget is very limited for official employment (salary paid by VJU) of administrative staffs.

(Administrative procedure)

- Because of shortage of budget its usage was limited, and financial proposal came late and in a short notice to decision maker.
- The examination process in VNU in terms of quality assurance of the program was complicated and took time more than expected.

2-3. Action to be taken

(Staff assignment)

- Continue to request Vietnamese Government through VNU to allocate necessary budget such as regulating Special Financial mechanism for VJU's excellent university.
- Continue to raise awareness of VJU among Vietnamese society through mass media and to conduct regular VJU awareness surveys etc.

(Training)

- Continue to request Vietnamese Government through VNU to allocate necessary budget such as regulating Special Financial mechanism for VJU's excellent university.
- Conduct smooth information sharing among JICA HQ, Coordinating universities and project.
- The project decided to send 5 (five) VJU staffs to the training institution in Singapore for the purpose of capacity building during November to December.

(Administrative procedure)

- Ensure all the staff do effective usage of budget and take early process of implementation.

- Ask VNU to consider making approval procedures streamlined

2-4. Roles of Responsible Persons/ Organization (JICA, Gov. of Vietnam, etc.)

- Implementation Structure was revised as follows
  (1) VNU president will oversee the overall administration and implementation of the project.
  (2) VJU Vice president will be to focal for VJU and support the VJU president to oversee the overall administration and implementation of the project and give necessary guidance and support.
  (3) VJU rector will bear responsibility for overall administration and implementation of the project.

3. Modification of the Project Implementation Plan

3-1. PO

N/A

3-2. Other modifications on detailed implementation plan

N/A

4.Preparation of Gov. of Vietnam toward after completion of the Project

- To secure the financial resources for sustainable operation of VJU.
- To accelerate the construction of the VJU new campus in Hoa Lac area.
- To accelerate the application of Special Finance Mechanism to VJU.

3. Project Monitoring Sheet I & II

As Attached, however, Sheet I is omitted since the contents are duplicated to this summary.